

# 講義概要

2012年度



新潟国際情報大学

# 平成24年度（2012年度）授 業 暦

〔前期〕

	日	月	火	水	木	金	土	事 項
4月	1	2	3	4	5	6	7	3月30日 在学生ガイダンス 1日 入学式 2日 1年プレースメントテスト等 3日 新入生ガイダンス 4日 前期授業開始（全学年）
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						
5月			1	2	3	4	5	19日 スポーツ大会 26日 補講日
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
6月					1	2		8日 開学記念日(休業日)授業実施 30日 補講日
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
7月	1	2	3	4	5	6	7	7日・14日・21日 補講日 18日 月曜日授業振替 23日 前期授業終了 24日～30日 前期定期試験 7月31日～8月3日 集中講義
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
8月				1	2	3	4	1日～9月19日 夏期休業
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
9月							1	15日 学修説明会(保護者対象)(予定) 19日 9月期卒業式(予定)
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19				
授業日数	15	15	15	15	15			
定期試験日数	1	1	1	1	1			

〔後期〕

	日	月	火	水	木	金	土	事 項
9月					20	21	22	20日 後期ガイダンス（全学年） 21日 後期授業開始（全学年）
	23	24	25	26	27	28	29	
	30							
10月			1	2	3	4	5	9日 月曜日授業振替 18日 金曜日授業振替 19日 学園祭準備（休業日） 20日・21日 学園祭 27日 補講日
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
11月					1	2	3	17日 補講日
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
12月							1	1日・8日・15日 補講日 22日～1月6日 冬期休業
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
1月				1	2	3	4	7日 授業再開 16日 金曜日授業振替 18日 センター試験準備（休業日） 19日・20日 大学入試センター試験 24日 後期授業終了 25日～31日 後期定期試験
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
2月							1	2日 一般入試（前期）(予定)
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
3月							1	15日～春期休業 20日 卒業式
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
31								
授業日数	15	15	15	15	15			
定期試験日数	1	1	1	1	1			

# 目次

## <前期科目>

### 基礎科目

1年基礎科目	5
2年基礎科目	27
3年基礎科目	49

### 共通科目

1年共通科目	57
2年共通科目	67
3年共通科目	73

### 情報文化学科専門科目

2年専門科目	79
3年専門科目	101
4年専門科目	127

### 情報システム学科専門科目

1年専門科目	133
2年専門科目	135
3・4年専門科目	147

## <後期科目>

### 基礎科目

1年基礎科目	167
2年基礎科目	189
3年基礎科目	205

### 共通科目

1年共通科目	213
2年共通科目	221
3年共通科目	225

### 情報文化学科専門科目

1年専門科目	231
2年専門科目	245
3年専門科目	261
4年専門科目	285

### 情報システム学科専門科目

1年専門科目	291
2年専門科目	301
3・4年専門科目	313

文化演習・ゼミナール	325
------------	-----

システム演習	375
--------	-----

システム卒業研究	391
----------	-----

# 履修登録手続き

## 1. カリキュラムと履修登録

カリキュラムとは、教育目的にしたがって科目を編成したものです。履修登録とはカリキュラムにしたがい個々の学生が履修したい授業科目を前期と後期に登録する手続きです。大学はこの登録に基づき、各授業の受講者名簿を作成して、授業担当の教員に知らせるとともに各種事務手続きを進めます。履修登録されていない科目は単位修得資格がありませんので、登録の際には記入もれや誤記入などがないよう注意して下さい。

平成24年度履修登録日程

前期

月 日 曜日	日 程	備 考
4 / 11 水	履修登録締切り	
17 火	確認訂正期間	
18 水	確認訂正期間・訂正分再交付	
19 木	確認訂正期間・訂正分再交付	
20 金	訂正分再交付	※最終日での訂正等はありません

後期

月 日 曜日	日 程	備 考
9 / 28 金	履修登録締切り	
10 / 4 木	確認訂正期間	
5 金	確認訂正期間・訂正分再交付	
9 火	確認訂正期間・訂正分再交付	
10 水	訂正分再交付	※最終日での訂正等はありません

※平成25年度以降の履修登録日程については当該年度の「講義概要」で確認してください。

## 2. 履修登録用紙提出期限

全ての記入が終わりましたら、学務課窓口にて前期は4月11日(水)、後期は9月28日(金)までに提出してください。期限までに提出がない場合、その学期での履修は認められません。

## 3. 履修確認・訂正の期間

今年度前期は4月17日(火)から4月19日(木)の3日間、後期は10月4日(木)から10月9日(火)の3日間に学務課窓口で「学生授業時間割表」を配布します。それを確認の上、誤り・訂正・追加・削除等があった場合は、学務課窓口で手続きをしてください。

- ※1 この「学生授業時間割表」の確認を行わない場合、登録したつもりの科目が登録されず、履修できなくなる場合もありますので、指定の期日までに必ず確認してください。
- ※2 確認訂正期間終了後は、いかなる理由でも「訂正・追加・削除」は認められません。必ず確認訂正期間中に行ってください。
- ※3 電話や代理での訂正等は一切受け付けません。必ず本人が窓口で確認・訂正を行ってください。

- ※4 履修登録の訂正を行った場合、訂正日の翌日に訂正後の「学生授業時間割表」を再交付しますので、学務課窓口で受領・確認してください。前期は4月20日(金)、後期は10月10日(水)までとなります。ただし、この両日は訂正等を行うことはできません。
- ※5 「学生授業時間割表」は大切に保管してください。万が一紛失した場合および確認訂正期間中に受領しなかった場合は、学務課窓口で再発行を願い出ることができます。ただし、再発行は1通につき200円の手数料がかかります。

# 定期試験

## 1. 試験

前期定期試験は7月末、後期定期試験は1月末に行われます。

授業最終日に実施される試験も含まれます。

試験の時間割は掲示によって発表されます。

試験の方法は授業科目により異なり、筆記・レポート・口述・実技等により実施されます。担当教員の指示および掲示に従い受験してください。

なお、次のような場合、受験資格はありません（学則第29・30・31条）。

- 1) 履修登録を行っていない場合
- 2) 授業回数15回に対して5回（1/3）以上欠席している場合（成績評価はFになります）。

## 2. 受験上の注意

試験に際しては、学生証を机上に明示し、次の事項に注意してください。

- 1) 定期試験の時間は、平常の授業時間表（曜日・教室・時限）とは違う場合があります。担当教員の指示および掲示をよく確認してください。
- 2) レポートの場合は、大学指定の「レポート提出票」を学務課で受領し、記載のうえ、指定された期限までに提出してください。レポート提出の際に「レポート受領書」を受け取り、成績が確定するまで保管してください。
- 3) 口述試験・実技試験の場合は、集合場所と実施場所が異なる場合もあります。担当教員の指示および掲示をよく確認してください。
- 4) 受験の際は不正行為のないように真面目にとりくんでください。不正行為の事実が確認された場合は、学則に定める懲戒処分に加えて、演習・実習を除き、その学期の全科目の単位取得を認めません。
- 5) 定期試験期間中に、悪天候による交通機関不通等の事態が発生した場合の処置を次のようにします。
  - ①試験開始定刻後30分以内に教員が到着できない場合、試験を延期します。
  - ②試験開始定刻後30分の時点で受験予定者が半数に満たない場合、試験を延期します。
  - ③試験開始定刻後30分以内に、受験予定者が半数を超えた場合は試験を実施し、受験できなかった学生には別途試験・レポート等で採点します。
  - ④当日、すべての試験を中止する場合は、決定時点で本学のホームページに掲載します。

## 3. 課題レポート

授業中の課題として授業担当教員からレポート提示の指示があった場合は、次の事項に注意してください。

- 1) 特に指定のない限り A4版の用紙を使用し、科目名、担当教員名、提出者の氏名及び学籍番号を明記した表紙をつけ、必ず綴じてください。
- 2) 提出の方法、日時（締め切り）、場所等については、担当教員の指示にしたがってください。
- 3) 一度提出されたレポートの変更・訂正は認められません。

## 4. 追試験

追試験とは、病気・就職試験・忌引・災害等（本人が関係する交通事故を含む）の真にやむを得ない理由により定期試験を受験できなかった者に対して行われる試験です。

※追試験願が提出されなかった場合には、試験放棄と見なされ単位は認定されません。

※追試験が不合格となった場合、再試験は行いません。

・追試験願の申請手順は次のとおりです。

当該授業科目の試験実施日の翌日までに行ってください（来学出来ない場合は電話で連絡のこと）。大学指定の「追試験願」に記載のうえ、その理由を証明するもの（交通機関遅延証明書・医師の診断書・就職試験受験票など）を添えて、学務課へ願い出てください。

欠席の理由が正当と判断された場合、追試験の受験が認められます。

追試験は、前期にあつては8月上旬に、後期にあつては2月上旬に一定の期間を定めて実施されます。それぞれの学期の追試験期間については、当該学期の定期試験期日・時間割が公示される際に、併せて公示されます。公示された追試験期間に追試験を受験しない場合は、追試験の受験資格を失います。

## 5. 再試験

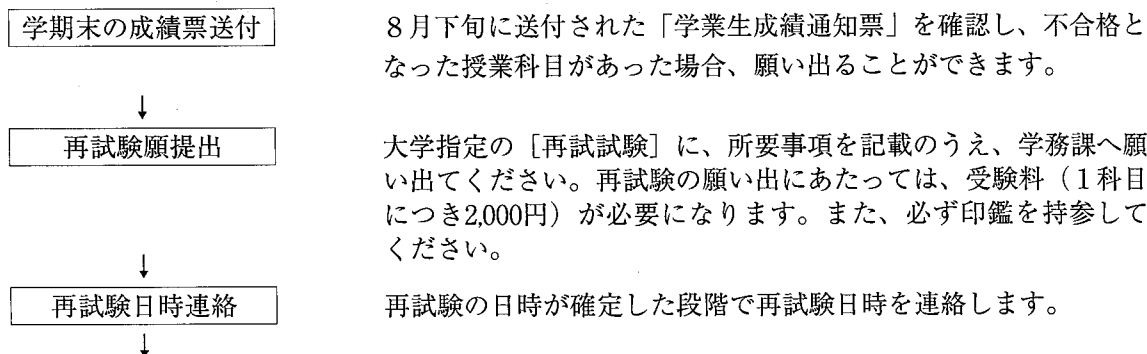
卒業見込の学生がその学期に履修した科目のうち不合格（D）となった授業科目について1回に限り、再試験を願い出ることができます。再試験は前期・後期とも行われます。なお、次の科目については再試験を願い出ることができません。

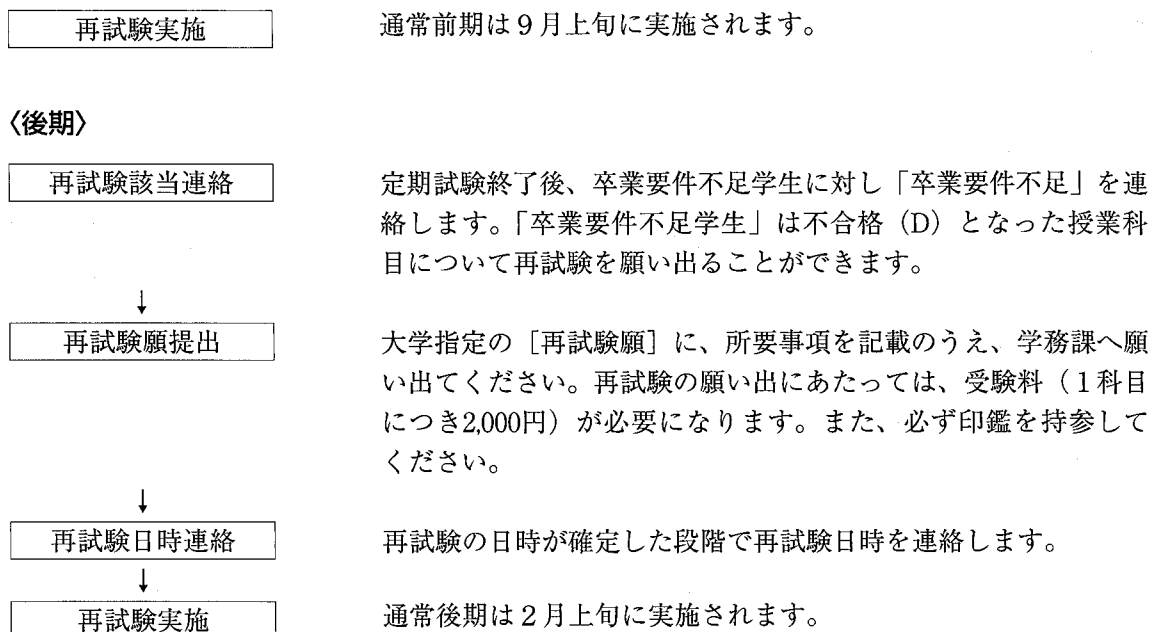
- ・情報処理演習
- ・情報文化学科専門科目「ゼミナール関連」（卒業論文を含む）科目
- ・情報システム学科専門科目「演習」「卒業研究」（卒業論文を含む）科目
- ・当該年度に不正行為を行ったため不合格となった科目

※ 再試験願が提出されなかった場合は不合格が確定し、単位は認定されません。

・再試験願いの申請手順は次のとおりです。

〈前期〉





## 6. 成績評価

成績の評価は次のとおりです。

- A (80～100点)
- B (70～79点)
- C (60～69点)
- D (59点以下)
- E 試験欠席
- F 受験資格なし

試験を欠席した者、出席不足等により受験資格がない者については、EあるいはFが成績表に記載されます。

「学業生成績通知票」は保証人宛に郵送します。郵送時期は次のとおりです。なお、「学業生成績通知票」の再発行は1通につき200円の手数料がかかります。紛失しないよう注意してください。

- 前期：1～4年：8月下旬
- 後期：1～3年：3月下旬
- 4年：3月上旬

## 7. 成績確認

当該学期の定期試験の成績に疑問等がある場合には、成績について確認を求めることができます。確認の受付期間は成績が送付されてから1週間以内とします。詳細については、学務課に問い合わせてください。

## レポート・論文作成時の盗用・剽窃について

大学での学業を進める上で、書籍や雑誌などの紙媒体の資料に加え、インターネットやデジタルデータを活用して文献や資料を収集することが必要不可欠です。本学学生もこれらの諸資料を活用してレポートを作成する機会が多く、両学科とも卒業論文を卒業要件として義務づけています。しかしながら、資料・情報の一部または全部をそのまま利用すると、「盗用」ないし「剽窃」行為とされてしまいます。

著作権は作者の財産であり、人権です。私たちは、著作物（著作権法第2条第1項：思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するもの）を利用するとき、著作権を尊重しなければなりません。また、日本では著作権保護期間が50年とされていますが、その期間を過ぎた著作物であっても、上記の「盗用」ないし「剽窃」行為は情報倫理、学術倫理に反するものです。

著作権法第32条第1項には「公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない」とあります。ここでいう「公正な慣行」や「引用の目的上正当な範囲」として、次のような引用のルールがありますので、レポート・論文作成の際には十分注意してください。

### (1) 出典を明示すること。

書籍・雑誌類については、出典（著者名、書名・雑誌名、該当ページ、（雑誌の場合は号数）、出版年など）を明示する必要があります。ウェブサイトから引用する場合は、アドレス（URL）とアクセスした日付を明示することが一般的です。それを見た人が図書館などで検索できるだけの正確かつ十分な情報を提供していることが、最低限のルールです。

### (2) 自分の文章と引用部分を明確に区分すること。

引用する部分は「 」でくくったり、行間を空けるなどして、本文と明確に区別できるようにします。文章をそのまま利用しなくても、内容をまとめ直して利用した場合も必ず出典を明らかにしなければなりません。

※引用部分および出典の記述例は大学ホームページを参考にしてください。



## 集中講義日程（予定）

科目名	配当年次	教員名	開講日
日本政治論	1年次	椎橋 勝信	7月31日（火）～8月3日（金）
日本の思想	2年次	今井 修	8月6日（月）～8月9日（木）
比較宗教論	2年次	鈴木 晋介	8月6日（月）～8月10日（金）

※集中講義を履修する場合は、前期履修登録期間に手続きをしてください。

※講義日程は変更する場合がありますので、必ず開講前に掲示板を確認してください。

平成24年度 情報文化学科開講科目一覧

	1 年 次				2 年 次				3 年 次				4 年 次			
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
基礎 科 目	講義 科目	*政治学	*経済学(ミクロ)	*比較宗教論	*新潟研究(自然と文化)	*社会調査	*市民社会論									
		*経済学(マクロ)	*社会学	*社会思想史	文化)	*倫理学	*新潟研究(政治と経済)									
		*哲学	*歴史学	*文化人類学	*民法		*福祉社会論									
		*世界地誌	*地球環境論	*憲法	*財政学		*地域社会論									
目	CEP	*法学	科学と技術	*金融論	*ジャーナリズム論											
		コミュニケーション論	コミュニケーション技術	情報文化	心理と行動											
		論理と数理	線形数学	*言語学												
		統計と情報1		*ジェンダー論												
目	保健体育	数学基礎		文章表現												
		◎CEP1	◎CEP2													
		体力診断と運動処方1	体力診断と運動処方2	フィットネス理論及び実習												
目	就職 関連				*キャリア開発1											
共通 科目	国際 関連	◎地域研究概論	日本経済論	異文化理解	国際経済学	国際法	社会調査演習1,2									
		アジアと日本	国際政治学	平和学			不開講									
		日本政治論	ワークショップ実践論1													
		国際研究概論														
目	情報 関連	国際交流インストラクター演習1														
		情報システム	経営と組織	情報検索	企業と経済	情報社会論	◎情報処理演習2									
		コンピュータシステム	ネットワークコンピューティング	マーケティング		情報メディア論	情報と法									
		人間情報システム	社会情報システム													
目	演習 ゼミナール	◎情報処理演習1														
		◎基礎演習1	◎基礎演習2	◎国際研究ゼミナール1	◎国際研究ゼミナール2※1	◎国際研究ゼミナール3	◎国際研究ゼミナール4	◎国際研究ゼミナール5	◎国際研究ゼミナール6							
						◎ロシア研究ゼミナール										
						◎中国研究ゼミナール										
目	地域 言語															
目	地域 研究															
目	日本 研究															
目	国際 研究															

## 平成24年度 情報システム学科開講科目一覧

	1 年 次				2 年 次				3・4 年次				4 年 次					
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
基礎科目	講義科目	政治学 経済学(マクロ) 哲学 世界地誌 法学 *コミュニケーション論 *論理と数理 ◎統計と情報1 数学基礎	6 7 8 9 10 11 12 13 14	経済学(ミクロ) 社会学 歴史学 地球環境論 *科学と技術 *コミュニケーション技術 *線形数学	168 169 170 171 172 173 174	比較宗教論 社会思想史 文化人類学 憲法 金融論 *情報文化 言語学 ジェンダー論 *文章表現	28 29 30 31 32 33 34 35 36	新潟研究(自然と文化) 民法 財政学 ジャーナリズム論 *心理と行動	190 191 192 193 194	社会調査 倫理学	50 51	市民社会論 新潟研究(政治と経済) 福祉社会論 地域経営論	206 207 208 209					
	英語	◎英語1A・B・C	16	◎英語2A・B・C	176	◎英語3A・B・C	37	◎英語4A・B・C	195									
	保健体育	体力診断と運動処方1	25	体力診断と運動処方2	187	フィットネス理論及び実習	48											
	就職関連							キャリア開発1	204	キャリア開発2	52							
共通科目	国際関連	地域研究概論 アジアと日本 日本政治論 国際研究概論 国際交流インストラクター演習1	58 59 60 61	日本経済論 国際政治学 ワークショップ実践論1	214 215 216	異文化理解 平和学	68 69	国際経済学	222	国際法	74	社会調査実習1・2不開講	226					
	情報関連	◎情報システム ◎ネットワークシステム ◎人間情報システム	63 64 65	◎経営と組織 ◎ネットワークコンピューティング ◎社会情報システム	217 218 219	◎情報検索 ◎マーケティング	70 71	*企業と経済	223	*情報社会論 *情報メディア論	75 76	*情報と法	228					
専門科目	演習	◎基礎演習1	376	◎基礎演習2	376	◎情報システム演習1	384	◎情報システム演習2	384			◎卒業研究1	392	◎卒業研究2	392	◎卒業研究3 ◎卒業論文	392	
		○情報処理演習F ○情報処理演習U1 ○情報処理演習W ○情報処理演習C1	378 379 383 381	○情報処理演習U1 ○情報処理演習U2 ○情報処理演習W ○情報処理演習C1 ○情報処理演習C2	379 380 382 381 382	○情報処理演習U1 ○情報処理演習U2 ○情報処理演習W ○情報処理演習C1 ○情報処理演習C2	379 380 383 381 382	○情報処理演習U1 ○情報処理演習U2 ○情報処理演習W ○情報処理演習C1 ○情報処理演習C2	379 380 383 381 382									
										○専門演習A ○専門演習B ○専門演習C ○専門演習D	387 388 389 390							
	A		情報産業 情報リテラシーと倫理	292 293	システム論 情報システムモデル	136 137	情報論	302	情報システム特論 情報システム設計 経営情報システム	148 149 150	情報システム開発 情報セキュリティ	314 315						
	B		人間情報工学1	294	人間情報工学2	138	生理機能と情報 行動科学 生活統計 地域統計	303 304 305 306	地域情報システム 認知科学	151 152	社会理論と調査法 生活と法律	316 317						
	C		ビジネスモデル	295	経営と情報 財務会計	139 140	生産企画と管理 流通と物流 管理会計	307 308 309	企業と国際化 商品企画 経営と法律	153 154 155	生産情報システム ベンチャービジネス	318 319						
	D		コンピュータソフトウェア	296	アルゴリズム テレコミュニケーション ソフトウェアエンジニアリング	141 142 143	プログラミング環境 プログラミング技術特論	310 311	知識情報処理 コンピュータビジョン マルチメディア情報処理	156 157 158	人工知能 データベース	320 321						
	E		情報論理 システム数学 統計と情報2	297 298 299	モデリング数学	144	オペレーションズリサーチ1	312	多変量解析 オペレーションズリサーチ2	159 160	シミュレーション	322						
	他	基本情報処理特論1	134	基本情報処理特論2	300	基本情報処理特論1 北米社会と情報 情報英語	134 145 146	基本情報処理特論2	300	学外実習 ビジネス英語入門1	161 162	ビジネス英語入門2	323					

# 前 期 科 目

# 基礎科目

# 1年基礎科目（前期）

政治学  
経済学（マクロ）  
哲学  
世界地誌  
法学  
コミュニケーション論  
論理と数理  
統計と情報1／統計と情報  
数学基礎  
CEP 1  
英語 1  
体力診断と運動処方 1

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	政治学	2	前	越智敏夫（情報文化）
21年度以前	基 礎					

選択

<授業目的>

政治を人間によって繰り返される行動のひとつとして理解し、その政治の網の目の中で私たちはどのように認識し行動するべきか、その基本的な方法について考える。現実政治のなかの時事的な出来事についても言及しながら、「市民」概念の現代的意義を特に議論したい。

<各回毎の授業内容>

- |   |         |                         |       |
|---|---------|-------------------------|-------|
| 1 | はじめに    | 1-1 日常世界の認識方法:主体としての市民  | (講義1) |
| 2 | 政治とは何か  | 2-1 政治の定義               | (2)   |
|   |         | 2-2 政治秩序                | (3)   |
| 3 | 政治の認識方法 | 3-1 政治理論                | (4)   |
|   |         | 3-2 状況・制度・組織            | (5)   |
|   |         | 3-3 権力と支配               | (6)   |
|   |         | 3-4 権威とリーダーシップ          | (7)   |
|   |         | 3-5 シンボルとイデオロギー         | (8)   |
| 4 | 国家とは何か  | 4-1 国家の概念               | (9)   |
|   |         | 4-2 ヨーロッパにおける古代と中世      | (10)  |
|   |         | 4-3 近代社会                | (11)  |
|   |         | 4-4 近代国民国家の変容:夜警国家と福祉国家 | (12)  |
| 5 | 政治体制    | 5-1 民主主義と独裁             | (13)  |
|   |         | 5-2 政治システム              | (14)  |
| 6 | まとめ     | 6-1 市民の政治とは何か           | (15)  |

<成績評価方法>

学期末筆記試験（持ち込み不可）のみで採点。

<教科書・参考文献>

教科書なし。参考文献は講義中に適宜指示する。また図書館のサイトの「指定図書リスト」を参照のこと。

<受講に当たっての留意事項>

講義ノートを本学のウェブページ上で公開する予定なので、受講前に各自でプリントアウトして教室に持参すること。U R L → <A HREF="http://www.nuis.ac.jp/~tochi/"> http://www.nuis.ac.jp/~tochi/ </A>

また、本講義は全カリキュラムにおいて政治的現象を学ぶための基礎となるものである。「日本政治論」「日本政治史」「国際政治学」「国際政治史」などを受講予定の学生は履修しておくことが望ましい。

<学習到達目標>

政治学の基礎を身につけると同時に、市民としての自覚をもつこと。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基礎	1年	経済学 (マクロ)	2	前	安藤 潤 (情報文化)
21年度以前	基礎					

選択

#### <授業目的>

この講義の目的は①マクロ経済学の重要用語の概念を理解すること、②マクロ経済学の中から国民所理論の基礎を学ぶこと、③深刻な不況時における財政政策と金融政策の役割を、講義内容だけでなく練習問題を通じて理解することである。

#### <各回毎の授業内容>

- |                    |             |
|--------------------|-------------|
| 1. オリエンテーション       | 9. 乗数理論     |
| 2. 市場メカニズム         | 10. 金融      |
| 3. 国民所得            | 11. 貨幣需要    |
| 4. マクロ経済の循環        | 12. 貨幣供給    |
| 5. 家計の消費と貯蓄        | 13. IS曲線    |
| 6. 企業の投資           | 14. LM曲線    |
| 7. 二部門経済モデルと均衡国民所得 | 15. IS-LM分析 |
| 8. 三部門経済モデルと均衡国民所得 | 16. 試験      |

#### <成績評価方法>

試験 (100%)

#### <教科書・参考文献>

青木孝子・安藤潤・鏈田亨・塚原康博『入門現代経済学要論』白桃書房

#### <受講に当たっての留意事項>

教科書は必ず購入し、授業の際に必ず持ってくること。私語は厳禁。注意しても私語を続ける者は退室を願うことがある。体調不良などやむを得ない場合を除き大幅な遅刻・途中退出はしないこと。携帯電話・PHSの類は必ず電源を切ること。飲食禁止。以上のことを守れない学生は退出を願うこともある。また、教員の注意にもかかわらず繰り返す場合にはその場で定期試験受験資格をはく奪することもある。以上の点を踏まえて履修登録をすること。講義で数学 (1次関数、等差数列とその和の公式) 及びグラフの使用は避けられない。ただし微分・積分は用いない。

この授業を半期受講したからといってすぐに初級レベルのマクロ経済学すべてを理解できるようになるほど甘くはない。数学離れが進む現在、単位取得率は30%程度になるものと想定される。ただし資格試験は最終的に合格できればいいのだから、公務員試験などでマクロ経済学が必須の学生は、半期で理解できようができてまいがこの授業を機に学習を継続し、一定レベルに達したらレベルを上げていくこと。

#### <学習到達目標>

国民所得決定理論の基礎を理解し、労働市場のマクロ経済分析、総需要・総供給分析に進むための基礎を作ること。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	哲学	2	前	阿部ふく子
21年度以前	基 礎					

選択

#### <授業目的>

西洋哲学の基本的な主題と思考方法を、レジュメと参考資料に即して講義します。授業内容は主題別の構成をとりますが、哲学史的な背景についても適宜説明を補いながら講義を進めたいと思います。哲学の営みとは——自然、知、信仰、幸福、道徳、科学、心身、自我、経験、生、等々——人間が生きてゆくなかで直面する様々な普遍的事柄について、「自分自身で」きめ細かく考えてみることにほかなりません。ただしこの営みは決して独りよがりなものであってはならず、私たちの前には二千数百年にも及ぶ哲学の歴史のなかですでに営まれてきた様々な思考の足跡が残されており、これらの所産と対峙してみるなかではじめて私たちは自ら考える力を養うことができることにもなります。〈自分自身で考えること〉・〈歴史的所産を享受すること〉という二つのアプローチを通じて、論理的・批判的思考力とともに洞察力や解釈力を鍛え、個性性と普遍性とに豊かに開かれた精神を形成してゆくことをめざします。

#### <各回毎の授業内容>

01. イントロダクション——哲学的問いの射程
- 02～04. 哲学と常識はどう違うのか（ソクラテス、プラトン、啓蒙思想、ヘーゲル）
- 05～07. 幸福とは何か（アリストテレス、功利主義、カント）
- 08～10. 何かを認識するとはどういうことか（デカルト、ロック、バークリ、ヒューム、カント）
- 11～12. 私とは何か（フィヒテ、実存哲学、フロイト）
- 13～14. 価値とは何か（ニーチェ）
15. まとめ
16. 定期試験

#### <成績評価方法>

各回の授業内容に関連する簡単なアンケート（30%）、定期試験（70%）による。  
 ※アンケートは提出回数ではなく内容で評価します。極端に出席日数が少ない学生、マナー違反が改善されない学生は成績評価の対象となりません。

#### <教科書・参考文献>

貫 成人『図説・標準 哲学史』、新書館、2008年  
 （※講義は基本的にレジュメに即して進めますが、参考資料として上記の図書を用いますので、購入のうえ授業に臨んで下さい。）

#### <受講に当たっての留意事項>

上記の資料のほか、図書館に配架されている「指定図書」などを積極的に利用して下さい。

#### <学習到達目標>

哲学の基本的知識を習得するとともに、個人的・日常的レベルでも哲学的な感じ方、考え方、生き方を深める。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基礎	1年	世界地誌	2	前	澤口晋一 (情報文化)
21年度以前	基礎					

選択

**<授業目的>**

この授業では、前半1～7で地球環境、後半8～15で世界の地誌を扱う予定でいます。前半では純粋に地球の「自然環境」そのものを、地球誕生からとりあげることで惑星地球とその環境の特徴を理解します。後半は、世界の諸地域の地理的事象の基本を概説し、国際理解のための基礎的知識を身につけることを目的とします。

**<各回毎の授業内容>**

1. 太陽系の中の地球, 太陽系惑星の特徴と比較
2. 地球の誕生と進化
3. 地圏の成り立ち① (地殻の特徴と形成)
4. 地圏の成り立ち② (大陸と海洋の形成とその変遷—プレートテクトニクスの視点から)
5. 大気の大循環 (その成因と分布)
6. 大気の大循環と気候帯の形成 (ケッペンの気候区分を用いて)
7. 地球史と気候変動
8. ユーラシアの地誌
9. アジアの地誌①
10. アジアの地誌②
11. 北米の地誌
12. 南米の地誌
13. 欧州の地誌
14. アフリカの地誌
15. 日本の地誌

**<成績評価方法>**

中間レポート (10%), 定期試験 (90%)

**<教科書・参考文献>**

テキストは使用しませんが、高校で使用した地図帳を毎回持参してください。高校で地理を履修せず、地図帳を持っていない学生は、二宮書店『コンパクト地図帳』1600円を購入しておくことが望ましい。

**<受講に当たっての留意事項>**

授業中は私語・飲食 (持ち込み)、ゲームは厳禁!

携帯電話については、毎回授業の最初に電源を (みなさんが) 切ったことを確認してから始めます。

**<学習到達目標>**

この講義では、上記の授業内容を通じて地球という惑星の特徴を理解し、そのうえで世界の諸地域の地理的事象についての知識を身につけることを目標としています。

1～7:50%

8～12:50%

(関連する学習・教育到達目標:A)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1年	法学	2	前	熊谷 卓（情報文化）
21年度以前	基 礎					

選択

**<授業目的>**

人は、この世に生を受けてから死ぬまで、「法」と隣り合わせの関係にある。親から名前を授けられ、学校へ入学、卒業してからの就職、結婚や離婚といった事項についていえば、「法」が密接な関係を有しているということがいえる。本講義では、「法」というものがどのように機能していくのか、このことについて考察する。

**<各回毎の授業内容>**

- 1 オリエンテーション
- 2 法との遭遇—日常生活は「法」であふれている！
- 3 法とは何か
- 4 刑法とはなにか？—1
- 5 刑法とはなにか？—2
- 6 刑事責任論—1
- 7 刑事責任論—2
- 8 刑事責任論—3
- 9 犯罪とはなにか？—1
- 10 犯罪とはなにか？—2
- 11 量刑論—1
- 12 量刑論—2
- 13 犯罪者処遇論—3
- 14 残された問題—民事法も視野に入れて
- 15 まとめ
- 16 試験

**<成績評価方法>**

主として試験による成績評価

**<教科書・参考文献>**

「六法全書」を指定テキストとする。

**<受講に当たっての留意事項>**

プリントを配布することがある。欠席者には与えない。

**<学習到達目標>**

法学的思考の習得

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	1年	コミュニケーション論	2	前	逸見龍生
21年度以前	基礎					

選択

**<授業目的>**

コミュニケーションとは何か。情報化やグローバル化と言われる現代社会において、それはどのような意味をもっているのだろうか。この授業では、多様な拡がりをもつコミュニケーションという言葉をもとに、われわれが日常世界のなかで無意識におこなっている様々なコミュニケーション行為を考察していく。

**<各回毎の授業内容>**

主に三つの観点からコミュニケーションを論じていく。

**第一部:コミュニケーションの原点～パーソナルコミュニケーションを考える**

第1回:授業オリエンテーション

第2回:日本語と欧米語におけるコミュニケーションの定義

第3回:情報共有態としてのコミュニケーション

第4回:アイデンティティの構築としてのコミュニケーション

**第二部:メディア論としてのコミュニケーション**

第5回:メディア史とコミュニケーション技術の進展①

第6回:メディア史とコミュニケーション技術の進展②

第7回:記号論の考え方（ソシュール、ロラン・バルトの議論の紹介）

第8回:記号論とメディア論

第9回:メディア分析の基礎

第10回:メディア分析の基礎と応用

第11回:メディア分析の基礎と応用②——アカデミック・ライティングの技術

**第三部:メディア社会の中のコミュニケーションの諸相**

第12回:レポート講評

第13回:メディア社会におけるコミュニケーション分析の現状と今後①

第14回:メディア社会におけるコミュニケーション分析の現状と今後②

第15回:まとめ

**<成績評価方法>**

平常点（出席+アチーブメント・テスト+授業後コメント）、小レポート、期末試験の総合

**<教科書・参考文献>**

授業で使用するテキストはコピーを配付する。参考文献は授業において指示

**<受講に当たっての留意事項>**

- ・授業中の私語は禁止とする。開始20分以後の途中入室、および無断での途中退室は認めない。
- ・毎回出席を取る。公休ないしやむを得ない事情（就職活動、クラブ活動の大会、ゼミ等の特別授業）で欠席の際にはその旨届けること。講義全体の3分の1（おおよそ4回以上）を超えて無断欠席した場合には、期末試験受験資格をえられないものとする。
- ・毎回授業終了後に書くコメントカードは、評価の対象とする。また、公的な出席票の替わりとする。そのため、他人のコメントカードを代理記入するような行為は重大な不正行為と見なし、以後の講義・試験への出欠は、記入を依頼した者、実際に記入した者の双方ともに差し止める。

**<学習到達目標>**

現代社会におけるコミュニケーション概念の重要性を理解し、コミュニケーション学の基礎的な考え方をを用いて、実際の社会分析に応用する力を養うこと。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	論理と数理	2	前	石井忠夫（情報システム）
21年度以前	基 礎					

選択

<授業目的>

論理学は古代ギリシャのアリストテレス以来受け継がれて来た歴史の古い学問であるが、これに数学の中で用いられている記号を用いた形式化の手法を導入することにより、現代的な数理（記号）論理学が誕生した。本講義では、数理論理学の基礎を情報文化との関連を考慮しつつ解説する。

<各回毎の授業内容>

1. 論理学の入門（情報文化と論理、講義の位置付け）
2. 論理式と真偽（命題の表現、真偽表、同値な命題）
3. 否定命題と連言命題（命題関数と集合の入門）
4. 選言命題と双対原理
5. 基本的なトートロジー
6. 論理式の標準形
7. 含意命題と直観主義論理
8. 推論と推論規則
- 9～11. 自然的推論（NK、NJ）
12. 一階の述語論理（量化記号、束縛変数と自由変数）
13. 血族関係の表現
14. NKとNJの述語論理
15. 有限幾何学
16. 定期試験

<成績評価方法>

毎回の小問が10点、レポート2回の合計が30点、および定期試験が60点の合計点で評価する。

<教科書・参考文献>

田村三朗、荒金憲一、平井崇晴共著：論理と思考（大阪教育図書、1999年）1,600円

<受講に当たっての留意事項>

- (1) 数学を学ぶ時と同じように、内容を理解するには自分でいくつかの演習問題を解くのが良い。よって、学習の便宜を図るために、毎回の小問題を課す。
- (2) 教科書に沿って授業を進めるので、早めに教科書を購入しておくのが望ましい。
- (3) 基礎自由科目「数学基礎」の内容を修得していることが望ましい。

<学習到達目標>

論理的思考の基礎となる命題の組み立て方（30%）および論理式を用いた記号による表現（40%）を理解し、また、日常生活での正しい判断能力（30%）を習得する。

（関連する学習・教育目標：D）

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	1年	統計と情報1	2	前	伊村知子（情報システム）
21年度以前	基礎		統計と情報			

情報文化学科選択、情報システム学科必修

#### <授業目的>

わたしたちの身の周りには、さまざまな情報があふれています。このような膨大な情報から意味のある情報を抽出し、その特徴や傾向を把握するために、確率・統計学のテクニックや知識が必要になります。この講義では、確率・統計学的なものの捉え方の基礎を身につけると共に、世の中の事象を確率・統計学的な視点から分析できるようになることを目指しています。具体的に、前半では、データの特徴を記述するための方法として、度数分布表やヒストグラム、散布図などの図表の作り方を解説します。また、平均値や標準偏差などの統計量が意味するものと、その計算の仕方について解説します。後半は、統計的仮説検定の考え方についてくわしく解説します。

#### <各回毎の授業内容>

1. はじめに
2. データのばらつきを表やグラフで要約する(1)
3. データのばらつきを表やグラフで要約する(2)
4. データのばらつきを数字でまとめる:平均値・中央値
5. ばらつきを大きさをはかる(1):偏差・分散・標準偏差
6. ばらつきを大きさをはかる(2):歪度・尖度
7. 確率論的なものの考え方(1):2項分布
8. 確率論的なものの考え方(2):正規分布
9. まとめ:中間試験
10. 統計をつくる一部分から全体を知る:標本調査について
11. 調査結果と推定値との誤差を知る
12. 標本から仮説の妥当性を判断する:統計的仮説検定の考え方
13. 2変数の間の関係を記述する
14. データ間の関係を読む
15. まとめ
16. 定期試験

#### <成績評価方法>

授業中に実施する練習問題（40%）と定期試験（60%）により、総合的に評価します。

#### <教科書・参考文献>

必要な資料は授業中に随時、配布します。

参考図書:鳥居泰彦「はじめての統計学」日本経済新聞社

#### <受講に当たっての留意事項>

わからない点については授業中に積極的に質問すること。予習と復習をこころがけること。

#### <学習到達目標>

- ・基本的な知識を習得し、確率・統計学的なデータのとらえ方を理解すること。(練習問題:20%、定期試験:30%)
- ・日常生活の事象を確率・統計学的な視点から分析できるようになること。(練習問題:20%、定期試験:30%)

(関連する学習・教育到達目標:D)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	基礎数学	2	前	玉木賢志 水谷 浩
21年度以前	基 礎					

選択、平成23年度以前自由

<授業目的>

大学の数学では、「関数」という概念を理解することが重要です。このことは、単に、二次方程式を解くとか、不等式を解くといったことではありません。「関数」とは、例えば実数がある関数にマッピング（写像）した際得られるものであるという考えに基づくものです。このことを理解できれば、関数の掛け算、割り算、および、逆関数の理解に繋がります。さらには、高等数学で取り扱う汎関数の考えも理解できます。この授業を履修することによって、1年次後期からの数学の専門科目の理解に繋がる知識を習得することを目的とします。

<各回毎の授業内容>

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. 数の計算、分数の意味と比の関係、式の計算    | 9. 絶対値の意味と計算（方程式・不等式の解法） |
| 2. 指数（指数法則・指数関数）           | 10. 1次関数・2次関数とそのグラフ      |
| 3. 対数（基本法則・対数関数・常用対数・自然対数） | 11. 三角関数とそのグラフ           |
| 4. 三角比（定義・ラジアン）の理解         | 12. 関数の意味と写像             |
| 5. 1次方程式、連立1次方程式           | 13. 関数の掛け算・割り算と逆関数       |
| 6. 立式の基礎（文章題から式を作る練習）      | 14. 補充問題                 |
| 7. 2次方程式（解の公式や因数分解を用いて）    | 15. 補充問題・理解度確認演習         |
| 8. 1次不等式・2次不等式             |                          |

<成績評価方法>

毎回の演習80%、理解度確認演習20%

<教科書・参考文献>

指定の教科書は使用しません。講義時にオリジナルプリント（レジュメ）を配布します。

<受講に当たっての留意事項>

高校までの数学が苦手、嫌いな人でもこの授業でやることは、これから先で学ぶ専門科目の理解に必ず役立つものなので、短期間ですが集中して取り組んで下さい。授業ではノートをきちんと取って、その後必ず復習するようにして下さい。

なお、この授業科目では数学リテラシーチェックの結果によって担当教員が履修対象者を決定します。担当教員が指定した以外の学生は履修できません。

<学習到達目標>

- 1.各単元の1つ1つの公式、定理をよく理解してそれらを応用する力を身に付けること。50%
- 2.確実な計算力を養い、さらに順序を立てて論理的に考えることができるようになること。50%

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	CEP 1	3	前	G.Hadley, M.Ruddick, P.Dickinson
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

CEPは英語を楽しく集中的に学習するプログラムです。CEPで積極的に取り組んだ学生は、そのほとんどが学年末には自信を持って英語を話すことができるようになっています。CEPでは、国際英語を教えます。英語を自分のことばにして、日本人としてのみなさんの視点から話しましょう。CEPでは、みなさんが英語を話したくなるような、楽しいクラスを目指します。

<各回毎の授業内容>

CEPプレイスメント・テストの結果によって、レベル別クラスが編成されます。Aクラスが最も難しく、Fクラスが基礎レベルです。しかし、このレベルの違いはみなさんの成績に影響しません。例えば、Fクラスだからという理由で悪い成績をとったり、Aクラスだからといって他のクラスの人より自動的に良い成績を修めるといったことはありません。レベル別にするのは、学習内容が簡単過ぎたり難し過ぎたりすることを避けるためです。適切なレベルから始めることで、学習効果が上がります。CEPで英語の力がつけば更に高度なクラスへ、また、あまり上達しないようなら基礎的なクラスに移動することも可能です。CEPでは毎回の出席と授業への積極的な取組みが要求されます。遅刻はしないこと。欠席時数（届出があり、やむをえないと認められた欠席を除く）が30%を超えると不合格となります。CEPでは、授業活動への参加に関してポイント・システムを採用しています。英語で質問をしたり、英語の授業活動を積極的に行ったり、教員の質問に英語で答えたりした学生は、そのつどコインがもらえます。白いコインは1ポイント、青いコインは2ポイント、赤いコインは3ポイントです。1回の授業につき最高ひとり5ポイントまで集めることができます。コインは授業終了時に教卓の箱に返却します。そのとき、自分の名前とポイントの数を教員に伝えてください。CEPには、スピーキング・リスニングの授業とリーディングの授業があります。リスニングとスピーキングのテストは3週間に1回あります。

<成績評価方法>

みなさんの成績は、テスト、宿題、授業活動への積極的な取組みなどから総合的に判定されます。

<教科書・参考文献>

Interchange Full Contact 1a, 2a, 3a (Jack Richards, Cambridge University Press.)

<受講に当たっての留意事項>

以下は基本的なルールです。必ず守ってください。授業中は英語で話すこと。教員に質問されたときにその意味や答えがわからなければ、まず教員の方を向いて、教員に直接そう伝えること。（すぐに友達に聞いたりしない。）ほとんどの問題は教師と良い関係を築いていく中で解決できるものです。授業中や空き時間に遠慮なく話してください。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	1 年	英語 1 A (話す英語 1) P 1・P 2	1	前	ステファン ドユルカ
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

This course is designed to help students improve their English-language communicative skills, with an emphasis on practical contemporary English as it is used in the real world.

<各回毎の授業内容>

- 1 Class introduction 1 : **It's nice to meet you.** Introducing yourself and friends; saying hello and good-bye; possessive adjectives *my, your, his, her, the verb to be*
- 2 Asking for names and phone numbers; spelling of names, affirmative statements and contractions.
- 3 **What's this?** Naming objects; asking for and giving the location of an object; plurals; prepositions of place: *in, on, under, beside, etc., articles a, an, the; this, it and these, they*
- 4 **Where are you from?** Cities, countries and regions; adjectives of personality, numbers to 100 and age; affirmative and negative statements; yes/no questions, short answers and Wh-questions, personality traits
- 5 **I'm not wearing boots!** Clothing; colours, seasons of the year; weather; possessive adjectives *our, their*; conjunctions and *and but*; colour adjectives before nouns
- 6 Audio-Visual training. Acquisition of visual and oral stimuli from representative English-language audio-visual media, in this case, a Hollywood film classis.
- 7 **What are you doing?** Times of the day, clock time; daily activities, Saturday activities; questions with *what time*
- 8 Writing about what people are doing. Time Zones of the world. Time.
- 9 **Mid-Term Test. Includes multiple-choice, fill-in-the blank, and essay-type questions.**
- 10 **We live in the suburbs.** Place and transportation; family relationships, daily routines, days of the week; simple present statements with regular and irregular verbs
- 11 **Does the apartment have a view?** Houses and apartments; rooms; furniture; simple present short answers; *how many; there is; there are; there's no, there isn't a, there are no, there aren't any*
- 12 **What do you do?** Occupations and workplaces; asking for and giving opinions about jobs. Placement of adjectives before nouns, descriptive adjectives for occupations
- 13 Personal pronouns. Contractions. Use of pronouns as substitutes for names. Use of contractions in speaking and writing.
- 14 **Broccoli is good for you.** Food pyramid; basic foods; desserts, meals; countable and uncountable nouns; adverbs of frequency: *always, usually, often, sometimes, seldom, never.* Taking a survey of foods.
- 15 **Summer Vacation.** Planning. Future actions.
- 16 FINAL TEST. Includes multiple-choice, fill-in-the blank, and essay-type questions.

<成績評価方法>

Students will be graded on the basis of their performance on a mid-term (50%) and a final test of knowledge (50%).

<教科書・参考文献>

Relevant handouts (correctly known as photocopies, not "prints") will be supplied by the instructor, sourced from texts, print media and original material.

<受講に当たっての留意事項>

Students must not sleep in class. Students must be attentive. Students must turn off cell-phones.

<学習到達目標>

- 1) The students will be able to communicate with people from around the world in plain English, with an emphasis on practical contemporary English as it is used in the real world.
- 2) The students will be able to pronounce words correctly and read basic English passages with a certain degree of fluency.
- 3) The students will gain proficiency in writing simple daily schedules, lists of telephone numbers and addresses and the location of objects.
- 4) The students will learn to use possessive adjectives, prepositions of place, articles and adverbs of frequency in a fluid and natural manner.
- 5) The students will learn a modicum of geographical and topographical names in their English forms.

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	英語 1 A（話す英語 1） Q 1・Q 2	1	前	イザベラ ガラオン 青木
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

英語コミュニケーション能力の向上を目指します。英語の聞く力と話す力をつけながら、英語を国際言葉として活用できるような楽しい授業を目指します。

<各回毎の授業内容>

1. Introduction to the course. Welcome Unit
2. New Friends
3. New Friends
4. People and places
5. People and places
6. Test and other material
7. What's that?
8. What's that?
9. Daily life
10. Daily life
11. Test and other material
12. Free time
13. Free time
14. Work and play
15. Work and play
16. 試験

<成績評価方法>

成績評価内訳:平常点 (50%)、テスト (10%x2) 定期試験 (30%)

<教科書・参考文献>

Four Corners 1, Jack C. Richards, David Bohlke (Cambridge University Press)

参考文献:テキスト内容に関する資料を適時配布する。欠席したものは、自己責任で資料をそろえること。

<受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

<学習到達目標>

今まで習った英語を復習しながら、実際にしゃべる言葉として使える自信をつける事。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	英語 1 A（話す英語 1） R 1・R 2	1	前	ランス レイサム
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

This course is designed to help students improve their English-language conversation and communication skills. The lessons will focus on practical, real-world applications of language use.

<各回毎の授業内容>

1. Class Introduction/Essential English
2. I'm a student.
3. I'm a student.
4. What's your phone number?
5. What's your phone number?
6. Test and other material
7. My family
8. My family
9. Do you like hip-hop?
10. Do you like hip-hop?
11. Test and other material
12. What do you do for fun?
13. What do you do for fun?
14. Can you play the guitar?
15. Can you play the guitar?
16. Final Exam

<成績評価方法>

Attendance (20%)  
Homework (20%)  
In-Class tests (20%)  
Final Test (40%)

<教科書・参考文献>

First Choice, Ken Wilson & Thomas Healy (Oxford) (ISBN: 978-0-19-430561-7)

<受講に当たっての留意事項>

I have high expectations for student behavior. Students must be attentive to the lesson, awake, and respectful.

<学習到達目標>

The students will be able to communicate in English with people from around the world.  
The students will be able to use appropriate pronunciation.  
The students will be able to read short passages and dialogues with some degree of fluency.

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	1 年	英語1B (CALL英語1) P 1・P 2	1	前	茅野潤一郎
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

この授業では、CALLシステムやマルチメディアを活用し総合的な英語コミュニケーションに必要な英語力の伸長を図ります。基本的な会話表現を身につけ、国際語としての英語を使った円滑なコミュニケーションをおこなうことを目指します。

<各回毎の授業内容>

1. Introduction / 講義概要、PC@LLについて
2. Unit 1. Greetings and introductions (1)
3. Unit 1. Greetings and introductions (2)
4. Unit 2. Nationalities and occupations (1)
5. Unit 2. Nationalities and occupations (2)
6. Unit 3. Give and get directions (1)
7. Unit 3. Give and get directions (2)
8. Unit 4. Talk about families (1)
9. Unit 4. Talk about families (2)
10. Unit 5. Time and dates (1)
11. Unit 5. Time and dates (2)
12. Unit 6. Clothes, colors and other adjectives (1)
13. Unit 6. Clothes, colors and other adjectives (2)
14. Unit 7. Houses and apartments (1)
15. Unit 7. Houses and apartments (2)
16. 試験

<成績評価方法>

試験 50% + 課題および授業中の言語活動への取り組み 50%

<教科書・参考文献>

・Saslow, J.& A. Ascher. 2008. *Top Notch TV, Fundamentals*. Pearson Longman.

<受講に当たっての留意事項>

- ・ 5回およびそれ以上欠席した場合は不合格とする。
- ・ 出席確認後の入室は特段の事情がない限り出席とは認めない。
- ・ 毎回の活動等への取り組みが重要である。
- ・ iPodなどのデジタルオーディオプレーヤーを持参し常時携帯することを勧めます。

<学習到達目標>

- ・ スピーキング活動を通して、英語のプロソディに慣れ、日本語に影響されないリズムで話すことができる。
- ・ 比較的平易な英語の概要を聞いて理解することが出来る。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	1年	英語1B (CALL英語1) Q1・Q2	1	前	金沢泰子
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

CALLシステムを活用し国際標準語である英語の運用力を養成する。

Listening、Speaking練習、講義支援システムを使った語彙・文法練習を通してバランスのとれた発信型英語の基礎力養成をめざす。

<各回毎の授業内容>

1. 講義概要、CALL 及び講義支援システムの使用法
2. Unit 1 Ceremony
3. Unit 1
4. Unit 2 School Life
5. Unit 3 Transportation
6. Unit 4 Outdoor Activities
7. Unit 5 Weather
8. Review
9. Unit 6 Holiday Plans
10. Unit 7 Resort Area
11. Unit 8 Directions
12. Unit 9 Job Experience
13. Unit 10 Summer Sale
14. Review
15. Consolidation
16. 定期試験

<成績評価方法>

毎授業時の練習問題と復習小テスト40% 音声活動20%、定期試験40%

<教科書・参考文献>

K. Yoshida et al : Practical Situations for the TOEIC Test (SEIBIDO)

<受講に当たっての留意事項>

5回以上欠席すると受講資格を失う。授業開始後10分以降の入室は認めない。  
欠席回数については各自で記録し、超過しないように気をつけること。

<学習到達目標>

Listening・会話練習を通して語彙表現をみにつけ発信型の英語基礎力を養成する。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	英語1B（CALL英語1） R1・R2	1	前	金沢泰子
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

CALLシステムを活用し国際標準語である英語の運用力を養成する。  
Listening、Speaking練習、講義支援システムを使った語彙・文法練習を通してバランスのとれた発信型英語の基礎力養成をめざす。

<各回毎の授業内容>

1. 講義概要、CALL 及び講義支援システムの使用方法
2. Unit 1 Getting Ready for a Business Trip
3. Unit 1
4. Unit 2 Departure
5. Unit 3 On a Plane
6. Unit 4 Arrival
7. Unit 5 Meeting People
8. Unit 6 Mini-Test
9. Review
10. Unit 7 Making an Appointment
11. Unit 8 At a Hotel
12. Unit 9 Visiting a Company
12. Unit 10 Small Talk
13. Unit 11 Negotiation
15. Review
16. 定期試験

<成績評価方法>

毎授業時の練習問題と復習小テスト 40% 音声活動 20%、定期試験 40%

<教科書・参考文献>

H.Nishikage et al: A Strategic Approach to the TOEIC Test Listening (SEIBIDO)

<受講に当たっての留意事項>

5回欠席すると受講資格を失う。授業開始後10分以降の入室は認めない。  
欠席回数については各自で記録し、超過しないように気をつけること。

<学習到達目標>

Listening・会話練習を通して語彙表現をみにつけ発信型の英語基礎力を養成する。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	1 年	英語 1 C (総合英語 1) P 1・P 2	1	前	高橋正平 (情報システム)
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

テキストはアメリカ人が日本とアメリカの社会の違いについて論じたエッセイです。両国の違いに驚かされる話題が満載です。エッセイを読むと同時に文法についても学べるテキストです。平易な英文を読み、英語の読解力の向上を目指す。テキストには読解用の英文と読解の助けとなる練習問題が含まれている。

<各回毎の授業内容>

- 第1週: Lesson 1 Cherry Blossoms
- 第2週: Lesson 2 Capital Cities
- 第3週: Lesson 3 Movies
- 第4週: Lesson 4 Transportation
- 第5週: Lesson 5 Advertisements
- 第6週: Lesson 6 Education
- 第7週: 中間試験
- 第8週: Lesson 7 Loan Words
- 第9週: Lesson 8 Work
- 第10週: Lesson 9 Memorial Day
- 第11週: Lesson 10 Weddings
- 第12週: Lesson 11 Marriage
- 第13週: Lesson 12 Gifts
- 第14週: Lesson 13 One-Child Families
- 第15週: Lesson 14 Divorce
- 第16週: 定期試験

<成績評価方法>

中間試験 (40%)、定期試験 (40%)、出席・授業態度 (20%) によって評価する。

<教科書・参考文献>

Charles L. Clark 他編注: *Basically America, Basically Japan* (南雲堂)

<受講に当たっての留意事項>

毎回1レッスンを読み終える。授業は演習形式で行うので、受講者は予習が必要である。座席は指定とし、授業中の私語は厳禁である。場合によっては教室からの退去を命じることもあるので注意されたい。欠席が5回を越えると試験資格を失う。遅刻3回は1回の欠席とする。授業中の居眠り、内職学生には宿題を課す。テキストは第2週までに必ず購入のこと。例年テキストを購入しない学生がいるが、購入しない場合は受講を取り消すことがあるので注意すること。

<学習到達目標>

平易な英文を読み、基礎的な英語の読解力の向上を目指し、マニュアル等の英文文書を読み、理解できるとともに、英語でネイティブの人と簡単な意見交換ができる能力を身につける。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	英語 1 C（総合英語 1） Q 1・Q 2	1	前	土橋善仁
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

この授業では、現代社会で話題となっていることからや学術的な問題などに関する英文を読みながら、基本的な英語力の向上、とくに読解力を伸ばすことをめざす。

<各回毎の授業内容>

毎授業開始時に「例文テスト」を行う。

第1週: イントロダクション

第2週: Chapter 1 Yoga

第3週: Chapter 2 Post-it Notes

第4週: Chapter 3 Space Travel

第5週: Chapter 4 Internet Slang

第6週: Chapter 5 Ice Cream Taster

第7週: Chapter 6 Mia Hamm

第8週: これまでの復習と小テスト

第9週: Chapter 7 Bullying

第10週: Chapter 8 Quebec Winter Carnival

第11週: Chapter 9 Plagiarism

第12週: Chapter 10 Sick Building Syndrome

第13週: Chapter 11 Bird Strikes

第14週: Chapter 12 Underpopulation

第15週: Science Text

第16週: 定期試験

<成績評価方法>

毎回の例文テスト（30%）、小テスト（25%）、定期試験（45%）。

その他、授業態度等も考慮に入れる。

<教科書・参考文献>

Makoto Shishido 他: *Practical Reading Expert* 『リーディングエキスパート基礎強化編』（成美堂）

<受講に当たっての留意事項>

必ず予習をしてくること。私語厳禁。授業開始時に毎回「例文テスト」を行うが、遅れて来た場合は受験を認めない。出欠は「例文テスト」で確認する。5回以上の欠席で不合格とする。毎回、英和辞典を持参すること（電子辞書可）。

<学習到達目標>

基本的な英語力を向上させ、ある程度の長さの平易な英文を読めるようになること。

（関連する学習・教育到達目標:B）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	1年	英語1C（総合英語1） R1・R2	1	前	阿部 聡
21年度以前	基礎					

必修

<授業目的>

国際的に通用するコミュニケーション基礎能力としての英文読解力を身につけることを目指し、文法知識を活用して自力で英文を読み通す力を養うこと、そして論理的に文章を読み解く習慣をつけることを目的とする。

<各回毎の授業内容>

- 第1週: 1. Reading 1 Is English the world's most common language?
- 第2週: 1. Reading 1 Is English the world's most common language?
- 第3週: 1. Reading 1 Should smoking be banned in public places?
- 第4週: 2. Reading 1 The Comic Cafe
- 第5週: 2. Reading 1 The Comic Cafe
- 第6週: 2. Reading 2 Green tea is booming
- 第7週: 3. Reading 1 Mobile Phones may affect your fertility
- 第8週: 3. Reading 1 Mobile Phones may affect your fertility
- 第9週: 3. Reading 2 "Hunger Hormone"
- 第10週: 4. Reading 1 Euthanasia
- 第11週: 5. Reading 1 Sociology and Anthropology
- 第12週: 5. Reading 2 Japanese and Western Employment Systems
- 第13週: 6. Reading 1 Holy Europe
- 第14週: 6. Reading 2 Religious Worlds
- 第15週: まとめ
- 第16週: 定期試験

<成績評価方法>

授業態度 (10%)、授業内容についてのアンケートなど (10%)、小テスト (20%)、定期試験 (60%)

<教科書・参考文献>

石谷由美子他: Skills for Better Reading: 構造で読む英文エッセイ (改訂版) (南雲堂)

<受講に当たっての留意事項>

語学は実技科目でもある。できるだけ毎日英語に触れるようにすること、積極的に授業に参加することを期待する。英和辞典を毎回持参すること。電子辞書でもよい (スマートフォンなどの携帯端末のアプリケーションも可。ただし、試験の際には通信機能を有する機器の持ち込みを禁止する)。高校生以上向けの英和辞典が好ましい (中学生向けの辞書やハンディタイプは不可。また、古すぎる辞典は極力避けること)。

<学習到達目標>

論理的な英文エッセイを、文法知識を活用してできる限り正確に読めるようになること、ある程度の長さの文章をスムーズに読めるようになること、さらに同程度の内容をリスニングでも理解できるようになることを本授業の到達目標とする。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	体力診断と運動処方 1	1	前	藤瀬武彦（情報システム）
21年度以前	基 礎					

選択

#### <授業目的>

日本は近い将来に3人に1人が高齢者という極端な少子高齢社会を迎え（現在は4人に1人）、医療費や介護費が高騰して国民の負担が非常に重くなることが予想される（医療費は年間約34兆円でその半分近くが高齢者分）。従って、各人が健康体力づくりに対する知識や意識をもつことが必要であり、またその実践が重要であることは言うまでもない。この授業では、生涯にわたって健康体力を保持増進させるために、日常生活に適度な運動を積極的に取り入れる能力の養成を目的とする。前期は主に屋外スポーツ種目のルールや基本的技術などを理解して、ゲームを実践するとともに運動不足を解消したい。

#### <各回毎の授業内容>

（受講生の人数や希望などにより若干の変更もあり得る）

実施可能な種目：ソフトボール、サッカー、テニス、フィットネス・トレーニング

（受講生の希望により種目を決定する）

1. ガイダンス① …… 授業内容と評価方法、スポーツ施設の利用方法
2. ガイダンス② …… トレーニング機器及びフリーウエイトの扱い方
3. ガイダンス③ …… 種目の決定、チーム分け、基本練習・チーム練習など
- 4～8. スポーツ①～⑤ …… ゲーム①～⑤（チームや個人の成績を記録する）
9. フィットネス …… エアロビック・ウエイトトレーニング
- 10～14. スポーツ⑥～⑩ …… ゲーム⑥～⑩（チームや個人の成績を記録する）
15. スポーツ⑪ …… 決勝トーナメント（チーム数により変更あり）

#### <成績評価方法>

この授業では、出席して積極的に運動を実践することが重視される。従って、評価（100点満点）については欠席1回につき10点減点とし、遅刻（授業開始30分まで）・見学・早退は計3回で1回欠席分の減点とする。また、規則やマナーの違反、あるいは教員の指示に従わなかったときには減点することがある。なお、出欠の確認は口頭で行うので、静粛にして教員によく聞こえるように元気よく返事をする（仮に出席していても返事が聞こえなかった場合は遅刻・欠席扱いになることがある）。

#### <受講に当たっての留意事項>

運動着と運動靴（下履き・上履き）が必要であり、上履きの紐は情報文化学科が赤色、情報システム学科が青色のものを着用すること。なお、体育館の更衣室は盗難が起りやすいので、貴重品の管理はコインロッカーを使用するなどして自己責任においてしっかり行うこと。

#### <学習到達目標>

競技や楽しみのための「スポーツ」と健康体力づくりのための「フィットネス」の内容を理解し、それぞれの運動を体験・実践するとともに運動不足を解消させる。

# 2年基礎科目（前期）

比較宗教論  
社会思想史  
文化人類学  
憲法  
金融論  
情報文化  
言語学  
ジェンダー論  
文章表現  
英語3  
フィットネス理論及び実習

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	比較宗教論	2	前	鈴木晋介
21年度以前	基 礎					

選択

**<授業目的>**

「宗教」とは何か？「かみさまはいるのか？」、「来世は在るのか？」。これらの問いに即答を与えることは難しい。そもそも「いる」「在る」の意味すら考え始めるとこれは相当に泥沼だ。そこで私たちはアプローチの仕方を変えてみよう。少なくとも確かなことがある。それは、いま私たちが「宗教」と漠然と呼んでいる多様な事象を、人類が長い時間をかけて構築してきたということ。人類とはむしろ他人事ではない。「困ったときの神頼み」なんて言ってみたり、正月に初詣に繰り出したかと思えばクリスマスにもなんだか特別な気分になり、法事となれば親族が集う...そう、人類とはわたしたちのことで。「身の回り」に目を向けてみよう。そして世界が多様に築き上げてきた「身の回り」に比較の目を向けていこう。

本講義の目的は大きく二つある。ひとつは私たちの素朴な宗教観を相対化し、宗教というものに対する視界を広げること。もうひとつは、世界の様々な宗教に関する基礎的知識を獲得することである。本講義では、全体を大きく二つのパートに分けて講義を行う。第Ⅰ部では宗教現象にアプローチする社会科学的な視角を提示する。第Ⅱ部ではいわゆる世界の四大宗教（キリスト教、イスラーム、仏教、ヒンドゥー教）を取り上げ、映像資料を用いながら多様な宗教世界を概説する。

**<各回毎の授業内容>**

第Ⅰ部 宗教を社会科学する

1. 宗教現象へのアプローチ
2. 宗教現象に対する社会科学的視角
3. 宗教の原初形態をめぐって(1)～考古学的考察
4. 宗教の原初形態をめぐって(2)～人類学的考察
5. 宗教を考えるための諸概念(1)科学・呪術・宗教
6. 宗教を考えるための諸概念(2)儀礼と宗教的職能者
7. 宗教の分類をめぐって

第Ⅱ部 世界の宗教を探訪する

8. キリスト教の世界(1)～その歴史・教え・実践
9. キリスト教の世界(2)～映像資料から考える
10. イスラームの世界(1)～その歴史・教え・実践
11. イスラームの世界(2)～映像資料から考える
12. 仏教の世界(1)～その歴史・教え・実践
13. 仏教の世界(2)～映像資料から考える
14. ヒンドゥー教の世界(1)～その歴史・教え・実践
15. ヒンドゥー教の世界(2)～映像資料から考える
16. レポート

**<成績評価方法>**

授業中の小レポート及び講義最終日のレポートによって成績評価を行う。なお成績評価は出席状況を加味して行う。

**<教科書・参考文献>**

教科書はとくに指定しない。参考文献は講義中に随時指示する。

**<受講に当たっての留意事項>**

本講義では講義に出席し、自分なりに思考するプロセスが最も重要である。

**<学習到達目標>**

宗教現象を理解する社会科学的視角を養い、現代世界の諸宗教に関する基礎的知見を身につける。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	社会思想史	2	前	向山恭一
21年度以前	基 礎					

選択

<授業目的>

自由であることはそれ自体善きことのように思われるが、私たちは他人と社会生活を営まざるをえない以上、みずからの自由を正しく行使することももめられている。19世紀の西欧で生まれた自由主義の思想は、20世紀において大きく書きかえられながらも、そのための処方箋として今日もなお参照されつづけている。本講義では、近代から現代にいたる自由主義思想の展開を概説しながら、その今日的課題まで踏み込んで考察する。

<各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス
- 2 自由主義の起源と展開
- 3 自由主義の基本問題(1):「自由」であることの意味
- 4 自由主義の基本問題(2):「正義」の尺度はどこにあるのか
- 5 自由主義と民主主義(1):社会契約の思想
- 6 自由主義と民主主義(2):立憲主義の思想
- 7 古典的自由主義の思想(1):自然権思想と功利主義
- 8 古典的自由主義の思想(2):自由放任思想と社会ダーウィニズム
- 9 古典的自由主義の思想(3):補論「私を所有するのはだれか」
- 10 現代自由主義の思想(1):消極的自由から積極的自由へ
- 11 現代自由主義の思想(2):福祉国家と自由主義
- 12 現代自由主義の思想(3):補論「自由と平等は両立しうるか」
- 13 自由主義の新しい展開(1):新自由主義の台頭
- 14 自由主義の新しい展開(2):共同体主義との対話
- 15 まとめ
- 16 試験

<成績評価方法>

出席と期末試験による。

<教科書・参考文献>

講義プリントを配布する。

<受講に当たっての留意事項>

毎回、講義内容に関するコメントを要求するので、積極的な態度で臨むこと。

<学習到達目標>

倫理的および政治経済的観点から「自由」の概念をとらえ、正しい生き方とはなにかを理解すること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	文化人類学	2	前	松尾瑞穂（情報文化）
21年度以前	基 礎					

選択

**<授業目的>**

何気ない日常生活のなかでも、「なぜ?」「どうして?」と不思議に思う人や出来事に出会ったことはありませんか?その不可解さ(=わからなさ)は、自分とはまったく異なるように思われる外国人や、言葉の通じない外国での経験であれば、なおさらです。そのような「他者」との差異を、われわれはどのように理解すればよいのでしょうか。本講義では、文化人類学の理論的系譜をたどりながら、異文化理解、他者理解の学問である文化人類学の視点と思想について学びます。18世紀から19世紀にかけて人類学が誕生した歴史的背景から、社会・文化を分析するための主要な理論やトピックを中心に学び、最後に、ジェンダーやセクシュアリティ、医療など人類学が扱う現代的課題について考えます。また、講義を補足、展開するために、映画やドキュメンタリーなどの映像資料も活用しながら授業を進めていきたいと思っています。

**<各回毎の授業内容>**

1. イントロダクション—文化人類学とはどんな学問か
2. 文化人類学的手法—フィールドワークと民族誌（エスノグラフィー）
3. 文化人類学前史—探検家、宗教家と「他者」
4. 植民地主義と「野蛮人」の発見—「ポカホンタス」は野蛮人か?
5. 社会進化論—未開から文明へ
6. 文化相対主義の功罪
7. 親族と家族論—家族は普遍ではない
8. 父系制—アフリカ・ヌア—社会
9. 母系制—インド・ナーヤル社会
10. 社会的つながりの多様性—ヘアー・インディアン
11. 日本のイエ制度
12. 現代の家族—生殖医療と代理母
13. 身体の医療化—出産と女子割礼（FGM）
14. 異文化を語ることの政治性—オリエンタリズム批判
15. メディアにみる異文化表象
16. 期末試験

**<成績評価方法>**

授業出席（10%）、小レポート（20%）、期末試験（70%）

**<教科書・参考文献>**

特になし。授業中に必要な資料は配布する。

**<受講に当たっての留意事項>**

授業のコメントペーパーを提出するだけでなく、授業中には積極的な質問や発言を求めます。そのかわり私語は厳禁で、他の受講生の迷惑になる場合には退席してもらいますので気をつけること（当然その日の出席点はずきません）。また、学期中に簡単な小レポートを課し、受講者の理解度を測りますので、それらを提出しなければなりません。

**<学習到達目標>**

文化人類学の基本概念を理解し、他者理解の方法と視点についての自分の考えを説明できること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	憲法	2	前	熊谷 卓（情報文化）
21年度以前	基 礎					

選択

<授業目的>

日本国憲法というと、中学校で学んで以来、見たこともないという人もいるだろう。しかし、私たちが生活していく上で、国や地方公共団体とかかわることも多く、日本国憲法の出番となることも少なくはないはずである。この講義では、私たちの人生と日本国憲法がどのようにかかわっているのか、この点を中核にすえて具体的に検討していく。このような観点から、可能な限り具体的な事例を通じて日本国憲法の重要事項、とりわけ、「基本的人権の保障」に重点をおいて講義をすすめていく。

<各回毎の授業内容>

1. オリエンテーション－憲法とは
2. 立憲主義
3. 国民主権
4. 平和主義
5. 人権総論
6. 人身の自由
7. 判例研究
8. 平等権
9. 判例研究
10. 民法規定の再婚禁止期間違憲性
11. 判例研究
12. 新しい人権
13. 信教の自由
14. 判例研究
15. 総括
16. 試験

<成績評価方法>

レポートもしくは筆記試験の成績および講義への参加度（質問・コメントなど）等を総合的に勘案。

<教科書・参考文献>

指定されたテキストをテキスト販売週間に買うこと。

<受講に当たっての留意事項>

なし。

<学習到達目標>

憲法学に関する一般的知識・理論を習得すること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	金融論	2	前	伊藤隆康
21年度以前	基 礎					

選択

<授業目的>

金融論を学ぶ重要性がますます増加している。個人や企業の活動において、金融とのかかわり合いが強まっているためだ。この講義では貨幣の機能や金融制度、金融機関などを解説することから始める。その後、金融市場や金融政策、国際金融を講義する。金融の世界は動きが激しいため、日本経済新聞や東洋経済、エコノミストなどを読んで時事問題に関心を持つことが必要である。そのためにTVの経済番組等を授業中に見てもらい、金融問題に慣れ親しんでもらう予定である。

<各回毎の授業内容>

1. ガイダンス
2. 貨幣と金融(1)
3. 貨幣と金融(2)
4. 金融機関(1)
5. 金融機関(2)
6. 金融市場(1)
7. 金融市場(2)
8. 金融市場(3)
9. 金融政策(1)
10. 金融政策(2)
11. 金融政策(3)
12. 国際金融(1)
13. 国際金融(2)
14. 金融の未来(1)
15. 金融の未来(2)
16. レポート提出

<成績評価方法>

期末に提出してもらうレポートで評価する。

<教科書・参考文献>

[教科書] 日経文庫ベーシック 金融入門 第7版 日本経済新聞社編 1000円 + 税

[参考文献] 家森信善「図解 これだけでわかる日本の金融」(東洋経済新報社)

池尾和人「入門金融論」(ダイヤモンド社)

岡部光明「現代金融の基礎理論」(日本評論社)

<受講に当たっての留意事項>

私語は厳禁である。使用テキストだけでなく、参考文献も参照して理解を深めることが望ましい。

<学習到達目標>

金融に関する理論だけでなく、実際に生じている問題について理解できるようになることを目標とする。

具体的には

(1)用語を理解する

(2)実際の金融問題を理解する

の2点に関して、目標に達していない場合は不合格にする。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	情報文化	2	前	高木義一（情報システム）
21年度以前	基 礎					

#### 選択

#### <授業目的>

情報文化は、民族、国民、社会、組織が持つ、情報に関する意識・感性・関心・価値観と定義することができる。また、情報の収集・処理・活用など各種の情報行動の重要性に関する認識や態度、あるいは、情報処理や行動に関する能力・技術・実践、情報行動に関する様式・しきたり・習慣と定義することができる。授業ではこれらの定義に対応する3つの側面から情報文化をとりあげ、情報が民族、国民、社会、組織に対してどのような影響を与えたり、変革を要請したりしているかを、自分の視点で考えることができるようになる。また多面的に情報文化の理解を深めることにより、情報に向き合う基本的な態度を学ぶ。

#### <各回毎の授業内容>

- (1) 情報技術と社会の変化
  - 1 情報文化の枠組み
  - 2 情報通信技術の社会への影響 1
  - 3 情報通信技術の社会への影響 1
  - 4 情報技術とコミュニティ 1
  - 5 情報技術とコミュニティ 2
- (2) 社会のグローバル化と地域社会と文化
  - 6 グローバル化の概念
  - 7 文化/政治のグローバル化
  - 8 英語による情報と文化の支配
  - 9 インターネットとドメイン
  - 10 デジタルディバイドと地域社会の分断
- (3) 情報社会とアイデンティティ
  - 11 情報社会の光と影 1 \_プライバシーと著作権
  - 12 情報社会の光と影 2 \_社会意識の変化
  - 13 情報社会の光と影 2 \_ライフスタイルの変化
  - 14 アイデンティティとグローバルコミュニケーション 1
  - 15 アイデンティティとグローバルコミュニケーション 2

#### <成績評価方法>

成績は定期試験の結果で評価する。学期末に行う筆記試験は、(1) 情報技術と社会の変化、(2) グローバル化と地域文化、(3) 情報社会とアイデンティティの3分野から1問ずつ、計3問を出題する。試験は資料の持ち込みは禁止。講義に基づいた問題を出題する。授業に1/3以上欠席した場合は受験資格がありません。

#### <教科書・参考文献>

必要に応じて配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

ノートを良く整理すること。大教室のため特に教室の後方で受講する場合に私語を慎むこと。

#### <学習到達目標>

- (1) 情報技術が社会に大きな影響をあたえていることを理解する 30%
- (2) グローバル化が情報技術と密接な関係を持って進展するとともに、地域社会を分断する影響を生じさせていることを理解する 30%
- (3) 情報社会の光と影を理解しグローバルな視点で情報に向きあうことの重要性を理解する 40%

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	2年	言語学	2	前	三ツ井正孝
21年度以前	基礎					

選択

<授業目的>

言語学-我々が日々用いていることばがもつありのままの姿を見つめ、その背後にある仕組みをうかがい上げられることを目的とする学問分野-の基本、すなわち、言語学上重要な概念と、その概念を用いて言語を分析する際の基本的な方法を学ぶ。

<各回毎の授業内容>

- 1) イントロダクション
- 2) 言語とは:ミツバチの「ことば」も言葉?
- 3) 言語学とは:言葉にはいくつかの카오がある。
- 4) 世界の言語:日本語の「名前」は英語で「name」。音も発音も似てるけど.....
- 5) 音の問題(1):「さんまい(3枚)」と「さんかい(3回)」,ふたつの「ん」は発音が違う!
- 6)     〃   (2):そうはいっても,「ん」は「ん」。
- 7) 語の問題(1):「本」は1語。「箱」も1語。だったら,「本箱」は2語?
- 8)     〃   (2):「NASA」「UNESCO」「NUIS」,共通点は何?
- 9) 意味の問題(1):「上がる」の意味を聞かれたら? 「上へ行く」? では「登る」は?
- 10)    〃   (2):単語にも「ネットワーク」がある!
- 11) 文法の問題(1):「品詞」「活用」「5文型」だけが文法じゃない!
- 12)    〃   (2):「殴られだろうた」ってどうして言わないの?
- 13) 文をこえた文法:「この部屋暑いね」「そうだね」「.....それだけ?」
- 14) 言語と社会:「俺が読むよ。」「私が読むわ。」「おらが読むだ。」「いや,わしが読むのじゃ!」
- 15) まとめ:いざ,ことばの海へ。
- 16) 試験

<成績評価方法>

学期末試験の成績,出席,受講態度,授業中に課す(場合がある)小テストの成績を総合して評価する。

<教科書・参考文献>

教科書は,瀬田幸人ほか『入門ことばの世界』(大修館書店)。参考文献は授業時に指示する。

<受講に当たっての留意事項>

データは基本的に日本語。したがって,受講するにあたって外国語に堪能である必要はない。むしろ,日本語に対して敏感であって欲しい。ただし,「言葉の乱れ」や「美的な言葉」に敏感であれと言うのではない。この講義は「言葉の乱れ」の矯正や「美的センスのある言い回し」の習得を目的にはしていない。

一方で,「言葉は生きているのだから変わるのは当然」というステレオタイプなものの見方もしない。この表現は思考停止でしかない。

日本語に敏感であれ,というのは,「言葉の乱れ」や何の変哲もない日常の表現にひそむシステムを見出せる,「言葉は生きているというのなら,どのように生きているのか」を問える,そのような態度であれ,ということである。

「授業目的」のとおり,この授業の(そして言語学の)目的は,言葉がもつありのままの姿を見つめ,その背後にある仕組みをうかがい上げられることにある。この点を十分に念頭に置いておいてほしい。

<学習到達目標>

言語学の基本的な考え方を理解し,基礎的な知識を習得すること。さらに,実際の言語分析に応用できること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	ジェンダー論	2	前	矢口裕子（情報文化）
21年度以前	基 礎					

選択

<授業目的>

ジェンダーの一般的定義は、生物学的・肉体的性差（セックス）と別に、文化的・社会的に構築される性差のことである。ジェンダー論とは、わかりやすくいうと、「男らしさ・女らしさ」と呼ばれたり「女性的・男性的」と分類される諸現象とその周辺の問題群を扱う学問である。ジェンダー論は1980年代以降一般化した比較的新しい学問領域だが、人として生まれた者であれば、性別・年齢・洋の東西を問わず誰もが関わらずにはいられない問題を多く含んでいる。

本講義では、ジェンダー論とは何かをできるだけわかりやすく、自分自身の問題として受け止め、考えてもらえるような授業を行いたい。最新の学問的傾向にも目を配りつつ、理論一辺倒にならないよう、理解の一助としてオーディオビジュアルな資料も適宜用いる予定。

<各回毎の授業内容>

1. イントロダクション
2. ジェンダーとセクシュアリティ①
3. ジェンダーとセクシュアリティ②
4. 言葉とジェンダー
5. セクシュアル・ハラスメント
6. ドメスティック・ヴァイオレンス
7. メディアのなかのジェンダー①
8. メディアのなかのジェンダー②
9. 日本におけるジェンダー問題
10. 世界のなかのジェンダー問題
11. ジェンダーと暴力①
12. ジェンダーと暴力②
13. ジェンダーと表現①
14. ジェンダーと表現②
15. まとめ

<成績評価方法>

学期末試験および/あるいはレポートで評価する。

<教科書・参考文献>

授業中に指示する。

<受講に当たっての留意事項>

私語はくれぐれも慎んでほしい。出席のための出席は意味がない。自分が欠席した授業のなかで試験・レポートその他の指示が伝えられた場合、自分の責任で情報を収集すること。

<学習到達目標>

ジェンダー論の基礎概念・歴史的経緯を学ぶとともに、自分の生き方に関わる問題としての意識を獲得すること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	文書表現	2	前	小林 弘
21年度以前	基 礎					

選択

**<授業目的>**

文章表現とは、ある考えやテーマを文字で相手に的確に伝達する作業である。現代では電子メール、インターネットのホームページ、ブログなど、文章表現の場が驚くほど広がりを見せている。短く要点をまとめ、的確で分かりやすい文章がますます求められている。

講義では、文章の書き方や論文・実用文の具体的な約束事などを学習する。実際に文章を書く作業を最も重視し、文章表現の心構えと技術を学ぶ。

**<各回毎の授業内容>**

- ①講義のガイダンス
- ②分かりやすい文章とは
- ③原稿用紙の書き方の基礎
- ④文章の構成(1)5W1H
- ⑤文章の構成(2)起承転結
- ⑥取材(1)
- ⑦取材(2)
- ⑧事実のとらえ方と見方(1)
- ⑨事実のとらえ方と見方(2)
- ⑩インタビュー(1)
- ⑪インタビュー(2)
- ⑫レポート、ビジネス文書
- ⑬コラム、エッセー
- ⑭推敲の重要性
- ⑮インターネット時代の落とし穴
- ⑯レポート提出（まとめ）

**<成績評価方法>**

授業中に提出を求めた数回の作文（70％）と期末レポート（30％）による採点。

**<教科書・参考文献>**

新聞、テレビニュースには毎日接すること。参考文献は講義時に示す。

**<受講に当たっての留意事項>**

受講時は必ず400字詰め原稿用紙と2B以上の濃い鉛筆を用意すること。薄い字は厳禁。注意を受けても改めない者が毎年何人かいるが、単位を与えない場合があるので注意すること。

**<学習到達目標>**

的確で分かりやすい文章が書けるようになり、文章の目的に合った表現ができるようになること。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	2年	英語3A（表現英語1） X1・X2	1	前	イザベラ ガラオン 青木
21年度以前	基礎					

必修

<授業目的>

第1学年より積み上げてきた英語コミュニケーション能力の一層の向上を目指します。英語で意見交換をできる様に英語の表現力をたかめます。

<各回毎の授業内容>

1. Introduction to course. Welcome unit.
2. My interests
3. My interests
4. Descriptions
5. Descriptions
6. Test and other material
7. Rain or shine
8. Rain or shine
9. Life at home
10. Life at home
11. Test and other material
12. Health
13. Health
14. What's on TV?
15. What's on TV?
16. 試験

<成績評価方法>

成績評価内訳:平常点 (50%)、テスト (10%x2)、定期試験 (30%)

<教科書・参考文献>

Four Corners 2, Jack C. Richards, David Bohlke (Cambridge University Press)

参考文献:テキスト内容に関係する資料を適時配布する。欠席したものは、自己責任で資料をそろえること。

<受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

<学習到達目標>

昨年に習った英語をベースにして、英語の会話において、個人が意見を発信できる様になる事。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	2年	英語3A (表現英語1) Y1・Y2	1	前	マーク スーマ
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

このコースの目的は、読む、書く、話す、聞くことを通して英語を学ぶと同時に、基本的な文法を身につけることです。各レッスンは、コミュニケーションのための学習活動とクリティカルに思考する機会を数多く取り入れます。コース終了時には、基礎的な英語を正しく使い、ネイティブ・スピーカーの英語を理解できるようになることが望まれます。

<各回毎の授業内容>

1. Introduction - An Apartment
2. Things in the Kitchen
3. Meeting People
4. Sightseeing
5. A Wedding
6. Giving Addresses
7. Short Review Test
8. Going to the Movies
9. Travel and Leisure
10. Giving Directions
11. Likes and Dislikes
12. Shopping
13. Describing People
14. Habits
15. Review Week
16. Final Test

<成績評価方法>

- Mid-term Test (30%)
- Participation (20%)
- Notebook (15%)
- Final Test (35%)

<教科書・参考文献>

Focus on Grammar 1 (3rd Edition with CD) by Irene. E. Schoenberg and Jay Maurer. Pearson 2012.

<受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり私語をしたりするなど、授業に積極的に参加しない学生の評価は、非常に低くなります。また、毎週、ノートの記録をチェックし、15%の評価とします。

<学習到達目標>

日常生活において使用される英語表現を、正しい文法で数多く知り、理解できるようになること。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	英語3A（表現英語1） Z1・Z2	1	前	グレゴリー デイック
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

この授業では日常的な事柄に基づいて意見を交わすことを目的としています。英語でのコミュニケーションを高めるために読解力や表現力を高めます。

<各回毎の授業内容>

1. Orientation
2. Unit 1 : Communicating in English
3. Unit 2 : All kinds of people
4. Review units 1 & 2 + Full House episode 1
5. Unit 3 : Free time
6. Unit 4 : People
7. Review units 3 & 4 + Full House episode 2
8. Mid-term Test
9. Unit 5 : Money
10. Unit 6 : Travel and tourism
11. Review units 5 & 6 + Full House episode 3
12. Unit 7 : Food and drink
13. Junk food documentary: SUPER SIZE ME
14. Unit 8 : Entertainment
15. Review units 7 & 8 + Full House episode 4
16. 定期試験

<成績評価方法>

Attendance & Class Participation (50%)、Mid-term Test (25%)、定期試験 (25%)

<教科書・参考文献>

Let's Talk 1 by Leo Jones, CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS, ISBN: 978-0-521-69281-6

<受講に当たっての留意事項>

授業中の私語やクラス不参加、欠席などの行為は評価に影響します。

<学習到達目標>

英文の読解やネイティブスピードでのリスニングに重点を置き、個人の意見を英語で述べるができるようにします。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	2年	英語3B (TOEIC英語1) X1・X2	1	前	辻 照彦
21年度以前	基 礎					

必修

**<授業目的>**

TOEICテストは、英語によるコミュニケーション能力を評価する標準試験である。この授業では、TOEICテスト受験のための入門的演習を通して、グローバルなネットワーク社会で活躍するために欠かせない英語によるコミュニケーション能力、特に、リスニング力と速読能力の基礎を育成する。

**<各回毎の授業内容>**

1. Introduction (What is the TOEIC Test?)
2. Unit 1, Transportation and Information
3. Unit 1, Reading Part
4. Unit 2, Instructions and Explanations
5. Unit 2, Reading Part
6. Unit 3, Eating and Drinking
7. Unit 3, Reading Part
8. Unit 1-3, Review and Extra-Activity (小テスト)
9. Unit 4, Business Scene
10. Unit 4, Reading Part
11. Unit 5, Communication
12. Unit 5, Reading Part
13. Unit 6, Socializing
14. Unit 6, Reading Part
15. Unit 4-6, Review and Extra-Activity
16. 定期試験

**<成績評価方法>**

発表・課題等40%、定期試験60%。

**<教科書・参考文献>**

北山長貴、Start-up Course for the TOEIC Test (成美堂)

**<受講に当たっての留意事項>**

注意すべき事項については最初の授業の時に説明する。

**<学習到達目標>**

日常的な英会話を聞いて話のポイントを理解することができる。日常的な英文文書を読みポイントを理解することができる。ビジネス関係の基本的なボキャブラリーを習得する。

(関連する学習・教育到達目標:B)



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	英語3B（TOEIC英語1） Y1・Y2	1	前	秋 孝道
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

TOEICとはTest of English for International Communication の略称であり、このテストは英語によるコミュニケーション能力を評価するテストとして日本国内の多くの企業などでも採用されています。この授業では、TOEIC対策用テキストを用いて、TOEIC受験の準備をすると同時に、英語のリーディング能力を高める演習を行います。復習小テストを毎回2回（語彙小テストと文法小テスト）行います。

<各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス、TOEICの説明
- 2 語彙の問題
- 3 品詞の問題
- 4 一致の問題
- 5 時制の問題
- 6 仮定法の問題
- 7 動詞の問題
- 8 不定詞の問題
- 9 分詞の問題
- 10 関係詞の問題
- 11 接続詞の問題
- 12 名詞の問題
- 13 文章の流れの問題1
- 14 文章の流れの問題2
- 15 文章の流れの問題3
- 16 期末テストは行わない。

<成績評価方法>

小テストに基づき成績評価（100％）を行う。但し、授業の取り組みに問題がある場合には、合計で最大20％の減点を行う（特に問題がない場合には減点を行わない）。

<教科書・参考文献>

教科書 Tomoko Yabukoshi, Braven Smillie *Upward Reading for the TOEIC Test*  
金星堂（1,200円 税別）

<受講に当たっての留意事項>

テキスト、辞書、ノートを持参すること。

<学習到達目標>

TOEIC受験のための基礎的英語力を身につける。基礎的な英語のリーディング能力を身につける。

（関連する学習・教育到達目標：B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	英語3B（TOEIC英語1） Z1・Z2	1	前	本間多香子
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

TOEICテストは、英語によるコミュニケーション能力を測るテストとして現在幅広く活用されている。この授業ではTOEIC形式の問題を解くことにより、実際の試験を受験する準備をするとともに、リスニングの訓練や基本的な文法・語法・語彙の定着を図る。特にリスニング問題では話の内容を理解する能力を高め、リーディング問題では、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力としての英文読解力を身につける。

<各回毎の授業内容>

1. TOEIC 試験について
2. Chapter 1
3. Chapter 1
4. Chapter 2
5. Chapter 2
6. 小テスト, Chapter 3
7. Chapter 3,
9. Chapter 4
10. Chapter 5
11. 小テスト, Chapter 5
12. Chapter 5
13. Chapter 6
14. Chapter 6
15. 小テスト 復習等
16. 試験

<成績評価方法>

定期試験50% 授業中の小テスト30% 授業への取り組み状況等20%

<教科書・参考文献>

石井隆之他著 Complete Tactics for the TOEIC Test（成美堂）  
その他として、授業中に配布する資料

<受講に当たっての留意事項>

遅刻2回で欠席1回とする。欠席が3分の1を超えると試験を受ける資格を失う。  
2Unit終了ごとに小テストを行う。

<学習到達目標>

基本的な文法を理解し、応用できるようになる。簡単な英語での会話を理解できるようになる。

（関連する学習・教育到達目標:B）

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基礎	2年	英語3C (読む英語1) X1・X2	1	前	高橋正平 (情報システム)
21年度以前	基礎					

必修

<授業目的>

テキストは日米の社会、文化、教育、習慣、考え方の違いの理解を通して両国がいかにしてよりよい関係を築いていくかを論じたエッセイです。平易な英文を読み、英語の読解力の向上を目指す。テキストには読解用の英文と読解の助けとなる練習問題が含まれている。

<各回毎の授業内容>

- 第1週: Lesson 1 The Worry That Won't Go Away: Mad Cow Disease in Japan
- 第2週: 続き
- 第3週: Lesson 2 Sex Selection: A Dangerous Road to Toddle Down
- 第4週: 続き
- 第5週: Lesson 3 Japanese Researchers Find First New Vitamin in 55 Years
- 第6週: 続き
- 第7週: 中間試験
- 第8週: Lesson 4 To Take or Not to Take? The Merits and Demerits of Dietary Supplements
- 第9週: 続き
- 第10週: Lesson 5 Playing God? The Cloning of Extinct Species
- 第11週: 続き
- 第12週: Lesson 6 What is Koi Herpes Virus?
- 第13週: 続き
- 第14週: Lesson 7 'Integrative' Medicine: Combining Modern Science and Alternative Medicine
- 第15週: 続き
- 第16週: 定期試験

<成績評価方法>

中間試験 (40%)、定期試験 (40%)、出欠・授業態度 (20%) によって評価する。

<教科書・参考文献>

瀬谷幸男他: *What's Ahead-Exploring the Mysteries and Challenges of Science* (南雲堂)

<受講に当たっての留意事項>

毎回1レッスンを読み終える。授業は演習形式で行うので、受講者は予習が必要である。座席は指定とし、授業中の私語は厳禁である。場合によっては教室からの退去を命じることもあるので注意されたい。欠席が5回を越えると試験資格を失う。遅刻3回は1回の欠席とする。テキストは第2週までに必ず購入のこと。例年テキストを購入しない学生がいるが、購入しない場合は受講を取り消すことがあるので注意すること。

<学習到達目標>

平易な英文を読み、基礎的な英語の読解力の向上を目指し、マニュアル等の英文文書を読み、理解できるとともに、英語でネイティブの人と簡単な意見交換ができる能力を身につける。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	英語3C（読む英語1） Y1・Y2	1	前	大竹芳夫
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

日本とアメリカの生活、文化、教育、習慣、思考様式の共通点や相違点について取り上げる英語教科書を読み、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力としての英文の読解力を高める。あわせて、教科書の付属CDや、日常生活を場面ごとに取り上げるビデオ教材を活用しながらリスニング能力の向上も目指す。

<各回毎の授業内容>

1. オリエンテーション:教材の特徴・意義と使用方法, 授業の進め方, 評価方法などについて
2. リーディング用教材 (Physical Education) + ビデオ教材に基づく学習
3. リーディング用教材 (Sports Clubs) + ビデオ教材に基づく学習
4. リーディング用教材 (Cultural Differences) + ビデオ教材に基づく学習
5. リーディング用教材 (Haircuts) + ビデオ教材に基づく学習
6. リーディング用教材 (Music) + ビデオ教材に基づく学習
7. リーディング用教材 (Money) + ビデオ教材に基づく学習
8. 第2週から7週までのまとめ, 効果的な英語学習について
9. リーディング用教材 (Safety) + ビデオ教材に基づく学習
10. リーディング用教材 (Life Expectancy) + ビデオ教材に基づく学習
11. リーディング用教材 (The Metric System) + ビデオ教材に基づく学習
12. リーディング用教材 (Police) + ビデオ教材に基づく学習
13. リーディング用教材 (Seasons) + ビデオ教材に基づく学習
14. リーディング用教材 (TV Sports) + ビデオ教材に基づく学習
15. 第9週から14週までのまとめ, 今後の英語学習について
16. 定期試験

<成績評価方法>

発表内容 (10%)、小テスト (20%)、定期試験 (70%) により成績評価を行う。

<教科書・参考文献>

George Truscott et al.: *Eye on America and Japan*, 出版社:南雲堂, 1,800円+税

<受講に当たっての留意事項>

英和辞典（電子辞書も可）を授業時に持参すること。

<学習到達目標>

英語文章の内容を正確に読み解くことができると同時に、日英語話者の文化や発想の相違を理解することができる。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	2年	英語3C（読む英語1） Z1・Z2	1	前	高橋正平（情報システム）
21年度以前	基礎					

必修

<授業目的>

テキストはNews For You紙に掲載された世界のニュースを集録したものである。内容は政治、経済、社会、宗教等多岐にわたっている。平易な英文を読み、英語の読解力の向上を目指す。テキストには読解用の英文と読解の助けとなる練習問題が含まれている。

<各回毎の授業内容>

- 第1週:Unit 01 Why Are Gas Prices Going Up?
- 第2週:Unit 01 続き
- 第3週:Unit 02 In Japan, Chain of Events Leads to Disaster
- 第4週:Unit 02 続き
- 第5週:Unit 03 Airport Scanners Expose Concerns About Privacy
- 第6週:Unit 03 続き
- 第7週:Unit 04 Eunice Kennedy Shriver, Founder of Special Olympics, Dies
- 第8週:中間試験
- 第9週:Unit 04 続き
- 第10週:Unit 05 Young widow Adopts Twin Orphans from Haiti
- 第11週:Unit 05 続き
- 第12週:Unit 06 Study Finds People Who Multitask Are Often Bad at it
- 第13週:Unit 07 Search for Gold Poisons Children in Nigeria
- 第14週:Unit 08 Website Helps Match the Missing and the Dead
- 第15週:Unit 09 Math Genius May say No to \$ 1 Million
- 第16週:定期試験

<成績評価方法>

中間試験（40%）、定期試験（40%）、出欠・授業態度（20%）によって評価する。

<教科書・参考文献>

大月実他編: *News for You 2012/2013 Edition* (成美堂)

<受講に当たっての留意事項>

授業は演習形式で行うので、受講者は予習が必要である。座席は指定とし、授業中の私語は厳禁である。場合によっては教室からの退去を命じることもあるので注意されたい。欠席が5回越えると試験資格を失う。遅刻3回は1回の欠席とする。テキストは第2週までに必ず購入のこと。例年テキストを購入しない学生がいるが、購入しない場合は受講を取り消すことがあるので注意すること。

<学習到達目標>

平易な英文を読み、基礎的な英語の読解力の向上を目指し、マニュアル等の英文文書を読み、理解できるとともに、英語でネイティブの人と簡単な意見交換ができる能力を身につける。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	2 年	英語 3 再履修	1	前	高橋正平 (情報システム)
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

テキストは日本の世界遺産15箇所を紹介したものである。全国各地の世界遺産の歴史や背景が平易な英語で書かれている。平易な英文を読み、英語の読解力の向上を目指す。テキストには読解用の英文と読解の助けとなる練習問題が含まれている。

<各回毎の授業内容>

- 第1週: Lesson 1 Shiretoko (知床)
- 第2週: Lesson 1 続き
- 第3週: Lesson 2 Shiragami Sanchi (白神山)
- 第4週: Lesson 2 続き
- 第5週: Lesson 3 Nikko (日光)
- 第6週: Lesson 3 続き
- 第7週: 中間試験
- 第8週: Lesson 4 Historic Villages of Shirakawa-go and Gokayama (白川郷・五箇山の合掌造り集落)
- 第9週: Lesson 4 続き
- 第10週: Lesson 5 Kumano (熊野)
- 第11週: Lesson 5 続き
- 第12週: Lesson 6 Nara (奈良)
- 第13週: Lesson 6 続き
- 第14週: Lesson 7 The Horyuji Temple (法隆寺)
- 第15週: Lesson 7 続き
- 第16週: 定期試験

<成績評価方法>

中間試験 (40%)、定期試験 (40%)、出欠・授業態度 (20%) によって評価する。

<教科書・参考文献>

五十嵐昭人: *World Heritage in Japan* (南雲堂)

<受講に当たっての留意事項>

授業は演習形式で行うので、受講者は予習が必要である。座席は指定とし、授業中の私語は厳禁である。場合によっては教室からの退去を命じることもあるので注意されたい。欠席が5回を越えると試験資格を失う。遅刻3回は1回の欠席とする。テキストは第2週までに必ず購入のこと。例年テキストを購入しない学生がいるが、購入しない場合は受講を取り消すことがあるので注意すること。

<学習到達目標>

平易な英文を読み、基礎的な英語の読解力の向上を目指し、マニュアル等の英文文書を読み、理解できるとともに、英語でネイティブの人と簡単な意見交換ができる能力を身につける。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	英語3 再履修	1	前	秋 孝道
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

この授業では、英語の基本的な読解能力の向上を目的とします。科学の話題を扱った平易な英文を正確に読解する演習を行います。授業の復習テストを、その授業の終わりに毎回行います。

<各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス、授業の説明
- 2 太陽系1
- 3 太陽系2
- 4 日光1
- 5 日光2
- 6 食物・栄養1
- 7 食物・栄養2
- 8 燃料1
- 9 燃料2
- 10 ナノテクノロジー1
- 11 ナノテクノロジー2
- 12 フィットネス1
- 13 フィットネス2
- 14 酸性雨1
- 15 酸性雨2
- 16 期末テストは行わない。

<成績評価方法>

毎回のテストに基づき成績評価（100％）を行う。但し、授業の取り組みに問題がある場合には、合計で最大20％の減点を行う（特に問題がない場合には減点を行わない）。

<教科書・参考文献>

プリントを配付する。

<受講に当たっての留意事項>

プリント、辞書、ノートを持参し、2回目以降は、指定された場所に着席すること。

<学習到達目標>

科学の話題を扱った平易な英文を正確に読解する基礎的な英語力を身につける。

（関連する学習・教育到達目標：B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	フィットネス理論及び実習	1	前	藤瀬武彦（情報システム）
21年度以前	基 礎					

選択

#### <授業目的>

高校までの体育では主に運動の技能習得と実践を目的に行われてきており、体力的または形態的にトレーニング効果を体験するような授業はあまり行われていない。この授業では基礎体力の向上や身体づくり（ビルドアップやシェイプアップ）のための運動トレーニングと食事の方法を学ぶとともに、目的に応じたウエイトトレーニングやエアロビクトレーニングなどを実践・習得することが目的である。そして、前期終了までにトレーニング効果を実感していただきたい。

#### <各回毎の授業内容>

履修学生は、まず各個人の希望により「基礎体力向上」「シェイプアップ」「ビルドアップ」の3つのコースから1つを選択し、具体的な数値目標などを設定する。

- 1) 「基礎体力向上」……筋力・パワー系あるいは持久力・スタミナ系体力を向上させる。
- 2) 「シェイプアップ」……肥満解消のため余分な体脂肪を削ぎ落とし、必要な筋肉を付ける。
- 3) 「ビルドアップ」……痩せ解消のため筋肉を付けることによって体重を増やす。

1. ガイダンス …… 授業内容と評価方法、体力診断とコース選択

2～14. フィットネス理論とトレーニングの実践

- ① ワンポイントアドバイス（フィットネス理論）
- ② 準備運動・ストレッチ
- ③ 全身持久力養成やカロリー消費のための球技（バスケットボール）
- ④ 本運動としてのトレーニング
  - ・ウエイトトレーニング …… バーベル・ダンベル・マシンを使用する。
  - ・エアロビクトレーニング …… トレッドミルやエアロバイクを使用する。

15. 体力診断とまとめ

16. 試験（フィットネス理論とトレーニング効果に関する筆記試験）

#### <成績評価方法>

週2回のトレーニングの達成度（授業1回と自主トレ1回）とトレーニング効果を総合的に判断するとともに（60点）、筆記試験（40点）の合計100点満点で評価する。なお、筆記試験を受験しないと単位を付与できないので必ず受験すること。

#### <受講に当たっての留意事項>

適切なトレーニングプログラムを作成し、トレーニング効果を客観的に把握するために、体力診断として形態や基礎体力の測定を行うことがある。

#### <学習到達目標>

各個人の目的に応じたトレーニングプログラムを作成できるようにすること、またトレーニングを実践してその効果を習得・体験する。



# 3年基礎科目（前期）

社会調査  
倫理学  
キャリア開発2  
インターンシップ

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	3 年	社会調査	2	前	松尾瑞穂（情報文化）
21年度以前	基 礎					

#### 選択

#### <授業目的>

私たちは日々の生活において、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどから発信される様々な情報に取り囲まれています。また、情報の受け手であるだけでなく、ホームページやブログ、そして今日ではFacebookやツイッターなどのソーシャルメディアなどを通して、自らが情報の発信源となることも一般的になりつつあります。今日では、人文・社会科学分野だけでなく、メディアや企業活動にとっても、情報を適切に収集、分析・検討し、提示することが重要な課題となっており、その比重は今後ますます高まるでしょう。しかし、多種多様な情報を適切に取捨選択することは容易なことではありません。社会調査は、現象に対する問いを立て、なるべく「正しい」情報を提示することを目的とするものです。しかし、もちろん何が「正しい」かは、文脈や人にもよっています。本授業では、受講生が課題に取り組みながら基本的な社会調査の手法を習得することを目指します。

#### <各回毎の授業内容>

- 第1回 インTRODクシヨN:授業の進め方と概要説明
- 第2回 社会調査の歴史とその展開
- 第3回 社会調査の技法と調査倫理
- 第4回 データ・グラフの見方
- 第5回 世論調査の真偽—新聞に書いてあることはすべて正しいか？
- 第6回 写真・映像が示すもの—世界の切り取り方
- 第7回 観察実験
- 第8回 紀行エッセイに学ぶ地域の記述
- 第9回 民族誌を読む
- 第10回 調査計画書の作成法
- 第11回 フィールドワーク(1)聞き取り調査とは
- 第12回 フィールドワーク(2)ライフストーリーとは
- 第13回 フィールドワーク(3)参与観察とは
- 第14回 フィールドワークの成果と分析
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

#### <成績評価方法>

小課題（30％）およびレポート（70％）

#### <教科書・参考文献>

篠原清夫ほか2010『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』、弘文堂。  
 佐藤郁哉2008『質的データ分析法—原理・方法・実践』、新曜社。  
 その他、必要なプリント、資料は適宜配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

2～3回に一回程度の割合で課題が出されるため、受講生はこの課題を提出することが求められる。また、授業中にディスカッションや質問、ワークシートを用いた作業、模擬実習などを実施するため、受講生は積極的に授業に参加することが期待される。期末試験では、各自が設定したテーマに基づいてそれぞれ社会調査を実施し、報告書を提出してもらう。受け身型の講義とは少し異なるので、この点を念頭において受講すること。

#### <学習到達目標>

社会調査の概要と手順、方法に関する基礎内容を理解し、受講生が卒業論文・卒業研究等で必要な調査に活用できるようになる。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	3年	倫理学	2	前	阿部ふく子
21年度以前	基礎					

選択

**<授業目的>**

この講義では、伝統的な倫理思想に加え、応用倫理学のうち生命倫理・環境倫理という二つの分野をとりあげ、倫理学の基本的な問題関心・思考方法を通観します。「倫理」という漢語自体は、「なかま（倫）」の「ことわり（理）」という意味を表しています。共同体のなかに生きる人間の理について考えてゆく以上、受け身姿勢で授業に臨むのではなく、倫理的な諸問題を真摯に受けとめ、自らの考えを深め、他の人々の意見にも耳を傾けるという開かれた知的態度を身につけることが求められます。授業では随時アンケートを実施し、各人あるいはグループ単位で倫理的諸問題について主体的に考える過程を取り入れていきたいと思えます。

**<各回毎の授業内容>**

01. 基本概念①: 倫理（学）とは何か
02. 基本概念②: 義務論（カント）
03. 基本概念③: 功利主義（ベンサム、ミル、シンガー）
04. 生命倫理①: QOL倫理と SOL倫理
05. 生命倫理②: 安楽死問題
06. 生命倫理③: 出生前診断および障害新生児の治療停止問題
07. 生命倫理④: 脳死・臓器移植問題
08. 生命倫理⑤: 医療資源の配分問題
09. 生命倫理⑥: 優生思想とエンハンスメント
10. 環境倫理①: 環境倫理学の理念
11. 環境倫理②: 持続可能性概念と世代間倫理
12. 環境倫理③: 環境正義
13. 環境倫理④: 景観論
14. 環境倫理⑤: 動物倫理
15. まとめ
16. 定期試験

**<成績評価方法>**

各回の授業内容に関連する簡単なアンケート（30%）、定期試験（70%）による。  
 ※アンケートは提出回数ではなく内容で評価します。極端に出席日数が少ない学生、マナー違反が改善されない学生は成績評価の対象となりません。

**<教科書・参考文献>**

取り扱う分野が多岐にわたるため、毎回プリントを配布します。

**<受講に当たっての留意事項>**

授業プリントの他、図書館に配架されている「指定図書」などを積極的に利用して下さい。

**<学習到達目標>**

倫理学の基本的知識を習得するとともに、倫理的な思考と判断力を磨く。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	3年	キャリア開発2	1	前	就職指導委員長 他
21年度以前	基礎					

#### 選択

#### <授業目的>

1. 就職環境が非常に厳しい中で、「入りやすさ」や「選考対策」に終始せず、「卒業後を楽しみにできる、主体的な進路選択」に向けた準備をする。
2. ワークや文章による意見交換などを通じて、社会で活かせる自分の力や可能性を多面的にとらえる。同時に裏付けとなる経験の振り返りや将来像のイメージ作りを進め、「自分らしさ」の具体的な把握をめざす。
3. 演習やゲストスピーカーのスピーチ、視覚教材などを利用し、「客観的な視点による自己像や自らの考え・意見」について考察し、表現できるようにする。
4. 時事問題に取り組むことにより、社会のできごとへの興味や基礎的素養の醸成をめざす。
5. 県内外の企業等の採用・ビジネスの視点や先輩モデルの話、事例、データなどに触れ、雇用の現場で何が起きているのかを理解し、インターンシップ・学外実習への参加、および就職活動や進路選択に役立てる。

#### <各回毎の授業内容>

講師：外部からの招聘および本学教員

H24/04/05第1回 キャリアとキャリア開発（講座の流れ、ねらい、構成など）

04/12 第2回 学生から社会人へく新卒採用、就職の意味、さまざまな働き方

04/19 第3回 自分を活かす進路選択く（一般的な）自己理解の視点、採用選考の視点と実際

04/26 第4回 先輩モデルと採用担当者に聞く「採用と就職の実際」(採用担当者+卒業生のセット)

05/10 第5回 「ワークスタイルとワークルール」くワークライフバランス、働く人のルールの基礎

05/17 第6回 特別講義（テクスファーム加藤雅一）

05/24 第7回 新聞で学ぶ時事問題①社会+漢字の確認テスト

05/31 第8回 人とつながる、社会とつながるく情報活用とコミュニケーション（GWあり）

06/07 第9回 新聞で学ぶ時事問題②経済+漢字の確認テスト

06/14 第10回 特別講義

06/21 第11回 就職活動と卒業後に備えたプランニングく（適性を意識した）自己理解とマッチング、インターンシップ等の活かし方

06/28 第12回 モデルに聞く「学生生活と就職活動」く4年生の先輩をゲストに招いて

07/05 第13回 新聞で学ぶ時事問題③政治+漢字の確認テスト

07/12 第14回 特別講義

07/19 第15回 特別講義

※グループワークまたは、小レポートの作成を授業時間内で実施する。ゲスト教員などのミニ講義を適宜、取り入れ、視野の拡大や気づきの獲得を図る。

#### <成績評価方法>

- ・課題レポート（進路選択に向けた課題の発掘、計画策定、自己理解、モデルに学ぶ仕事と人生などのテーマから選択）点:30点、演習（毎回のワークシートおよびレポート（出欠状況含む）、合計12回）点:40点、漢字・時事問題演習30点

#### <教科書・参考文献>

教科書は特に定めない。講師の推薦する図書・資料を参考にすること。

#### <受講に当たっての留意事項>

1. 17年度以降入学生（4年次生）がこの講義の単位を取得した場合、その単位は卒業要件の単位に算入される。
2. この科目は本学の進路支援の基礎的な役割を占める。今後の就職ガイダンス・就職サポート（適性検査・就職模擬面接講座等）、進路選択に向けた意思決定を取り上げ、自らの人生の選択に有効に役立てるため、就職・進学にかかわらず、全員受講することが望ましい。
3. 履修にあたっては、事前にキャリア開発1を履修しておくことが望ましいが、要件ではない。授業の中で折りにふれ1の内容のポイントも紹介していく。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	3年	インターンシップ	1	前	情報文化教員
21年度以前	基礎					

選択

#### <授業目的>

「キャリア開発ガイダンス」や「キャリア開発」、その他の授業の中で習得した知識と二十年間、自分自身が積み上げてきた「自己能力」を企業の中で確かめることが出来る良い機会である。実際に企業の中に身を置き、各世代の人々とコミュニケーションを取りながら、社会人として必要な「能力」を確かめると共に、社会で通用する自己能力に気付き、足りない部分を自覚することで、今後の大学生活に活かしていくことを目的としている。この経験は、今後取り組む就職活動や卒業後の人生設計を考えるうえで非常に役立つものである。

#### <各回毎の授業内容>

就業体験は平均して一週間程度である。体験内容は受入先に応じて異なる。それゆえ、学内で学ぶ「キャリア開発2」の授業が重要になる。実習内容は、ソーシャル・エチケットやマナーおよび民間企業の一般的な組織・業務内容に関するものになる。受講学生は、受入機関について調査し、就業体験の内容と何を学んだかをレポートにまとめる。また就業体験中に作成する実習日誌の書き方もあわせて学ぶ。なお、インターンシップを受講するあたり、にいがたインターンシップ協議会やその他の研修に出席してもらうこともある。

就業体験を終えた後は、体験内容を参加者が相互に報告しあうワークショップを行う。また実習日誌を最終的に仕上げ、大学に提出する。その日誌は受入先機関の守秘事項チェックを受ける。指摘された部分があった場合、それを修正して再提出する。以上の後、参加学生が各自受入機関へ礼状を出して、授業が終了する。

#### <成績評価方法>

成績評価は、事前研修の出席状況、受入先企業の評価、実習日誌の内容の三点から総合的に判断する。なお、受入企業・団体数は限られており、希望者全員が履修できない場合がある。受入企業・団体が決まらなかった場合、履修登録そのものが取り消される（成績上の記録は何も残らない）。ただし、受入先機関が決まった後、事前研修において著しい問題が見られる場合、その段階でD評価がつけられることもある。さらに実習日誌を期日までに提出しなかった場合、特段の理由がないかぎりE評価とはせず、D評価とする。内容が（誤字脱字も含めて）一定水準以下の場合、同じくD評価となることがある。

#### <受講に当たっての留意事項>

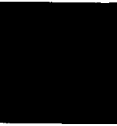
この授業科目は、3年前期のキャリア開発2の学習とインターンシップガイダンスを受講することを前提としているので、ぜひ、キャリア開発2を受講してもらいたい。受入企業・団体は、大学が指定する企業とにいがたインターンシップ推進協議会等の会員企業から選択する。実習学生を選出（マッチング）する際は、希望を確認し、レポートをもとに学内で面接をして決定する。

過去の実習日誌はキャリア支援課で随時閲覧できる。まずは先輩の体験に目を通して見るように。受講に当たって迷いがある場合、ぜひ遠慮せずに、担当の教員もしくはキャリア支援課職員に相談してもらいたい。

共通科目



# 1年共通科目（前期）



地域研究概論  
アジアと日本  
日本政治論  
国際研究概論  
国際交流インストラクター演習1  
情報システム  
コンピュータシステム  
人間情報システム  
情報処理演習1

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1 年	地域研究概論	2	前	コーディネーター 小山田紀子（情報文化）
21年度以前	共 通					

情報文化学科必修、情報システム学科選択

<授業目的>

情報文化学科の1年生の皆さんは、1年後期から、ロシア、中国、韓国、アメリカのうち1つの地域を選択し、その地域の言語を中心に歴史、文化、社会、政治経済等について学ぶこととなります。この授業はその準備として、地域研究というものの方論的性格と、一通り各地域についての基礎的知識を学び、皆さんが自分の専門地域を選択する際の判断材料を提供することを目的とします。

<各回毎の授業内容>

1. イントロダクション: 地域研究入門（小山田紀子）
2. ロシアの地理と歴史（その1）（神長英輔）
3. ロシアの歴史（その2）（神長英輔）
4. ロシアの文化と日露関係（神長英輔）
5. 中国の概況—国土・自然・人口・民族—（區建英）
6. 中国語という言語（區建英）
7. 地域研究における中国（區建英）
8. 韓国・北朝鮮の現代事情（申銀珠）
9. 日韓文化の比較（申銀珠）
10. 韓国語とは（申銀珠）
11. アメリカ社会の歴史的構成（越智敏夫）
12. アメリカの経済（安藤潤）
13. アメリカ文化（矢口裕子）
14. 地域研究の総括と地域言語選択について（小山田紀子）
15. まとめ（小山田紀子）

<成績評価方法>

各地域担当者が各2問出題し、その全問あるいは一部を選択して（どちらになるかは未定）解答する。おそらく全問とも論述式。

<教科書・参考文献>

各地域担当者が授業中に指示する。

<受講に当たっての留意事項>

大人数の授業になるので、私語はくれぐれも慎むこと。

<学習到達目標>

地域研究の分析視点を獲得し、各地域の基礎的知識を得ること。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1年	アジアと日本	2	前	吉澤文寿・小林元裕 高橋正樹
21年度以前	共 通					

選択

**<授業目的>**

この講義は日本の近隣地域、すなわち台湾、朝鮮、中国、さらには東南アジアに対する侵略の歴史とそれをめぐる今日の議論を考察し、日本と近隣諸国との建設的な将来を構想することを目的とする。

**<各回毎の授業内容>**

1. 講義の概要
2. 朝鮮と日本(1)
3. 朝鮮と日本(2)
4. 朝鮮と日本(3)
5. 朝鮮と日本(4)
6. 中国と日本(1)
7. 中国と日本(2)
8. 中国と日本(3)
9. 中国と日本(4)
10. 中国と日本(5)
11. 東南アジアと日本(1)
12. 東南アジアと日本(2)
13. 東南アジアと日本(3)
14. 東南アジアと日本(4)
15. 沖縄と日本（やまと）
16. 定期試験

「朝鮮と日本」は吉澤、「中国と日本」は小林、「東南アジアと日本」及び「沖縄と日本（やまと）」は高橋が担当する。

**<成績評価方法>**

定期試験及びレポートによって成績評価をする。

**<教科書・参考文献>**

小林英夫『日本のアジア侵略』山川出版社、2001年、729円＋税。

**<受講に当たっての留意事項>**

受講にあたり、当該の講義内容を予習することを勧める。学科を問わず、受講を勧める。

**<学習到達目標>**

講義内容の理解もさることながら、私たち日本人々にとって「アジア」とは何か、そもそも日本は「アジア」ではないのか—日本のアジア侵略の歴史に関連する今日の議論を学ぶことにより、上記の問いに対する答えを見つけ出すヒントが得られることを期待したい。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1 年	日本政治論	2	前	椎橋勝信
21年度以前	共 通					

#### 選択

#### <授業目的>

安倍晋三、福田康夫、麻生太郎、鳩山由紀夫、菅直人の歴代5内閣の寿命はおよそ1年。諸外国と比べて極端に短い。国際的な首脳会議で日本のリーダーはいつも新人。政権を賭けた大事業は短期間でできるものではない。超短命のマイナス面は計り知れない。

短命続きの原因を分析しながら「劣化が激しい」と言われる政党政治の現状に迫りたい。1973年から、政治記者として権力闘争の現場近くで政権交代を見続けて来た講師は、ここに日本政治の特質が凝縮されていると見る。明治以降の政党政治史から見てみたい。

#### <各回毎の授業内容>

##### 1. 政権のアキレスけん、参院

- ①「アベ・シェイエスの予言」--- 両院で多数派を取れる政党がいなくなり、衆参ねじれが常態化
- ②「左翼勢力が衆院を占めた時のために」--- なぜ参院はできたか、誕生の秘密。憲法制定過程と明治憲法の尾を残す新憲法。
- ③「泣く子と参院には勝てぬ」--- 政権は参院で行き詰まる。「嫌がらせ」の応酬。「自社対立」再現に見る思考停止政治。

##### 2. 小選挙区制の利点と弊害

- ①「衆院議員を辞めて衆院議員になる『怪』」--- 衆院議員に松・竹・梅の格差あり。世にも不思議な重複立候補・復活当選
- ②「国益より自分の選挙」--- 1か月前選んだ党首・首相に「辞める」。
- ③「無責任、気紛れ無党派層」--- 内閣の帰趨を制する無党派層。有権者の政治意識は、結果責任より説明責任、政治の透明性を求めるのだが、選挙のカギを握る無党派層。
- ④「俳諧する妖怪」--- 90年代連立政治の進行とともに急増した新無党派層は「政治に関心があるからこそ、支持する政党がない」

##### 3. 官僚主導 vs 政治主導

- ①「1年で元の黙阿弥」政治主導--- 自ら引っ込めた政治主導確立法案。
- ②「マニフェストも『どこ吹く風』」と化した背景にあるもの。マニフェストになかった消費税率引き上げ浮上のカラクリ。
- ③「都合悪ければ首相のクビさえふっ飛ばす?」--- 安倍晋三首相退陣に役所の影。1日で引っ込めた細川護熙内閣の福祉目的税。

##### 4. 連立政治19年。未だ成熟せず

- ①「着せ替え人形で政権の中心に」--- 94年、前年野に下った自民党は1年もたたずして政権に復帰、以来相手構わず（政策にこだわらず）、政権にいることを唯一の目的として連立政権を組む。
- ②「今オレはどの政党かと秘書に聞き」--- 非自民政権が出来れば、自民党から離れ、自民党が復権すれば自民党に戻る。主義主張より利益の「寄らば大樹」は続く。
- ③「『水と油』融合せず」--- 「鳩管新党」に「小沢合流」。民主党はなぜ生まれたか。民主党のルーツを明らかにする。

##### 5. 小沢問題

- ①「小・鳩そろって"政治とカネ"で辞任」--- 資金管理団体「陸山会」の土地取得問題と強制起訴。そして「スポンサーはママ」。3年連続税収より借金が多い破たんした日本の財政。でも「消費税率引き上げ反対」とは。
- ②「キングよりメーカー」--- 「首相より"閥将軍"として首相をリモコンした方が政治生命は続く」。まだ残る「数=派閥=カネ」の論理

#### <成績評価方法>

最終回に講義内容の理解度を把握する試験を実施する。

#### <教科書・参考文献>

「参議院とは何か1947～2010」（竹中治堅、2010年中公叢書）、「日本政治論」（五十嵐暁郎、2010年岩波書店）、「論憲の時代」（2003年、日本評論社）、「自治体の構想 第5巻 自治」（2002年、岩波書店）、「高島通敏集 第3巻 現代日本の選挙」（2009年、岩波書店）

#### <受講に当たっての留意事項>

①政治に向かい合う原点は日々の生活、政治の動き。それをどう評価するか、最終的には政治はどうあるべきかを知ることだと考えています。講義は日々の政治の動きとリンクしていますので、新聞の政治面に必ず目を通すように②講義内容のレジュメ・メモを用意します。これをテキストに講義は進みます。

#### <学習到達目標>

主権者として政治に参加する知識、判断能力を養うこと。自分たちの将来の「負担と給付」（税金、各種保険料 vs 年金など福祉全般、教育）は政治が決めます。有権者が常に政治をチェックしなければ、政治は政党・政治家たちの内輪のものになって国民から離れかねません。政治を学ぶことは、自分たちの将来を守る、あるいは飛躍するためです。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1 年	国際研究概論	2	前	高橋正樹（情報文化）
21年度以前	共 通					

選択

**<授業目的>**

この授業の目的は、世界の見方についての基礎的な枠組を具体的な問題に関連付けながら考察して行くことです。世界は国家同士が軍事対立しているのか、あるいは企業による国境を越えた経済活動によって世界がひとつになったのか、さらには民間の国際援助団体（NGO）が国境を越えて自由に活動しているのか。実際の世界はこれらすべての側面がありますが、人によっていずれを重視するかは異なります。その相異はどのような考え方の違いから生じるのかを授業を通じて考えて行きましょう。学生が理解しやすいように、時事的な国際問題を絡ませながら授業を進めたいと考えています。また、この授業はこれから4年間、皆さんが学ぶ国際的な諸科目についての道案内的な役割をもちます。

**<各回毎の授業内容>**

- 1～2. 世界の見方。自分の先入観を点検しよう。
- 3～6. 主権国家間の外交戦略関係として世界を理解する見方を考察します。これは、「現実主義」的国際政治理論といわれています。
- 7～10. 世界をとくに経済的相互依存を重視し諸国家間の協調関係に注目する「リベラリズム論」を考察します。
- 11～14. 世界を不平等な関係として理解します。この考えはリベラリズム論のように相互依存性や協調性は重視せず、むしろそこにある格差や不平等性に注目します。最近のグローバルイゼーションにもふれつつ考察します。
15. 以上の見方を参考にして、学生自身の世界像を点検します。

**<成績評価方法>**

原則として、授業への全出席が最低条件になります。さらに、中間テスト・学期末テストによって評価します。

**<教科書・参考文献>**

毎回配布するレジユメに掲載してあります。

**<受講に当たっての留意事項>**

学生は毎日、新聞を読み、テレビの報道・ドキュメンタリー番組を観てもらいます。

**<学習到達目標>**

新聞やニュース番組によって国際的な事象を知り、その背景を自分なりに分析できること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1 年	国際交流インストラクター演習1	2	前	佐々木寛・神長英輔ほか
21年度以前	共 通					

選択

<授業目的>

21世紀に要求されるのは、他者と共に、臨機応変に創造的な活動を展開することができる、総合的な人間力である。単に前例を倣い、知識や指示を一方向的に受容・伝達するだけの生き方や学習方法は、あらゆる分野で行き詰まりを見せている。本演習では「ワークショップ」および「ファシリテーター」等の新しい手法を用い、参加者が実際に身体を動かしながら、自ら主体的に学ぶことを第一義とする。本演習を経験することで、さまざまなく他者>の中で、さまざまな議題やテーマを柔軟に「コーディネート」する能力や、民主的なリーダーシップを発揮する真の知的・社会的能力を養うことができる。演習1では、たとえば「世界の現実」「世界の不平等」「異文化理解」などの3つの大きなテーマに即して、国際理解を深める。演習の合格者は、新潟県国際交流協会の認証を得たのち、同年度の9月と2月に県内の小中学校・高等学校でワークショップを実践することになる。

<各回毎の授業内容>

1. ガイダンス（概要説明、年間計画表・自己紹介シート配布、課題レポート説明）
2. 自己紹介アイスブレイキング・講義（「ワークショップの意味」）
3. 学外講師による講義（「世界の現実」）
4. 学外講師による講義（「世界の不平等」）
5. 学外講師による講義（「異文化理解」）
6. 学外講師によるワークショップ（「身体とアクティビティ」）  
 ※学外講師については、順序が変更になることもある。  
 ※このワークショップは特別に土曜日になる可能性があるので注意すること。
7. レポートテーマによるグループ分け；ワークショップ作成法の説明
8. アイスブレイキング事例集紹介；経験者模擬ワークショップ
9. 学生による模擬ワークショップ準備
10. 学生による模擬ワークショップ披露・評価1
11. 学生による模擬ワークショップ披露・評価2
12. 学生による模擬ワークショップ披露・評価3
13. 学生による模擬ワークショップ披露・評価4
14. 学生による模擬ワークショップ披露・評価5
15. まとめ、問題点の確認

<成績評価方法>

基本的に出席回数と、授業参加態度による。参加者が発表するワークショップも評価の対象とする。

<教科書・参考文献>

ロバート・チェンバース『参加型ワークショップ入門』明石書店 2004年  
 ちよんせいこ『人やまちが元気になるファシリテーター入門講座』解放出版社 2007年

<受講に当たっての留意事項>

この科目は、単に授業に出席するだけでなく、その準備のために多くのエネルギーを要する。地域社会に成果を示すため、本学を代表する覚悟と自覚が必要である。

<学習到達目標>

基本的に、自分ひとりでも国際理解に関するワークショップを運営展開できる能力を身につけること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1 年	情報システム	2	前	小林満男（情報システム）
21年度以前	共 通					

情報文化学科選択、情報システム学科必修

<授業目的>

情報システムを理解するうえで必要な基本的考え方と基本技術、応用分野について解説し、情報システムについて深く学ぶための導入とする。情報システムとは、情報を収集し、加工、分析、蓄積し、活用する仕組みのことである。われわれの生活に身近な事例を取り上げて、情報システムの開発者、利用者、サービス提供者それぞれの立場から、情報システムについて考える。特に、社会や企業など人間活動とのかかわりを重視し、情報システムが必ずしもコンピュータ中心のシステムではないことを認識し、情報システムを考えるときには広い視野に立ったものの見方が必要であることを学ぶ。

<各回毎の授業内容>

- |    |                           |  |
|----|---------------------------|--|
| 1  | 情報システムとは                  | 情報、情報処理、情報システム、情報化社会                             |
| 2  | 情報システムとコンピュータ             | 利用目的、利用形態、システムの信頼性                               |
| 3  | 社会基盤としての情報システム            | 社会基盤、安全への対策と整備、危機管理                              |
| 4  | 生活基盤としての情報システム            | 生活の中の情報システム、ユビキタス、[事例]                           |
| 5  | 行政と情報システム                 | IT基本法、電子行政システム、電子認証システム                          |
| 6  | ビジネス戦略と情報システム             | 小売業の情報システム、製品への組込みシステム                           |
| 7  | ネットビジネスと情報システム            | ネットビジネスの現状、ビジネスモデル（レポート課題①）                      |
| 8  | 顧客情報と情報システム               | 顧客情報管理システム、CTI、トレーサビリティ                          |
| 9  | 電子商取引と情報システム              | 電子商取引の形態と発展、特徴と問題点                               |
| 10 | 組織と情報システム                 | 統合業務システム、ナレッジマネジメント                              |
| 11 | 情報の共有と検索の仕組み              | 情報の共有、情報検索の仕組み                                   |
| 12 | 情報システムの新たな展開              | 生活環境と情報システム、文化財と著作権、新たな展開                        |
| 13 | 情報システムと倫理                 | 知的財産、不法行為、利用者の倫理（レポート課題②）                        |
| 14 | 情報システムの開発                 | システム企画、分析、設計、製造、テスト、運用                           |
| 15 | システムエンジニアの役割<br>と育成カリキュラム | システムエンジニア、プログラマ、プロジェクト管理<br>情報システム学科のカリキュラム、人材育成 |
| 16 | 期末試験                      |  |

<成績評価方法>

- ・情報システム学の体系と情報システムを取り巻く環境についての理解度を、期中レポート（20%）と期末試験（80%）で評価する。期中レポート未提出、又は期末試験を受験しない場合は不合格とする。

<教科書・参考文献>

- ・教科書：神沼靖子編著「情報システム基礎」 オーム社 2625円
- ・参考書：浦昭二（他）編「情報システム学へのいざない[改訂版]」 培風館 2730円

<学習到達目標>

- ・情報システムを、人間活動を含む社会的システムであると捉える情報システム学の体系を理解するとともに、情報化社会の中でどのように情報システムと関わっていくべきかを考えることができるようになる。（50%）
- ・情報システムのさまざまな事例を理解し、説明できるようになる。（30%）
- ・情報システム学科カリキュラムの授業科目間の関連と意味付けが理解できるようになり、専門科目の履修選択に役立てることができるようになる。（20%）

（関連する学習・教育到達目標：E）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1 年	コンピュータシステム	2	前	石川 洋（情報システム）
21年度以前	共 通					

情報文化学科選択、情報システム学科必修

**<授業目的>**

コンピュータシステムを理解するために、コンピュータ全体とその構成要素について学習する。ハードウェアに重点を置き、コンピュータ上で使う情報の表現、入出力装置、主記憶、演算、制御などの基本装置を学習する。主に基本情報技術者試験の午前に出題される内容を学習する。

**<各回毎の授業内容>**

- 1 データ表現 2進数
- 2 データ表現 2進数から10進数、16進数への変換 1
- 3 データ表現 2進数から10進数、16進数への変換 2
- 4 データ表現 浮動小数点数、文字表現（レポート課題1）
- 5 情報と論理、情報素子
- 6 プロセッサアーキテクチャ
- 7 制御装置の動作原理、レジスタ
- 8 演算の仕組み、演算回路
- 9 メモリアーキテクチャ
- 10 補助記憶装置1
- 11 補助記憶装置2
- 12 入出力アーキテクチャと装置
- 13 コンピュータの種類とアーキテクチャの特徴（レポート課題2）
- 14 オペレーティングシステムとその種類（レポート課題3）
- 15 言語処理系、マルチメディアとは、マルチメディア応用システム
- 16 定期試験

**<成績評価方法>**

- ・成績は期末試験（70%）と自己学習によるレポート課題（30%）により評価する。
- ・試験では講義に沿った問題を出題する。持ち込みは不可とする。

**<教科書・参考文献>**

- ・教科書 基本情報技術者テキスト No.1 コンピュータシステム  
日本情報処理開発協会監修、増進堂（2012）
- ・参考文献 随時紹介する。

**<受講に当たっての留意事項>**

- ・情報処理技術者試験（基本情報技術者やITパスポート）をめざす学生には有意義である。

**<学習到達目標>**

- ・コンピュータ内部のデータ表現やデータ操作を理解するために、基数変換、命題論理、論理演算について学習する（試験20%、レポート10%）。
- ・コンピュータの五大装置を中心に、それぞれの装置の仕組みや役割について理解する（試験30%、レポート10%）。
- ・オペレーティングシステムの仕組みと基本的な機能を理解する（試験20%、レポート10%）。

（関連する学習・教育到達目標:E）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1 年	人間情報システム	2	前	上西園武良（情報システム）
21年度以前	共 通					

情報文化学科選択、情報システム学科必修

**<授業目的>**

人間を入力系・情報処理系・出力系を備えた「情報システム」として捉えることができる。まず、入力系としての感覚機能を外部情報センサーとして捉え、その構造・特性を数理的に解説する。次に、情報処理系としての脳神経系を概説し、さらに、出力系としての筋肉の構造・特性を概説する。講義の位置づけとしては、「人間情報工学1」へ進むための基礎として人間の生物学的特性を習得する講義とする。

**<各回毎の授業内容>**

1. 情報システムとしての人間の概要
2. 入力系(1)感覚の種類、数学的補足①指数
3. 入力系(2)視覚①
4. 入力系(3)視覚②、数学的補足②三角法
5. 入力系(4)視覚③
6. 入力系(5)視覚④
7. 入力系(6)聴覚
8. 入力系(7)その他の感覚
9. 入力系(8)感覚の一般的性質
10. 情報処理系(1)脳神経系①、数学的補足③対数
11. 情報処理系(2)脳神経系②
12. 出力系(1)筋肉
13. 出力系(2)心臓の制御
14. 人間情報システムへの影響因子
15. まとめ
16. 定期試験

**<成績評価方法>**

- ・ 小テスト3回（各10点、計30点）と期末試験（70点）の合計（100点）で評価する。
- ・ 3回の小テストのうち少なくとも1回は受験していることを期末試験の受験資格とする（0回の人を受験資格なし）。
- ・ 期末試験は「電卓（通信機能なし）」以外は持ち込み不可（小テストは持ち込み可）。

**<教科書・参考文献>**

特定の教科書は使用しない。

**<受講に当たっての留意事項>**

毎回、数値計算を行うので平方根（ $\sqrt{\quad}$ ）計算機能のある電卓を持参すること。

**<学習到達目標>**

情報システムとしての人間のしくみ・特性を数理的に説明できる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1 年	情報処理演習 1	2	前	澤口晋一・山本瑞恵 佐藤徳子・谷賢太郎
21年度以前	共 通					

情報文化学科必修

**<授業目的>**

本学情報センターの使用環境を理解し、コンピューターの基本的な知識と技術の習得を目的としています。具体的には、インターネット、メール、ワードプロセッサ（Word）、表計算（Excel）、プレゼンテーション（Power point）、ウェブページ作成などコンピューターの活用技術を習得します。なお、本演習では、最終的にMicrosoft Office Specialist試験の合格を目指すので、授業内容もそれを視野にいれたものとなります。

**<各回毎の授業内容>**

クラスにより内容、進度は異なりますので、下記内容は一応の目安としてください。

1. ガイダンス
2. 統一テストとアンケート
3. Wordの活用①
4. Wordの活用②
5. Wordの活用③
6. Wordの活用④
7. Excelの活用①
8. Excelの活用②
9. Excelの活用③
10. Excelの活用④
11. 複合文書（文書、図表、画像等）の作成
12. Power pointの活用①
13. Power pointの活用②
14. ウェブページの作成①
15. ウェブページの作成②

**<成績評価方法>**

小レポート、試験により評価する。

**<教科書・参考文献>**

- ・『情報システムガイド』
- ・MCAS攻略問題集（Word,Excel）

**<受講に当たっての留意事項>**

- ・情報センターの利用規則を守ること
- ・クラスはタイピング試験により編成します。

**<学習到達目標>**

- ・本学の情報センターの使用環境を十分に理解し、ルールに沿った演習室の利用ができる。
- ・コンピューターにおける基本的な知識と技術を習得し、活利用できる。



# 2年共通科目（前期）

異文化理解  
平和学  
情報検索  
マーケティング

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	2年	異文化理解	2	前	小山田紀子（情報文化）
21年度以前	共 通					

選択

**<授業目的>**

いま日本では「ヒト、モノ、カネ、情報」の国境を越えた往来が活発に行われ、国際化が急速に進んでいる。この国際化の波は私たちの生活にさまざまな影響を与えている。われわれの身のまわりでも外国人の姿が目立つようになったし、また私たちが海外に出て行くチャンス—海外旅行、留学、ビジネスなど—も増えてきている。そしてそれは多かれ少なかれわれわれに異文化接触の機会を提供することになる。このような国際化の時代にあって、「異文化理解」の必要性が声高に唱えられるようになってきたのだといえよう。しかし、異文化への理解というと、とかくそれ自体がよいことであるようなニュアンスがあるが過去には植民地支配のための異文化理解もあったし、市場獲得を目的にした異文化理解もありうるわけで、そう考えると、何のためのどのような異文化理解かが問われなければならないであろう。また、異文化というと何も国際間のことだけではなくて、国内の異文化もあるわけで、国内の文化を単一的なものとして捉える感覚が、異なった文化の拒否や排除につながっていくケースも見られるのである。

本講義では、私の海外生活の経験を踏まえて、異文化接触の諸相をさまざまな事例から紹介していきたい。ヨーロッパにおける移民問題、日本における在日韓国朝鮮人問題や外国人労働者問題、国際交流や教育の国際化がもたらす問題、あるいは個人のレベルでは国際結婚というテーマもあるであろう。さまざまな角度から異文化理解の問題を考えていきたい。さらに国際化時代から地球時代へと移り変わりつつある今日、われわれは異文化理解を通して、自分の国の利益だけにとらわれずより広い普遍的な発想を持つ地球市民としての生き方が求められているといえよう。

**<各回毎の授業内容>**

- |                            |                     |
|----------------------------|---------------------|
| 1. 序論—私の異文化体験              | 9. 日本の外国人労働者問題(3)   |
| 2. 異文化接触の諸相—ヨーロッパの移民問題（総論） | 10. 国際社会での活動        |
| 3. " (1)フランスの移民問題          | 11. 「異文化理解」の試み      |
| 4. " (2)ドイツの移民問題           | 12. 自己表現力をつける       |
| 5. " (3)イギリスの移民問題          | 13. 主体的に学ぶ          |
| 6. ヨーロッパ市民の誕生              | 14. 行動する            |
| 7. 日本の外国人労働者問題(1)          | 15. まとめ—地球市民としての生き方 |
| 8. 日本の外国人労働者問題(2)          |                     |

**<成績評価方法>**

レポート・試験・出席状況

**<教科書・参考文献>**

教科書 渡部淳『国際感覚ってなんだろ〜』岩波ジュニア新書、2004年

参考書は授業時間中、適宜指示する。

**<受講に当たっての留意事項>**

授業への出席を重視します。

**<学習到達目標>**

2年次後期の海外留学や今後の異文化接触到に機会の役立つ視点を獲得すること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	共 通	2年	平和学	2	前	佐々木寛 (情報文化)
21年度以前	共 通					

選択

#### <授業目的>

平和学は「ジェノサイド」や「世界戦争」といった、20世紀の暴力をめぐるさまざまな人間の経験から生成し、展開を遂げてきた学問運動である。それゆえ平和学は、一貫して、既存の社会構造や世界秩序を批判的に見つめ、その代案（オルタナティブ）を模索しつづけてきた。そしてまた、既存の政治学・社会学・経済学などの社会科学のみならず、時には自然科学をも横断した包括的な認識枠組みから問題の核心に肉迫し、むしろ既存の知識体系自体に重大なインパクトを与えてきた。講義の前半では、戦争と平和、あるいは暴力の問題そのものに関する知の蓄積を広く「平和学」の中に位置づけ、それら一連の思想や理念、理論などを、それらが生成してくる歴史的な背景とリンクさせながらふりかえってみたい。さらに後半では、現在の「グローバル化」にもなう新しい問題群が平和学につきつける挑戦の意味を明らかにしたい。平和学がこれら問題群といかに格闘してゆくのか、またなぜ平和学という広い枠組みでなければこれらの問題に対応できないのか、つまり平和学の<批判的構想力>を今後どのように鍛え上げてゆくべきなのかについて、共に考えてみたい。

#### <各回毎の授業内容>

新鮮な題材を多く取り入れたいため細目は限定しないが、以下の内容には触れる予定である。

1. 「平和」とは何か —— 平和学前史 [3回]
2. 平和学の生成 —— 20世紀の時代経験Ⅰ (ジェノサイド) [2回]
3. 平和学の展開 —— 20世紀の時代経験Ⅱ (構造的暴力) [2回]
4. 世界秩序の構造変動と平和学の新地平 [2回]
5. 新世紀の平和学 —— 21世紀「平和秩序」形成のために [2回]
6. 日本の平和主義の課題と平和学 [1回]
7. 新しい「文明」を求めて [2回]

※+1回分は、招聘講師による講演に充てる。

#### <成績評価方法>

しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立てるだけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績によりすべての評価を決定し、出席も重視しないが、このコメントカードの内容は成績に加味する。また、試験は、個別的な知識よりはそれをもとにした思考力（学期中にどれだけ考えたか）を重視した問題を出題する。

#### <教科書・参考文献>

教科書 高柳先男『戦争を知るための平和学入門』（ちくま書房）

AERA Mook『平和学がわかる』（朝日新聞社）

参考書は、授業中、それぞれのサブテーマに即して随時指定する。必読参考文献の一例として、高島通敏『平和研究講義』（岩波書店）、日本平和学会編『平和研究第26号——新世紀の平和研究』（早稲田大学出版部）、君島東彦編『平和学を学ぶ人のために』（世界思想社）、岡本三夫・横山正樹編『平和学のアジェンダ』（法律文化社）、J.ガルトゥング『構造的暴力と平和』（中央大学出版部）、U.ベック『危険社会』（法政大学出版局）、P.ハースト『戦争と権力』（岩波書店）などを挙げておく。

#### <受講に当たっての留意事項>

平和学は、いわゆる「文系」「理系」の区分をこえた講義科目である。「共通科目」である理由もそこにある。

#### <学習到達目標>

平和学のアジェンダは常に展開するのであり、参加者は最終的には自分なりの「平和学」を構築してほしい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	共 通	2年	情報検索	2	前	高木義和 (情報システム)
21年度以前	共 通					

情報文化学科選択、情報システム学科必修

#### <授業目的>

学問や社会活動を行う場合、既に存在する情報を活用して行動することにより効率良く目標や目的に到達することができる。情報検索の目的は、過去の情報を収集し、入手した情報を整理・加工・分析することにより、知識を深めるだけでなく、実現可能性の高い実行計画を作成したり、的確な意思決定を可能にしたりすることである。授業では日常使用しているWeb検索エンジンと、実際に社会で使用されている有料データベースを使用し、論理式を使って情報検索を行う。検索方法を学ぶだけでなく、新聞記事(朝日新聞DNA、日経テレコン21)、雑誌記事・学術論文(日経BP, EBSCOhost)情報など実際に社会に流通している情報の収集/選択/加工/分析を行うことにより情報の活用能力を習得する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 情報検索の概要
- 2 検索主題-新聞記事とキーワード
- 3 検索課題の設定
- 4 論理演算と検索式
- 5 Web情報の検索 ① 日本語 Web情報の検索
- 6 ② 英語 Web情報の検索
- 7 図書・雑誌記事情報の検索 ① 雑誌記事情報検索(日外WEB)
- 8 ② 図書情報検索
- 9 情報収集と情報の利用
- 10 新聞記事情報の検索 ① 朝日新聞記事検索、日経新聞記事検索
- 11 ② 地方紙の記事検索、新聞記事情報と時系列変化
- 12 複合情報検索による体系的な情報収集(グループ分け、課題の決定)
- 13 複合情報検索による体系的な情報収集(EBSCOHostを使用した情報検索)
- 14 複合情報検索による体系的な情報収集(内容確認)
- 15 情報検索に関する重要な視点と学内におけるDBの利用

#### <成績評価方法>

検索主題とキーワード、インターネット情報の検索、新聞記事情報の検索、図書・雑誌記事情報の検索、世界の情報検索の、計5つのレポート(80%)と定期試験(20%)により評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書を配布する

#### <受講に当たっての留意事項>

この授業で学ぶ内容を理解できれば個人の情報活用能力が大きく向上することが期待できます。有料のデータベースを使用するため情報およびDBの著作権に注意を払ってください。指示に従わないレポートは提出されても評価しない場合があります。受講者が240名を越す場合受講者数を制限する場合があります。

#### <学習到達目標>

検索主題をキーワードで表現できるようになる20%

インターネットWeb情報の特性を理解しその情報を利用することができる20%

新聞記事情報の特性を理解しその情報を利用することができる20%

図書・雑誌記事情報の特性を理解しその情報を利用することができる20%

利用できる情報源の種類と特性を理解し英語情報を含めた世界の情報を利用することができる20%  
(関連する学習・教育目標:E)

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	2年	マーケティング	2	前	吉田 博（情報システム）
21年度以前	共 通					

情報文化学科選択、情報システム学科必修

<授業目的>

マーケティングは、商品やサービスの企画・販売・広告等を通じて、顧客のニーズを充足するとともに、顧客と良好な関係を築き、企業・組織が持続的に発展・成長していくための活動である。

マーケティングの基礎的な知識を修得するとともに、さまざまなタイプの企業・組織が行っている事例を通じて、マーケティング活動を具体的に理解するとともに、マーケティング活動の対象となる顧客・市場情報の収集及び情報発信におけるインターネットの活用等について学習する。

また、商品・サービスを購入・使用する消費者の立場から、マーケティング活動を正しく評価する上で大切な法律・規制・消費者保護等を理解し、賢い消費者・生活者となるよう学習する。

<各回毎の授業内容>

- 1 マーケティングとは
- 2 顧客・市場のとらえ方と情報収集方法
- 3 マーケティングに影響を及ぼす顧客・市場・競争・環境等の動向
- 4 製品の企画・開発
- 5 広告・販売促進
- 6 流通・販売、価格
- 7 製造業（大企業）のケース
- 8 製造業（中小企業、地場企業）のケース
- 9 流通業（大型スーパー、CVS）のケース
- 10 流通業（通販・インターネット）のケース
- 11 情報産業のケース
- 12 飲食業のケース
- 13 サービス業のケース
- 14 地域・行政のケース
- 15 NPO・コミュニティビジネスのケース
- 16 試験

<成績評価方法>

成績は①毎回出席時のレポート（基礎知識・理解力）を60%、②試験（基礎知識・理解力）を20%、③課題レポート（情報収集・分析力）を20%。

<教科書・参考文献>

毎回資料を配布する。ビデオ・インターネット・図書を使って具体的な事例を紹介する。

事例やテーマに応じて、参考となる文献・図書、テレビ等の情報源を紹介する。

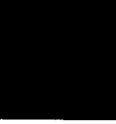
<受講に当たっての留意事項>

取上げる事例について、インターネット、新聞・雑誌等で自主的に情報を収集し、理解するように。

<学習到達目標>

企業・組織で実践しているマーケティング活動や顧客・市場の情報収集・発信の考え方・仕組みを理解できる基本的な知識を身につける（毎回出席時レポート:40%、試験）。企業・市場に関する情報を集め、分析する情報収集・分析力を身につける（課題レポート）。さらに、企業・組織のマーケティング活動、企業・組織や取り巻く社会・経済・法律・環境等についての理解・知識を深め、将来の進路を判断する力をつける（毎回出席時レポート:20%）。

# 3年共通科目（前期）



国際法  
情報社会論  
情報メディア論

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	3年	国際法	2	前	熊谷 卓（情報文化）
21年度以前	共 通					

選択

**<授業目的>**

地球という「惑星」にはおよそ200の主権国家が存在し、そこには50億人をこえる人々が日々の生活を送っている。国際法というのは主としてこれらの国家関係を規律する法規範の総体をいう。今日の国際事象をみていると、国際社会において守られるべきルールとは何かあらためて問われているようにも思われる。本講義では、現代の諸問題について国際法がなすうること、それについて検討する。

**<各回毎の授業内容>**

講義全体を通じてのテーマ:「国際法から世界を見る」

- 1 オリエンテーション
- 2 国際法はどのように発展してきたのか?—伝統的国際法の性格
- 3 現代国際法はどのような特徴を持っているか?—1
- 4 現代国際法はどのような特徴を持っているか?—2
- 5 国際法はどのように作られ、どのように適用されるのか?—条約と国際慣習法—1
- 6 国際法はどのように作られ、どのように適用されるのか?—条約と国際慣習法—2
- 7 人権の国際的な保護の発展—1
- 8 人権の国際的な保護の発展—2
- 9 国際法で個人を裁く—1
- 10 国際法で個人を裁く—2
- 11 国際社会の司法権?—国際紛争の平和的解決と国際裁判—1
- 12 国際社会の司法権?—国際紛争の平和的解決と国際裁判—2
- 13 世界の中で日本はどのようにする?—国際法と日本の立場—1
- 14 世界の中で日本はどのようにする?—国際法と日本の立場—2
- 15 まとめ
- 16 試験

**<成績評価方法>**

主として試験による成績評価

**<教科書・参考文献>**

開講時に指示

**<受講に当たっての留意事項>**

本科目は専門性の高い科目である。それ故、「現代ヨーロッパ論」をはじめとする情報文化学科専門科目を複数、履修済みの者を受講対象とする。十分に注意して欲しい。初学者に受講を勧めない。

**<学習到達目標>**

国際法学のアウトラインの習得

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	3年	情報社会論	2	前	小宮山智志（情報システム）
21年度以前	共 通					

#### 選択

##### <授業目的>

消費化社会の最たるもの（のひとつ）が「情報化社会」です。ユニクロやヴィトンや、景気や戦争といったものは、「情報化社会」と一見関係ないようですが、大変、密接な関連があります。モノとしてよりも「情報」の部分に私たちは多くのお金を支払っています。そして「情報化社会」は、世界にとって、大きな光（経済的効果）を与えています。

「情報化社会」は、大きな光を放つために、影（私たちの生活を脅かすマイナスの効果）も作ります。国内に環境問題をおこし、さらに公害を輸出します。また発展途上国に貧困を作ると同時に我々"先進国の貧困"を作ります。

いままでの情報化社会を乗り越え、影を作らず、光を失わない"情報化社会"の条件を考え、さらにそのアイデアを具体的に我々の社会、暮らしに、そして大学の授業にも活かすことを考えます。

##### <各回毎の授業内容>

講義は2回1セットで行われます。1回目は、それぞれの課題について個人またはグループで考え、2回目は皆さんの考えを紹介しながら解説し、さらにグループワークを行います。

第1回:本講義の射程とスケジュール等について

第2～9回:情報化社会と消費社会の関連

- 1) 情報化/消費化社会の展開（第2回・第3回）
- 2) 環境の臨界/資源の臨界（第4回・第5回）
- 3) 南の貧困/北の貧困（第6回・第7回）
- 4) 情報化/消費化社会の転回（第8回・第9回）

第10～13回:楽しみの社会学～新しい情報化社会に向けて私たちだからできること

第14～16回:最終レポートについてのグループワーク（第14回）とまとめ（第15回・第16回）

##### <成績評価方法>

成績は、第1～15回のグループワーク・個人ワーク（35%）と最終レポート（65%）によって、評価します。オリジナリティを高く評価します。

##### <教科書・参考文献>

参考文献:見田宗介 1996『現代社会の理論～情報化・消費社会の現在と未来～』岩波新書（465）

講義と並行してこの文献を読むことで「抽象的な理論を具体的な事例にあてはめて考える力」が効果的に身に付きます。

##### <受講に当たっての留意事項>

- 1.体調不良、忌引き、就職活動、部活動などで欠席した場合、第16回の授業での個人・ワーク・グループワークを行うことで、欠席した分の個人ワーク・グループワークを補うことが出来ます。
- 2.授業中、私が説明しているときは、誰も話してはいけません。小声でもダメです。私が聞こえなくてもあなたの周りの人が迷惑です。個人ワーク・グループワークのときは、どんどん周りの人と話してください。友達の意外なアイデアを楽しみ、また友達を楽しませてあげてください。

##### <学習到達目標>

抽象的な理論を具体的な事例にあてはめて考える力を養ってください（1～9回のグループワーク・最終レポート）。さらに自分で新しい理論を作るという発想を身につけてください（10～15回のグループワーク・最終レポート）。卒業してから、大学時代にはなかった新しい理論・考え方が出てくることでしょう。新しい理論が出てきても、現場で応用できる力、アレンジする力、そして自分で理論を構築する能力を身につけてください。さらに主体的に楽しく仕事する能力について考えてください。

もっと身近なところでは、就職や進学等の面接で、抽象的な事柄を、抽象的な言葉を使わずに具体的な事例を用いて、「自分」を伝えることに、この講義を役立ててください。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	3年	情報メディア論	2	前	本間正一郎
21年度以前	共 通					

選択

#### <授業目的>

震災・原発事故を契機に新聞やテレビといった既存の情報メディアへの批判、疑念が強まっている。その一方で、新たな基幹メディアとなったかに見えたインターネットの世界も、むしろ混迷を深めている。コミュニケーションとは、メディアとは、ジャーナリズムとは何なのか。どう付き合うべきなのか。その中で生活していながら、多くの人が正しく理解することのない情報社会の実像に立体的に迫る。また、日々の世界の動きを「熱い」うちに教材として取り入れるので、「情報偏食」の人でも社会の姿を知る訓練となり、社会人としての常識の涵養にも役立つ。

#### <各回毎の授業内容>

- 1、新聞の栄光と挫折
- 2、新聞を知ろう①世界の新聞 1
- 3、新聞を知ろう②世界の新聞 2
- 4、新聞を知ろう③日本の新聞 1
- 5、新聞を知ろう④日本の新聞 2
- 6、記者クラブはなぜ批判されるか①
- 7、記者クラブはなぜ批判されるか②
- 8、世論調査と選挙と新聞
- 9、漢字と日本語と新聞
- 10、新聞とネット社会①
- 11、新聞とネット社会②
- 12、新聞とネット社会③
- 13、客観、真実、公正とは①
- 14、客観、真実、公正とは②
- 15、新聞記者と教育

#### <成績評価方法>

出席を重視する。評価配分は期末30%、小課題と出席ポイントで70%。

#### <教科書・参考文献>

特にないが、授業の中で随時紹介する。新聞やテレビ・ニュースに日常的に接すると理解が深まる。

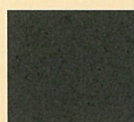
#### <受講に当たっての留意事項>

本授業は「試験のための丸暗記」を求めない。大学生らしく自律的に思索を広め、深めることを期待し、そのためのヒントを豊富に提示する。授業中の教室出入りや私語、携帯電話等は周囲の学習者の迷惑となるので慎むこと。本授業は後期開講の「コミュニケーション技術」と補完関係にある。

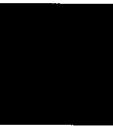
#### <学習到達目標>

「狭い視野」「偏った知識」「思い込み」の危険性を理解し、柔軟で寛容な情報対応力を養う。新聞を苦痛なく読むことができるようになる。

專門科目



# 2年文化専門科目（前期）



ロシア語 2  
中国語 2  
韓国語 2  
アメリカ英語 2  
現代ロシア論  
現代中国論  
現代韓国朝鮮論  
現代アメリカ論  
日本政治史  
日本の思想  
現代東南アジア論  
国際政治史  
国際経済史  
Advanced CEP5

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	ロシア語2	3	前	A プラーソル（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

ロシア語1 基礎文法の導入部に引き続き、名詞の格変化、動詞の定・不定・時制などに対する理解を深める。「話す」、「聞く」能力を身に付けるための訓練には十分な時間を割く。

<各回毎の授業内容>

- 1-4 テキスト第13課 名詞の生格・3人称所有代名詞
- 5-8 テキスト第14課 名詞の与格と造格と与格
- 6-9 テキスト第15課 生格と体格の等しい名詞・人称代名詞の体格
- 10-13 テキスト第16課 所有の表現とその否定
- 14-17 テキスト第17課 命令法
- 18-21 テキスト第18課 過去時称
- 22-25 テキスト第19課 БЫТ Ъ 動詞の未来形と合成未来
- 26-29 テキスト第20課 -С Я 動詞の変化と意味
- 30-33 テキスト第21課 定動詞と不定動詞(1)
- 34-37 テキスト第22課 定動詞と不定動詞(2)
- 38-41 テキスト第23課 数詞—時間の表現
- 42-45 テキスト第24課 数詞—年月日の表現
- 46 テスト

<成績評価方法>

出席率と学期末試験の結果によって成績を評価する。

<教科書・参考文献>

佐藤純一著、新ロシア語入門、NHK出版、1999年

<受講に当たっての留意事項>

毎回宿題あり

<学習到達目標>

ロシア語の高度な文法を習得し、文章の読解能力を身につけることを目標とする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	中国語 2 A・B		前	區 建英（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

**<授業目的>**

中国語 1 の基礎の上で、単語の量を蓄積していき、より高いレベルの文法知識を学び、文章の解体と再構成の方法によって中国語の理解力と会話能力を向上させます。とくに活用による理解を重視し、パートナー或いはグループでの作文練習や会話活動を行い、現地留学に実用できる会話能力を身に付けるよう指導します。

**<各回毎の授業内容>**

各回ではそれぞれの話題をめぐって会話を行います。文法は下記のポイントを教える予定です。

- 1、動作の頻度、全面否定と部分否定、頻度と常態
- 2、助動詞—「應該…」「必須…」「得…」「不得不…」
- 3、副詞—「只好」「最好」、空間と時間を限定する表現
- 4、起動相—「開始…」「起来…」「…上」、動作の始点と開始後の状態
- 5、方向補語—単一方向補語、目的語の位置、複合方向補語
- 6、残存相—「…着」「…了」、存在文—静態・動態・単純存在、場所語句
- 7、「是…的」構文、述語動詞を修飾する三要素—時間状語、場所状語、方式状語
- 8、可能補語—「…得了」「…得動」「…得成」「…得到」、可能助動詞と可能補語
- 9、可能補語の否定—「動詞+不+可能補語」「没+動詞+可能補語」
- 10、程度補語—文型、主述構造の程度補語、程度補語と状況語の相違
- 11、可能補語のまとめ—肯定形・否定形・目的語の位置、可能補語と能願動詞並行動作
- 12、「把」構文と「被」構文、結果補語
- 13、時間と関係のある常用の副詞
- 14、主従複文—因果関係、逆接関係、条件関係、仮定関係、譲歩関係
- 15、総合練習

**<成績評価方法>**

成績は定期試験で評価するが、出席の状況、授業での作文・会話の状況も成績判断の参考になる。

**<教科書・参考文献>**

教科書：朱繼征著『互問互答中国語 会話編』新潟大学

**<受講に当たっての留意事項>**

授業の時、辞書を携帯すること、予習・復習をすること  
積極的に作文や会話に取り組むこと

**<学習到達目標>**

単語の量を蓄積しながら、より内容豊かで生き生きとした会話練習を行い、多くの表現形式を身に付け、コミュニケーション能力を發展させることを目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	中国語2 A・B		前	寺沢一俊
21年度以前	専 門					

選択必修

#### <授業目的>

中国語1で習得した発音・四声にさらに磨きをかける。既習の単語・慣用表現・文法事項を新しく学ぶ事柄と関連させ、応用発展させる。「朗読する・聞く・話す」の練習にできるだけ多くの時間を充当し、中国語運用能力の向上をめざす。

#### <各回毎の授業内容>

1冊のテキストを複数の教員が分担して講義をするため、実際授業内容とは若干異なる可能性がある。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1. 程度副詞(1) | 9. 進行相(3)  |
| 2. 程度副詞(2) | 10. 進行相(4) |
| 3. 程度副詞(3) | 11. 経験相(1) |
| 4. 助動詞(1)  | 12. 経験相(2) |
| 5. 助動詞(2)  | 13. 経験相(3) |
| 6. 助動詞(3)  | 14. まとめ(1) |
| 7. 進行相(1)  | 15. まとめ(2) |
| 8. 進行相(2)  |            |

#### <成績評価方法>

出席が2/3以上の者に定期試験を受ける資格を与える。成績評価は小テスト、出席率、定期試験などの結果を総合的に判断する。

#### <教科書・参考文献>

教科書:『速問速答中国語(Ⅱ)』朱継征著

参考文献:『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』相原茂著 同学社

#### <受講に当たっての留意事項>

学んだ単語や文は日本語で意味を理解するだけでなく、正しく読めるようにすること。そして朗読を繰り返して暗誦すること。暗誦できたら、ピンイン符号と漢字で書く練習をすること。

#### <学習到達目標>

中国語の動相(アスペクト)概念を理解し、正しく運用できるようにする。さらに助動詞・補語の用法に習熟する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	中国語 2 A・B		前	笠原ヒロ子
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

中国語1で習得した基礎の上に、豊富な語彙、用例を学んで、語順による文法機能と意味関係を確定して、日常会話能力と作文能力を身につける。

<各回毎の授業内容>

- 1 程度副詞(1)
- 2 程度副詞(2)
- 3 程度副詞(3)、連動文
- 4 助動詞 (1)
- 5 助動詞 (2)、兼語文
- 6 助動詞 (3)、反語文
- 7 起動相 (1)、結果補語
- 8 起動相 (2)、存現文
- 9 起動相 (3)、方向補語
- 10 残存相 (1)
- 11 残存相 (2)
- 12 残存相 (3)
- 13 受身文 (1)
- 14 受身文 (2)
- 15 受身文 (3)
- 16 定期試験

<成績評価方法>

授業参加度、小テスト、定期試験を勘案して総合評価を行います。

<教科書・参考文献>

「互問互答中国語 会話編」朱継征著

<受講に当たっての留意事項>

声を出してトレーニングしてください。

テキストに添付されているCDを普段から利用してください。

<学習到達目標>

中国語の話す、聞く、書く、読むの四つの能力を身に付けます。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	2 年	韓国語 2 A・B		前	A:申 銀珠・金 世朗
21年度以前	専 門					B:申 銀珠・朴 修禧

選択必修

<授業目的>

一年次に習った初級文法を復習しつつ、中級文法への橋渡しとなる言語運用能力の養成を目的とする。文法面では、用言の活用の学習に重点をおく。用言の活用を体系的に理解し、豊富な練習問題によって実践的に身につけるようにする。基本的な単語と語句を使った和韓作文と口頭表現の練習を行う。

<各回毎の授業内容>

1. 제 10과 종합 연습
2. 제 11과 서점이 몇 층에 있어요?
3. 제 12과 아저씨, 이 사전이 얼마예요?
4. 제 13과 오늘이 무슨 요일이에요?
5. 제 14과 지금 몇 시예요?
6. 제 14과 지금 몇 시예요?
7. 제 15과 종합 연습(1)
8. 제 15과 종합 연습(2)
9. 제 16과 학생 식당으로 갈까요?
10. 제 17과 뭘 드시겠습니까?
11. 제 17과 뭘 드시겠습니까?
12. 제 18과 동대문 시장에 같이 갑시다.
13. 제 19과 이 운동장 어때요?
14. 제 20과 종합 연습(1)
15. 제 20과 종합 연습(2)

<成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。宿題、小テストなどを成績評価に加える。

<教科書・参考文献>

『韓国語初級 I』(国際教育院韓国語教育部、慶熙大学校出版局)

<受講に当たっての留意事項>

外国語の学習はまさに、「継続が力なり」である。毎回課題が与えられ、随時小テストも行われる。しっかりついてきてください。

<学習到達目標>

初級レベルの読み書き・会話ができるようにしたい。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	韓国語2A・B		前	吉澤文寿（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

この授業では、韓国語1に引き続き、慶熙大学校のテキストを用いた2コマの授業を補強するために、日本で出版されたテキストを用いて、日本語を母語とする者の特性を生かした言語学習を通して、初級段階前半の語学力の完成を目指す。

<各回毎の授業内容>

1. 韓国語1の復習
2. 8課 今、何時ですか？(その1)
3. 8課 今、何時ですか？(その2)
4. 9課 初デートの約束(その1)
5. 9課 初デートの約束(その2)
6. 10課 何が好きですか？(その1)
7. 10課 何が好きですか？(その2)
8. 11課 週末に何をしましたか？(その1)
9. 11課 週末に何をしましたか？(その2)
10. 12課 スープが冷たくておいしいです。(その1)
11. 12課 スープが冷たくておいしいです。(その2)
12. 13課 一度遊びに来てください。(その1)
13. 13課 一度遊びに来てください。(その2)
14. 今学期の復習
15. まとめ
16. 定期試験

<成績評価方法>

出席が2/3以上の者に期末試験の受験資格を与え、成績は期末試験の結果で評価する。なお、宿題、小テストなどを成績評価に加える。

<教科書・参考文献>

金順玉・阪堂千津子『新・チャレンジ！韓国語』白水社、2009年、定価：2300円＋税

<受講に当たっての留意事項>

前学期に引き続き、学習項目を着実に習得してほしい。宿題も随時出したい。

<学習到達目標>

言葉に親しみつつ、話す、聞く、書く、読むという基礎的な言語能力の習得を目標とする。そして、習得した言語をもって、みずからのコミュニケーションに活用することを意識しながら学んでほしい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	アメリカ英語 2 A		前	金沢泰子
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

アメリカ英語 1 (A) に引き続きCALLとオンライン学習を活用してTOEIC受験対策演習をおこなう。

Listening練習、文法復習、語彙力増強によるReading Section強化に加え、語学学習に高い効果が認められている音読練習を必修とし、TOEICスコアと総合的英語運用力の向上を目指す。

<各回毎の授業内容>

- 1 講義概要 他
- 2 Pre-Test
- 3 Unit 6 Entertainment
- 4 Unit 6
- 5 Unit 7 Media
- 6 Unit 7
- 7 Unit 8 Office
- 8 Unit 8
- 9 Practice Test
- 10 Unit 9 Personnel
- 11 Unit 9
- 12 Unit 10 Finance
- 13 Unit 10
- 14 Unit 11 Sales Promotion
- 15 Unit 11
- 16 定期試験

<成績評価方法>

毎授業時の練習問題と復習小テスト 40% 音声活動 20%、定期試験 40%

<教科書・参考文献>

Hisayo Herbert et al: The Next Stage to the TOEIC Test: Pre-Intermediate (KINSEIDO)  
他

<受講に当たっての留意事項>

5回欠席すると受講資格を失う。授業開始後10分以降の入室は認めない。  
欠席回数については各自で記録し、超過しないように気をつけること。

<学習到達目標>

TOEIC形式練習問題の正解率をあげる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	アメリカ英語2A・B		前	佐藤泰子
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

本講座では現代のアメリカの生活の中で、日本人学生が留学生として或いは旅行者として遭遇する可能性の高い場面を中心に、適切に行動するために必要な背景知識と英語を学習することを目的とする。履修者が異文化への対応方法や新たな視点を養っていくことができるよう可能な限り音声機器、メディア等を活用する予定である。

<各回毎の授業内容>

Class 1 - Introduction & Unit 1  
 Class 2 - Unit 1  
 Class 3 - Unit 2  
 Class 4 - Unit 3  
 Class 5 - Unit 4  
 Class 6 - Unit 5  
 Class 7 - Unit 6 & review of materials covered in class  
 Class 8 - Midterm exam  
 Class 9 - Unit 7  
 Class 10 - Unit 8  
 Class 11 - Unit 9  
 Class 12 - Unit 10  
 Class 13 - Unit 11  
 Class 14 - Unit 12  
 Class 15 - Unit 13 & review of materials covered in class  
 Class 16 - Final exam

<成績評価方法>

- 1) attendance 20 points/100
- 2) participation 25 points/100
- 3) quizzes & reports 25 points/100
- 4) mid-term & final test 30 points/100

※積極的なクラス参加を期待する

※各種資格試験（TOEIC, TOEFL, 英検等）の結果も加点

<教科書・参考文献>

Cultural Watch U.S.A. (清池恵美子・Cindy H. Granger 共著) 成美堂  
 ※適宜プリント教材配布。

<受講に当たっての留意事項>

欠席が1/3を超えた場合には単位は与えられない。

<学習到達目標>

最終的には履修者全員PBT TOEFL 450-500点、TOEIC 500-550点到達すること。

まだ英検2級を取得していない履修者は一次試験: 6月10日(日)、二次試験: 7月8日(日)受験することが望ましい。各種試験対策も履修者に対し、個別に実施。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	アメリカ英語 2 A・B		前	大岩彩子
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

The aim of this course is to build fluency in personal communication, and develop a colloquial conversation style. Students will practice fluency building activities such as shadowing and overlapping. The class introduces American culture and life style through the context covered in the weekly topics. Class time will be also spent doing series of speaking and listening activities, and the students taking this course will be expected to fully participate in pair and group activities. Homework will be assigned each week, which involves using Facebook.

<各回毎の授業内容>

Week 1	Introduction of the course, class survey
Week 2	Unit 1 Introductions
Week 3	Unit 2 Home
Week 4	Unit 3 Food
Week 5	Unit 5 Work
Week 6	Unit 7 Experiences
Week 7	Unit 8 Health
Week 8	Midterm examination
Week 9	Unit 9 Family
Week 10	Unit 10 Personality
Week 11	Unit 11 Beliefs
Week 12	Unit 12 Relationships
Week 13	Unit 13 Education
Week 14	Unit 14 Memories
Week 15	Unit 16 Inspiration
Week 16	Final examination

<成績評価方法>

Class participation 20%  
Homework assignments 20%  
Midterm examination 30%  
Final examination 30%

<教科書・参考文献>

Impact Conversation 2 by Sullivan K. & Beucken, T. (Pearson Longman)

<受講に当たっての留意事項>

Good participation is the key to a successful class. Students who come to class ready and eager to study raise the quality of learning for everyone.

Good participation means you :

- speak English in class.
- ask questions. It's GOOD to ask questions.
- pay attention and focus on the class activities.
- do your homework.

Poor attendance will greatly affect your grade as you will miss your participation points and the information covered in class.

<学習到達目標>

Build fluency in personal communication.

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	アメリカ英語2B		前	金沢泰子
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

CALLとオンライン学習を活用してTOEIC受験対策演習をおこなう。

Listening練習、文法復習、語彙力増強によるReading Section強化に加え、語学学習に高い効果が見とめられている音読練習を必修とし、TOEICスコアと総合的英語運用力の向上を目指す。

<各回毎の授業内容>

1. 講義概要 他
2. Pre-Test
3. Part 1, 4, 5, 6 の練習 (1)
4. Part 2,3,7 の練習(1)
5. Part 1, 4, 5, 6 の練習 (2)
6. Part 2,3,7 の練習(2)
7. Practice Test 1
8. Part 1, 4, 5, 6 の練習 (3)
9. Part 2,3,7 の練習(3)
10. Part 1, 4, 5, 6 の練習 (4)
11. Part 2,3,7 の練習(4)
12. Practice Test 2
13. Part 1, 4, 5, 6 の練習 (5)
14. Part 2,3,7 の練習(5)
15. Review
16. 定期試験

<成績評価方法>

毎授業時の練習問題と復習小テスト40% 音声活動20%、定期試験40%

<教科書・参考文献>

開講時に通知する

<受講に当たっての留意事項>

5回欠席すると受講資格を失う。授業開始後10分以降の入室は認めない。  
欠席回数については各自で記録し、超過しないように気をつけること。

<学習到達目標>

TOEIC形式練習問題の正解率をあげる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	現代ロシア論	2	前	神長英輔（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

この授業では、ロシア近現代史の学習を通じて参加者のみなさんに自分と現代ロシアの接点を発見してもらいます。みなさんの知識や興味関心を現代のロシアに関するさまざまな知に結びつけることをめざします。歴史や社会を理解する方法についても考えていただきます。

<各回毎の授業内容>

政治・経済・文化・国際関係などさまざまな方面からロシア・ソ連の20世紀史を概観します。

講義の内容は以下の通りです。

- ・第1回 ガイダンスと「現代ロシアの基礎知識 その1」
- ・第2回 「現代ロシアの基礎知識 その2」
- ・第3回 「現代ロシアの基礎知識 その3」
- ・第4回 「19世紀までの歴史・概要」
- ・第5回 「日露戦争と1905年革命」
- ・第6回 「第1次世界大戦」
- ・第7回 「ロシア革命」
- ・第8回 「内戦と干渉戦」
- ・第9回 「ネップと上からの革命」
- ・第10回 「スターリン時代」
- ・第11回 「第2次世界大戦」
- ・第12回 「フルシチョフ時代」
- ・第13回 「ブレジネフ時代」
- ・第14回 「ペレストロイカとソ連解体」
- ・第15回 （予備回）

随時、私がテーマを設定した上で数人単位のグループワークをおこない、その場で口頭の発表をしていただきます。グループ分けは名簿をもとに不作為におこないます。

また、課題として毎回の授業回の最後にその日の講義の要旨（200から400字程度）を5分程度で書き、提出していただきます（返却しません）。これを提出しない場合は欠席（ないし早退）扱いにします。

<成績評価方法>

出席回数、上記の授業内容要旨の提出、グループワークにおける積極性、学期末のペーパーをもとに総合的に判断します（予定）。

<教科書・参考文献>

常時使う教科書はありません。必要に応じて配布します。

参考文献として地図帳（ロシア全土が記載されているもの。中学や高校で使用していたものでよい）を毎回必ず持参してください。

不明点があれば、授業中に質問するほか、『ロシアを知る事典』（平凡社）で随時確認してください。

また、東洋書店から出版されているユーラシア・ブックレットシリーズ（図書館にあります）のうち、自分で興味のあるものを読み進めてください。

<受講に当たっての留意事項>

参加者に求めるものは主体性と積極性です。グループワーク等に積極的に参加する気がない方、約束事を守れない方はご遠慮ください。

健康に留意し、できるだけ出席するよう心がけてください。また、積極的に質問し、授業に関わってください。私語をする方、寝ている方、携帯メール等を見ている方、遅刻や早退の程度が過ぎる場合は欠席扱いにすることがあります。

大学での学習は自学自習が基本です。もちろん質問や相談は随時承ります。

ロシア・ソ連とその歴史について関心のある方の参加を希望します。

グループワーク等の形で、学期あたり1人1回以上の口頭発表をしていただきます。

<学習到達目標>

自分がロシアについて何を知りたいのかを自分で発見してください。期待しています。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	現代中国論	2	前	區 建英（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

#### <授業目的>

中華人民共和国は建国以来、国民経済の建設と民主化を進める上で、どのような路を辿ってきたのか。広大な領土には異なった言語・文化・宗教・価値観を持つ多くの民族がおり、これら様々な民族はどのように共存しているのか。また、東アジア諸国との関係、とくに日本との関係はどのような道を辿ってきたのか。これらの問題を国際的背景、とくに冷戦から冷戦終結後の今日にかけての時代変遷という視野に置いて分析します。

民主化の問題については、中華人民共和国が置かれていた国際的環境、冷戦下に辿った屈折な過程を説明し、国際的な反覇権闘争と国内の民主化とのジレンマを解明します。また、民族の問題については、多様性を重視する多民族社会の伝統と、近代国家の均質化傾向とのジレンマを乗り越えようとする模索を解明します。日中関係および東アジア諸国との関係については、冷戦時代の問題に触れながら現在の問題や課題に重点を置いて語ります。

#### <各回毎の授業内容>

授業は下記のスケジュールで進めますが、授業の状況によって若干変更する場合があります。

- (一) 1、建国初期の国際環境—冷戦構造
- 2、国民経済建設の屈折と文化大革命
- 3、冷戦終結と改革開放
- 4、経済成長と民主化運動
- 5、公民精神の成長と中国の変貌
- (二) 6、統一国家と多民族社会
- 7、政治・経済・文化における民族関係
- 8、民族政策の曲折と原点への復帰
- 9、チベット問題
- 10、西部開発と「扶貧」
- (三) 11、冷戦下の中国と東アジア
- 12、冷戦終結後の全方位外交
- 13、中米関係の新しい模索
- 14、日中関係の新しい模索
- 15、大陸と台湾との两岸関係

#### <成績評価方法>

成績は主に定期試験で評価するが、毎回の授業終了時に、講義内容に関するコメント（感想、意見、質問等）を提出してもらう。これを成績評価の対象に加える。出席状況も評価の参考になる。

#### <教科書・参考文献>

教科書は、授業のテーマ毎に配るレジュメ。参考文献は、授業時に紹介。

#### <受講に当たっての留意事項>

講義のメモを取りながらよく思考し、コメントを書くこと。レジュメをよく復習し、参考書をも積極的に読むこと。

#### <学習到達目標>

中華人民共和国の歩みを掴み、現代中国の様々な事象を歴史、伝統、国際関係など複数の視点から捉え、よって中国社会を理解し、日中の新しい協力関係を模索する知を得るよう期待します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	現代韓国朝鮮論	2	前	申 銀珠（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

解放後から現代にいたるまでの韓国社会の変貌と現状について、政治、経済、文化、教育などの各方面から述べる。特に、民主化と統一への動きに焦点を当てて、韓国現代政治史について詳しく述べる。現代韓国が抱える様々な社会問題、人々の人生観・価値観の変化、さらに日韓関係、日朝関係、南北統一問題などを多角的に理解するよう、時事問題も積極的に取り上げる。

<各回毎の授業内容>

1. 韓国の最新事情:政治・経済を中心に
2. 韓国人の社会ネットワーク:血縁・地縁・学縁、結束力と排他性
3. 民主化と統一への道
4. 解放後から大韓民国政府樹立まで
5. 朝鮮戦争と韓国社会
6. 離散家族問題
7. 朴正熙政権に対する評価
8. 光州事件から民主化宣言まで
9. 文民政府（金泳三）の登場と金大中の太陽政策
10. 盧武鉉政権と386世代
11. 経済の発展と課題:財閥と労使紛争、IMF時代、貧富の格差、伝統的価値観の崩壊
12. 韓国の教育事情:公教育と私教育、早期留学の実態とその背景
13. 韓国人の家族観 :伝統的な家族制度の変貌、女性と法律
14. 韓国の宗教
15. 韓国の若者文化、韓国社会と徴兵制

<成績評価方法>

出席20%、レポート80%(感想文、小テスト、最終レポート)

<教科書・参考文献>

毎回プリントを配布する。写真集、ビデオなどを副教材として使う。

<受講に当たっての留意事項>

適当なテキストがないため毎回かなりの量の資料を配布する。欠席した者は自己責任で資料をそろえること。

<学習到達目標>

朝鮮半島の近現代史及び現代韓国・北朝鮮事情を幅広く理解したうえで<比較>の視点を生かし、朝鮮半島の南北問題・日韓関係・日朝関係の近未来像を受講者自ら描けるようにしたい。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	現代アメリカ論	2	前	安藤 潤（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

この講義の目的は、主に1990年代以降のアメリカ経済の特徴、問題点、世界経済に与える影響について理解を深めることである。

<各回毎の授業内容>

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| 1. イントロダクション     | 9. 所得・資産格差①    |
| 2. アメリカ合衆国の基本データ | 10. 所得・資産格差②   |
| 3. 家計の低貯蓄・過剰消費体質 | 11. アメリカの軍事経済① |
| 4. 基軸通貨ドルの戦後史    | 12. アメリカの軍事経済② |
| 5. 「双子の赤字」①      | 13. 医療問題①      |
| 6. 「双子の赤字」②      | 14. 医療問題②      |
| 7. ジェンダー経済格差①    | 15. 医療問題③      |
| 8. ジェンダー経済格差②    | 16. 定期試験       |

<成績評価方法>

コメントカード（不定期、20%）、定期試験（80%）

<教科書・参考文献>

特に教科書は指定しない。参考文献は講義中に紹介する。

<受講に当たっての留意事項>

関連科目として「経済学（マクロ）」、「日本経済論」、「国際経済学」、「アメリカ史概説」を挙げておく。私語は厳禁。注意しても私語を続ける者は退室を願うことがある。体調不良などやむを得ない場合を除き大幅な遅刻・途中退出はしないこと。授業中は歩き回らないこと。ただし病気などでやむをえず一時退出せざるを得ない者は事前に教員に伝えること。携帯電話・PHSの類は必ず電源を切ること。飲食禁止。コピーを配布するが、欠席をした者は自己の責任でそろえること。板書したことだけでなく、重要と思われる点は各自ノートに書いておくこと。数式は極力避けるが、グラフは講義内容の理解を深めるために複雑でないものを用いる。

<学習到達目標>

新聞やテレビに登場する現代アメリカ経済の記事やニュースを理解できるようになり、世界最大の経済大国・アメリカの真の姿について自分で考えることができるようになること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	アメリカ文化論	2	前	G ハドリー(情報文化)
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

主として歴史の視点からアメリカ文化を再評価することを目的とした講義を行います。1回又は2回の講義ごとにトピックを決め、講義は英語で行います。アメリカ文化についてあまり予備知識のない人でも興味を持てるカラフルな授業になればと思います。機材と教室の都合がつく限り映像や音の資料も多用する予定です。

<各回毎の授業内容>

1. イントロダクション
2. A Consideration of American Culture 1 (アメリカ文化とは何か1)
3. A Consideration of American Culture 2 (アメリカ文化とは何か2)
4. Regions of the United States 1 (アメリカの地方1)
5. Regions of the United States 2 (アメリカの地方2)
6. Salad Bowl(人種のサラダボール)
7. The "Other America": Women (他民族のアメリカ1)
8. The "Other America": Minorities (他民族のアメリカ2)
9. America's Political System 1 (アメリカの政治制度1)
10. America's Political System 2 (アメリカの政治制度2)
11. America and the World 1 (アメリカの外交問題1)
12. America and the World 2 (アメリカの外交問題2)
13. American Economy 1 (アメリカの経済と資本主義1)
14. American Economy 2 (アメリカの経済と資本主義2)
15. まとめ

<成績評価方法>

主に学期末の試験またはレポートで評価する。

<教科書・参考文献>

授業中に指示する。

<受講に当たっての留意事項>

私語は厳重に慎んでほしい。出席のための出席は意味がない。自分が欠席した授業のなかで試験・レポートその他に関する指示が伝えられた場合、自分の責任で情報を収集すること。授業内容は一部変更もありうる。

<学習到達目標>

現代の「工事中」と言うアメリカ社会と諸文化の基本知識を身につけ、異文化理解を深めること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	日本政治史	2	前	中村起一郎
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

私たちの身の回りにはたくさんの「権力」がありますが、その中でもとびきり強大なのは、国家権力でしょう。中央政府のつくる制度や政策は、私たちの生活に非常に大きな影響を与えます。豊かで安定した暮らしをもたらしてくれることもあれば、理不尽な選択を迫るようなこともあります。

日本において、そのような強大な権力はどのようにして作られるのでしょうか。また、私たちはそれをどのように制御し、あるいは関与することができるのでしょうか。この講義では、日本の統治のあり方を、その時々多くの人間やグループが下した具体的な選択の数々を読み解きながら、考えていきたいと思えます。

**<各回毎の授業内容>**

- 1 - 2. 明治維新と近代国家の形成
- 3 - 4. 戦前日本の民主主義——憲法・議会・政党
- 5 - 6. 戦争への道程
- 7 - 8. 敗戦と占領と戦後民主主義
- 9 - 10. 高度成長と自由民主党一党優位体制
- 11 - 12. 自民党一党優位体制の崩壊
- 13 - 15. 低成長時代の諸課題
16. 試験

**<成績評価方法>**

学期末試験によって評価する。若干の平常点を加味することがある。

**<教科書・参考文献>**

教科書は特に指定しない。基本的な事実を確認するために、高校の日本史・世界史の教科書および用語集を頻繁に参照してほしい。その他の参考文献は講義中に適宜紹介します。

**<受講に当たっての留意事項>**

政治学、日本政治論、国際政治学を受講済み、または受講中であることが望ましい。私語は厳禁。質問は授業中でも授業の前後でも歓迎します。

**<学習到達目標>**

現在の政治制度・政治の動態が、どのような歴史的経験から生じているのかを理解する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	日本の思想	2	前	今井 修
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

「日本の思想」を考える上での入門講座的内容とする。ただし、古代から現代までの全時代、さらには全主題について概説するものではなく、日本の近代、とくに幕末・維新时期から明治中期くらいまでの時代の思想史的諸問題を中心に扱いことにしたい。

**<各回毎の授業内容>**

1. 「日本の思想」を考えるということ
2. 「日本の思想」を今どのように問題にしているか
3. 「日本の思想」のなかでの「日本の近代」の歴史的位置
4. 日本近代思想史研究について〔1回目の小テスト〕
5. 幕末・明治維新の思想(1)－概説－
6. 幕末・明治維新の思想(2)－吉田松陰－
7. 幕末・明治維新の思想(3)－大久保利通－
8. 幕末・明治維新の思想(4)－岩倉使節団－〔2回目の小テスト〕
9. 文明開化の思想(1)－概説－
10. 文明開化の思想(2)－福沢諭吉－
11. 文明開化の思想(3)－福沢諭吉－
12. 文明開化の思想(4)－田口卯吉－〔3回目の小テスト〕
13. 自由民権の思想(1)－概説－
14. 自由民権の思想(1)－植木枝盛－
15. 自由民権の思想(1)－中江兆民－
16. 試験

**<成績評価方法>**

4日間の集中講義なので、4日間ともの出席を単位認定の前提条件（特別の理由で1日欠席の場合は考慮する場合もある）として、1・2・3日の小テスト3回と最終日の試験で総合評価する。小テスト3回で30点、試験が70点が基本的な目安である。

**<教科書・参考文献>**

集中力を高めるため、教科書や詳細なプリントはむしろ使用しないで、板書を中心とする。参考文献はテーマにあわせて、授業で紹介・批評していく。

**<受講に当たっての留意事項>**

授業は"全身運動"だと心得られたい。すなわち、単に受身で聞いているだけでは十分な理解と成果を得られない。授業内容に集中し、しっかり考えること。そのためにも板書を写すとともに、自分自身の受講ノートを手作りしてもらいたい。なお、私語の多い学生は退室させるので、そのような不愉快な場面がないよう留意しよう。

**<学習到達目標>**

「日本の思想」のなかで、とくに日本の近代思想の形成期の諸問題について理解し、今後のより本格的な考察のための基礎的知識を獲得する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	現代東南アジア論	2	前	高橋正樹（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

東南アジア諸国の政治経済と歴史を日本との関係に留意しながら考察することを目的とします。東南アジアは11カ国によって構成される多様な歴史と文化、政治経済をもつ広い地域ですので、短い授業で触れられることは限られます。地域としては、タイ・ビルマ（ミャンマー）・ベトナム・カンボジア・ラオスといった大陸部東南アジアの戦後の動きを中心に扱います。東南アジアは日本軍が戦時中に占領したたいへん関係の深い地域ではありますが、戦後もとくに政治経済的に深い関係にあります。現在は開発による経済的格差の拡大や民主化弾圧など様々な問題を抱えています。授業では随時、ビデオなどを観て具体的イメージをつくりながら進めていきたいと思ひます。

#### <各回毎の授業内容>

1. 東南アジア認識の方法
2. 戦前の日本と東南アジアとの関係
- 3～4. 戦後のアジア冷戦と日本の東南アジア復帰
- 5～6. ベトナム戦争
- 8～9. ビルマの民主化とアウンサン・スーチー
- 10～12. 日本の経済進出と東南アジア
- 13～15. 中国と東南アジア

#### <成績評価方法>

原則として、授業への全出席が最低条件になります。さらに、中間テスト・学期末テストによって評価します。

#### <教科書・参考文献>

教科書はありませんが、毎回、授業内容をレジュメに書いて配ります。

参考文献 サイド『オリエンタリズム』平凡社；矢野暢『南進の系譜』中央公論社；永瀬隆『「戦場にかける橋」のウソと真実』岩波書店、1986年；末廣昭『タイ・開発と民主主義』岩波書店、1992年；古田元夫『歴史としてのベトナム戦争』大月書店、1991年；歴史教育者協議会編『知っておきたい東南アジアI』青木書店。

#### <受講に当たっての留意事項>

東南アジアにとくに興味がない人でも履修してください。授業を受けることできっと東南アジアへの関心が深まることでしょう。

#### <学習到達目標>

東南アジアへの関心と理解を深めること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	国際政治史	2	前	小澤治子（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

この科目のねらいは、第一次世界大戦終結後、第二次世界大戦勃発にいたる時期（戦間期）における国際政治の歴史を主に学ぶことである。20世紀に起こったこの二度の世界大戦をなぜ防ぐことができなかつたのであろうか。また二度の世界大戦が残した歴史の教訓とはいかなるものであろうか。そのような問題意識を持って二つの世界大戦勃発にいたる過程、また第一次世界大戦の戦後処理の特色と問題点について詳しく考えてみたい。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 戦間期国際政治史研究の意義
- 2 19世紀から20世紀初めの東アジア——ロシアの東進
- 3 19世紀から20世紀初めの東アジア——アメリカの西進
- 4 第一次世界大戦勃発と国際政治——ヨーロッパの民族問題との関連で
- 5 第一次世界大戦とアメリカ——ロシア革命との関連で
- 6 第一次世界大戦の戦後処理——パリ講和会議と日本外交
- 7 ワシントン会議と日本外交
- 8 ワシントン体制と日本外交——二人の外相を中心に
- 9 1930年代の東アジア——満州事変から日中戦争へ
- 10 戦間期のヨーロッパ——集団安全保障体制構築の試み
- 11 戦間期のヨーロッパ——集団安全保障体制構築の挫折
- 12 第二次世界大戦開始前後のソ連外交——独ソ不可侵条約と日ソ中立条約
- 13 太平洋戦争勃発と米ソ関係(1)
- 14 太平洋戦争勃発と米ソ関係(2)
- 15 戦間期国際政治の特色と問題点

#### <成績評価方法>

学期末試験の結果を中心に成績評価を行うが、授業ごとに提出するコメントペーパーも参考にする。

#### <教科書・参考文献>

教科書は特に指定せず、授業内容についてのプリントを毎回配付する。参考文献は講義の中で随時紹介するが、以下二冊が特に有用である。

石井修『国際政治史としての20世紀』 有信堂 2000年。

川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』 名古屋大学出版会 2007年。

#### <受講に当たっての留意事項>

授業においては私語と遅刻を厳禁します。最低限のモラルを守って下さい。

#### <学習到達目標>

戦間期の国際政治の歴史を学ぶことを通じて、今日の国際政治を考える視点を養う。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	国際経済史	2	前	佐藤芳行
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

本講義は、20世紀における国際経済史の学習を通じて世界経済の現状および現代経済、とりわけ日本経済が抱えている諸問題を学ぶことを目的としている。講義では、①第一次世界大戦後に世界経済の中心国となった米国で1920年代末に生じた金融バブルが金融恐慌と世界恐慌をもたらしたこと、②第二次世界大戦後、1950年代～60年代の黄金時代に多くの国で混合経済体制が形成され、所得増加、完全雇用、格差の縮小などが達成され、また日本やヨーロッパ諸国が米国にキャッチ・アップしたこと、③しかし、1970年代になると状況が変化し、スタグフレーションをはじめとする困難な問題が現れてきたこと、④その後1980年代に米英を中心として小さな政府、金融自由化、労働市場の柔軟化などのネオリベラル政策が実施され、所得格差の拡大をはじめとする諸問題が生じてきたことを説明する。またその頃からグローバル化が顕著となり、混合経済体制からグローバル市場経済への移行が生じ、社会が不安定化してきたことを説明する。この講義では、そうした変化とその要因を学び、安定した経済社会のために何が必要かを考える。

#### <各回毎の授業内容>

- 1回 はじめに
- 2回 1930年代の世界恐慌(1) 経過
- 3回 1930年代の世界恐慌(2) 要因と教訓
- 4回 戦後の黄金時代の経済と社会(1) フォーディズムの成立
- 5回 戦後の黄金時代の経済と社会(2) 帰結
- 6回 黄金時代の黄昏(1) フォーディズムの終焉
- 7回 黄金時代の黄昏(2) 開発途上国と先進国
- 8回 1980年代のネオリベラル政策(1) 発端
- 9回 1980年代のネオリベラル政策(2) 展開
- 10回 1980年代のネオリベラル政策(3) 帰結
- 11回 開発途上地域の経済発展
- 12回 計画経済地域の成功と失敗
- 13回 グローバル化の進展
- 14回 世界と日本(1)
- 15回 世界と日本(2)
- 16回 定期試験

#### <成績評価方法>

定期試験および小テストまたはレポートによる。

#### <教科書・参考文献>

テキストは使用せず、講義資料を配付する。参考文献については授業中に指示する。

#### <受講に当たっての留意事項>

授業中は私語・飲食厳禁。その他最低限の常識・モラルを守ること。

#### <学習到達目標>

現代の国際経済史を学び、戦前から現在にいたる世界経済の基本的な変化、それを理解するための経済学上の基礎的な知識・考え方、われわれが現在の経済と社会がどのような状態に置かれているのかを理解し、説明することができるようにする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	AdvancedCEP1	2	前	G.Hadley, M.Ruddick, P.Dickinson
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

CEPは英語を楽しく集中的に学習するプログラムです。CEPで積極的に取り組んだ学生は、そのほとんどが学年末には自信を持って英語を話すことができるようになっています。CEPでは、国際英語を教えます。英語を自分のことばにして、日本人としてのみなさんの視点から話しましょう。CEPでは、みなさんが英語を話したくなるような、楽しいクラスを目指します。

#### <各回毎の授業内容>

このクラスの受講を希望する学生には、全員プレイスメント・テストを受けてもらいます。テストの結果が一定の基準に達しない場合は、受講が許可されません。受講が許可された学生は、テストの結果によって、レベル別クラスが編成されます。Aクラスが最も難しく、Dクラスが基礎レベルです。しかし、このレベルの違いはみなさんの成績に影響しません。例えば、Dクラスだからという理由で悪い成績をとったり、Aクラスだからといって他のクラスの人より自動的に良い成績を修めるといったことはありません。レベル別にするのは、学習内容が簡単過ぎたり難し過ぎたりすることを避けるためです。適切なレベルから始めることで、学習効果が上がります。CEPで英語の力がつけば更に高度なクラスへ、また、あまり上達しないようなら基礎的なクラスに移動することも可能です。CEPでは毎回の出席と授業への積極的な取組みが要求されます。遅刻はしないこと。欠席時数（届出があり、やむをえないと認められた欠席を除く）が30%を超えると不合格となります。CEPには、スピーキング・リスニングの授業があります。リスニングとスピーキングのテストは3週間に1回あります。

#### <成績評価方法>

みなさんの成績は、テスト、宿題、授業活動への積極的な取組みなどから総合的に判定されます。

#### <教科書・参考文献>

Materials Created by CEP Instructors.

#### <受講に当たっての留意事項>

以下は基本的なルールです。必ず守ってください。授業中は英語で話すこと。教員に質問されたときにその意味や答えがわからなければ、まず教員の方を向いて、教員に直接そう伝えること。（すぐに友達に聞いたりしない。）ほとんどの問題は教師と良い関係を築いていく中で解決できるものです。授業中や空き時間に遠慮なく話してください



# 3年文化専門科目（前期）

ロシア語 4  
中国語 4  
韓国語 4  
アメリカ英語 4  
日ロ関係論  
日中関係論  
日韓朝関係論  
日米関係論  
日本語学  
地球社会と人権  
現代エネルギー論  
国際協力論  
EU論  
国際組織論  
外国語文献講読 1

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	ロシア語4A		前	A プラーソル（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

ロシア語1・2・3・基礎文法の導入に引き続き、基本的な知識を整理し、発展させながらロシア語の運用能力を高めることを目的とする。文法知識を体系的に整理することを目標とし、特に「話す」「聞き分ける」能力を身に付けるための訓練には十分な時間を割く。

<各回毎の授業内容>

- 1・2 講義のガイダンス、テキストの第32課
- 3・4 テキストの第33課
- 5・6 テキストの第34課
- 7・8 テキストの第35課
- 10・11 テキストの第36課
- 12・13 テキストの第37課
- 14・15 テキストの第38課
- 16 期末試験

<成績評価方法>

出席率と期末試験の結果によって成績を評価する。

<教科書・参考文献>

①佐藤純一、新ロシア語入門 NHK出版 ②研究者露和辞典等 ③教員が用意したプリントを配布する

<受講に当たっての留意事項>

- ①毎回宿題あり ②欠席が3分の1を超えた場合は期末試験の受験を認めない

<学習到達目標>

教科書の基本例文を完全に習得すること。テキストに説明されている高度な文法を習得し、文章の読解能力を身に付けることを目標とする。学習者が外国旅行等際に必要に応じて簡単な会話ができることも目標とする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3 年	ロシア語 4 A・B		前	神長英輔（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

#### <授業目的>

ロシア語の基礎の文法のうち、発展的な内容の習得をめざします。作文や精読を通じて語法を習得し、語彙を増やしていくことをめざします。手持ちの知識を活かして作文や発話を試みていただきます。

#### <各回毎の授業内容>

各週の内容は以下の通りです。

- 1-2. 代名詞変化のまとめ(1) (同第32課)
- 3-4. 形容詞変化のまとめ (同第33課)
- 5-6. 代名詞変化のまとめ(2) (同第34課)
- 7-8. 形容詞の短語尾形 (同第35課)
- 9-10. 動詞の体(4) (同第36課)
- 11-12. 関係代名詞(1)(2) (同第37・38課)
- 13-15. 総復習 (第30課から第38課まで) および総復習テスト

以上は受講者の達成度や前学期「ロシア語3」の進度に応じて多少前後する可能性があります。詳しくは開講時に指示します。

各課では文法解説、音読、グループワークによる露作文等の練習をおこないます。

#### <成績評価方法>

出席回数、小テスト（筆記・暗唱）、課題（書写）、総復習テストをもとに総合的に判断します。

#### <教科書・参考文献>

教科書は佐藤純一『NHK新ロシア語入門』NHK出版（CD付き）です。随時、補習教材を配布します。辞書については授業で案内します。

#### <受講に当たっての留意事項>

出席が極めて重要です。出席回数を重視します。

語学は積み重ねです。あとでまとめてやることは不可能です。毎回の着実な復習が大事です。授業に出るだけで勝手にできるようになることはありません。教科書添付のCDを活用し、日常生活の中でロシア語を聞き、読み、書く時間を確保してください。小テストは必ず復習してください。

間違いを恥じてはいけません。楽しく取り組むのは大事ですが、他の受講者の間違いを笑ってはいけません。わからないことはいつでも遠慮なく質問してください。

みなさんの積極的な取り組みを期待しています。

#### <学習到達目標>

教科書の基本例文を完全に習得すること。教科書の読本教材（テキスト部分）を自在に読めるようになること（文意を理解し、音読できること）。受講後に語彙が増えたと実感できること、手持ちの知識を活かして積極的にロシア語で表現（話す・書く）してみることに、ロシア語学習が楽しいと思えるようになること、以上が目標です。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	ロシア語4B		前	ライサ プラーソル
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

ロシア語1・2・3 基礎文法の導入に引き続き、名詞と代名詞の格変化、形容詞の変化・短・長語尾形などに対する理解を深める。「話す」、「聞く」能力を身に付けるための訓練には十分な時間を割く。授業の目的はロシア語会話能力の育成にある。学習者が外国旅行等の際に必要なに応じて簡単な会話ができるように授業を計らうつもりである。テキストだけでなく、ロシア文化の基礎知識を養うために、映画や教材ビデオ等を利用する。

<各回毎の授業内容>

- 1-2 テキスト第33課 形容詞変化のまとめ
- 3-4 テキスト第34課 代名詞変化のまとめ
- 5-6 テキスト第35課 形容詞の短語尾形
- 7-8 テキスト第36課 所有の表現とその否定
- 9 中間テスト
- 10-11 テキスト第37課 関係代名詞(1)
- 12-13 テキスト第38課 関係代名詞(2)
- 14-15 テキスト第39課 名詞的従属文(1)
- 16 末期テスト

<成績評価方法>

授業出席率は15%、宿題の実施率は15%、中間テストは20%、期末試験は50%という計算で最終評価を与える。

<教科書・参考文献>

佐藤純一著、新ロシア語入門、NHK出版  
基礎ロシア語コース・会話編等のプリントを教員が配布する。

<受講に当たっての留意事項>

欠席率が授業数3部の1を超えると受験資格がなくなる。宿題が毎回出る。

<学習到達目標>

ロシア語の高度な文法を習得し、会話能力を身につけることを目標とする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	中国語4A		前	小林元裕（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

2年までに学んだ中国語の基礎を堅固にし、読解能力を中級レベルに高める。語学を単に学ぶのではなく中国語の学習を通じて中国文化（中国人の考え方、習慣、生活）への理解を深める。

<各回毎の授業内容>

1. はじめに－初級文法のポイント・復習
2. 教育的公平(1)
3. 教育的公平(2)
4. 就業難(1)
5. 就業難(2)
6. 年轻人婚恋观的变化(1)
7. 年轻人婚恋观的变化(2)
8. 房奴(1)
9. 房奴(2)
10. 中国語検定対策－過去問題の分析及び問題練習 1
11. 中国語検定対策－過去問題の分析及び問題練習 2
12. 众多的股民(1)
13. 众多的股民(2)
14. 城市里的消费热(1)
15. 城市里的消费热(2)
16. 試験

<成績評価方法>

授業中に行う確認テスト及び定期試験によって評価する。3分の2以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

<教科書・参考文献>

孟広学・本間史『変化する中国』白水社（2100円＋税）を予定しているが、変更する場合がありますので、掲示等をよく確認すること。

<受講に当たっての留意事項>

中日辞典を必ず携帯すること。

<学習到達目標>

「読む」「聞く」「話す」のバランスのとれた中国語の習得を目指す。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	中国語 4 A		前	朱 継性
21年度以前	専 門					

選択必修

**<授業目的>**

この授業は中国語の聴解力、会話力、読解力、作文力などの総合的運用能力を高め、中国語検定試験4～3級合格を目指します。

中国語と日本語の異同についての説明及び通訳、翻訳の訓練においても、日本語の使用を最小限にしますが、単語、本文と文法の説明及び討論会、発表会と授業での指示を基本的に中国語で行います。

**<各回毎の授業内容>**

- |                           |               |
|---------------------------|---------------|
| 1. 命令表現                   | 2. 願望表現       |
| 3. 推量表現                   | 4. 比較表現       |
| 5. 否定表現                   | 6. 比喩表現       |
| 7. 可能表現                   | 8. 可能助動詞と可能補語 |
| 9. 受身表現                   | 10. 使役表現      |
| 11. 時量補語                  | 12. 結果補語      |
| 13. 程度補語                  | 14. 方向補語      |
| 15. 総合練習（中国語検定試験とHSKについて） |               |

**<成績評価方法>**

平常点と期末試験によって判定。平常点（小テスト、発表会、宿題）40%、期末試験60%。  
5回以上無断欠席した者は失格。

**<教科書・参考文献>**

教科書:授業中に指示します。

参考書:『講談社 中日辞典』相原茂編集 2002年（第二版）

『講談社 日中辞典』相原茂編集 2006年（初版）

**<受講に当たっての留意事項>**

毎回必ず予習して出席すること。積極的に質問すること。大きな声で返事すること。宿題をちゃんとやること。

**<学習到達目標>**

中国語運用の基礎的能力を獲得すること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	中国語 4 B		前	小林元裕（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

2年までに学んだ中国語の基礎を堅固にし、会話と読解を実用的なレベルにまで高める。語学を単に学ぶのではなく中国語の学習を通じて中国文化（中国人の考え方、習慣、生活）への理解を深める。

<各回毎の授業内容>

1. はじめに－「中国語 3」復習
2. 温故知新(1)
3. 温故知新(2)
4. 说变就变(1)
5. 说变就变(2)
6. 百闻不如一见(1)
7. 百闻不如一见(2)
8. 一见钟情(1)
9. 一见钟情(2)
10. 中国語検定対策－過去問題の分析と問題練習(1)
11. 中国語検定対策－過去問題の分析と問題練習(2)
12. 中国語検定対策－過去問題の分析と問題練習(3)
13. 各有千秋(1)
14. 各有千秋(2)
15. まとめ
16. 試験

<成績評価方法>

授業中に行う確認テスト及び定期試験によって評価する。3分の2以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

<教科書・参考文献>

崎原麗霞『ひとめぼれ中国語』朝日出版社（2100円＋税）

<受講に当たっての留意事項>

中日辞典を必ず携帯すること。

<学習到達目標>

実際に「話せる」中国語のマスターを目指し、言葉の背景にある文化に対する理解を深める。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	中国語 4 B		前	寺沢一俊
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

中国語のテキストを中心に市場経済を急ピッチで推し進める中国社会に起きている様々な変化について学び、中国語の新聞・ニュース・報道番組などに対応できる能力を養う。

<各回毎の授業内容>

- 1～3. 「北方与南方」
- 4～6. 「語言」
- 7～8. 「少数民族」
- 9～10. 「中国人的住宅」
- 11～12. 「中国在变」
- 13～14. 「双方選択」
15. まとめ

<成績評価方法>

出席が2/3以上の者に定期試験を受ける資格を与える。成績評価は小テスト・レポート・出席率・定期試験の結果を総合的に判断する。

<教科書・参考文献>

教科書:『China Now』村松恵子・董紅俊著 白帝社 (1600円+税)

参考文献:講義中に紹介する。

<受講に当たっての留意事項>

必ずテキスト付属のCDを聞くこと。予習をする際には本文を朗読すること。学んだ中国語文は繰り返し朗読をして暗誦すること。暗誦した文はピンインと漢字で書けるようにすること。

<学習到達目標>

市場経済の中で起きている様々な変化について中国語で理解できるようにしたい。さらにその変化の原因について考えてみる。さらに新たな社会現象を象徴するような語彙については、中国語で簡単なコメントができるようにしたい。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	韓国語 4 A		前	申 銀珠（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

中級レベルの語彙・文型・会話・読解力を総合的に向上させることを目的とする。今までより高度な文法や語彙、多様な表現を学習し、コミュニケーション能力を向上するため、授業では教科書の語彙や文法項目を重点的に取り扱い、教室以外でできることは自習にする。教室では、なるべく学んだことを実際に使用する練習を行うことにする。会話だけでなく、日記・手紙・エッセーなどを書かせ作文力を向上させる。中級レベルの誤用例などをいっしょに学習する。韓国語で授業を行う。

<各回毎の授業内容>

1. 제 1 과 첫인상
2. 제 1 과 첫인상
3. 제 1 과 첫인상
4. 제 1 과 첫인상
5. 제 1 과 첫인상
6. 제 2 과 취미
7. 제 2 과 취미
8. 제 2 과 취미
9. 제 2 과 취미
10. 제 2 과 취미
11. 제 3 과 직장 생활
12. 제 3 과 직장 생활
13. 제 3 과 직장 생활
14. 제 3 과 직장 생활
15. 제 3 과 직장 생활

<成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。課題、小テストを成績評価に加える。

<教科書・参考文献>

『韓国語中級 I』(国際教育院韓国語教育部、慶熙大学校出版局)

<受講に当たっての留意事項>

予習と復習をしっかりとやること。授業はペアワークやグループ活動が多いので、学生たちの積極的な態度が求められる。

<学習到達目標>

中級レベルの読み書き・会話ができるようにしたい。「韓国語能力試験」「ハングル能力検定試験」3級合格を目標とする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	韓国語 4 A		前	金 世朗
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

外国語を学ぶということはその国の文化や社会についても学ぶことです。この授業では今まで学習してきた韓国語の知識を活かし、韓国の文化や社会に関するさまざまなテーマの資料を読んで、それについて考え、(日本のそれと比較しながら) 意見を交わすことによって韓国語のさらなる上達を目的とします。

<各回毎の授業内容>

1. 韓国の大学生生活
2. 韓国の大学生生活
3. 韓国の大学生生活
4. まとめ
5. 韓国の食事マナー
6. 韓国の食事マナー
7. 韓国の食事マナー
8. まとめ
9. 韓国人の感情表現
10. 韓国人の感情表現
11. 韓国人の感情表現
12. まとめ
13. 韓国の結婚式
14. 韓国の結婚式
15. 韓国の結婚式
16. 定期試験

<成績評価方法>

授業態度（発言など）、課題、個人発表、定期試験（+小テスト）

<教科書・参考文献>

教科書は使用せず、授業中に資料を配布します。

<受講に当たっての留意事項>

学生が中心になって行われる授業です。授業中は積極的な態度が求められます。

<学習到達目標>

授業でやっていることを理解し、自分の考えていることを韓国語で十分に表現できるようになることです。また、授業を通してそれが自分の国の文化や社会についても考える機会になってほしいです。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	韓国語 4 B		前	吉澤文寿（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

韓国語 1～3までの学習を簡単に復習してから、文法事項を中心に学習の要点を整理する。日本で出版されたテキストを用いて、日本語を母語とするものの特性を生かした言語学習を通して、初級段階の語学力を完成させることを目指す。

<各回毎の授業内容>

1. 韓国語 3 の復習
2. 7 課 少し安くしてください。(その1)
3. 7 課 少し安くしてください。(その2)
4. 8 課 私の気持ちですから受け取ってください。(その1)
5. 8 課 私の気持ちですから受け取ってください。(その2)
6. 9 課 咳がひどくて眠れませんでした。(その1)
7. 9 課 咳がひどくて眠れませんでした。(その2)
8. 7～9 課の復習
9. 10 課 字幕を見ながら勉強します。(その1)
10. 10 課 字幕を見ながら勉強します。(その2)
11. 11 課 今日は来られないそうです。(その1)
12. 11 課 今日は来られないそうです。(その2)
13. 12 課 久しぶりに来てみて、どうですか?(その1)
14. 12 課 久しぶりに来てみて、どうですか?(その2)
15. 10～12 課の復習
16. 定期試験

<成績評価方法>

出席が 2 / 3 以上の者に期末試験の受験資格を与え、成績は期末試験の結果で評価する。なお、宿題、小テストなどを成績評価に加える。

<教科書・参考文献>

金順玉・阪堂千津子・崔榮美『ちょこっとチャレンジ！韓国語』白水社、2011年、定価：2400円＋税

<受講に当たっての留意事項>

前学期に引き続き、学習項目を着実に習得してほしい。宿題も随時出したい。

<学習到達目標>

韓国語による表現を楽しみつつ、基礎的な語学能力を完成させ、実践的に韓国語を活用できるようになることを目指す。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	韓国語4B		前	朴 修禧
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

韓国語1, 2, 3で学習した基本語彙、基礎文法をもとに、連語、語句などを加え、自然な会話ができるように多様な文型練習、発話練習を行う。授業中、具体的な場面を設定し、学習者にスキットを演じてもらう。基本の韓国語を習得しながら 韓国の文化に自然に触れることによって、韓国を理解することと同時に、国際人としての資質を整えることを目的とする。

<各回毎の授業内容>

1. 제 4 과 아직 일이 안 끝났어요.
2. 제 4 과 아직 일이 안 끝났어요.
3. 제 4 과 아직 일이 안 끝났어요.
4. 제 4 과 아직 일이 안 끝났어요.
5. <復習>
6. 제 5 과 너무 바빠서 못 갔어요.
7. 제 5 과 너무 바빠서 못 갔어요.
8. 제 5 과 너무 바빠서 못 갔어요.
9. 제 5 과 너무 바빠서 못 갔어요.
10. <復習>
11. 제 6 과 선생님 좀 바꿔 주세요.
12. 제 6 과 선생님 좀 바꿔 주세요.
13. 제 6 과 선생님 좀 바꿔 주세요.
14. 제 6 과 선생님 좀 바꿔 주세요.
15. <復習>
16. 期末試験

<成績評価方法>

期末試験 (70%) 課題 (20%) 出欠 (10%)

<教科書・参考文献>

『아름다운 한국어1-3』(韓国語教育開発研究員、아름다운 한국어학교)

<受講に当たっての留意事項>

1. 一つの言葉を覚えるだけでなく、隣の国と人を理解しようとする開いた心を構えること。
2. ただ受け入れるのではなく、自分で何かを積極的に探ろうとする姿勢を取ること。
3. 母国語以外の言葉を覚えることは、人生を広げることであるのを忘れないこと。

<学習到達目標>

韓国語の基本の会話が可能になる。韓国語の基本の文章が作れる。現代の韓国及び韓国文化が理解出来る。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	アメリカ英語4A		前	本間多香子
21年度以前	専 門					
<p>選択必修</p> <p>&lt;授業目的&gt; TOEIC試験対策のテキストを使い、リスニングとリーディングの演習を行う。また文法、語彙の復習をし、定着を図る。</p> <p>&lt;各回毎の授業内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Chapter1</li> <li>3. Chapter 2</li> <li>4. Chapter 3</li> <li>5. Chapter 4</li> <li>6. Practice Test</li> <li>7. Chapter 5</li> <li>8. Chapter 6</li> <li>9. Chapter 7</li> <li>10. Chapter 8</li> <li>11. Practice Test</li> <li>12. Chapter 9</li> <li>13. Chapter 10</li> <li>14. Chapter 11</li> <li>15. Chapter 12</li> <li>16. 試験</li> </ol> <p>&lt;成績評価方法&gt; 定期試験60% 小テスト、授業への取り組み度等40%</p> <p>&lt;教科書・参考文献&gt; 狩野紀子他著 TOEIC Test: Down to Business (南雲堂) 必要に応じて、配布物で問題演習を行う。</p> <p>&lt;受講に当たっての留意事項&gt; 欠席が3分の1以上になると試験を受ける資格を失う。 遅刻2回で欠席1回 毎回辞書を必ず持参すること。</p> <p>&lt;学習到達目標&gt; 集中して問題に取り組み、TOEICの得点を上げるコツを掴めるようになる。</p>						

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	3年	アメリカ英語4A・B		前	デロシェ ジェラルド
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

The object of this course is to encourage the students to communicate freely in English. It will be structured course and guidance. It is hoped that the students will be able to speak without hesitation and state their opinions. It is hoped that the classroom environment will be tension free to encourage the students to master English communication.

<各回毎の授業内容>

1. Course explanation and an English activity.
2. Listen In # 2 David Nunan plus reading comprehension and aural grammar speaking exercises.
3. Bomb a 3 part exercise that teaches about locations, finding differences, and explaining how to do things.
4. Bomb continue
5. Listen In # 2 David Nunan plus reading comprehension and aural grammar speaking exercises.
6. Wandering tourist- A travel activity dealing with directions, money, hotels.
7. Puzzle- a vocabulary exercise.
8. Listen In # 2 David Nunan plus reading comprehension and aural grammar speaking exercises.
9. Stakeout-physical descriptions and explaining movements.
10. Stakeout-continue
11. Listen In # 2 David Nunan plus reading comprehension and aural grammar speaking exercises.
12. Mr. Brown and Mrs. Green-a discussion and debating activity.
13. What get's the money- a budgetary exercise activity dealing with country issues.
14. What get's the money-continue
15. Listen In # 2 David Nunan plus reading comprehension and aural grammar speaking exercises.
16. Final Test-based an Listen In # 2 and grammar speaking exercises.

<成績評価方法>

Final Test 40% Class participation and including attendance 60%.

<教科書・参考文献>

Prints will be provided.

<受講に当たっての留意事項>

The students who participate and come to class will be very successful.

<学習到達目標>

The students who participate and come to class will be very successful.

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	アメリカ英語4B		前	本間多香子
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

上級者向けのTOEIC試験対策のテキストを使い、リスニングとリーディングの演習を行う。

<各回毎の授業内容>

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Review Test 1, Practice Test
7. Unit 5
8. Unit 6
9. Unit 7
10. Unit 8
11. Review Test 2, Practice Test
12. Unit 9
13. Unit 10
14. Unit 11
15. Unit 12
16. 試験

<成績評価方法>

定期試験60% 小テスト、授業への取り組み度等40%

<教科書・参考文献>

大賀リエ他著 TOEIC Test : On Target <Book 2> (南雲堂2100円)  
必要に応じて、配布物で問題演習を行う。

<受講に当たっての留意事項>

欠席が3分の1以上になると試験を受ける資格を失う。  
遅刻2回で欠席1回  
毎回辞書を必ず持参すること。

<学習到達目標>

集中して問題に取り組み、TOEICの得点を上げるコツを掴めるようになる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	日ロ関係論	2	前	小澤治子（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

この科目のねらいは、日本人とロシア人の出会いから始まり、領土問題、安全保障体制、経済協力、姉妹都市交流など様々な角度から、日ソ・日ロ関係の歩みを考察することによって、両国関係についての理解を深め、今後の日ロ関係のあり方を考える視点を養うことである。

<各回毎の授業内容>

- 1 日本とロシアの出会い
- 2 帝政ロシア時代の日露関係
- 3 ロシア革命と日ソ関係(1)——連合国のシベリア出兵を中心に
- 4 ロシア革命と日ソ関係(2)——日ソ国交樹立との関連で
- 5 第二次世界大戦と日ソ関係——日本の戦後処理問題との関連で
- 6 日ソ国交回復と領土問題
- 7 日米・日中関係とソ連
- 8 極東シベリア開発プロジェクトの進展と日ソ関係
- 9 ペレストロイカと日ソ関係(1)
- 10 ペレストロイカと日ソ関係(2)
- 11 ソ連解体と日ロ関係(1)
- 12 ソ連解体と日ロ関係(2)
- 13 日ロ関係における新潟市
- 14 日ロ関係の現状と展望(1)
- 15 日ロ関係の現状と展望(2)

<成績評価方法>

学期末試験の結果を中心に成績評価を行うが、授業ごとに提出するコメントペーパーも参考にする。

<教科書・参考文献>

教科書は特に指定せず、講義内容についてのプリントを毎回配付する。参考文献は講義の中で随時紹介するが、次ぎの4冊が特に有用である。

長谷川毅『北方領土問題と日露関係』 筑摩書房 2000年。

木村汎『遠い隣国 ロシアと日本』 世界思想社 2002年。

横手慎二編『東アジアのロシア』 慶應義塾大学出版会 2004年。

東郷和彦『北方領土交渉秘録』 新潮社 2007年。

<受講に当たっての留意事項>

授業の際には遅刻と私語は厳禁です。その他最低限のモラルを守って下さい。

<学習到達目標>

日ソ、日ロ関係の歩みを学ぶことを通じて、今後の日本とロシアの外交関係、また交流のあり方を考える視点を養う。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	日中関係論	2	前	小林元裕（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

世界経済が混迷するなか、高度成長を維持していた中国経済にもその影響が出始めたように見える。2010年にGDPで日本を追い抜き、世界第2位の経済大国となった中国。中国は今後どうなるのだろうか。日本には中国からの輸入品で満ち溢れている。食品、衣服、雑貨、電気製品等々。私たちの生活はこれら中国製品を抜きにして成り立たない。現在および将来の日中関係を身近な題材から考え、とくに「歴史問題」に対する認識と理解を深める。

<各回毎の授業内容>

1. はじめに－現在の日中関係を考える
2. 対中、対日感情－日本からみた中国、中国からみた日本
3. 日中に横たわる問題－「領土」問題、資源問題、そして歴史問題
4. 経済からみた日中関係(1)
5. 経済からみた日中関係(2)
6. 政治からみた日中関係(1)
7. 政治からみた日中関係(2)
8. 日中の近現代150年(1)
9. 日中の近現代150年(2)
10. 日中の近現代150年(3)
11. 日中の近現代150年(4)
12. 歴史問題
13. 新潟と中国1－新潟から中国へ
14. 新潟と中国2－中国から新潟へ
15. 将来の日中関係を考える
16. 試験

<成績評価方法>

学期末の試験および授業中の課題（コメント・感想文）によって評価する。3分の2以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

<教科書・参考文献>

その都度プリントを配布する。

参考文献：読売新聞中国取材団『メガチャイナ』中公新書（740円＋税）

<受講に当たっての留意事項>

必ず1週間の新聞報道（日中関係）に目を通したうえで授業に出席すること。

<学習到達目標>

事実に基づき、冷静に日中関係を分析するための基礎知識を習得する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	日韓朝関係論	2	前	吉澤文寿（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

この講義は1年次の「アジアと日本」(朝鮮と日本編) および「韓国朝鮮史概説」の内容をふまえて、植民地支配と南北分断の問題をテーマとして、おもに1945年から現在までの日本と南北朝鮮との関係を考察することにより、朝鮮現代史および日朝関係史を連関させて理解することを目指す。

<各回毎の授業内容>

1. 講義の概要、レポート作成および参考文献案内
2. 問題の所在(1)…植民地支配をどのように問うのか
3. 問題の所在(2-1)…朝鮮の「解放」、そして分断体制の成立
4. 問題の所在(2-2)…朝鮮戦争、そして日本との関係について
5. 問題の所在(3)…在日朝鮮人の形成(1945～1952年)
6. 在日朝鮮人帰国事業～1950年代の日朝関係
7. 日韓国交正常化(1965年)
8. 米中和解と南北対話の開始～南北共同声明(1972年)をめぐる展開を中心に
9. 1970・80年代の日本と南北朝鮮～経済と人権の問題を中心に
10. 在日朝鮮人の権利問題の展開～1970・80年代を中心に
11. 脱冷戦と南北対話の再開(1987～現在)
12. 韓国における過去清算と日本～「親日派」問題を中心に
13. 脱冷戦期の日本と南北朝鮮～戦後補償および日朝交渉を中心に
14. 脱冷戦期の在日朝鮮人と日本社会
15. まとめ…現在の日本と南北朝鮮との関係と私たちの課題

<成績評価方法>

レポートによって成績評価をする。ただし、選択必修の講義科目としては最後になるので、完成度の高いレポートを求めたい。

<教科書・参考文献>

教科書は使用しない。講義時にレジユメを配布する。

<受講に当たっての留意事項>

本講義を理解する上で、「アジアと日本」および「韓国朝鮮史概説」を履修しておくことが望ましい。

<学習到達目標>

受講者が日本と南北朝鮮との関係の概要を習得したうえで、1) みずからの関心に即してテーマを設定し、2) そのテーマに即した文献および資料を収集および分析し、3) 一定の結論に到達できることを目指す。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	日米関係論	2	前	中村起一郎
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

強大な軍事力と経済力を背景に、独特の外交理念をふりかざす超大国アメリカ。対テロ戦争や経済危機、地球環境問題などの例をみても、アメリカとどのように付きあうかは、世界の主要国にとって頭の痛い問題である。もちろん日本もそのことに長く頭を悩ませてきた国の一つだ。時に積極的に、時に苦渋の決断を迫られながら、いくつもの選択が積み重なって現在の日米関係が作られている。

この講義では、現在の日本外交の基軸となっている日米の同盟関係がどのように形成されてきたのか、主に政府レベルの政策決定過程に焦点を当てながら分析する。高校時代の日本史、世界史、大学で学んだ日本政治や国際政治などの知識を利用しながら、日米関係が日本と世界にとってどのような意味を持っているのかを考えたい。

<各回毎の授業内容>

- 1 - 2. 日本の帝国主義外交とアメリカ
- 3 - 4. 日米戦争
- 5 - 6. 占領と冷戦——敵国から同盟国へ
- 7 - 8. 日米同盟の形成と深化
- 9 - 10. 日本の経済成長と日米関係の変容
- 11 - 12. 東アジアの政治変動と日米同盟
- 13 - 15. 日米同盟の諸問題
16. 試験

<成績評価方法>

学期末試験によって評価する。若干の平常点を加味することがある。

<教科書・参考文献>

教科書は特に指定しない。参考文献は講義中に適宜紹介するが、日本外交の流れを追うのに有用な概説書として、次のものを挙げておく。

- 五百旗頭真・編『日米関係史』有斐閣、2008年
- 五百旗頭真・編『新版 戦後日本外交史』有斐閣、2006年
- 井上寿一『日本外交史講義』岩波書店、2003年
- 細谷千博『日本外交の軌跡』NHK ブックス、1993年

<受講に当たっての留意事項>

日本政治史、国際政治学、国際政治史、アメリカ史概説を受講済または受講中であることが望ましい。私語は厳禁。質問は授業中でも授業の前後でも歓迎します。

<学習到達目標>

日本外交において日米関係はどのような意味を持っているのかを、多面的に考えられるようにする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	日本語学	2	前	佐々木香織
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

この授業では、個々人が日本語とはどのような言語であるかを考え、理解するための様々な視点を提供します。日本語に対する内省力、分析力を高め、言葉と社会の関係を見つめ直すことが最大の目的です。また、授業中の活動を通じて、文章表現力やコミュニケーション力などの言語運用力の向上も目指します。

#### <各回毎の授業内容>

\*順番は前後する場合があります。

1. 日本語のプロフィール:日本語はどんな言語か
2. 日本語の多様性:地理的、歴史的な位相
3. 方言調査をやってみよう。
4. 「標準語」と「方言」:言葉の使分けとアイデンティティー
5. 日本語の歴史的変化1:万葉仮名の世界
6. 日本語の歴史的変化2:懐かしき古典文法
7. 日本語の歴史的変化3:「南蛮人」の見た日本語
8. 日本語の歴史的変化4:日本語の近代化
9. 音声から見た日本語:英語の発音が苦手な理由。
10. 文字・語彙から見た日本語:漢字は必要か?
11. 日本語の文法1:さまざまな文法
12. 日本語の文法2:外国人からみた日本語文法
13. 「文」を超える文法・「文字」で表せない文法
14. 「無意識」のコミュニケーション
15. 日本社会・国際社会と日本語

#### <成績評価方法>

授業の最後5分程度でコメントを書いてもらいます。毎回のコメントカードも宿題の小レポートとともに、評価対象です。出席回数、コメントカードの内容、小レポート、期末レポートで総合評価します。決められたレポートを出さない人や、8回以上休んだ人は評価の対象外です。

#### <教科書・参考文献>

特定のテキストは使用しませんが、資料を配布します。

参考文献『日本語（上・下）』金田一春彦（岩波新書<赤表紙>）、『日本語と外国語』鈴木孝夫（岩波新書<赤表紙>）、『ことばと文化』鈴木孝夫（岩波新書<緑表紙>）、『標準語の成立事情』真田真治（PHP文庫）、『国語元年』井上ひさし（新潮社）、『日本語ウォッチング』井上史雄（岩波新書<赤表紙>）、『日本語は年速1キロで動く』井上史雄（講談社現代新書）、『日本語の歴史』山口仲美（岩波新書<赤表紙>）。『多民族化社会・日本』渡戸一郎他編著（明石書店）

#### <受講に当たっての留意事項>

グループでの話し合いや作業の時間を設けることがあります。積極的に参加してください。教科書は指定しませんが、日本語に関する文献を読んで、視野を広げるチャンスとしてください。上記参考文献は一般の図書館でも入手可能です。是非読んでください。

#### <学習到達目標>

この授業の最大の目標は、自分たちが使っている言葉についての内省力を高め、客観的に日本語を観察する力をつけ、外国語学習にも役立てられるようにすることです。そして、外国人に日本語について聞かれた時、自信を持って自分の言葉で説明したり、適切な用例を挙げたりできるようになってほしいと思います。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	地球社会と人権	2	前	黒田俊郎
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

かつてフランスの思想家シモーヌ・ヴェーユは、権利と義務との関係について次のように語ったことがあります。

義務の観念は権利の観念に優先する。権利の観念は義務の観念に従属し、それに依存する。一つの権利はそれ自体として有効なものではなく、その権利と対応する義務によってのみ有効となる。一つの権利が現実に行使されるにいたるのは、その権利を所有する人間によってではなく、その人間にたいしてなんらかの義務を負っていることを認めた他の人間たちによってである（『根をもつこと』より）。

この授業では、以上のヴェーユの言葉を念頭に置きながら、今年度も昨年度に続いて米国の国際政治学者スタンレー・ホフマンの著書『国境を超える義務』（1981年）をテキストとして、地球社会と人権について多角的に考察したいと思います。ホフマンの著書には邦訳（1985年）がありますが、残念ながら現在は絶版です。そこで同書の内容を適宜要約したレジュメを作成し、それに基づいて授業を進めていきます。また授業のなかでは、ホフマンの提示する論点を今日の世界の具体的な事例のなかで考えていくこともする予定です。

**<各回毎の授業内容>**

1. 倫理と国際関係:序論
2. 国際関係における道徳的問題
3. 外交政策行動における倫理
4. 武力行使:飼いならせぬものを飼いなす営為
5. 国家と戦争の道徳性
6. 市民と戦争の道徳性
7. 人権とは何か:人権の推進
8. 人権政策に対する賛否
9. 何がなされるべきか
10. 国際的不正義:配分的正義の諸問題
11. さまざまな義務
12. 診断と処方
13. 世界秩序の倫理学:世界秩序という問題
14. 国家間システム
15. 人間たち
16. (必要に応じて) レポート/筆記試験

**<成績評価方法>**

国際政治の専門書をテキストとして使う授業なので受講生は少人数であることが予想されます。そこで、受講生が少数の場合は、評価は平常点（出席と授業参加の度合い）のみで行うか、それとも平常点と学期末レポートを組み合わせで行うかを授業を具体的に進めていくなかで検討します。予想に反して受講生が多数の場合は、学期末の筆記試験で行う予定です（その場合は、出題形式は論述で持ち込みは不可です）。受講生が上記の中間の場合（つまりそこそこいたときは）、平常点、レポート、筆記試験を組み合わせることを検討します。つまり評価の方法は、受講生の多寡によって決まりますので、開講時まで不確定ということになります。この点、ご注意ください。

**<教科書・参考文献>**

上記したとおり、テキストの邦訳は絶版なので、購入は義務づけません。毎回、レジュメ・資料等を配付し、参考文献も適宜紹介します。

**<受講に当たっての留意事項>**

とくにありません。

**<学習到達目標>**

ホフマンの議論を手がかりとして、地球社会と人権をめぐる論点を理解し要約できること。また個々の論点ごとに自分の意見を論理立てて説明できること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	現代エネルギー論	2	前	澤口晋一（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

福島第一原発で発生した水素爆発事故によって、大量の放射性物質が日本列島のみならず地球の広い範囲に拡散しました。この事故によって発電所周辺には人の立ち入りが禁止された区域が設定され、数万人にのぼる人たちが今なお不便な避難生活を余儀なくされています。さらに、ほとんど把握が困難なほど多くの人々が被曝しました。しかし、日本政府や原子力政策を推進してきた人たちは、ほとんど他人事のような言説を繰り返すだけです。確かに日本はエネルギーのほとんどを輸入に頼っており、エネルギー安全保障的な観点からみれば、原発は必要だという主張は正しいかのように響きます。しかし、エネルギーはなぜ必要かと言えば、それは結局は人の生活を守るためです。国家や経済のためではありません。人の生活があって国家や経済が成り立つわけで、人のいないところに国家も経済もありはしないのです。ところが、今回の事故から明らかなように、原発がひとたび事故を起こせば人の生活など根本から崩れ去ってしまいます。少し間違えば経済も取り返しのでないぐらいのダメージを受けた可能性もあります。本当にこんなものに頼ったまま将来を考えてよいのでしょうか。今こそ、エネルギー需給のありかたを全面的に見直す時ではないのでしょうか。

ところで、あまり知られていないのですが、日本の原子力発電所は核燃サイクルという大きな工程の中の一部門にすぎません。日本の原子力問題は、この核燃サイクルというものの仕組みと考え方に対する理解がなければ何も語れません。福島第一原発の事故もこの核燃サイクルの文脈に位置付けてみる必要があります。この授業では、世界最大の原子力発電所を抱える新潟県に住まう皆さんが、これから日本の原子力政策さらにはエネルギー政策を批判的に考えていく際の基本的知識として身につけておかなければいけない事項をできるだけ詳細に解説します。

<各回毎の授業内容>

1. 現代のエネルギー問題、地球環境問題
2. エネルギー資源とその種類
3. 核燃サイクル政策の現状と問題点
  - 1) 原子力問題の枠組み
  - 2) 世界の原子力発電の現状
  - 3) 放射線被曝に関する問題
  - 4) 原子力発電の種類と仕組み
  - 5) 日本の原子力問題の概要（何が問題なのか）
  - 6) 核燃サイクルとは何か
    - i. 全体像 ii. 「六ヶ所村」 iii. 再処理 iv. プルサーマル v. 高速増殖炉
    - vi. 放射性廃棄物（特に、高レベル放射性廃棄物の地層処分問題をめぐって）
    - vii. 海外委託と放射性物質の運搬（5週予定）
4. 福島第一原発事故—経緯と放射性物質汚染—
5. チェルノブイリ原発事故とその後
6. まとめ

<成績評価方法>

レポート、出席を総合して評価します。

<教科書・参考文献>

テキストは使用しないが、参考文献として下記文献を購入することを勧めます。

広瀬 隆・藤田祐幸（2000）『原子力発電で本当に私たちが知りたい120の基礎知識』東京書籍。¥1600。

高木仁三郎（2000）『原発事故はなぜくりかえすのか』岩波新書。¥735。

<受講に当たっての留意事項>

授業中は私語厳禁です。突っ伏して寝ることも禁止します。携帯電話については毎回授業の最初に電源を切ったことを確認してから始めます。

<学習到達目標>

日本の原子力政策の現状と問題点の把握を基礎に、将来のエネルギー利用とそれに派生する問題について自ら考えられるようになること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	国際協力論	2	前	松尾瑞穂（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

本講義では、「先進国」と「発展途上国」を成立させている世界システムについて学ぶとともに、国際協力が経済、社会開発において果たしている多様な役割を検討していく。まずは、国際協力とそれを成立させている世界の構造を理論的、歴史的に概観したのち、こうした「不平等」「格差」の是正を目指す日本の国際開発援助および国際機関の具体的な取り組みを紹介する。特に、2000年に定められた国連のミレニアム開発目標（MDGs）の項目を検討しながら、貧困や国際協力の重点分野について具体例を挙げ、検討する。そのうえで、開発がもたらす負の側面を検討し、国際協力の抱える課題について考察を深めていきたい。また、この授業では、国際協力の現場に詳しい専門家を外部講師として招くことを予定している。

**<各回毎の授業内容>**

1. はじめに一国際協力の概要
2. 国際協力の始まりとその展開
3. 世界システム論と第三（第四）世界
4. グローバリゼーション
5. ミレニアム開発目標（MDGs）とは
6. 貧困と食料危機
7. 初等教育の現状—教育とエンパワーメント
8. ジェンダー不平等—もっとも貧しい人は誰？
9. 保健の政治学—妊産婦・乳児死亡率
10. HIV／エイズと感染症
11. 環境と持続可能な開発
12. 国際協力に関わる組織—国際組織、政府、NGO
13. 日本の国際協力：ODAと円借款
14. オルタナティブな開発①—フェアトレードで世界は変わる？
15. オルタナティブな開発②—マイクロファイナンス
16. 試験

**<成績評価方法>**

小課題（30％）、レポートまたは期末試験（70％）

**<教科書・参考文献>**

内海成治編『国際協力を学ぶ人のために』、2005年、世界思想社。

**<受講に当たっての留意事項>**

この授業では、授業毎に課題が出され図書館での事前学習が必要な場合があります。日ごろから雑誌、新聞などに目を通し情報収集に努めてください。第三世界の現状に関心があり、もっと知りたいという知的な好奇心旺盛な学生を対象としていますので、課題をやってこない、欠席が多い等の場合には単位を与えませんので気をつけてください。

**<学習到達目標>**

国際協力の構造を把握し、発展途上国と先進国とのつながりを深く理解することができるようになる。国際協力についての基本的事項を理解し、自分なりの考えを持つことができる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	EU論	2	前	白井陽一郎（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

EU・欧州連合は国家どうしの合意によって生み出された地域統合組織である。そのかぎりでは数ある国際組織の一つにすぎない。ところが、EUは法を創ることができる。裁判所もあって法を破った加盟国は裁かれる。罰金も科せられる。議会もあって選挙で議員が選ばれる。国際条約も結べる。予算はロシアより多い。失業に苦しむ地域には資金援助もある。加盟国の国民にはEU市民権が与えられる。共同戦闘部隊や警察機構も整備されていきそうな気配だ。憲法という名の条約さえ提案された（失敗したが・・・）。EUとはそれゆえ、まさに国家の陽炎であるといえるかもしれない。しかしそれはどこまでも陽炎であって、国家としての実体は存在しない。そもそもEUは宣戦布告する主体でもされる客体でもありえない。ユーロ危機に際しては税金を取って再分配する財政当局の不在が問題になった。EUとはいったいどのような社会構成体なのであろうか。この前例なき政体はグローバル社会の中でどのようなプレゼンスを示しているのだろうか。講義では規範を作り出すマシンのような社会構成体・EUの仕組みを解説した上で、グローバル社会におけるその存在のあり方に迫っていく。

#### <各回毎の授業内容>

- 第1回：EUの政治体制——国際組織以上連邦国家未満の前例なき政体
- 第2回：EUの行動領域——非国家構造における国家的包括性
- 第3回：EUの機関構成——二つのバランス・EUと加盟国および大国と小国(1)
- 第4回：EUの法と政策——二つのバランス・EUと加盟国および大国と小国(2)
- 第5回：EUガバナンス——共同体方式とOMC方式
- 第6回：EUの予算制度——7年間のパッケージ
- 第7回：EUの対外関係——国際法・政治双方の主体性
- 第8回：EU規範パワー論——ヨーロッパ的価値の普遍性を追求するEU？
- 第9回：EU規制パワー論——グローバル・スタンダードを決定するEU？
- 第10回：事例①——世界標準化戦略
- 第11回：事例②——EUのグリーン・アイデンティティ
- 第12回：事例③——世界貿易機関（WTO）との関係
- 第13回：事例④——国際援助と平和構築
- 第14回：EU規制パワー論・まとめ
- 第15回：EUのこれから
- 第16回：定期試験

#### <成績評価方法>

学期末試験100%。

#### <教科書・参考文献>

遠藤・鈴木編『EUの規制力』日本経済評論社。

#### <受講に当たっての留意事項>

ノートをしっかり取って、試験前にきちんと復習することが大切。授業を通じて最新のEU情勢を紹介していくので、ニュースのフォローも確実に。また教科書の指定箇所は必ず読み込んでおくこと。

#### <学習到達目標>

EUの制度について習熟し、グローバル社会におけるその存在のあり方を批判的に分析できるようになること。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	国際組織論	2	前	佐々木寛（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

現在、「国際関係」は必ずしも単なる「国家間関係」ではない。それゆえ近年、従来の国家中心の国際関係論を補うべく、国際組織（国際機構）論が誕生し、国連やNATOのような政府間国際組織（IGO）や国際的環境運動などの非政府間国際組織（INGO）が国際関係の重要なアクター（行為主体）として分析されるようになった。ただ本講義では、これら無数の国際組織を単に法的・制度的にばらばらに理解するのではなく、世界で生起するダイナミックな政治現象の統一的文脈の中でとらえなおしてみたい。つまり、近代国家を横断する多様なアクター（行為主体）が重層的に織りなす「世界政治（global politics）」の視点から見た動的な国際組織論を目指す。

#### <各回毎の授業内容>

本講義では、単に「グローバル・ガバナンス（世界統治）」（世界の問題をいかにうまく管理・解決するか）の視点ではなく、特に「グローバル・デモクラシー（世界民主主義）」（世界の問題をいかに民主的に解決するか）の視点から多層化した国際的行為主体のあり方を考えてみたい。その際、できるだけ具体的な事例を検討する中から理論や概念を洗練できるよう努める。細目は限定しないが、以下の内容には触れる予定である。また、1度は21世紀の組織像に関するすぐれた映像資料を鑑賞する。

1. 国際組織とは何か [1回]
2. 国際政治学における機能主義・相互依存モデルの生成 [1回]
3. 「グローバリゼーション」と政治の重層化 [3回]
4. 「グローバル・ガバナンス」と「グローバル・デモクラシー」 [1回]
5. 地域主義と国際組織 [3回]
6. 世界政治と国際連合 [2回]
7. 安全保障問題と国際組織 [2回]
8. 国際NGOを考える [1回]

※+1回分、資料映像を鑑賞する時間に充てる。

#### <成績評価方法>

しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立てるだけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績によりすべての評価を決定し、出席も重視しないが、このコメントカードの内容は成績に加味する。つまり、試験当日万が一やむをえない事情で十分解答できなくとも、日常的な参加姿勢は成績に加味される。また、試験は、個別的な知識よりはそれをもとにした思考力（学期中にどれだけ考えたか）を重視した問題を出題する。

#### <教科書・参考文献>

教科書は、デヴィッド・ヘルド『デモクラシーと世界秩序』（NTT出版）。また、授業中、それぞれのサブテーマに即して随時参考図書を指定するので、参加者各自で思考を深めておいてほしい。必読参考文献として、小林誠・遠藤誠治編『グローバル・ポリティクス』（有信堂）を挙げておく。この他の参考文献の具体例としては、『AERA Mook 新国際関係学がわかる』（朝日新聞社）の中の「ブックガイド」を参照のこと。

#### <受講に当たっての留意事項>

内容的にかなり高度なことも含むので、知的好奇心が旺盛な学生の参加を望む。また、2年次に「平和学」を受講していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

様々な国際組織の機能やダイナミズムを理解することを通じ、現代の国際社会の実態をより深く理解する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	外国語文献購読1	2	前	矢口裕子（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

この授業は、特定のテーマに沿った専門性の高い英語文献を講読することにより、高度な英文読解能力と、特定のテーマ・分野において了解事項となっている知識の獲得をめざすものである。今年度は、「言葉・外国語学習・翻訳」をテーマの大枠とし、それと関連する3人のauthorのテキストを取り上げる。具体的には、(1)日本のみならずロシア・韓国・中国・アメリカをはじめ世界各国で読者を獲得し、現在最も国際的知名度のある日本文学者にして、アメリカ文学の熱心な翻訳者でもある村上春樹(2) 20歳を過ぎてから「日本語と恋に落ち」、学び始め、現在は日本に住みながら日本語で詩やエッセイを多数執筆、中原中也賞を受賞した詩人アーサー・ビナード(3) インドからアメリカへ移住、英文学、フェミニズム・ジェンダー批評、ポストコロニアル研究等諸分野で圧倒的な影響力をもつとともに、フランスの思想家ジャック・デリダの翻訳・紹介でもめざましい仕事を収めたガヤトリ・スピヴァクの3名である。彼/女らのテキストを精読することにより、「言葉・外国語学習・翻訳」の秘密に迫りたい。

<各回毎の授業内容>

1. イントロダクション
2. 村上春樹のテキスト講読①
3. 村上春樹のテキスト講読②
4. 村上春樹のテキスト講読③
5. 村上春樹のテキスト講読④
6. アーサー・ビナードのテキスト講読①
7. アーサー・ビナードのテキスト講読②
8. アーサー・ビナードのテキスト講読③
9. アーサー・ビナードのテキスト講読④
10. ガヤトリ・スピヴァクのテキスト講読①
11. ガヤトリ・スピヴァクのテキスト講読②
12. ガヤトリ・スピヴァクのテキスト講読③
13. ガヤトリ・スピヴァクのテキスト講読④
14. ガヤトリ・スピヴァクのテキスト講読⑤
15. まとめと復習

<成績評価方法>

授業への準備・貢献・期末試験／レポート等を総合的に評価する。

<教科書・参考文献>

プリントを配布。

<受講に当たっての留意事項>

十分な予習は必須である。テキストの音読、読解、文法理解はもちろん、できれば背景となる知識・思想なども調べ、考えた上で授業に臨んでほしい。

<学習到達目標>

「言葉・外国語学習・翻訳」というテーマについて、人種・国籍・母語の異なる三人の作家たちがどのような考えをもっているかを知り、われわれが外国語を学ぶ意味を考えると同時に、授業のなかで翻訳の実践を試みることに。

# 4年文化専門科目（前期）

ロシア語 6  
中国語 6  
韓国語 6  
アメリカ英語 6

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	4年	ロシア語6	1	前	ライサ プラーソル
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

ロシア語会話における新しい文法形態、語彙、その利用について学習する。コミュニケーションと発音の技能、ロシア語の会話を聞き理解する能力を向上する。日常会話に関連した短い文の読み書き能力を発展させる。いくつかのロシアの象徴と生活習慣を学習する。毎回、時間を割いて映画、歌、アニメ、現代ロシア文化を紹介する。

<各回毎の授業内容>

- 1 Урок 8(1) 日常の行動を運動の動詞を使って話す
- 2 Урок 8(2)ダイアログ "Если она не придёт"、会話
- 3 Урок 8(3) 練習問題
- 4 Урок 9(1) 時間を表すいろいろな表現
- 5 Урок 9(2)ダイアログ "В поезде"、会話
- 6 Урок 9(3)練習問題
- 7 Урок 10(1) 形動詞
- 8 Урок 10(2) ダイアログ、会話
- 9 Урок 10(3)練習問題
- 10 Урок 11(1)受動構文
- 11 Урок 11(2)ダイアログ、会話
- 12 Урок 11(3)練習問題
- 13 Урок 12(1)文化に関する表現 ダイアログ  
"Поэт в России - больше, чем поэт"
- 14-15 ロシアの映画
- 16 末期テスト

<成績評価方法>

評価は授業の出席 (15%), 小テスト (20%), 学期末試験 (65%)。

<教科書・参考文献>

A. デボフスキー、北岡千夏「会話で学ぶロシア語」中級1 フェニックス2004

<受講に当たっての留意事項>

欠席率が授業数3部の1を超えると受験資格がなくなる。宿題が毎回出る。

<学習到達目標>

ロシア語の高度な文法とロシアの知識を習得し、会話能力を身につけること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	4年	中国語 6	1	前	朱 継征
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

中国語の人文・社会科学分野の文献、新聞記事やテレビニュースなどを理解するには、一層高いレベルの語学力と知識が要求されます。中国語は実用性の面でも将来性のある言語の一つです。その実力は若いうちに身に付ければ一生の財産になります。

この授業は中国語の聴解力、会話力、読解力、作文力などの総合的運用能力を高め、中国語検定試験3～2級合格を目指します。

中国語と日本語の異同についての説明及び通訳、翻訳の訓練においても、日本語の使用を最小限にしますが、単語、本文と文法の説明及び討論会、発表会と授業での指示を基本的に中国語で行います。

**<各回毎の授業内容>**

1. 単純方向補語
2. 複合方向補語
3. "把"構文
4. "关于"構文
5. "对"構文
6. "按照"構文
7. "往"構文
8. "根据"構文
9. "给"構文
10. "由于"構文
11. "为"構文
12. "除了"構文
13. "向"構文
14. TECCとHSK対策
15. 総合練習（中国語検定試験、TECCとHSKについて）

**<成績評価方法>**

平常点と期末試験によって判定。平常点（小テスト、発表会、宿題）40%、期末試験60%。  
5回以上無断欠席した者は失格。

**<教科書・参考文献>**

教科書:授業中に指示します。

参考書:『講談社 中日辞典』相原茂編集 2002年（第二版）

『講談社 日中辞典』相原茂編集 2006年（初版）

**<受講に当たっての留意事項>**

毎回必ず予習して出席すること。積極的に質問すること。大きな声で返事すること。宿題をちゃんとやること。

**<学習到達目標>**

中国語の総合的運用能力を高め、中国語検定試験4～3級合格、HSK（漢語水平考試）3～5級合格を目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	4 年	韓国語 6	1	前	朴 修禧
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

この授業は、韓国語 4（3年 前期）の深化過程で、韓国で経験あるいは見た文化や風習を生かし、日本と韓国を比較しながら自由に会話をします。

会話の内容を録音し、それを聞きながら発音の校訂は勿論、より自然な意思駆使が出来るようになる事を目的にします。

**<各回毎の授業内容>**

1. 授業の方針説明、韓国での思い出発表
2. 韓国人に日本の文化を紹介する
3. 日本と韓国の祝日比較
4. 日本の歴史的人物紹介する
5. 好きな韓国人
6. 日本の観光地紹介
7. 韓国で行って見た観光地の中、一番印象的だった所に対して話す
8. 日本と韓国のスポーツ
9. すきなスポーツ
10. 日本の食文化紹介
11. 日本の食文化と韓国の食文化の違い
12. 自分で出来る料理のレシピ発表
13. 日本の教育の特徴と問題点
14. 自分が見た韓国の大学
15. 韓国及び韓国人から学んだ事（発表）
16. 定期試験

**<成績評価方法>**

平常発表（40％）定期試験（60％）

**<教科書・参考文献>**

テキストは使用しません。講義の時資料を配布します。

**<受講に当たっての留意事項>**

他国を理解しようとするオープンマインド

**<学習到達目標>**

韓国を言葉だけでなく文化を知ることによって、より深い理解が出来、グローバル時代の一人としての資質を身に付けるようになる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	4 年	アメリカ英語 6	1	前	矢口裕子（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

この授業では、TOEICや英検の過去問題を教材として、総合的英語力の強化および資格試験対策を行う。大学生のうちにできるだけ英語力を伸ばしておくことは、自分の知的資源・財産となるとともに、社会人になってからの学びを動機づけることにもつながるだろう。4年配属のこの授業は、いわば大学での英語学習の総仕上げ、ラストスパートとしてぜひ受講してほしい。

**<各回毎の授業内容>**

1. イントロダクション
2. TOEIC 2010年度の問題
3. TOEIC 2010年度の問題
4. TOEIC 2010年度の問題
5. TOEIC 2011年度の問題
6. TOEIC 2011年度の問題
7. TOEIC 2011年度の問題
8. 英検2010年度の問題
9. 英検2010年度の問題
10. 英検2010年度の問題
11. 英検2011年度の問題
12. 英検2011年度の問題
13. 英検2011年度の問題
14. 英検2011年度の問題
15. 総復習

**<成績評価方法>**

授業への準備、貢献、期末試験／レポートの成績等を総合的に評価する。

**<教科書・参考文献>**

プリントを配布。

場合により受講者と相談のうえ教材を選択することもありうる。

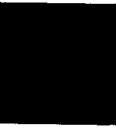
**<受講に当たっての留意事項>**

全員が予習してくることを前提として授業を進める。問題は予習の段階で全員が解いてくるものとし、授業は答えあわせと確認・解説に当てる。

**<学習到達目標>**

TOEIC 600点、英検準1級に合格する英語力養成を目指す。

# 1年システム専門科目（前期）





入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1年 2年	基本情報処理特論1	2	前	山田賢一
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

経済産業省認定の「基本情報技術者試験」は、テクノロジー・マネジメント・ストラテジの3分野に関する基礎的な知識・技能を問う試験であり、情報を専攻する大学生にとって、学習の進捗を測る一つのツールであるといえます。この授業では、このうち、テクノロジー分野の範疇である「ハードウェア」、「ソフトウェア」、「システム開発」、「ネットワーク」、「情報セキュリティ」、「データベース」に関する知識習得と理解を目的とします。

#### <各回毎の授業内容>

本講座の各回のテーマは次の通りです。

1. 1日目 受講ガイダンス、ハードウェア①（プロセッサ、メモリ）
2. 2日目 ハードウェア②（補助記憶装置、入出力アーキテクチャ）
3. 3日目 ソフトウェア①（オペレーティングシステム）
4. 4日目 ソフトウェア②（ミドルウェア、言語プロセッサ）
5. 5日目 ネットワーク①（LAN、WAN）
6. 6日目 ネットワーク②（TCP/IP）
7. 7日目 ネットワーク③（回線サービス）
8. 8日目 セキュリティ①（暗号化と認証）
9. 9日目 セキュリティ②（ファイアウォール）
10. 10日目 データベース①（データベースモデルと正規形）
11. 11日目 データベース②（SQL）
12. 12日目 データベース③（システム構成技術）
13. 13日目 システム開発①（開発手法）
14. 14日目 システム開発②（モジュール設計、テスト）
15. 15日目 システム開発③（オブジェクト指向）
16. 16日目 期末試験

#### <成績評価方法>

毎回の出席を基本とし、成績は授業内の演習課題（70%）、期末試験（30%）により総合的に判断します。

#### <教科書・参考文献>

授業及び課題に使用する教材は、適宜、配布します。

#### <受講に当たっての留意事項>

「基本情報技術者試験」の過去問題はipaのWebページから入手でき、予習復習に有用です。

#### <学習到達目標>

基本情報試験午前及び午後問題（問1～5）で、2/3以上の正解率を確保できるようになること。

# 2年システム専門科目（前期）

システム論  
情報システムモデル  
人間情報工学2  
地域統計  
生産企画と管理  
経営と情報  
財務会計  
アルゴリズム  
テレコミュニケーション  
ソフトウェアエンジニアリング  
モデリング数学  
北米社会と情報  
情報英語

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	システム論	2	前	近藤 進（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

システムとは、複数の要素が有機的に関係し、全体としての目的をはたす集合体やその仕組みをいう。機械システムでは車のような物を扱い、経済システムでは概念を扱う。しかし、このように一見離れた分野でも、それぞれに共通する動作や考え方が存在する。システム論では、この多くの分野に共通する見方考え方を学ぶ。この中で、目的を達成するために、もっとも適した方法を見いだすのがシステム思考である。ここでは、情報システムで基本となるシステム思考についての基礎知識を修得し、システムの理論を実際に応用するための能力を育成する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 システムとは システムの歴史 システムの概要
- 2 システム思考 システムの定義 システム工学
- 3 システムの分類方法 自然人工 人間機械 生産 線形非線形 連続離散
- 4 システム計画と分析 システム技法の概要
- 5 システム計画と分析 ネットワーク
- 6 システム設計 将来予測
- 7 動的計画法 最短時間ルート
- 8 動的計画法 倉庫問題
- 9 シミュレーション 抵抗コンデンサの線形回路解析
- 10 シミュレーション 山岳展望解析（カシミール）
- 11 システムの信頼性 故障率 平直列回路 保全率
- 12 システムの信頼性と予測技法 半導体レーザの寿命 期待値
- 13 最適化技法 線形計画法 割当て法
- 14 スケジューリング アローダイヤグラム平準化と稼働率 費用勾配とCPM
- 15 ラインバランシング 編成効率 非同期生産方式
- 16 定期試験

#### <成績評価方法>

- ・成績は期末試験の結果（100%）により評価する。期末試験の評価が低い場合は理解度チェックの評価を加味する。（最大20%）
- ・試験は講義に沿った問題を出題する。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書 series 電気電子情報系 1「システム工学」 石川博章著 共立出版
- ・教科書にない領域および付け加える点については、その都度資料としてプリントを配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・毎回講義の終了時に、講義内容に関するコメント（感想、意見、質問、理解度チェック）を提出してもらう。
- ・「数学基礎」の履修を指導された学生は単位を取得していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

- ・システム全般にわたる基礎知識を習得する。（50%） またこれらの簡単な応用ができる。（50%）

（関連する学習・教育到達目標：G）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	情報システムモデル	2	前	槻木公一（情報システム）
21年度以前	専 門					
<p>選択</p> <p><b>&lt;授業目的&gt;</b>            企業活動や人間活動を支える情報システムは、人とコンピュータの協調作業を基軸として有形の構成要素（人、コンピュータ本体や端末など）と無形の構成要素（ソフトウェアの機能やデータなど）が絡み合って成り立っている。このような情報システムの全体像を理解するためには、その本質を捉えて眼に見える形にした「情報システムモデル」を利用する必要がある。新しく情報システムの構築を考える時にも、情報システムの利用者、設計者、開発者が正確に情報交換する場合にも情報システムモデルが中心となる。ここでは、まずモデルの基本となる図形とその意味、役割（図解）を学習し、ルールに沿った図形表現による情報システムモデルを「読む」ことによって、情報システムを理解できるようにする。</p> <p><b>&lt;各回毎の授業内容&gt;</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報システムモデルの意義と役割</li> <li>2 モデル作成（モデリング）の視点と基本技法</li> <li>3 図解によるモデリング（問題点整理と分析結果）</li> <li>4 図解によるモデリング（意思決定、企画と行動戦略）</li> <li>5 図解によるモデリング（概念、機能、状態、構造）</li> <li>6 図解によるモデリング（システム概念図）</li> <li>7 ビジネスプロセスモデル（概要、種類、事例）（練習課題レポート）</li> <li>8 情報システムモデルとコンピュータシステムモデル</li> <li>9 情報、データ構造のモデリング</li> <li>10 機能、プロセスのモデリング</li> <li>11 構造化表現とオブジェクト指向表現</li> <li>12 構造化表現による情報システムモデルその1</li> <li>13 構造化表現による情報システムモデルその2（練習課題レポート）</li> <li>14 オブジェクト指向表現による情報システムモデルその1</li> <li>15 オブジェクト指向表現による情報システムモデルその2（練習課題レポート）</li> <li>16 期末試験</li> </ol> <p><b>&lt;成績評価方法&gt;</b>            成績は期末試験結果（100%）で評価する。試験は各講義に沿った問題を数題出題し全問の解答を求める。評価が低い場合は提出レポートの評価を加味する。（最大20%）</p> <p><b>&lt;教科書・参考文献&gt;</b>            ・ほぼ毎回必要なプリントを配布する。ただし、プリントには図表のみが記載されているので、講義に出席しないと理解できない。参考書、参考文献は必要な都度紹介する。</p> <p><b>&lt;受講に当たっての留意事項&gt;</b>            ・図解が中心となるので、自分で手を動かして図を描くことにより理解すること。</p> <p><b>&lt;学習到達目標&gt;</b>            ・文章記述などから、情報システムの全体図や業務プロセスなどを具体的に図形表現できるようになる。（期末試験60%）            ・表現ルールが定められた情報システムモデル（DFD、ERD、UML）を正しく読むことができるようになる（期末試験40%）</p> <p>（関連する学習・教育到達目標：G）</p>						

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	人間情報工学 2	2	前	上西園武良（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

人間情報工学2では、人間の心身機能に適合した機器を生み出すためには、どのような開発プロセスで行うべきかを具体的な製品事例で修得する。講義の基礎知識として前提としているのは、人間情報システムで学習した「人間の特性」および人間情報工学1で学習した「人間の心身機能に適合させるための設計手法」である。

<各回毎の授業内容>

1. 人間中心設計
2. 家庭用ミシンの事例(1)商品企画①
3. 家庭用ミシンの事例(2)商品企画②
4. 家庭用ミシンの事例(3)設計・評価①
5. 家庭用ミシンの事例(4)設計・評価②
6. オフィスチェアの実例
7. 温水洗浄便座の実例
8. 自動車の事例
9. 睡眠の基礎知識(1)
10. 睡眠の基礎知識(2)
11. 枕の実例(1)商品企画
12. 枕の実例(2)設計・評価①
13. 枕の実例(3)設計・評価②
14. ベッドの実例
15. まとめ
16. 定期試験

<成績評価方法>

- ・5回のレポート（各10点、計50点）と期末試験（50点）の合計（100点）で評価する。
- ・5回のレポートのうち少なくとも1回は提出していることを期末試験の受験資格とする。（0回の方は受験資格なし）
- ・期末試験は「電卓（通信機能なし）」以外は持ち込み不可。

<教科書・参考文献>

特定の教科書は使用しない。

<受講に当たっての留意事項>

- ・人間情報工学1の単位を取得済であることが受講（履修登録）の条件である。
- ・毎回、統計的なデータ処理計算を行うので平方根（ $\sqrt{\quad}$ ）計算機能のある電卓を持参すること

<学習到達目標>

人間の心身機能に適合した機器を生み出すためにどのような開発プロセスで行うかを説明でき、開発計画概要を策定できる。

（関連する学習・教育到達目標：H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	経営と情報	2	前	内田 亨（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

本講義では、企業経営と情報の関わり方を習得する。前半では、情報（技術）と企業経営の関連性に関して基本的なことを理解する。後半では、情報に関連した戦略論・組織論にも展開する。

<各回毎の授業内容>

- 第1回 イン트로ダクション（ガイダンス）
- 第2回 IT化と企業経営
- 第3回 IT戦略マネジメントの背景と課題
- 第4回 企業と市場のあたらしい関係の構築
- 第5回 ITによる本業革新のためのビジネスモデル
- 第6回 ITによる新事業創造のビジネスモデル
- 第7回 IT市民型ビジネスの展開
- 第8回 ITによる業務プロセスの革新
- 第9回 中間まとめと中間試験
- 第10回 IT化と組織デザイン
- 第11回 情報と組織戦略
- 第12回 ネットワーク組織
- 第13回 ラーニング・スクール
- 第14回 知識創造論（SECIモデル）
- 第15回 ナレッジ・マネジメント
- 第16回 定期試験

<成績評価方法>

- ・ 中間試験:40%、定期試験:60%で、評価する。

<教科書・参考文献>

- ・ 教科書:寺本義也（2003）『企業と情報化 現代経営学講座4』八千代出版を使用する予定である。ただし、この分野は、日進月歩で常に変化しているので、随時、教員が最新情報などの資料も紹介・配布する。
- ・ 参考文献:ミンツバーグ（1999）『戦略サファリ』東洋経済新報社。

<受講に当たっての留意事項>

- ・ 事前に教科書を読んでくること。経営に携わるゲストスピーカーによる講義も考えている。

<学習到達目標>

- ・ 情報（技術）と経営の関連性およびその仕組み（ITを活用した企業経営、IT戦略、イノベーション、新事業創造など）を理解し、基本的な知識を習得する（中間試験:40%、定期試験:20%）。
- ・ 情報活用の方法としてのナレッジ・マネジメントを理解し、説明できるようになる（中間試験:0%、定期試験:40%）。

（関連する学習・教育到達目標:E,I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	2年	財務会計	2	前	山下 功 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

財務会計は、複式簿記の計算を通して企業の損益と財産の状態を測定し、株主・投資家・取引先・政府・地方自治体等の企業外部の利害関係者に報告する会計の仕組みです。それゆえ、管理会計が企業内部への報告を目的とするのに対して、財務会計では企業自身を企業外部へ、会計的にいかに表現するのが重視されます。

財務会計を理解するためには、簿記の知識が欠かせません。そこで、この授業の前半では簿記の基本について説明します。この授業を履修することによって、財務会計の基本的な知識を習得することを目標とします。

**<各回毎の授業内容>**

- |                   |                                |
|-------------------|--------------------------------|
| 1. 財務会計とは         | 8～11. 貸借対照表 (B/S) と損益計算書 (P/L) |
| 2. 企業会計の目的        | 12. キャッシュ・フロー計算書 (C/F)         |
| 3. 財務諸表 (F/S) の概要 | 13. 連結財務諸表                     |
| 4～7. 簿記の基本原則      | 14～15. 財務会計の実務                 |
|                   | 16. 期末定期試験                     |

**<成績評価方法>**

期末定期試験60%、第2～15講の授業中に実施する復習テスト40%。

**<教科書・参考文献>**

教科書として、拙著テキスト『財務会計 前編・後編』を使用します。授業中に配付します。

**<受講に当たっての留意事項>**

授業で計算問題を解くことがありますので、電卓を持参してください。なお、期末定期試験では、使用できる電卓が制限されます。

**<学習到達目標>**

企業会計の目的と財務会計の概要についての知識を習得し、財務会計学習の前提となる簿記の基本を理解できるようになってください。(期末定期試験30%、復習テスト20%)

財務諸表から得られる情報がどのように役に立っているかを理解するとともに、連結財務諸表および財務会計の実務についての知識を習得してください。(期末定期試験30%、復習テスト20%)

(関連する学習・教育到達目標:I)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	2年	アルゴリズム	2	前	河原和好 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

コンピュータを用いて問題解決を行う際の、基本的な考え方と手法について学ぶ。問題を解く手続きを与えるアルゴリズムと、そこで用いるデータの表現形式であるデータ構造との関連を理解する。さらに、アルゴリズムの記述方法、代表的なアルゴリズムについて学習する。

**<各回毎の授業内容>**

- 1 アルゴリズムとは:プログラムとの関係、簡単なアルゴリズム
  - 2 アルゴリズムの記述方法1:フローチャート、疑似言語など
  - 3 アルゴリズムの記述方法2:代表的なアルゴリズム
  - 4 データ構造:配列、リスト、スタック、キュー、木、グラフなど
  - 5 計算量:アルゴリズムの性能評価、基本的なアルゴリズムの計算量
  - 6 探索1:線形探索、二分探索、ハッシュ法
  - 7 探索2:二分探索木、平衡木
  - 8 探索3:文字列の探索など
  - 9 整列1:基本的な整列 (バブルソート、選択ソート、挿入ソート)、シェルソート
  - 10 整列2:高速なソート (ヒープソート、マージソート、クイックソート)
  - 11 整列3:その他のソート (ビンソート、分布数え上げソート、基数ソートなど)
  - 12 応用アルゴリズム1:再帰、分割統治法、動的計画法など
  - 13 応用アルゴリズム2:バックトラックなど
  - 14 応用アルゴリズム3:グラフ探索など
  - 15 まとめ
  - 16 レポート提出
- 注) 受講する学生の理解度により講義順序や分量を調整することがある

**<成績評価方法>**

時間内に行う演習課題の評価点の合計を40%、中間レポート2回の評価点の合計を30%、期末レポートの評価点を30%として評価する。

**<教科書・参考文献>**

- ・資料を配付する (学内専用ウェブページから授業前に各自ダウンロードしておくこと)
- ・参考文献は講義中に紹介する

**<受講に当たっての留意事項>**

- ・レポートでプログラムを作成するので、プログラミングに関する講義や演習を履修済みであることが望ましい
- ・連絡事項や追加情報はウェブページに掲載する <http://www.nuis.ac.jp/~kawahara/>

**<学習到達目標>**

- ・アルゴリズムとデータ構造について理解し、与えられた問題に対し適切なアルゴリズムやデータ構造を適用できるようになる (演習課題全体で評価)
- ・学習したアルゴリズムやデータ構造を、プログラミングにより実現できるようになる (中間レポートと期末レポートで評価)

(関連する学習・教育到達目標:D,J)



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	2年	テレコミュニケーション	2	前	近藤 進 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

テレコミュニケーションは、電磁気的な方法を用い、遠くの人とコミュニケーションをはかることである。この分野の進歩は著しく、2～3年前のシステムが、いつのまにか陳腐化してなくなったり、新しいシステムと入れ替わったりする。しかし、これらシステムの基盤となる技術や考え方は普遍である。この普遍的な考え方をしっかり修得すれば、あらたなシステムが導入されても、容易に理解でき、応用できる。この講義では、これら普遍的な技術や考え方を修得した後、IT社会をささえるブロードバンド、携帯電話、地上デジタル放送を初めとする、応用技術について学ぶ。基盤技術を習得し応用技術を学ぶことにより、新しいより高度な通信技術を理解できるようになる。

<各回毎の授業内容>

- 1 はじめに 講義の概要
- 2 固定電話 一般加入者電話 ISDN 加入者線 中継線 交換機
- 3 アナログとデジタル アナログとデジタルの特徴 アナログ・デジタル変換
- 4 フーリエ変換と周波数 時間軸と周波数軸 矩形波のsinカーブ合成
- 5 交換技術 自動交換
- 6 多重化技術 周波数分割多重 時分割多重
- 7 パケット通信 パケット通信の原理 パケットの構成 パケット交換
- 8 非対称転送モード フレームリレー ATM
- 9 有線通信 ケーブル 有線通信方式 IP電話
- 10 無線通信 電磁波 電磁波の使われ方
- 11 携帯電話 携帯電話 CDMA方式 PHS
- 12 衛星通信 衛星通信システム
- 13 光通信 光ファイバー レーザ 光通信方式 FTTH
- 14 放送 地上デジタル放送 ケーブルテレビ
- 15 情報通信と社会
- 16 定期試験

<成績評価方法>

- ・通信の原理とその応用である通信システムについての理解度を期末試験により評価する。
- ・試験は講義に沿った問題を出題する。

<教科書・参考文献>

- ・教科書 進歩の顕著な領域であり、授業の開始に合わせて指定する。
- ・教科書にない領域および付け加える点については、その都度資料としてプリントを配布する。

<受講に当たっての留意事項>

- ・欠席した場合は自己責任で資料をそろえること
- ・各回の授業内容は厳密に一限毎の内容を示すものではなく、各講義の主な内容であり、理解度に応じ進度は変化する。
- ・毎回講義の終了時に、講義内容に関するコメント（感想、意見、質問、理解度チェック）を提出してもらう。
- ・「数学リテラシー」または「数学基礎」の履修を指導された学生は単位を取得していることが望ましい。

<学習到達目標>

- ・通信技術の基礎を理解できるようになる。(65%) また、通信システムがどのような原理で成り立っているかを知り、新しい通信システムについても理解できる力を養う。(35%)

(関連する・教育到達目標:E J)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	2年	ソフトウェアエンジニアリング	2	前	桑原 悟 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

ソフトウェアは、高度に知的な作業の結果として生まれるとよいが、反面、その作成に関しては、属人的なものになりがちであり、科学的アプローチは簡単ではないという特徴がある。ソフトウェアエンジニアリングは、このソフトウェアの作成におけるさまざまな局面に対し、工学的な視点での測定や改善を扱う分野である。この授業では、ソフトウェアのライフサイクルを意識し、その機能や価値と作成のコスト及び改善のための考え方や具体的手法について学ぶ。

**<各回毎の授業内容>**

- 1) 授業オリエンテーション
- 2) ソフトウェア工学の必要性と発生, 発展, その対象
- 3) ソフトウェアの価値, 有効性, 機能, 能力
- 4) ソフトウェアのライフサイクルとコスト
- 5) ソフトウェア開発手法の種類と特徴
- 6) ソフトウェアの開発の工程と生産性(1)
- 7) ソフトウェアの開発の工程と生産性(2)
- 8) 前半まとめ
- 9) ソフトウェア工学の関連領域 (外部講師を招聘する場合がある)
- 10) 開発環境, 開発ツールの実際
- 11) 開発手法の例
- 12) ソフトウェア開発の工程と品質(1)
- 13) ソフトウェア開発の工程と品質(2)
- 14) ソフトウェア工学分野の最新の動向
- 15) 後半まとめ
- 16) 定期試験

注) 受講する学生の理解度により講義順序 (日程) や分量を調整することがある。

**<成績評価方法>**

定期試験及び任意課題 (任意であるので加点のみ最大10%) により評価を行う。

**<教科書・参考文献>**

{新技術の登場が盛んな分野であるので, 授業開始時期に合わせて最適なものを選定し指定する}

**<受講に当たっての留意事項>**

分散コンピューティングの授業内容の理解及び, 数学1, 数学2, テレコミュニケーション, 組織と経営の単位を取得していることが望ましい。また, 基礎自由科目「数学基礎」の履修を指導された者は, これを履修していることが望ましい。授業に集中している学生の邪魔になる行為をするものは退出させる (出席を認めない)。質問は歓迎するので, 遠慮なく質問して欲しい。

**<学習到達目標>**

ソフトウェアエンジニアリングが必要な背景, その考え方及び, 個別の手法などの特徴について理解できるようになることを目標とする。

(関連する学習・教育到達目標:D,J)

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	モデリング数学	2	前	白井健二（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

数理科学では現象に対する数学的モデルを作り、これを数学的に取り扱うことによって現象を解明する。現象の定式化の方法と計算のしかたを学習する。あわせて数学を単なる道具ではなく、現象の本質の表現であることを修得する。

<各回毎の授業内容>

1. 方程式と不等式
2. 方程式と不等式演習
3. 等差数列と等比数列およびそれらの和
4. 階差数列とその和
5. 数列と級数演習
6. 三角関数, 指数関数および対数関数
7. 三角関数, 指数関数および対数関数の演習
8. 微分法その(1)－多項式, 三角関数, 指数関数, 対数関数, －
9. 微分法その(2)－媒介変数, 逆関数－
10. 微分法の応用
11. 微分法演習
12. 積分法その(1)－多項式, 三角関数, 指数関数, 対数関数－
13. 積分法その(2)－置換積分－
14. 積分法の応用
15. 積分法演習
16. 定期試験

<成績評価方法>

期末試験:60%と適時実施する確認テスト:40%の配分で評価する。

<教科書・参考文献>

教科書および配布資料

教科書:リメディアル大学の基礎数学,小平平治著,裳華房 (ISBN 978-4-7853-1553-5)

<学習到達目標>

- ・解析の基礎である方程式または不等式を立てて、問題を解くことを修得する。(定期試験:10%, 確認テスト:10%)
- ・関数および逆関数の考え方を修得する。(定期試験:20%, 確認テスト:10%)
- ・現象の規則性に関する数列と級数, および多方面で活用される三角関数と指数関数・対数関数を修得する。(定期試験:10%, 確認テスト:10%)
- ・システム解析に欠かせない微積分法とその応用を修得する。(定期試験:20%, 確認テスト:10%)

(関連する学習・教育到達目標:D)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	北米社会と情報	2	前	槻木公一・中田豊久
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

海外夏期セミナーにおける授業科目の1つである。ソフトウェア開発の現場見学や開発プロジェクト担当者の講義などを通して、北米社会における最新の情報関連技術動向・ビジネス動向またそれらを取りまく社会動向の理解を深める。授業の理解を深めるため、現地への出発前に授業内容の概要の事前学習を行う。

**<各回毎の授業内容>**

5週間の間に以下の授業が英語で行われる。但し、多少の内容変更もある。

- ・ 企業訪問（5回）
- ・ ITを利用した授業（3時間×5回）

**<成績評価方法>**

帰国後に提出されたレポートにより成績評価を行う。

**<教科書・参考文献>**

適宜、教材を配布する。

**<受講に当たっての留意事項>**

訪問企業などの状況によって内容が変更になることがある。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	情報英語	4	前	槻木公一・中田豊久
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

海外夏期セミナーにおける授業科目の1つである。英語によって自分の考えや主張を相手に伝え、コミュニケーションができるようになるための技術を身につける授業を行う。また、海外夏期セミナーにおいて開講される「北米社会と情報」を理解するための情報技術関連の英語力修得を目指す。北米の大学のエクステンション学部における通年のESL (English as a second language: 英語が母国語ではない人に対する英語教育) クラスの運営ノウハウを生かした授業構成となっている。授業の理解を深めるため、現地への出発前に授業内容の概要の事前学習を行う。

**<各回毎の授業内容>**

エクステンション学部のESL英語教育プログラムを受講する。4時間の授業に週5日・5週間にわたり参加する。英語文化圏におけるコミュニケーション技術向上に焦点を当てた授業である。上記の時間以外でもホームステイなどを通して英語によるコミュニケーションのトレーニングができる。

- ・ 自己評価調査: 英語授業を組み立てるための英語能力の確認
- ・ カンパセーション・クラブ: 外国人との英会話練習 (10回)
- ・ 様々な場面における言語技術向上のためのトレーニング: ディスカッション、プレゼンテーション、実務処理の実行・対応、感情表現等の学習
- ・ ホームステイ: 3週間のホームステイによる日常生活の中での英語体験とコミュニケーション技術の向上

**<成績評価方法>**

帰国後に研修先の大学から送られてくる成績証明書と提出されたレポートにより成績評価を行う。

**<教科書・参考文献>**

短編小説、新聞、パンフレットなどを含む多くのテキストを使用する。また、音声・映像教材も使用する。

# 3・4年システム専門科目（前期）

情報システム特論  
情報システム設計  
経営情報システム  
地域情報システム  
認知科学  
企業と国際化  
商品企画  
経営と法律  
知識情報処理  
コンピュータビジョン  
マルチメディア情報処理  
多変量解析  
オペレーションズリサーチ2  
学外実習  
ビジネス英語入門1

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	情報システム特論	2	前	西山 茂 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

- (1) 現実の社会状況に対する知見を広げるため、産官学等社会で活躍している方を講師に招き、講師の業務分野等のトピックをお話しして頂く。また、当該分野での ICT 利用方法等について学ぶ。
- (2) 現代の社会活動の基本であるプロジェクト活動を体得する:履修生自身が組織・運営する複数のチーム（プロジェクト）を編成する。各プロジェクトは役割分担を含む組織構成を決め、問題・課題（目標）設定、スケジュール設定を行い、進捗管理・成果管理法を決め、文書化する。計画に対する進捗を管理しながら活動し、目的達成を図る。15回目の授業でプロジェクト活動成果を報告する。

<各回毎の授業内容>

- ・外部講師による授業は5回行う。その講義内容は適宜プロジェクト活動に利用する。
- ・プロジェクトは履修生自身が積極的・自律的に運営する。

[1] 授業オリエンテーション

- [2] 外部講師による講義1 「プロジェクト管理技術」に関する講義
- [3] 外部講師による講義2 「政府・自治体等の政策・動向」に関する講義
- [4] 外部講師による講義3 「社会状況、ICT動向等」に関する講義
- [5] 外部講師による講義4 「社会状況、ICT動向等」に関する講義
- [6] 外部講師による講義5 「社会状況、ICT動向等」に関する講義
- [7] プロジェクト編成 キックオフ、課題の大枠、プロジェクト内役割分担（組織）の設定
- [8] プロジェクト活動 プロジェクト計画書策定、計画書レビュー、目的達成のための活動
- [9] プロジェクト活動 目的達成のための活動、中間成果の整理、進捗管理
- [10] プロジェクト活動 目的達成のための活動、中間成果の整理、進捗管理
- [11] プロジェクト活動 目的達成のための活動、中間成果の整理、進捗管理
- [12] プロジェクト活動 目的達成のための活動、中間成果の整理、進捗管理
- [13] プロジェクト活動 目的達成のための活動、成果の最終整理、進捗管理
- [14] プロジェクト活動 成果報告資料作成
- [15] プロジェクト活動成果発表
- [16] 講評とまとめ 試験は実施しない。日々の活動及び成果報告を評価する

(注: 上の[n]は授業順序を示してはいない。外部講師講義のテーマ及び順番は入れ替わることがある。)

<成績評価方法>

- ・外部講師講義受講アンケート及び講義受講レポート提出（各回の講義内容の要点と所感）(5回)：35%
- ・プロジェクト計画書:10%、プロジェクト成果発表:40%
- ・活動態度:10%、及び履修生個々に行う報告時の他プロジェクト評価:5%
- ・プロジェクト活動は必須である。プロジェクト評価を個人成績に反映する。プロジェクトメンバに登録してもプロジェクト活動（集団活動）に貢献しなかった者は評価しない。

<教科書・参考文献>

- ・教科書はない。毎回、講義スライドのコピーを配布する（Jenzabarに登録）ほか、必要があれば次回講義に関連するURL等を紹介する。
- ・各種白書（情報化白書、情報通信白書、情報サービス産業白書、等）、@IT、日経BP等の情報サイト

<受講に当たっての留意事項>

- (1) 外部講師講義では積極的質問すること。
- (2) 講義情報、受講レポート、プロジェクトチーム活動は、Jenzabar等電子的手段を活用する。
- (3) 授業時間の外に、レポート作成やプロジェクト活動にある程度の時間をかける必要がある。

<学習到達目標>

- (1) 5つの講義テーマ関連領域についての最新の知識を獲得し、その要点を説明できる。(受講アンケートと受講レポートの提出:35%)
- (2) プロジェクトチーム活動を通じて、与えられた制約下での業務の進め方、リーダー役実践によるチームまとめ能力、チーム活動手法などを習得する。(プロジェクトチーム活動及び成果報告:65%)

(関連する学習・教育到達目標:F,G)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3 年	情報システム設計	2	前	梶木公一（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

情報システムの設計について、そのプロセスと方法論を学習する。情報システムの構築についてまず理解し、方法論の必要性と種類、特徴について学び、事例を通して理解を深める。情報システムの仕事の仕組みと情報のモデル化の技法を中心に説明し、コンピュータシステムの設計へと結びつけていくプロセスを具体的に学ぶ。

<各回毎の授業内容>

- 1 情報システム概論
- 2 情報システムの構築
- 3 情報システム設計概論
- 4 分析設計方法論の種類と特徴
- 5 図式表現と設計技法その1
- 6 図式表現と設計技法その2
- 7 問題領域調査
- 8 システム分析と要求事項の明確化
- 9 仕事の仕組みと情報のモデル化
- 10 設計プロセスとモデルの種類・役割（課題レポート）
- 11 物理モデルと論理モデル
- 12 現行モデルと要求モデル
- 13 モデルの変換その1
- 14 モデルの変換その2
- 15 設計事例演習（レポート提出）
- 16 期末試験

<成績評価方法>

成績は期末試験結果（100%）で評価する。試験は各講義に沿った問題を数題出題し全問の解答を求める。期末試験結果の評価が低い場合は、提出レポートの評価を加味する。（最大20%）

<教科書・参考文献>

- ・適時、プリントを配布する。ただし、プリントには図表のみが記載されているので、講義に出席して各自内容を充実すること。参考文献は初回の講義の中で紹介する

<受講に当たっての留意事項>

- ・設計プロセス全体を継続して講義するので、散発的な出席では理解できなくなる。

<学習到達目標>

- ・情報システムの設計プロセスと、各段階におけるモデルの種類およびその役割を学習して理解できる。（期末試験40%）
- ・簡単な事例について情報システムの具体的な設計を行い、図形表現モデルの作成方法を習得する。（期末試験60%）

（関連する学習・教育到達目標：E,G）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	3年	経営情報システム	2	前	岸野清孝 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

経済の国際化や消費者ニーズの多様化、生産技術の革新など複雑化・高度化した社会では、個人の経験や感覚だけで企業活動をコントロールすることは不可能となってきている。本科目では、急ピッチで変化する経営環境に対応するための経営情報システムについて学ぶ。

#### <各回毎の授業内容>

1. 経営情報システムの全体概要説明
2. 産業動向と経営情報システム:産業動向とIT化・グローバル化の進展
3. 生産における情報システム:生産管理(ERP)、製造管理(レポート課題1)
4. 販売・マーケティングにおける情報システム:流通業と販売管理、顧客管理(CRM)
5. 受発注・商取引における情報システム:EC/EDIの発展、eマーケットプレイス
6. 物流における情報システム:物流の7機能、物流情報システム
7. 会計における情報システム(1):会計情報システムの必要性、会計処理の流れ
8. 会計における情報システム(2):各部門の手続きと会計システム
9. サプライチェーンマネジメント(SCM)の発展(レポート課題2)
10. 事例研究:オフィス用品ネット通販アスクルの経営戦略
11. 電子タグの経営情報システム応用:無線ICタグの動向、活用事例
12. 安全・安心とトレーサビリティシステム:背景と必要性、先行事例
13. 経営情報システムとビジネスモデル特許:特許戦略、情報システムと特許
14. 事例研究:企業における情報システムの最新状況
15. 全体まとめ
16. 定期試験

#### <成績評価方法>

定期試験:80%と自己学習によるレポート課題:20%の配分で評価する。

#### <教科書・参考文献>

資料を配布する(本校のHPからダウンロードし、各自がプリントアウトする)。

#### <学習到達目標>

- ・ 企業活動(生産、販売、受発注、物流、会計など)の仕組みを理解し、基本的な知識を習得する(定期試験:25%)。
- ・ 企業の諸活動の内容と役割およびその中での情報活用の方法を理解し説明できるようになる(定期試験:25%)。経営情報システムの動向(EC・EDI、電子タグ、トレーサビリティ、ビジネスモデル特許など)を学び、それらが問題解決にどのように役立つかを理解し説明できるようになる(定期試験:30%)。
- ・ 自己学習による調査により経営情報システムについて、さらに理解を深める(レポート:20%)

(関連する学習・教育到達目標:E,G)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	地域情報システム	2	前	藤田晴啓（情報システム）
21年度以前	専 門					

#### 選択

#### <授業目的>

地域情報システムとはその名のとおり、地域の情報を収集、整理、処理、出力するシステムの総称ではあるが、この用語自体、対象となる情報の種類、処理方法等が明確でないので一般的には使われていない。しかしながら、地域固有のデータを扱うシステムと位置づけるとすれば、それは行政が扱う地域の人や土地に関する情報管理業務（住基ネット、戸籍、不動産登記、税務、道路、工業団地、港湾、上下水道および統計）、あるいは電力・ガス、製造、建築、販売、その他サービスを行う企業の顧客や土地に関わる情報処理システムである。これらの基盤情報は大別すると台帳と図面（地図）に分けることができ、自治体や企業の殆どは、台帳データはデータベース（DB）、図面データはDBを取込める地理情報システム（GIS）をその業務に使用している。授業では事業者が管理する地域固有のデータおよび業務を先ず理解し、後半では地理情報システムの理論および地域統計データ実習を行う。

#### <各回毎の授業内容>

1. 授業の目的、めざすところ、全15回の内容等ガイダンス
2. 地域固有の人および土地情報と、データの事例（東京都6000余福祉施設地図と属性表示例他）
3. 自治体が管理する人・土地・家屋に関するデータベース（住基ネット、戸籍、不動産登記等）
4. 自治体が管理する土地区画・建造物・道路・公共施設（港湾・上下水道含む）図面とGIS業務
5. 企業が管理する顧客および図面データと使用方法（レポート課題1）
6. 市民が管理する地域ポータルシステムとその事例（行政サービスの市民活動化とその問題点）
7. 地図の概念：歴史概略、現代の座標系と地図、GPS電子基準点と震災によるずれ
8. 地理情報システムのデータ構造と原理（レポート課題2）
9. 地理情報システムの基礎：地図表示と属性・レイヤ管理、主題図の作成、座標系変換
10. GISによる地域立地解析：一定距離圏解析（バッファリング）と商圈解析（ボロノイ分割図）
11. GIS実習1: SuperMapViewの基本操作、地図データのダウンロード、表示方法
12. GIS実習2: 都道府県別ポリゴンインポートと統計データを使った主題図作成（人口年次推移）
13. GIS実習3: 新潟県市町村ポリゴンインポートと地域統計データによるグラフ化表示（地域統計論）
14. GIS実習4: 東日本大震災市町村別被災データ属性結合とポリゴン上グラフ表示（実習出力）
15. 講義のまとめ（これからの地域社会のあり方と地域情報システム）
16. 定期試験

#### <成績評価方法>

定期試験70%、レポート課題20%・実習出力10%の配分で評価する。

#### <教科書・参考文献>

参考書：GIS自習室 フリー版 SuperMapView を使い倒そう（渡邊 康志・古今書院）

#### <受講に当たっての留意事項>

私語厳禁、まわりに迷惑を与えるので、注意は1回までとする。2回目で退席を勧告。  
GIS実習はPC教室使用予定。使用するGISソフトはSuperMapView。

#### <学習到達目標>

- ・ 電子自治体サービスの内容仕組みを理解し、基本的な知識を習得する（定期試験:25%）。
- ・ 地理情報システムの内容と解析例および地域情報システムとしての役割を理解し説明できるようになる（定期試験:25%）。地域の人および土地に関わる業務の内容を学び、それらが問題解決にどのように役立つかを理解し説明できるようになる（定期試験:10%）。
- ・ GIS実習での地域統計データと地図情報の融合を習得、さらに理解を深める（実習出力:10%）

（関連する学習・教育到達目標:H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	認知科学	2	前	伊村知子（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

脳はコンピュータにたとえられることがあります。最近の研究により、脳のしくみ・はたらきは、必ずしもコンピュータに似ていないことがわかってきました。本講義では、簡単な実験をおこなって、自らの脳のしくみを確かめることで、「自分がふだん見ている世界が実は脳によってつくられたものである」ということや、「脳がいかに自分の思い通りにならないものであるか」を実感してもらいます。さらに、これらの体験をとおして自分を含む「人間」の脳の特徴を理解することにより、「人間とは何か」という根本的な問いについて考えます。

**<各回毎の授業内容>**

1. 認知科学とは
2. 脳の構造
3. 視覚認知
4. 注意
5. 聴覚認知と言語
6. 複数の感覚情報の統合
7. 運動
8. 推論
9. 構造の認知
10. 記憶
11. 意識
12. 他者との関係
13. 認知発達
14. 人間の心とは
15. まとめ
16. 定期試験

**<成績評価方法>**

成績評価は、授業中に実施するレポート（30%）及び定期試験（60%）により行います。また、毎回、授業終了後に書いてもらう質問やコメントも評価の対象とします（10%）。

**<教科書・参考文献>**

特に教科書や参考文献は指定せず、必要な資料は授業中に配布します。

**<受講に当たっての留意事項>**

受講の条件は特にありませんが、出席を重視しますのでご注意ください。  
基礎科目「心理と行動」を受講していることが望ましい。

**<学習到達目標>**

- ・ 実際の体験を通して、認知科学の基本的な知識を身につけること。（レポート:20%、定期試験:50%、質問やコメント:5%）
- ・ 認知科学で学んだ知識を専門分野でどのように生かせるかについて考えること。（レポート:10%、定期試験:10%、質問やコメント:5%）

（関連する学習・教育到達目標:H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	3年	企業と国際化	2	前	咲川 孝
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

企業の国際化とは、企業が国境を越えて海外でマネジメント（経営）を行うことである。マネジメントは、戦略と組織を中心として実施される活動である。例えば、日本企業であれば日本国内で戦略を構築し、組織を利用して戦略を実施していく。しかし、日本企業が国境を越えて海外でマネジメントを実施すれば、その基本は同じであっても、本国ではみられなかったような複雑な問題に直面し、より困難なマネジメント活動を展開しなければならない可能性が高い。つまり、日本と海外という空間的な距離が離れている、日本とは異なる競争相手に直面する、文化的な問題に直面するなどの理由から、本国とは異なる複雑で困難な問題に直面し、対処しなければならないからである。本講義では、企業の国際化をテーマとして、それに関連するマネジメントの問題を紹介します。私たちの身近な存在である日本企業の国際化について講義をしますが、特に、北米の日系企業に焦点を当てます。また、講義を通して、学生諸君が今後就職すると思われる日本企業や、そこでの経営、つまり日本的経営とはどのようなものか、さらに米国などの欧米諸国の企業経営、アジア諸国の企業経営と日本的経営との比較、これらの世界の企業、それらの経営の諸問題や動向等をも紹介していきます。

#### <各回毎の授業内容>

- |                              |                    |
|------------------------------|--------------------|
| 1. イントロダクション                 | 2. マネジメントとは何か      |
| 3. 企業の国際化とは何か:その段階を中心として     | 4. 国際ポートフォリオ戦略     |
| 5. 日本と世界の多国籍企業の紹介と、国際化に伴う諸問題 |                    |
| 6. 北米日系企業の経営戦略1              | 7. 北米日系企業の経営戦略2    |
| 8. 北米日系企業の組織管理1              | 9. 北米日系企業の組織管理2    |
| 10. 北米日系企業の組織文化1             | 11. 北米日系企業の組織文化2   |
| 12. 北米日系企業の人的資源管理1           | 13. 北米日系企業の人的資源管理2 |
| 14. 総括1                      | 15. 総括2            |
| 16. 試験                       |                    |

#### <成績評価方法>

最終成績は、(1)講義期間中のレポート、(2)、試験、によって評価する予定です。

#### <教科書・参考文献>

教科書:岡本康雄編『北米日系企業の経営』同文館。(絶版であるが、学内のHPからダウンロード化)  
参考書:伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。

#### <受講に当たっての留意事項>

毎回の授業への参加はいうまでもなく、講義の予習と復習も必須である。

#### <学習到達目標>

企業の国際化とそれに関連するマネジメントの諸問題を学習すること。

(関連する学習・教育到達目標:I)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	商品企画	2	前	吉田 博（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

世の中に、商品（モノ、サービス、ソフト）が溢れ、新しい商品や新規の事業が次々と登場している。企業・組織は新しい商品・事業をどのように企画、商品化し、多くの顧客・事業者に支持されるよう取り組んでいるかの実態や仕組みについて、事例と理論の両面から学習する。

学習を通じて、商品企画において大切な独創性や独自性を生み出す発想力・創造力、商品化や販売に向けての情報収集・分析力、新商品・事業を市場に導入していくマーケティング戦略に必要な論理的思考力を身につけ、実践的な企画力の修得に役立てる。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 商品（機能、価値、ベネフィット）と企画（発想、アイデア、商品化）のとりえ方
- 2 商品企画に当たっての顧客・市場・競争相手・環境の情報収集と分析
- 3 顧客のニーズ・不満の把握と分析
- 4 商品企画の発想・ヒント・アイデアの創出方法、企画のプロセス
- 5 商品企画のシーズ（種）となる技術・開発・特許、知的財産
- 6 商品コンセプト、ネーミング、ブランド
- 7 市場・顧客のポジショニングと差別化・多様化戦略
- 8 製造業（消費者向け消費財）の商品企画ケース
- 9 製造業（事業所向け生産財）の商品企画ケース
- 10 流通業（大手スーパー）の商品企画ケース
- 11 流通業（専門店）の商品企画ケース
- 12 サービス業（情報・金融系）の商品・事業企画ケース
- 13 サービス業（飲食・レジャー系）の事業企画・海外展開ケース
- 14 サービス業（農業・環境系）の商品・事業企画ケース
- 15 ベンチャーの商品・事業企画ケース
- 16 試験

#### <成績評価方法>

成績は①毎回出席時レポート（基礎知識・思考力）を50%、②試験（基礎知識・思考力）を20%。  
③課題レポート（情報収集・企画・発想力）を30%。

#### <教科書・参考文献>

毎回資料を配布する。ビデオ、インターネット、図書を使って具体的な事例を紹介する。  
事例やテーマに応じて、参考となる文献・雑誌、テレビ等の情報源を紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

取上げる事例について、インターネット、新聞・雑誌等で自主的に情報を収集し、理解するように。

#### <学習到達目標>

事例や文献学習を通じて、人々のニーズを充足し、暮らしに役立つ商品・事業を企画する上で必要な基礎知識・力、及び情報収集・分析力、企画・発想力、論理的思考力を身につける（毎回出席時レポート、試験）。商品企画の事例を通じて、企業・組織の実態や仕組みを理解し、将来の進路を判断する力をつける（課題レポート）。

（関連する学習・教育到達目標：I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	経営と法律	2	前	吉田正之
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

企業の情報システムに大きくかかわる内部統制システムは近年注目されていますが、平成20年4月から各企業において構築・運用されています。

この授業では、会社法および金融商品取引法における内部統制システム導入の経緯から説き起こし、その目的・内容を明らかにし、さらに会社法上課されているものと金融商品取引法上課されているものとを比較検討します。

**<各回毎の授業内容>**

- 第1回 法学の基礎
- 第2回 企業・会社とは何か
- 第3回 会社法の概要1－会社法の法源等
- 第4回 会社法の概要2－会社法の概要
- 第5回 会社法の概要3－株式会社総論・株主総会の概要
- 第6回 会社法の概要4－株主総会の運営等
- 第7回 会社法の概要5－取締役会
- 第8回 会社法の概要6－取締役
- 第9回 会社法の概要7－監査役
- 第10回 金融商品取引法の概要1
- 第11回 金融商品取引法の概要2
- 第12回 内部統制システム導入の経緯
- 第13回 会社法上の内部統制システム
- 第14回 金融商品取引法上の内部統制システム
- 第15回 両法における制度の比較

**<成績評価方法>**

質問票を利用した「授業への参加」と、全授業終了後に提出する「レポート」で評価します。両者の比率は1:1を目安にします。

**<教科書・参考文献>**

- 近藤光男『会社法の仕組み』日本経済新聞社、2006年
- 黒沼悦郎『金融商品取引法入門〔第4版〕』日本経済新聞社、2011年
- 有斐閣ポケット六法平成24年版

**<受講に当たっての留意事項>**

開講時にレジュメを配布する予定です。欠席した者は自己責任で入手してください。また、受講に際しては六法を持参してください。

毎回講義の終了時に、「授業への参加」のため、講義内容に関するコメント（感想、意見、質問等）を提出してもらいます。これを成績評価の対象に加えますが、「なにもありません」等のコメントは、コメントとして取り扱いません。何でも結構ですから、何か書き込んで提出してください。

**<学習到達目標>**

内部統制システムの目的・内容について知識を習得すること（50%）および課題に対してレポートを作成すること（50%）を目標とします。

（関連する学習・教育到達目標:I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	3年	知識情報処理	2	前	中田豊久 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

近年では、インターネットの繁栄や様々なコンピュータシステムの登場により、コンピュータにより処理できるデータが膨大に生成されるようになってきた。これらのデータには、価値ある情報が含まれていることがよくあるが、データ量が多すぎるため、人間の目による作業ではその情報を発見することが困難である。そこで、テキストマイニング・データマイニングという技術が近年注目され続けている。本講義では、これらの技術について代表的な手法を学び、さらにプログラムを用いた応用例についても学ぶ。演習の中では、データマイニングツールのWekaを使用する。

#### <各回毎の授業内容>

1. テキストマイニング・データマイニング入門 (知識発見のプロセス、機械学習)
2. 分類学習の評価方法、最近傍法
3. ナイーブベイズ
4. 演習 (最近傍法、ナイーブベイズ)(レポート課題1)
5. 決定木 (ID3)
6. ニューラルネットワーク
7. 演習 (ID3、ニューラルネットワーク)(レポート課題2)
8. クラスタリング (K-means法)
9. 相関ルールマイニング (Apriori)
10. 演習 (K-means法、Apriori)(レポート課題3)
11. Webからのテキスト情報の取得、形態素解析
12. 頻度分析、係り受け解析
13. 演習 (テキストマイニング)(レポート課題4)
14. データマイニングの実践と応用1
15. データマイニングの実践と応用2 (レポート課題5)
16. 課題の発表会

#### <成績評価方法>

課題のレポート80%、課題の発表20%の比率で評価する。

#### <教科書・参考文献>

講義資料をホームページによって配布する。

参考文献:「数式を使わないデータマイニング入門」,岡嶋裕史,光文社新書,ISBN978-4-334-03355-2

#### <受講に当たっての留意事項>

プログラミング言語を演習の中で用いることがあるため、情報処理演習C1、C2を受講していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

- ・データから知識を発見する手法について理解する (レポート20%)。
- ・分析に用いるデータの収集方法やデータマイニング技術を利用する方法を習得する (レポート40%)。
- ・分析によって得られる知見を、他者に分かりやすく伝える技術を習得する (演習の発表20%)。
- ・データマイニング、テキストマイニングの応用について理解する (レポート20%)。

(関連する学習・教育到達目標:J)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	3年	コンピュータビジョン	2	前	河原和好 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

人間が外界の情報を得る手段のほとんどは視覚による画像情報である。この仕組みと同等の機能をコンピュータに持たせ、コンピュータに画像を処理・計測・認識・理解させる手法がコンピュータビジョンである。その数理的な原理を理解し、新しい問題へ適用するための手法を学習する。

<各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス、コンピュータビジョンとは、応用事例の紹介
- 2 画像処理1: デジタル画像、画像の表現方法、画像フォーマット
- 3 画像処理2: 画像処理の手法、ヒストグラム処理、空間フィルタ処理
- 4 画像処理3: 画像の幾何変換、同次座標による表現、補間処理
- 5 画像処理4: 二値化の手法、二値画像処理
- 6 画像処理5: 画像の周波数解析の原理と手法
- 7 画像認識1: 画像認識の原理、パターン認識の手法
- 8 画像認識2: 応用事例の紹介 (文字認識)
- 9 画像認識3: 応用事例の紹介 (バイオメトリクス、リモートセンシング)
- 10 画像理解1: 立体認識の手法
- 11 画像理解2: 動画画像処理の手法
- 13 画像理解3: 応用事例の紹介 (ロボット)
- 12 画像作成1: コンピュータグラフィックスの原理と手法1
- 14 画像作成2: コンピュータグラフィックスの原理と手法2
- 15 画像作成3: 応用事例の紹介 (バーチャルリアリティ、拡張現実) まとめ
- 16 期末試験

注) 受講する学生の理解度により講義順序や分量を調整することがある

<成績評価方法>

時間内に行う演習課題及び宿題の評価点の合計を50%、期末試験の評価点を50%として評価する。

<教科書・参考文献>

- ・ 資料を配付する (学内専用ウェブページから授業前に各自ダウンロードしておくこと)
- ・ 参考文献は講義中に紹介する

<受講に当たっての留意事項>

- ・ 連絡事項や追加情報はウェブページに掲載する <http://www.nuis.ac.jp/~kawahara/>

<学習到達目標>

- ・ 画像処理、計測、認識、理解の手法について学習する (演習課題全体により評価)
- ・ 画像処理、計測、認識、理解について理解し、与えられた問題に対し適用できるようになる (宿題及び期末試験により評価)

(関連する学習・教育到達目標:J)



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	マルチメディア情報処理	2	前	桑原 悟（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

IT化社会の一翼を担うマルチメディア情報処理は、先人の知恵と発想の集大成であり、さらなる発展が期待されている。授業では、マルチメディア関連の旧来のアナログ技術から最新のデジタル技術及び関連事項について学ぶ。

**<各回毎の授業内容>**

- 1) 授業のオリエンテーション及びマルチメディア概観
  - 2) 人間の聴覚
  - 3) 音声に関する技術の発展
  - 4) 音声のアナログ表現とデジタル表現
  - 5) 不要な音声情報の除去と音声データの圧縮
  - 6) 音声合成と音声認識
  - 7) 音声情報処理まとめ
  - 8) 人間の視覚
  - 9) 画像に関する技術の発展
  - 10) 画像のアナログ表現とデジタル表現
  - 11) データ量の削減と圧縮
  - 12) データ圧縮方式（詳細）
  - 13) コンピュータグラフィックス
  - 14) マルチメディアツール利用の実際（外部講師による遠隔授業を行う場合がある）
  - 15) 画像情報処理まとめ
  - 16) 定期試験
- 注）受講学生の理解度により講義の順番（日程）や分量を調整することがある

**<成績評価方法>**

定期試験及び任意課題（任意であるので、加点のみ最大10%）により評価する。

**<教科書・参考文献>**

{新技術の登場が盛んな分野であるので、授業開始時期に合わせて最適なものを選定し指定する}

**<受講に当たっての留意事項>**

数学1, 数学2, テレコミュニケーションの単位を取得していることが望ましい。  
基礎自由科目「数学基礎」の履修を指導された者は、これを履修していることが望ましい。  
授業に集中している学生の邪魔になる行為をするものは退出させる（出席を認めない）。  
質問は質問者自身だけでなく、他の受講者の理解を促す効果があるので、大いに歓迎する。  
また、この授業は、本学のe-learningファシリティを用いて行う予定である。

**<学習到達目標>**

人間の聴覚・視覚の特性を考慮にいたした、音声・画像コンテンツの入力、記録、伝達、出力における「高品質化」、「高速化」、「圧縮」、「低価格化」の発想と原理を理解し、これらの間及び、その他の制約条件とのトレード・オフの考え方についても理解できるようなることを目標とする。

（関連する学習・教育到達目標：J）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	多変量解析	2	前	近山英輔（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

多変量解析法は多次元データを様々な角度から解析する数学的手法の総称である。その応用範囲は非常に広い。本講義では、線形代数と統計学を基礎として成立する様々な多変量解析の手法を学び、実際に解析する能力を養うことを目的とする。

<各回毎の授業内容>

1. 多次元データと特徴空間
2. 多次元データと線形代数
3. 多次元データと統計学
4. 単回帰分析
5. 重回帰分析
6. 分散・共分散・相関行列
7. 主成分分析(1)
8. 主成分分析(2)
9. 主成分分析(3)
10. クラスタ分析(1)
11. クラスタ分析(2)
12. パターン認識
13. ニューラルネットワーク
14. 自己組織化マップ
15. 定期試験とレポートの解説
16. 定期試験

<成績評価方法>

レポート:70%、定期試験:30%

<教科書・参考文献>

特になし

<受講に当たっての留意事項>

簡単な定期試験で、授業内容にある多次元ベクトルの計算、行列の計算、統計学の基礎の計算の修得が少なくとも示されていること、かつレポートで多変量解析法の少なくとも1つを用いて、データ解析について学んだことが少なくとも示されていること。これらを満たさない履修者は単位を取得できない。

<学習到達目標>

- ・ 多変量解析の手法を適切に選択し、解析できること（レポート70%）
- ・ 特徴ベクトル、特徴空間の意味を理解していること（試験15%）
- ・ 多次元ベクトル、行列、統計量の計算ができること（試験15%）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	オペレーションズリサーチ2	2	前	近山英輔（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

費用対効果が重要となる系においては、費用を最小化する最適な数理的計画・最適化手法の立案が求められる。また、複雑な人間社会においては、非線形系の大域的最適化、適応戦略の数理的手法が求められることがある。この講義では線形計画法、解析学的・離散的な最適化問題の手法、個体群動力学や進化・適応戦略の理論を学ぶ。

<各回毎の授業内容>

1. オペレーションズリサーチの歴史
2. 線形代数の予備知識
3. 線形計画法(1)
4. 線形計画法(2)
5. 線形計画法(3)
6. 解析学の予備知識
7. 局所的最適化法(1)
8. 局所的最適化法(2)
9. 局所的最適化法(3)
10. 大域的最適化法(1)
11. 大域的最適化法(2)
12. 大域的最適化法(3)
13. 生物社会の動力学(1)
14. 生物社会の動力学(2)
15. 生物社会の動力学(3)
16. 定期試験

<成績評価方法>

定期試験:100%

<教科書・参考文献>

特になし

<受講に当たっての留意事項>

数理的方法の修得を望む者を対象としている。基礎選択科目「線形数学」、専門選択科目「システム数学」又は専門選択科目「モデリング数学」を履修していることが望ましい。

<学習到達目標>

- ・ 線形代数、多変数関数の微分積分学等の高度な数学的概念の理解と計算力（定期試験40%）。
- ・ 線形計画法の理解（定期試験20%）。
- ・ 局所的最適化法の理解（定期試験20%）。
- ・ 大域的最適化法の理解（定期試験20%）。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	学外実習	2	前	情報システム学科教員
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

学外実習は、大学と企業等とが事前に協議し、大学から派遣された学生が、ある一定期間、企業等において、就業体験を行うものである。この科目では、学生が大学で学んでいることがら、実社会でどのように役立つのかを、企業等に入って体験し、そこで得た知見や経験をもとに、専攻分野での知識向上、学習意欲の向上を図ることを目的としている。併せて、学生が就職を含め、将来の進路を考える上で貴重な経験と情報を得ることを期待している。

<各回毎の授業内容>

- 1 実習時期・期間:原則として3年次の夏季休暇期間、原則2週間（実質10日間成績評価方法参照）
- 2 実習先 :受け入れ企業リストで紹介する企業・団体等から選定する。  
学生自身が探したものでも良いが、その場合は担当教員に履修前に申し出ること。
- 3 実習内容と形態:具体的な内容と形態については、担当教員と協議に基づいて実習先が作成するプログラムに従う。（会社毎の実習内容については、実習経験者の報告書を参照）
- 4 実習地域:新潟地域が主体で、首都圏も一部ありうる。
- 5 実習期間・時間:実習先の勤務形態に従う。
- 6 スケジュール
  - 4月 ガイダンスおよび「学外実習」履修届け
  - 5月 学外実習受け入れ企業の提示、実習希望先の提出（第一・第二希望）
  - 6月 実習先毎の派遣学生の選考・確定、日程の確定、学生紹介票の提出
  - 7月 実習前ガイダンス、および実習先担当教員による事前指導
  - 8～9月 実習参加
  - 9月 実習報告書の提出（担当教員の指示に従うこと）
  - 10月 成績評価（成績は後期）

<成績評価方法>

- ・実習報告書と実習先指導者に依頼する実習評価とを総合して、実習先の指導担当教員が評価する。
- ・実習期間が受け入れ先の都合により、10日間に満たない場合は、担当教員による別途の事前・事後指導や別途レポートの作成・提出を行う。

<教科書・参考文献>

- ・過去の实習報告書（学務課教務係の棚に保管）。
- ・各企業・団体のホームページを参照すること。

<受講に当たっての留意事項>

- ・学外実習による就業体験は、アルバイトではないので、実習先が提供する研修・就業に参加するという目的意識をしっかりともって臨むこと。
- ・実習先における態度、成果は本人はもとより、本学に対する評価につながる場合がある。そのため、学業成績、日常の規律遵守に著しく問題のある学生に対しては実習を許可されない。参加する学生は、本学から派遣されていることを自覚して就業に臨むこと。
- ・各企業の希望者が実習先の受け入れ人数を越えた時は、担当教員が選考する（実習できない場合がある）

<学習到達目標>

- ・実習先企業等の業務を理解し、その一部を体験すること。
- ・今後の学習やスキルアップへの動機付け・方向付けができる。
- ・職業意識を形成・明確化し、職業に対する適性やキャリア開発について考えることができる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	ビジネス英語入門1	2	前	グレゴリー デイック
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

This course is designed to expose students to a variety of real-world business and workplace situations in an interesting and enjoyable way.

<各回毎の授業内容>

1. Orientation
2. Presentations: Self-Introductions
3. Business Cards
4. Working Hours
5. DVD: Office Culture in England
6. Office Role Play & TOEIC practice
7. What Kind of Company?
8. Mid-term Test
9. Internet: Company Searches
10. Corporate Culture
11. DVD: Office Culture in America
12. Office Role Play & TOEIC practice
13. Cell Phones
14. Advertising
15. Office Role Play & TOEIC practice
16. 定期試験

<成績評価方法>

Attendance & Class Participation: 50%, Tests: 50%.

<教科書・参考文献>

The teacher will provide teaching materials every week. There will be no textbooks.

<受講に当たっての留意事項>

Students will be expected to attend class regularly and participate fully.

<学習到達目標>

Students will learn business English that they can use both in Japan and abroad that will help them in their future careers.

# 後 期 科 目

# 基礎科目



# 1年基礎科目（後期）

経済学（ミクロ）  
社会学  
歴史学  
地球環境論  
科学と技術  
コミュニケーション技術  
線形数学  
CEP 2  
英語 2  
体力診断と運動処方 2



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	1 年	経済学 (ミクロ)	2	後	濱田弘潤
21年度以前	基 礎					

選択

<授業目的>

この授業では、ミクロとマクロに二分される近代経済学の中で、ミクロ経済学について最も基礎的な考え方を講義する。ミクロ経済学の入門を学ぶことを通じて、現実の経済問題を正しく捉え、考えるための最も基礎的な視点を養うことを目的とする。

ミクロ経済学を学ぶに当たって、最も基本的な経済用語や考え方、経済学で用いられる簡単な数学を説明し、個々の経済主体の行動原理について説明を行う。特に消費者理論では、消費者の予算制約下の効用最大化行動について、生産者理論では、生産者の生産技術の制約下での利潤最大化行動について学ぶ。また需要と供給の一致する市場均衡と市場均衡の資源配分の効率性について説明する。講義は、ミクロ経済学をこれまで学んだことのない初学者向けに行われる。

<各回毎の授業内容>

1. ミクロ経済学について、ミクロ経済学の位置付け
2. ミクロ経済学と数学
3. 需要と供給
4. 価格弾力性
5. 完全競争市場と市場均衡
6. 効用と無差別曲線
7. 限界代替率
8. 予算制約と効用最大化
9. 所得効果と代替効果
10. 生産関数
11. 生産量と費用
12. いろいろな費用の性質
13. 利潤最大化
14. 余剰分析の方法
15. 市場均衡と余剰・まとめ
16. 定期試験

但し講義の構成・内容は、進み具合と受講者の理解度に応じて変更することがある。  
指定した教科書の章立てに従った講義を予定している。

<成績評価方法>

成績評価は、期末試験により行う。

<教科書・参考文献>

教科書: 神戸伸輔・寶多康弘・濱田弘潤 『ミクロ経済学をつかむ』(2006年) 有斐閣

参考文献: 西村和雄 『現代経済学入門 ミクロ経済学 第2版』(2001年) 岩波書店

西村和雄 『ミクロ経済学入門 第2版』(1995年) 岩波書店

武隈慎一 『ミクロ経済学 増補版』(1999年) 新世社

<受講に当たっての留意事項>

受講者に必要な要件は、講義を通じて真剣に学ぶ積極的な学習意欲である。  
また講義内容の復習を行うこと。それ以外は特に受講に必要な要件はない。  
講義を中心に進めるので、テキストの予習・復習を行うこと。

<学習到達目標>

1. 講義内容とテキストの内容を完全に理解する。ミクロ経済学の考え方や図について、経済学のものとの捉え方や経済問題、経済的な意味についてきちんと理解する。具体的には、消費者理論、生産者理論、市場均衡で用いられるミクロ経済学の基礎概念と考え方を理解する。
2. ミクロ経済学の問題を解くために最低限必要な基礎知識を修得し、ミクロ経済学の実際の演習問題の解き方を学ぶことの助けとする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	社会学	2	後	阿部春江
21年度以前	基 礎					

選択

#### <授業目的>

本講義は、最初に社会学の基本的視点を理解するため、社会理論並びに社会学的方法について概説する。次に、社会科学の分野で着目されてきた福祉国家・福祉レジームについて述べつつ、わが国の社会的特徴を、人口、家族、ライフコース等に焦点を当て説明する。最後に、社会問題、とりわけ家族にかかわる問題について社会学のアプローチを行い整理する。

#### <各回毎の授業内容>

はじめに

- 1 社会学の課題、社会学の歴史
- 2 社会学の課題、社会学の歴史
- 3 社会学的方法・社会調査
- 4 社会学的方法・社会調査
- 5 社会学と社会福祉
- 6 社会学と社会福祉
- 7 人口の構造と変化
- 8 家族とその変容
- 9 家族とその変容
- 10 家族とその変容
- 11 ライフコースとライフスタイル
- 12 児童虐待の現状と課題
- 13 ドメスティックバイオレンスの現状と課題
- 14 高齢者虐待の現状と課題
- 15 護を必要とする高齢者の現状と課題
- 16 まとめ（定期試験）

#### <成績評価方法>

定期試験50%、出席率25%、授業態度25%で総合評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書 テキストは使用しない。講義時に資料を配布する。

参考文献 『新社会福祉士養成講座 社会理論と社会システム 社会学』中央法規 2010、『社会学—社会理論と社会システム』へるす出版 2009、『社会福祉学習双書 社会学』全国社会福祉協議会 2010、『新・社会福祉士養成ブック 社会学』ミネルヴァ書房 2007、宇都宮京子編『よく分かる社会学』ミネルヴァ書房 2008、『新・社会福祉士養成講座 社会調査の基礎』中央法規 2010、

#### <受講に当たっての留意事項>

上記の内容はこのシラバス作成時点のものであり変更の可能性もある。第1回目に、講義内容・成績評価方法等詳細について説明する。

#### <学習到達目標>

講義を通して、現代社会、とりわけ家族の諸問題を社会学の視点から見つめなおし考察する力を身につけることを目指す。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	地球環境論	2	後	澤口晋一（情報文化）
21年度以前	基 礎					

選択

<授業目的>

「地球環境問題」とは、人間の社会経済活動に伴って人間圏から放出された物質が地球システムの物質循環・エネルギー循環に影響を与える（与えた）結果として生じるような地球規模の諸現象で、それが結果的に人間生存に影響を与えるようなものをいう。具体的には地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、砂漠化、野生生物種の減少、森林（熱帯林）破壊、水質汚染、土壌汚染などといった問題群であるが、この講義では地球温暖化、オゾン層の破壊、生物多様性そして福島第一原発事故による放射性物質汚染について概説する。

<各回毎の授業内容>

1. 「地球環境問題とは何か。
2. 地球環境問題への国際的取り組みとその歴史
3. 地球温暖化を検証する（温室効果ガスの大気中濃度、気温の推移海面上昇、山岳氷河、両極域の海水面積、永久凍土）
4. 温室効果のメカニズム
5. IPCCによる将来予測と影響予測（第四次評価報告書に基づいて）
6. 地球温暖化に対する国際社会と日本の取り組み（気候変動枠組条約、京都議定書、締約国会議）
7. 地球温暖化反人為説について
8. 放射性物質による環境汚染①核燃サイクル概説
9. 放射性物質による環境汚染②福島第一原発事故とその後
10. オゾン層の破壊①地球大気とオゾン層、オゾン層の保護に関する国際条約について
11. オゾン層の破壊②北極と南極のオゾンホール、形成とメカニズム
12. 生物多様性とは何か①
13. 生物多様性とは何か②熱帯林の破壊
14. 生物多様性とは何か③野生動物の保護をめぐって
15. 資源と地球環境問題

<成績評価方法>

試験（定期試験80％と小テスト20％）

<教科書・参考文献>

IPCC (L. Bernstein ほか)『気候変動2007:統合報告書 政策決定者向け要約』文科省・気象庁・環境省・経産省, 2009. [http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4th/syr\\_spm.pdf](http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4th/syr_spm.pdf)

環境省 平成22年度オゾン層等の監視結果に関する年次報告書.

[http://www.env.go.jp/earth/report/h23-05/1-1\\_1\\_chapter1.pdf](http://www.env.go.jp/earth/report/h23-05/1-1_1_chapter1.pdf)

\*上記2点の資料を明記したアドレスからダウンロードし、必ずカラーでプリントアウトしておくこと。

<受講に当たっての留意事項>

私語・飲食（持ち込み）厳禁。携帯電話の電源は必ず切る（毎時間携帯の電源を切ってもらうことから始まります）。

<学習到達目標>

地球温暖化問題とは何かを多角的に認識するとともに、国際社会の取り組みに対して、市民としての自己の位置づけを明確化すること。なお、授業内容それぞれの項目にかかる比重はおおよそ以下のように設定しています。1～2:10%, 3～7:40%, 8～9:20%, 10～11:10%, 12～14:20%ただし、学生の反応等によって扱う内容や比重に若干の違いが生じることがあります。

（関連する学習・教育到達目標:A）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	科学と技術	2	後	近藤 進（情報システム）
21年度以前	基 礎					

選択

**<授業目的>**

ここでは、科学と技術について概説し、情報化社会をささえる通信の歴史および原理を勉強する。通信の科学技術は、19世紀初頭から、さまざまな人々の研究、あるいは競争の上に成り立っている。当時の歴史背景をふまえ、研究者・技術者が、それぞれのどのような着眼点で研究開発をすすめていったか、そしてどのようなものが残ったかを学ぶ。あわせて、これらエレクトロニクス技術に重要な原理やシステムについて、基礎的な知識を修得する。さらに、最新の光通信を材料の観点からふくめて勉強する。これらの研究開発をふまえ独創性や特許について勉強する。これらの、比較的理解しやすい科学技術を学ぶ中から、情報化社会が広範囲な科学技術で成り立っていることを理解する。

**<各回毎の授業内容>**

- 1 はじめに 講義の概要
- 2 科学と技術 科学と技術の違い 細菌学と疫学
- 3 通信の歴史（電気以前） 腕木通信他
- 4 通信の歴史（電気と電池） ガルバーニ ボルタ 発電機
- 5 通信の歴史（電信） クック ウエバー
- 6 通信の歴史（電信） モールス
- 7 通信の歴史（電話） ライス ベル エジソン
- 8 通信の歴史（無線） マクスエル ロッジ マルコーニ
- 9 通信の歴史（無線） 大西洋横断通信 電離層 電波の使い方
- 10 通信の歴史（放送） 電球 真空管 アンテナ 撮像管 液晶 プラズマディスプレイ
- 11 計算機の始まり 機械式計算機 ENIAC
- 12 通信材料の開発（結晶とガラス） ダイヤモンド 水晶振動子 CDRW
- 13 通信材料の開発（結晶成長と光ファイバー） 人工結晶 MBE法 MOVPE法 光ファイバー
- 14 通信材料の開発（半導体レーザー） 発光の原理 LED レーザ
- 15 独創性と特許 青色発光ダイオード
- 16 定期試験

**<成績評価方法>**

- ・成績は期末試験の結果で評価する。
- ・試験は講義に沿った問題を出題する。

**<教科書・参考文献>**

- ・毎回プリントを配布する。

**<受講に当たっての留意事項>**

- ・欠席した者は自己責任で資料をそろえること
- ・各回の授業内容は厳密に一限毎の内容を示すものではなく、各講義の主な内容であり、理解度に応じ進度は多少変化する。
- ・毎回講義の終了時に、講義内容に関するコメント（感想、意見、質問、理解度チェック）を提出してもらう。

**<学習到達目標>**

- ・電子通信技術の歴史・原理を学ぶことによって、エレクトロニクスの基礎（35%）、科学技術の研究開発についての知識（65%）を習得する。また、これらを学ぶ中から、地理・歴史・物理・化学・地学・医学等の広範囲な知識を習得し、現代社会が多くの科学技術により成り立っていることを理解する。

（関連する学習・教育目標 A）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	コミュニケーション技術	2	後	本間正一郎
21年度以前	基 礎					

選択

#### <授業目的>

現代社会は情報化社会といわれる。しかし、情報をやりとりし、使いこなすべき人間は洪水のような情報におぼれ、次第に個の中へ閉じこもる傾向もみえる。本来、人間社会を円滑にするための道具に過ぎない情報技術が、いつの間にか目的化・肥大化し、その陰で太古から人間が持っていた優れたコミュニケーション力にかけりが見えている。インターネットを基盤とするさまざまな情報ツールが爆発的に普及するなか、何でもできるという過信が逆にすべてに無知という悲惨な状態を招いていないか。マスゴミという蔑称が当たり前のように口にされるが、実は多くの人はいかに偏った情報に踊らされコミュニケーション喪失状態に陥っているのではないか。実社会のコミュニケーションを立体的・多面的に考察する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1、ジャーナリズムとコミュニケーション
- 2、既存メディアはなぜ攻撃されるか
- 3、言論の自由はどう死ぬか
- 4、戦争とメディア
- 5、テレポリティクスと新聞
- 6、広告、CMを考える
- 7、情報のプロとは何者か
- 8、テレビ、ラジオはどうなのか
- 9、愛国心とプロパガンダ
- 10、市民とジャーナリズム
- 11、人権と新聞
- 12、オルターナティブ・メディアの現状と課題
- 13、報道写真
- 14、通信社とはなにか
- 15、匿名社会とメディア
- 16、まとめ

#### <成績評価方法>

出席を重視する。評価配分は期末30%、小課題と出席ポイントで70%。

#### <教科書・参考文献>

特にないが、授業の中で随時紹介する。日常的に新聞やテレビ・ニュースに接すると理解が深まる。

#### <受講に当たっての留意事項>

本授業は「試験のための丸暗記」を求めない。大学生らしく自律的に思索を広め、深めることを期待し、そのためのヒントを豊富に提示する。授業中の教室出入りや私語、携帯電話等は周囲の学習者の迷惑となるので慎むこと。

#### <学習到達目標>

あらゆる情報を鵜呑みにせず、自分自身を見失わずに社会生活を送るためのコミュニケーション理解力を身につける。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	1年	線形数学	2	後	石井忠夫（情報システム）
21年度以前	基礎					

選択

**<授業目的>**

本講義では、線形代数の基礎について一通り解説する。線形代数は数学における他の分野（代数学、幾何学、解析学）の基礎となるばかりでなく、物理学、化学、工学、経済学等の諸科学に対して、その数学的基盤を与えるものである。更に、情報科学の観点からも重要性が認識されている。たくさんの定義が現れるので、一つ一つ順を追って解説する。

**<各回毎の授業内容>**

1. 線形代数の入門（基本的な代数の概念、講義の位置付け）
2. 行列の定義（相等、和、差、スカラー倍、積）
3. 演算の法則（交換、結合、分配）
4. 正方行列（単位行列、対角行列、対称行列、交代行列）
5. 正則行列と行列のブロック分割（逆行列、転置行列）
6. 連立一次方程式と行基本操作
7. 行列の階数と掃き出し計算法
8. 逆行列の決定と正則条件
9. 行列式の定義（置換、順列、サラスの方法）
10. 行列式の性質（転置、線形、交代、加法）
11. 余因数展開と行列式の計算
12. 逆行列と連立方程式への応用（クラメールの公式）
13. 線形変換
14. 固有値問題
15. 固有値の応用
16. 定期試験

**<成績評価方法>**

毎回の小問が10点、レポート2回の合計が30点、および定期試験が60点の合計点で評価する。

**<教科書・参考文献>**

- 寺田文行、木村宣昭共著：線形代数の基礎（サイエンス社、1997年）1,480円  
 寺田文行、木村宣昭共著：演習と応用線形代数（サイエンス社、2000年）1,700円

**<受講に当たっての留意事項>**

- (1) 履修に当たっては、上の二番目に挙げた演習書も参考にすると良い。
- (2) 学習の便宜を図るために、毎回の小問題を課す。
- (3) 教科書に沿って授業を進めるので、早めに教科書を購入しておくのが望ましい。
- (4) 基礎自由科目「数学基礎」の内容を修得していることが望ましい。

**<学習到達目標>**

行列および行列式の基礎概念を理解（60%）し、また、連立1次方程式の求解への応用能力（40%）を習得する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	CEP 2	3	後	G.Hadley, M.Ruddick, P.Dickinson
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

CEPは英語を楽しく集中的に学習するプログラムです。CEPで積極的に取り組んだ学生は、そのほとんどが学年末には自信を持って英語を話すことができるようになっています。CEPでは、国際英語を教えます。英語を自分のことばにして、日本人としてのみなさんの視点から話しましょう。CEPでは、みなさんが英語を話したくなるような、楽しいクラスを目指します。

<各回毎の授業内容>

CEPプレースメント・テストの結果によって、レベル別クラスが編成されます。Aクラスが最も難しく、Fクラスが基礎レベルです。しかし、このレベルの違いはみなさんの成績に影響しません。例えば、Fクラスだからという理由で悪い成績をとったり、Aクラスだからといって他のクラスの人より自動的に良い成績を修めるといったことはありません。レベル別にするのは、学習内容が簡単過ぎたり難し過ぎたりすることを避けるためです。適切なレベルから始めることで、学習効果が上がります。CEPで英語の力がつけば更に高度なクラスへ、また、あまり上達しないようなら基礎的なクラスに移動することも可能です。CEPでは毎回の出席と授業への積極的な取組みが要求されます。遅刻はしないこと。欠席時数（届出があり、やむをえないと認められた欠席を除く）が30%を超えると不合格となります。CEPでは、授業活動への参加に関してポイント・システムを採用しています。英語で質問をしたり、英語の授業活動を積極的に行ったり、教員の質問に英語で答えたりした学生は、そのつどコインがもらえます。白いコインは1ポイント、青いコインは2ポイント、赤いコインは3ポイントです。1回の授業につき最高ひとり5ポイントまで集めることができます。コインは授業終了時に教卓の箱に返却します。そのとき、自分の名前とポイントの数を教員に伝えてください。CEPには、スピーキング・リスニングの授業とリーディングの授業があります。リスニングとスピーキングのテストは3週間に1回あります。

<成績評価方法>

みなさんの成績は、テスト、宿題、授業活動への積極的な取組みなどから総合的に判定されます。

<教科書・参考文献>

Interchange Full Contact 1a, 2a, 3a (Jack Richards, Cambridge University Press.)

<受講に当たっての留意事項>

以下は基本的なルールです。必ず守ってください。授業中は英語で話すこと。教員に質問されたときにその意味や答えがわからなければ、まず教員の方を向いて、教員に直接そう伝えること。（すぐに友達に聞いたりしない。）ほとんどの問題は教師と良い関係を築いていく中で解決できるものです。授業中や空き時間に遠慮なく話してください。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	英語 2 A（話す英語 2） P 1・P 2	1	後	ステファン ドュルカ
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

This course is designed to help students improve their English-language communicative skills, with an emphasis on practical contemporary English as it is used in the real world.

<各回毎の授業内容>

- 1 Class introduction - Summer Holidays
- 2 Sports. Simple present. Talents and abilities.
- 3 Simple present "Wh-" questions.
- 4 Months. Ordinal numbers. The future.
- 5 Body parts. Have + noun. Imperatives. H alth.
- 6 Listening training via representative media.
- 7 Places and things. Prepositions of place.
- 8 Mid-Term Test including review
- 9 Common chores. Leisure activities.
- 10 Simple past statements.
- 11 The past of the verb 'to be'. Contractions.
- 12 Years. School subjects. Time lines.
- 13 Going out with friends. Object pronouns.
- 14 Prefixes and Suffixes.
- 15 Spring break. Planning.
- 16 FINAL TEST.

<成績評価方法>

Students will be graded on the basis of their performance on a mid-term (50%) and a final test of knowledge (50%).

<教科書・参考文献>

Relevant handouts (correctly known as photocopies, not "prints") will be supplied by the instructor, sourced from texts, print media and original material.

<受講に当たっての留意事項>

Students must not sleep in class. Students must be attentive. Students must turn off cell-phones.

<学習到達目標>

- 1) The students will be able to communicate with people from around the world in plain English, with an emphasis on practical contemporary English as it is used in the real world.
- 2) The students will be able to pronounce words correctly and read basic English passages with a certain degree of fluency.
- 3) The students will gain proficiency in writing simple daily schedules, lists of telephone numbers and addresses and the location of objects.
- 4) The students will learn to use possessive adjectives, prepositions of place, articles and adverbs of frequency in a fluid and natural manner.
- 5) The students will learn a modicum of geographical and topographical names in their English forms.

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1年	英語2 A（話す英語2） Q1・Q2	1	後	イザベラ ガラオン 青木
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

英語コミュニケーション能力の向上を目指します。英語の聞く力と話す力をつけながら、英語を国際言葉として活用できるような楽しい授業を目指します。

<各回毎の授業内容>

1. Review of first semester and other material
2. Food
3. Food
4. In the neighborhood
5. In the neighborhood
6. Test and other material
7. What are you doing?
8. What are you doing?
9. Past experiences
10. Past experiences
11. Test and other material
12. Getting away
13. Getting away
14. Time to celebrate
15. Time to celebrate
16. 試験

<成績評価方法>

成績評価内訳:平常点 (50%)、テスト (10%x2) 定期試験 (30%)

<教科書・参考文献>

Four Corners 1, Jack C. Richards, David Bohlke (Cambridge University Press)

参考文献:テキスト内容に関係する資料を適時配布する。欠席したものは、自己責任で資料をそろえること。

<受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

<学習到達目標>

今まで習った英語を復習しながら、実際にしゃべる言葉として使える自信をつける事。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	英語 2 A（話す英語 2） R 1・R 2	1	後	ランス レイサム
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

This course is designed to help students improve their English-language conversation and communication skills. The lessons will focus on practical, real-world applications of language use.

<各回毎の授業内容>

1. Class Introduction/
2. What is she wearing?
3. What is she wearing?
4. Is there a desk?
5. Is there a desk?
6. Test and other material
7. The bank is on the corner.
8. The bank is on the corner.
9. Do we have any milk?
10. Do we have any milk?
11. Test and other material
12. Where were you all day?
13. Where were you all day?
14. What did you do?
15. What did you do?
16. Final Exam

<成績評価方法>

Attendance (20%)  
Homework (20%)  
In-Class tests (20%)  
Final Test (40%)

<教科書・参考文献>

First Choice, Ken Wilson & Thomas Healy (Oxford) (ISBN: 978-0-19-430561-7)

<受講に当たっての留意事項>

I have high expectations for student behavior. Students must be attentive to the lesson, awake, and respectful.

<学習到達目標>

The students will be able to communicate in English with people from around the world.  
The students will be able to use appropriate pronunciation.  
The students will be able to read short passages and dialogues with some degree of fluency.

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1年	英語2B（CALL英語2） P1・P2	1	後	茅野潤一郎
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

この授業では、前期1Bで学習したことを継続し、マルチメディアを活用し総合的な英語コミュニケーション能力の伸長を目指します。前期1Bと1セットとして考えてください。CALLシステムを用いた言語活動をおこないながら、国際語としての英語を使った円滑なコミュニケーションをおこなうことを目指します。また、eラーニングコンテンツ等を利用し、自律した学習者へとさらに近づくことを目指します。

<各回毎の授業内容>

1. Introduction, 講義概要, e-learning について
2. Unit 8. Daily activities (1)
3. Unit 8. Daily activities (2)
4. Unit 9. Making plans (1)
5. Unit 9. Making plans (2)
6. Unit 10. Ingredients for a recipe (1)
7. Unit 10. Ingredients for a recipe (2)
8. Unit 11. Discussing a trip (1)
9. Unit 11. Discussing a trip (2)
10. Unit 12. Ailment (1)
11. Unit 12. Ailment (2)
12. Unit 13. Favors, abilities and skills (1)
13. Unit 13. Favors, abilities and skills (2)
14. Unit 14. Future plans (1)
15. Unit 14. Future plans (2)
16. 試験

<成績評価方法>

試験 50% + 課題および授業中の言語活動への取り組み 50%

<教科書・参考文献>

・Saslow, J.& A. Ascher. 2008. *Top Notch TV, Fundamentals*. Pearson Longman.

<受講に当たっての留意事項>

- ・5回およびそれ以上欠席した場合は不合格とする。
- ・出席確認後の入室は特段の事情がない限り出席とは認めない。
- ・毎回の活動等への取り組みが重要である。
- ・iPodなどのデジタルオーディオプレーヤーを持参し常時携帯することを勧めます。

<学習到達目標>

- ・スピーキング活動を通して、英語のプロソディに慣れ、日本語に影響されないリズムで話すことができる。
- ・比較的平易な英語の概要を聞いて理解することが出来る。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1年	英語2B（CALL英語2） Q1・Q2	1	後	金沢泰子
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

英語1Bに引き続きCALLシステムを活用したListening、Speaking練習や講義支援システムによる語彙・文法練習を通して国際標準語である英語運用力のさらなる向上をはかる。

<各回毎の授業内容>

1. 講義概要
2. Unit 11 Restaurant
3. Unit 12 Arts & Entertainment
4. Unit 13 Sports & Events
5. Unit 14 Having a Party
6. Unit 15 Health
7. Review
8. Consolidation
9. Unit 16 Christmas
10. Unit 17 Cleanup
11. Unit 18 Our Traditions & Customs
12. Unit 19 Examinations
13. Unit 20 Housing
14. Review
15. Consolidation
16. 定期試験

<成績評価方法>

毎授業時の練習問題と復習小テスト40% 音声活動20%、定期試験40%

<教科書・参考文献>

K. Yoshida et al : Practical Situations for the TOEIC Test (SEIBIDO)

<受講に当たっての留意事項>

5回以上欠席すると受講資格を失う。授業開始後10分以降の入室は認めない。  
欠席回数については各自で記録し、超過しないように気をつけること。

<学習到達目標>

Listening・会話練習を通して語彙表現をみにつけ発信型の英語基礎力を養成する。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	英語 2 B (CALL 英語 2) R 1・R 2	1	後	金沢泰子
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

英語 1 B に引き続き CALL システムを活用した Listening、Speaking 練習や講義支援システムによる語彙・文法練習を通して国際標準語である英語運用力のさらなる向上をはかる。

<各回毎の授業内容>

1. 講義概要
2. Unit 13. Sickness and Injury
3. Unit 14. Transportation
4. Unit 15. Presentation
5. Unit 16. Trouble
6. Unit 17. Small Talk
7. Unit 18. Min-Test
8. Review
9. Unit 19. At a Restaurant
10. Unit 20. Making a Complaint
11. Unit 21. Shopping
12. Unit 22. Sightseeing
13. Unit 23. Returning Home
14. Review
15. Consolidation
16. 定期試験

<成績評価方法>

毎授業時の練習問題と復習小テスト 40% 音声活動 20%、定期試験 40%

<教科書・参考文献>

H.Nishikage et al : A Strategic Approach to the TOEIC Test Listening (SEIBIDO)

<受講に当たっての留意事項>

5 回欠席すると受講資格を失う。授業開始後 10 分以降の入室は認めない。  
欠席回数については各自で記録し、超過しないように気をつけること。

<学習到達目標>

Listening・会話練習を通して語彙表現をみにつけ発信型の英語基礎力を養成する。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	1 年	英語 2 C (総合英語 2) P 1・P 2	1	後	高橋正平 (情報システム)
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

テキストはアメリカ人が日本とアメリカの社会の違いについて論じたエッセイです。両国の違いに驚かされる話題が満載です。エッセイを読むと同時に文法についても学べるテキストです。平易な英文を読み、英語の読解力の向上を目指す。テキストには読解用の英文と読解の助けとなる練習問題が含まれている。

<各回毎の授業内容>

- 第1週: Lesson 1 Cherry Blossoms
- 第2週: Lesson 2 Capital Cities
- 第3週: Lesson 3 Movies
- 第4週: Lesson 4 Transportation
- 第5週: Lesson 5 Advertisements
- 第6週: Lesson 6 Education
- 第7週: 中間試験
- 第8週: Lesson 7 Loan Words
- 第9週: Lesson 8 Work
- 第10週: Lesson 9 Memorial Day
- 第11週: Lesson 10 Weddings
- 第12週: Lesson 11 Marriage
- 第13週: Lesson 12 Gifts
- 第14週: Lesson 13 One-Child Families
- 第15週: Lesson 14 Divorce
- 第16週: 定期試験

<成績評価方法>

中間試験 (40%)、定期試験 (40%)、出席・授業態度 (20%) によって評価する。

<教科書・参考文献>

Charles L. Clark 他編注: *Basically America, Basically Japan* (南雲堂)

<受講に当たっての留意事項>

授業は演習形式で行うので、受講者は予習が必要である。座席は指定とし、授業中の私語は厳禁である。場合によっては教室からの退去を命じることもあるので注意されたい。欠席が5回を越えると試験資格を失う。遅刻3回は1回の欠席とする。テキストは第2週までに必ず購入のこと。例年テキストを購入しない学生がいるが、購入しない場合は受講を取り消すことがあるので注意すること。

<学習到達目標>

平易な英文を読み、基礎的な英語の読解力の向上を目指し、マニュアル等の英文文書を読み、理解できるとともに、英語でネイティブの人と簡単な意見交換ができる能力を身につける。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	英語 2 C（総合英語 2） Q 1・Q 2	1	後	土橋善仁
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

この授業では、前期に引き続き、現代社会で話題となっていることがらや学術的な問題などに関する英文を読みながら、基本的な英語力の向上、とくに読解力を伸ばすことをめざす。

<各回毎の授業内容>

毎授業開始時に「例文テスト」を行う。

第1週: イントロダクション

第2週: Chapter 13 Jellyfish

第3週: Chapter 14 Glass Artist

第4週: Chapter 15 Brazilian Soccer

第5週: Chapter 16 The Oedipus and Electra Complexes

第6週: Chapter 17 Yahoo!

第7週: Chapter 18 Light Pollution

第8週: これまでの復習と小テスト

第9週: Chapter 19 The Variety of English

第10週: Chapter 20 Virtual Reality Therapy

第11週: Chapter 21 Guy Fawkes Day

第12週: Chapter 22 In 2030

第13週: Chapter 23 Astronauts in Space

第14週: Chapter 24 Crash Test Dummies

第15週: Science Text

第16週: 定期試験

<成績評価方法>

毎回の例文テスト（30%）、小テスト（25%）、定期試験（45%）。

その他、授業態度等も考慮に入れる。

<教科書・参考文献>

Makoto Shishido 他: *Practical Reading Expert* 『リーディングエキスパート基礎強化編』（成美堂）

<受講に当たっての留意事項>

必ず予習をしてくる。私語厳禁。授業開始時に毎回「例文テスト」を行うが、遅れて来た場合は受験を認めない。出欠は「例文テスト」で確認する。5回以上の欠席で不合格とする。毎回、英和辞典を持参すること（電子辞書可）。

<学習到達目標>

基本的な英語力を向上させ、ある程度の長さの平易な英文を読めるようになること。

（関連する学習・教育到達目標:B）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	1年	英語2C (総合英語2) R1・R2	1	後	阿部 聡
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

国際的に通用するコミュニケーション基礎能力としての英文読解力を身につけることを目指し、文法知識を活用して自力で英文を読み通す力を養うこと、そして論理的に文章を読み解く習慣をつけることを目的とする。

<各回毎の授業内容>

- 第1週: 7. Reading 1 How to join in a discussion
- 第2週: 7. Reading 2 How to prevent suicides
- 第3週: 8. Reading 1 Christmas
- 第4週: 8. Reading 1 Christmas / Reading 2 History of Soccer
- 第5週: 9. Reading 1 The Second World War and Japan
- 第6週: 9. Reading 1 The Second World War and Japan / Reading 2 The EU
- 第7週: 10. Reading 1 Cricket
- 第8週: 10. Reading 2 How to dispose of CO2: a new method / 11. Reading 1 Nintendo DS
- 第9週: 11. Reading 1 Nintendo DS / Reading 2 Handroll Piano
- 第10週: 12. Reading 1 NEET
- 第11週: 12. Reading 1 NEET
- 第12週: 12. Reading 2 "Stalker"
- 第13週: 13. Reading 1 What's your main aim in life?
- 第14週: 13. Reading 2 Suicides according to month
- 第15週: まとめ
- 第16週: 定期試験

<成績評価方法>

授業態度 (10%)、授業内容についてのアンケートなど (10%)、小テスト (20%)、定期試験 (60%)

<教科書・参考文献>

石谷由美子他: Skills for Better Reading: 構造で読む英文エッセイ (改訂版) (南雲堂)

<受講に当たっての留意事項>

語学は実技科目でもある。できるだけ毎日英語に触れるようにすることと、積極的に授業に参加することを期待する。英和辞典を毎回持参すること。電子辞書でもよい (スマートフォンなどの携帯端末のアプリケーションも可。ただし、試験の際には通信機能を有する機器の持ち込みを禁止する)。高校生以上向けの英和辞典が好ましい (中学生向けの辞書やハンディタイプは不可。また、古すぎる辞典は極力避けること)。

<学習到達目標>

論理的な英文エッセイを、文法知識を活用してできる限り正確に読めるようになること、ある程度の長さの文章をスムーズに読めるようになること、さらに同程度の内容をリスニングでも理解できるようになることを本授業の到達目標とする。

(関連する学習・教育到達目標: B)

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	1年	英語2 再履修	1	後	高橋正平（情報システム）
21年度以前	基礎					

必修

<授業目的>

テキストは日本の世界遺産15箇所を紹介したものである。全国各地の世界遺産の歴史や背景が平易な英語で書かれている。平易な英文を読み、英語の読解力の向上を目指す。テキストには読解用の英文と読解の助けとなる練習問題が含まれている。

<各回毎の授業内容>

- 第1週: Lesson 8 Kyoto (京都)
- 第2週: Lesson 8 続き
- 第3週: Lesson 9 Kinkakuji (金閣寺)
- 第4週: Lesson 9 続き
- 第5週: Lesson 10 Himeji Castle (姫路城)
- 第6週: Lesson 10 続き
- 第7週: 中間試験
- 第8週: Lesson 11 The Itsukushima Shrine (厳島神社)
- 第9週: Lesson 11 続き
- 第10週: Lesson 12 Hiroshima Peace Memorial (広島原爆ドーム)
- 第11週: Lesson 12 続き
- 第12週: Lesson 13 Iwami Ginzan Silver Mine (石見銀山)
- 第13週: Lesson 13 続き
- 第14週: Lesson 14 Yakushima (屋久島)
- 第14週: Lesson 14 続き
- 第15週: Lesson 15 Okinawa: The Kingdom of Ryukyu (沖縄-琉球王国)
- 第16週: 定期試験

<成績評価方法>

中間試験 (40%)、定期試験 (40%)、出欠・授業態度 (20%) によって評価する。

<教科書・参考文献>

五十嵐昭人: *World Heritage in Japan* (南雲堂)

<受講に当たっての留意事項>

授業は演習形式で行うので、受講者は予習が必要である。座席は指定とし、授業中の私語は厳禁である。場合によっては教室からの退去を命じることもあるので注意されたい。欠席が5回を越えると試験資格を失う。遅刻3回は1回の欠席とする。テキストは第2週までに必ず購入のこと。例年テキストを購入しない学生がいるが、購入しない場合は受講を取り消すことがあるので注意すること。

<学習到達目標>

平易な英文を読み、基礎的な英語の読解力の向上を目指し、マニュアル等の英文文書を読み、理解できるとともに、英語でネイティブの人と簡単な意見交換ができる能力を身につける。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	1 年	英語 2 再履修	1	後	秋 孝道
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

この授業では、英語の基本的な読解能力の向上を目的とします。科学の話題を扱った平易な英文を正確に読解する演習を行います。授業の復習テストを、その授業の終わりに毎回行います。

<各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス、授業の説明
- 2 光合成 1
- 3 光合成 2
- 4 生命 1
- 5 生命 2
- 6 質量・重量 1
- 7 質量・重量 2
- 8 代替エネルギー 1
- 9 代替エネルギー 2
- 10 ナイロン 1
- 11 ナイロン 2
- 12 周期表 1
- 13 周期表 2
- 14 進化論 1
- 15 進化論 2
- 16 期末テストは行わない。

<成績評価方法>

毎回のテストに基づき成績評価（100%）を行う。但し、授業の取り組みに問題がある場合には、合計で最大20%の減点を行う（特に問題がない場合には減点を行わない）。

<教科書・参考文献>

プリントを配付する。

<受講に当たっての留意事項>

プリント、辞書、ノートを持参し、2回目以降は、指定された場所に着席すること。

<学習到達目標>

科学の話題を扱った平易な英文を正確に読解する基礎的な英語力を身につける。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	1 年	体力診断と運動処方2	1	後	藤瀬武彦（情報システム）
21年度以前	基 礎					

選択

#### <授業目的>

日本は近い将来に3人に1人が高齢者という極端な少子高齢社会を迎え（現在は4人に1人）、医療費や介護費が高騰して国民の負担が非常に重くなることが予想される（医療費は年間約34兆円でその半分近くが高齢者分）。従って、各人が健康体力づくりに対する知識や意識をもつことが必要であり、またその実践が重要であることは言うまでもない。この授業では、生涯にわたって健康体力を保持増進させるために、日常生活に適度な運動を積極的に取り入れる能力の養成を目的とする。後期は主に屋内スポーツ種目のルールや基本的技術などを理解して、ゲームを実践するとともに運動不足を解消したい。

#### <各回毎の授業内容>

（受講生の人数や希望などにより若干の変更もあり得る）

実施可能な種目：バレーボール、バスケットボール、フットサル、バドミントン、卓球、  
フィットネス・トレーニング（受講生の希望により種目を決定する）

1. ガイダンス① …… 授業内容と評価方法、スポーツ施設の利用方法
2. ガイダンス② …… トレーニング機器及びフリーウエイトの扱い方
3. ガイダンス③ …… 種目の決定、チーム分け、基本練習・チーム練習など
- 4～8. スポーツ①～⑤ …… ゲーム①～⑤（チームや個人の成績を記録する）
9. フィットネス …… エアロビック・ウエイトトレーニング
- 10～14. スポーツ⑥～⑩ …… ゲーム⑥～⑩（チームや個人の成績を記録する）
15. スポーツ⑪ …… 決勝トーナメント（チーム数により変更あり）

#### <成績評価方法>

この授業では、出席して積極的に運動を実践することが重視される。従って、評価（100点満点）については、欠席1回につき10点減点とし、遅刻（授業開始30分まで）・見学・早退は計3回で1回欠席分の減点とする。また、規則やマナーの違反、あるいは教員の指示に従わなかったときには減点することがある。なお、出欠の確認は口頭で行うので、静粛にして教員によく聞こえるように元気よく返事をする（仮に出席していても返事が聞こえなかった場合は欠席扱いになることがある）。

#### <受講に当たっての留意事項>

運動着と運動靴（下履き・上履き）が必要であり、上履きの紐は情報文化学科が赤色、情報システム学科が青色のものを着用すること。なお、体育館の更衣室は盗難が起りやすいので、貴重品の管理はコインロッカーを使用するなどして自己責任においてしっかり行うこと。

#### <学習到達目標>

競技や楽しみのための「スポーツ」と健康体力づくりのための「フィットネス」の内容を理解し、それぞれの運動を体験・実践するとともに運動不足を解消させる

# 2年基礎科目（後期）

新潟研究（自然と文化）  
民法  
財政学  
ジャーナリズム論  
心理と行動  
英語4  
キャリア開発1

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	新潟研究（自然と文化）	2	後	澤口晋一・池田哲夫
21年度以前	基 礎					

選択

<授業目的>

君は「灯台下暗し」ではありませんか？中学・高校で新潟のことを学ぶ機会がないのも悪いが、ともかく、君たちは新潟のことを何も知らなさすぎます。新潟に生まれたなら、新潟に暮らすなら、まずは君たちが生まれ育ち、暮らしていく「新潟の文化」とそれを育んだ「新潟の自然」のことをよく知り、理解することに努めるべきだと考えます。新潟県以外の出身者ならこの機会に新潟のことを知り、考えるきっかけとしてください。このことが、君たちが今後、世界に飛躍するにせよ、新潟で頑張るにせよ、第一に必要なことだと私は思います。郷里を知らずして国際化、情報化と言うなかれ！

<各回毎の授業内容>

● 前半（池田先生）

1. 車田植：佐渡に田を丸く植える習俗があります。これに関わる年中行事とその意義を考えます。
2. 盆と祖霊：日本人の祖霊観と盆の行事について、越後の盆行事を事例に海との関わりから考えます
3. 新潟の舟：越後の舟作りには丸木舟の伝統がありました。本海沿岸地域の造船技術からその意義を考えます。
4. 新潟平野の稲作：今は美田の新潟平野もかつては潟や湿地帯が広がっていました。舟などを使った低湿地特有の稲作を考えます。
5. 佐渡イカ漁：佐渡から発達したイカ釣り技術は、日本海沿岸から韓国まで伝えられました。技術の移動とは何かを考えます。
6. 祭りを考える：祭りのもつ意義とその本質を忌みと宮籠もりから考えます。
7. ムラの境の藁人形：東蒲原では春の行事として、ムラの境に藁で作った大きな人形が飾られます。この人形のもつ意義を考えます。

● 後半（澤口）

1. 新潟の自然概観
  - 1) 地形と地質
  - 2) 気候と植生（新潟の冬と夏, 新潟の局地風, 新潟は北国か？植生からみた新潟）
2. 特徴的な自然
  - 1) 新潟山間部の多雪景観
  - 2) 新潟の活断層と変動地形
3. 新潟平野の開発と災害
  - 1) 新潟地震における被災地の地盤特性
  - 2) 新潟市における市街地化と水害

<成績評価方法>

レポート（池田先生50点, 澤口50点の総合点で評価）

<教科書・参考文献>

テキストは使用しません。講義時に資料を配布します。参考文献は講義時に紹介します。

<受講に当たっての留意事項>

授業中は私語・飲食（持ち込み）、ゲームは厳禁！

携帯電話については、毎回授業の最初に電源を（みなさんが）切ったことを確認してから始めます。

<学習到達目標>

自分の生まれ育ったところがどういうところなのかを認識することは、あらゆることに先立つ基本だと思います。郷土の自然と文化を人に説明できるぐらいまでのレベルに到達すること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	民法	2	後	里見佳香
21年度以前	基 礎					

選択

**<授業目的>**

私たちは普段何気なく水道やガスを使用したり、電車やバスに乗ったり、お店で物を買ったりします。また私たちは、生きていく中で、結婚・離婚・子の出生や相続といった、様々な人生の節目を迎えることがあります。さらに、人生は色々、時には交通事故などのトラブルに巻き込まれたりすることだってあり得ます。実は、これらの事々はすべて法で説明することができます。その根源にある法が民法です。民法は「私法の一般法」として、市民生活全般の原則として機能しています。民法を知ることは、生活を知ることでもあるのです。私たちが権利と義務の主体として社会を動かしていることを実感できる、「生きた法」である民法について、事例や判例をあげながら具体的に解説します。

**<各回毎の授業内容>**

- 第1回 法とはなにか
- 第2回 親族Ⅰ（婚姻）
- 第3回 親族Ⅱ（離婚）
- 第4回 親族Ⅲ（実親子関係）
- 第5回 親族Ⅳ（養親子関係）
- 第6回 相続Ⅰ（遺言）
- 第7回 相続Ⅱ（法定相続）
- 第8回 債権Ⅰ（契約の性質と種類）
- 第9回 債権Ⅱ（保証）
- 第10回 債権Ⅲ（不法行為）
- 第11回 物権
- 第12回 総則Ⅰ（人の能力）
- 第13回 総則Ⅱ（後見制度）
- 第14回 総則Ⅲ（法律行為・瑕疵ある意思表示）
- 第15回 総則Ⅳ（代理・時効）

**<成績評価方法>**

期末試験の成績により評価します。加点材料として講義中に小テストを行います。

**<教科書・参考文献>**

なし。必要な資料は講義中に配布します。参考文献は講義中に適宜指示します。

**<受講に当たっての留意事項>**

特にありませんが、積極的な受講態度を期待します。

**<学習到達目標>**

民法の基本的な理解を得、法的思考ができるようになること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	財政学	2	後	齋藤忠雄
21年度以前	基 礎					

選択

#### <授業目的>

現代社会では、「大きな政府」「行政国家」「福祉国家」という文言に代表されるように、市場経済に対する国家の積極的な介入が顕著である。しかしながら、その反面で福祉国家に対する批判もいちじるしい。とりわけ20世紀から21世紀への世紀移行期においてそうであって、産業構造の転換、家族や地域社会のさらなる機能後退、少子高齢化社会・過密過疎・自然環境破壊の進行、グローバル化など、ポストモダンの進展が、財政にも新しい課題を投げかけている。いま、20世紀型財政が揺らぎ始めているといってもよいであろう。

本講義では、日本財政の現状分析をつうじて、現代経済社会の理解を深めてゆきたいと考えている。そのさい、時間の許す限り、他の先進諸国と地方自治体の個性に留意して講義をおこなう。

#### <各回毎の授業内容>

財政とは、国家その他の公共団体が財貨と労働力を獲得し、管理・使用する過程をいう。換言すれば、財政は国家その他の公権力団体の経済であり、政治と民間経済社会との接点に位置する。それは政治行政の貨幣的・物質的基礎をなすが、国や自治体によって異なるのみならず、歴史とともに変化をとげてきた。

財政学は、この財政の必然的根拠を解明し、その社会経済的意義を客観的に評定することを課題としている。また、経済学の研究の目的が現状分析にあり、財政学もその一環をなすと考えるなら、本講義の最終目的は日本財政の分析に置かれていることになる。

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. 財政と財政学     | 9. 社会保障制度と社会保険料  |
| 2. 現代財政の特色(1) | 10. 公債           |
| 3. 現代財政の特色(2) | 11. 財政投融资        |
| 4. 予算         | 12. 日本の財政制度      |
| 5. 経費(1)      | 13. 福祉国家財政の展開(1) |
| 6. 経費(2)      | 14. 福祉国家財政の展開(2) |
| 7. 租税(1)      | 15. ポスト福祉国家      |
| 8. 租税(2)      | 16. 定期試験         |

#### <成績評価方法>

学期末におこなう試験による。

#### <教科書・参考文献>

特定のテキストは使用しない。レジュメを配布し、適宜板書をおこなう。

主な参考文献・資料は、最初の講義時間に紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

政治経済社会に関する一般的知識および財政に対する高い関心を持っていることが望ましい。

#### <学習到達目標>

- ・ 財政（学）の理解を深める。
- ・ 社会問題に対する関心を高め、多様な視角から「現代社会の史的構造」を解明する。
- ・ 私たちがどんな社会に生きているか、それを国家・経済関係の変化に即して考察してゆく。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	ジャーナリズム論	2	後	永田幸男
21年度以前	基 礎					

選択

**<授業目的>**

健全で自由な市民社会を維持するために「表現の自由」と、国民の「知る権利」に応えるジャーナリズム活動の果たす役割が重要であることを理解する。新聞、テレビなどマスメディアの誕生と発展の背景を把握し、ジャーナリズムの基本理念と原則、メディアが抱える諸問題を理解して、メディア・リテラシーを身につける。

**<各回毎の授業内容>**

- 1) 表現の自由と知る権利
- 2) 技術革新からみたメディア史
- 3) 新聞の機能と特性
- 4) ニュースとは何か
- 5) ジャーナリズムの原則
- 6) ジャーナリズム史① 新聞は何を伝えてきたか
- 7) ジャーナリズム史② テレビは何を映してきたか
- 8) 報道と人権
- 9) 戦争報道と情報操作
- 10) 地域ジャーナリズム／質問と回答①
- 11) 広告ジャーナリズム
- 12) マスメディアと世論
- 13) デジタル革命とネット社会
- 14) メディア・リテラシー
- 15) 取材と編集／質問と回答②
- 16) 定期試験

**<成績評価方法>**

- ・毎回コメントカードを提出してもらい、出欠に代える。
- ・定期試験は800字程度の記述試験とする。配布した講義メモ、講義資料および自筆ノートの持ち込みを認める。点数の配分は期末試験70%、出席30%

**<教科書・参考文献>**

- ・特定の教科書は使わない。毎回講義メモを配布する。必要に応じて新聞、映像、写真を活用する。
- ・参考図書は随時紹介する。

**<受講に当たっての留意事項>**

- ・最も大事な教科書は日々の新聞とTVニュース。時々のニュースに関心を持ち、どの新聞でもいいから読むことが望ましい。
- ・授業日程、内容の一部を変更することがある。
- ・コメントカードの質問に答える機会をできるだけ設ける。

**<学習到達目標>**

- ・メディアとジャーナリズムに関する基礎知識を習得し、ニュース報道の多様性と有益情報を読み取る重要性を知る。習得した知識を基に根拠のある意見を述べるができる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	心理と行動	2	後	伊村知子（情報システム）
21年度以前	基 礎					

選択

#### <授業目的>

本講義では、わたしたち人間の行動を支えている心のはたらきについて、心理学の諸分野の研究を紹介しながら概説します。心のはたらきを理解することによって、「心とは何か」、「わたしたちはどのように世界を認識しているのか」、「自分や他者のことをよりよく理解し、良好な関係を築くためにはどうしたらよいか」といった問題について考える機会を提供します。さらに、人間の心の発達や進化に触れ、心の成り立ちを考えることで、人間の心の本質についての理解を深めます。

#### <各回毎の授業内容>

1. 心とは—心理学の歴史
2. 心理学の方法
3. 脳神経系
4. 感覚・知覚(1)
5. 感覚・知覚(2)
6. 意識・注意
7. 学習・行動
8. 記憶・認知
9. 言語・コミュニケーション
10. 感情・動機づけ
11. パーソナリティ・知能
12. 発達
13. 心の健康と障害
14. 心の進化
15. まとめ
16. 定期試験

#### <成績評価方法>

授業中に実施するレポート（30%）と定期試験（60%）により総合的に評価します。また、毎回、授業終了後に書いていただく質問やコメントも評価の対象とします（10%）。

#### <教科書・参考文献>

特に教科書や参考文献は指定せず、必要な資料は授業中に配布します。

#### <受講に当たっての留意事項>

受講の条件は特にありませんが、出席を重視します。

#### <学習到達目標>

- ・心の様々なはたらきを科学的に調べるための方法について学びます。（レポート:20%、定期試験:50%、質問やコメント:5%）
- ・心理学の基礎的な知識を身につけることにより、自己や他者の人間行動に対する理解を深めることを期待します。（レポート:10%、定期試験:10%、質問やコメント:5%）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	英語4A（表現英語2） X1・X2	1	後	イザベラ ガラオン 青木
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

第1学年より積み上げてきた英語コミュニケーション能力の一層の向上を目指します。英語で意見交換をできる様に英語の表現力をたかめます。

<各回毎の授業内容>

1. Review of first semester
2. Shopping
3. Shopping
4. Fun in the city
5. Fun in the city
6. Test and other material
7. People
8. People
9. In a restaurant
10. In a restaurant
11. Test and other material
12. Entertainment
13. Entertainment
14. Time for a change
15. Time for a change
16. 試験

<成績評価方法>

成績評価内訳:平常点 (50%)、テスト (10%x2)、定期試験 (30%)

<教科書・参考文献>

Four Corners 2, Jack C. Richards, David Bohlke (Cambridge University Press)

参考文献:テキスト内容に関する資料を適時配布する。欠席したものは、自己責任で資料をそろえること。

<受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり、私語したり、授業に積極的に参加しない学生の評価は非常に低くなります。

<学習到達目標>

昨年に習った英語をベースにして、英語の会話において、個人が意見を発信できる様になる事。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	英語4A（表現英語2） Y1・Y2	1	後	マーク スーマ
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

前期に引き続き、このコースの目的は、読む、書く、話す、聞くことを通して英語を学ぶと同時に、基本的な文法を身につけることです。各レッスンは、コミュニケーションのための学習活動とクリティカルに思考する機会を数多く取り入れます。コース終了時には、基礎的な英語を正しく使い、ネイティブ・スピーカーの英語を理解できるようになることが望まれます。

<各回毎の授業内容>

1. A Friend from Long Ago
2. Babysitting
3. Travelling
4. Clothing
5. Food
6. Shopping for Clothes
7. Abilities
8. Short Review Test
9. Abilities
10. Business Trips
11. A Bibliography
12. A Car Accident
13. Gifts and Favors
14. Going to Galapagos
15. Review
16. Final Test

<成績評価方法>

- Mid-term Test (30%)
- Participation (20%)
- Notebook (15%)
- Final Test (35%)

<教科書・参考文献>

Focus on Grammar 1 (3rd Edition with CD) by Irene. E. Schoenberg and Jay Maurer. Pearson 2012.

<受講に当たっての留意事項>

出席しても、授業中に寝たり私語をしたりするなど、授業に積極的に参加しない学生の評価は、非常に低くなります。また、毎週、ノートの記録をチェックし、15%の評価とします。

<学習到達目標>

日常生活において使用される英語表現を、正しい文法で数多く知り、理解できるようになること。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	2年	英語4A（表現英語2） Z1・Z2	1	後	グレゴリー ディック
21年度以前	基礎					

必修

<授業目的>

この授業では日常的な事柄に基づいて意見を交わすことを目的としています。英語でのコミュニケーションを高めるために読解力や表現力を高めます。

<各回毎の授業内容>

1. Orientation
2. Unit 9: Health
3. Unit 10: Self-improvement
4. Review units 9 & 10 + Full House episode 5
5. Unit 11: In the city
6. Unit 12: Customs
7. Review units 11 & 12 + Full House episode 6
8. Mid-term Test
9. Unit 13: Famous people
10. Unit 14: Home, sweet home
11. Review units 13 & 14 + Full House episode 7
12. Unit 15: Then and now
13. Christmas lesson
14. Unit 16: The future
15. Review units 15 & 16 + Full House episode 8
16. 定期試験

<成績評価方法>

Attendance & Class Participation (50%)、Mid-term Test (25%)、定期試験 (25%)

<教科書・参考文献>

Let's Talk 1 by Leo Jones, CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS, ISBN: 978-0-521-69281-6

<受講に当たっての留意事項>

授業中の私語やクラス不参加、欠席などの行為は評価に影響します。

<学習到達目標>

英文の読解やネイティブスピードでのリスニングに重点を置き、個人の意見を英語で述べるができるようにします。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	2年	英語4B (TOEIC英語2) X1・X2	1	後	辻 照彦
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

TOEICテストは、英語によるコミュニケーション能力を評価する標準試験である。この授業では、TOEICテスト受験のための入門的演習を通して、グローバルなネットワーク社会で活躍するために欠かせない英語によるコミュニケーション能力、特に、リスニング力と速読能力の基礎を育成する。

<各回毎の授業内容>

1. Unit 7, Invitation
2. Unit 7, Reading Part
3. Unit 8, Medical Treatment and Insurance
4. Unit 8, Reading Part
5. Unit 9, Culture and Entertainment
6. Unit 9, Reading Part
7. Extra Unit, Arts and Amusement
8. Unit 7-9, Review and Extra-Activity (小テスト)
9. Unit 10, Shopping (Finance and Banking)
10. Unit 10, Reading Part
11. Unit 11, Sports and Exercise
12. Unit 11, Reading Part
13. Unit 12, Trouble and Claims
14. Unit 12, Reading Part
15. Unit 10-12, Review and Extra-Activity
16. 定期試験

<成績評価方法>

発表・課題等40%、定期試験60%。

<教科書・参考文献>

北山長貴、Start-up Course for the TOEIC Test (成美堂)

<受講に当たっての留意事項>

注意すべき事項については最初の授業の時に説明する。

<学習到達目標>

日常的な英会話を聞いて話のポイントを理解することができる。日常的な英文文書を読みポイントを理解することができる。ビジネス関係の基本的なボキャブラリーを習得する。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	英語4B（TOEIC英語2） Y1・Y2	1	後	秋 孝道
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

TOEICとはTest of English for International Communication の略称であり、このテストは英語によるコミュニケーション能力を評価するテストとして日本国内の多くの企業などでも採用されています。この授業では、TOEIC対策用テキストを用いて、TOEIC受験の準備をすると同時に、英語のリーディング能力を高める演習を行います。復習小テストを毎回2回（語彙小テストと文法小テスト）行います。

<各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス、TOEICの確認
- 2 長文穴埋め問題の攻略
- 3 タイトルと設問の先読み
- 4 設問の種類分析
- 5 語句の言い換えに注意
- 6 Eメールの問題
- 7 手紙の問題
- 8 求人広告の問題
- 9 読解問題の攻略1
- 10 二つの文書のトピックと関連性1
- 11 二つの文書のトピックと関連性2
- 12 二つの文書のトピックと関連性3
- 13 二つの文書のトピックと関連性4
- 14 読解問題の攻略2
- 15 読解問題の攻略3
- 16 期末テストは行わない。

<成績評価方法>

小テストに基づき成績評価（100％）を行う。但し、授業の取り組みに問題がある場合には、合計で最大20％の減点を行う（特に問題がない場合には減点を行わない）。

<教科書・参考文献>

教科書 Tomoko Yabukoshi, Braven Smillie *Upward Reading for the TOEIC Test*  
金星堂（1,200円 税別）

<受講に当たっての留意事項>

テキスト、辞書、ノートを持参すること。

<学習到達目標>

TOEIC受験のための基礎的英語力を身につける。基礎的な英語のリーディング能力を身につける。

（関連する学習・教育到達目標:B）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	英語4B（TOEIC英語2） Z1・Z2	1	後	本間多香子
21年度以前	基 礎					
<p>必修</p> <p>&lt;授業目的&gt;</p> <p>TOEICテストは、英語によるコミュニケーション能力を測るテストとして現在幅広く活用されている。この授業ではTOEIC形式の問題を解くことにより、実際の試験を受験する準備をするとともに、リスニングの訓練や基本的な文法・語法・語彙の定着を図る。特にリスニング問題では話の内容を理解する能力を高め、リーディング問題では、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力としての英文読解力を身につける。</p> <p>&lt;各回毎の授業内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Chapter 7</li> <li>2. Chapter 7</li> <li>3. Chapter 8</li> <li>4. Chapter 8</li> <li>5. 小テスト、TOEIC模擬テスト</li> <li>6. Chapter 9</li> <li>7. Chapter 9, 10</li> <li>9. Chapter 10</li> <li>10. 小テスト, Chapter 10</li> <li>11. Chapter 11</li> <li>12. Chapter 11</li> <li>13. Chapter 12</li> <li>14. Chapter 12</li> <li>15. 小テスト 復習等</li> <li>16. 試験</li> </ol> <p>&lt;成績評価方法&gt;</p> <p>定期試験50% 授業中の小テスト30% 授業への取り組み状況等20%</p> <p>&lt;教科書・参考文献&gt;</p> <p>石井隆之他著 Complete Tactics for the TOEIC Test (成美堂)</p> <p>その他として、授業中に配布する資料</p> <p>&lt;受講に当たっての留意事項&gt;</p> <p>遅刻2回で欠席1回とする。欠席が3分の1を超えると試験を受ける資格を失う。</p> <p>2Unit終了ごとに小テストを行う。</p> <p>&lt;学習到達目標&gt;</p> <p>基本的な文法を理解し、応用できるようになる。簡単な英語での会話を理解できるようになる。</p> <p>(関連する学習・教育到達目標:B)</p>						



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	英語4C（読む英語2） X1・X2	1	後	高橋正平（情報システム）
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

テキストは日米の社会、文化、教育、習慣、考え方の違いの理解を通して両国がいかにしてよりよい関係を築いていくかを論じたエッセイです。平易な英文を読み、英語の読解力の向上を目指す。テキストには読解用の英文と読解の助けとなる練習問題が含まれている。

<各回毎の授業内容>

- 第1週:Lesson 8 The Magic of Music: What is Music Therapy?
- 第2週:続き
- 第3週:Lesson 9 Can Pig Parts Save Human Lives?
- 第4週:続き
- 第5週:Lesson 10 Severe Acute Respiratory Syndrome (SARS)
- 第6週:続き
- 第7週:中間試験
- 第8週:Lesson 11 Revolutionary Drug-Delivery System: How the iPill Works in the Body
- 第9週:続き
- 第10週:Lesson 12 The History and Physics of Decompression Sickness
- 第11週:続き
- 第12週:Lesson 13 Sniffing Out Your Diseases: The E-Nose That Can Diagnose
- 第13週:続き
- 第14週:Lesson 14 Biosphere II
- 第15週:続き
- 第16週:定期試験

<成績評価方法>

中間試験（40%）、定期試験（40%）、出欠・授業態度（20%）によって評価する。

<教科書・参考文献>

瀬谷幸男他: *What's Ahead-Exploring the Mysteries and Challenges of Science* (南雲堂)

<受講に当たっての留意事項>

毎回1レッスンを読み終える。授業は演習形式で行うので、受講者は予習が必要である。座席は指定とし、授業中の私語は厳禁である。場合によっては教室からの退去を命じることもあるので注意されたい。欠席が5回を越えると試験資格を失う。遅刻3回は1回の欠席とする。テキストは第2週までに必ず購入のこと。例年テキストを購入しない学生がいるが、購入しない場合は受講を取り消すことがあるので注意すること。

<学習到達目標>

平易な英文を読み、基礎的な英語の読解力の向上を目指し、マニュアル等の英文文書を読み、理解できるとともに、英語でネイティブの人と簡単な意見交換ができる能力を身につける。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	英語 4 C（読む英語 2） Y 1・Y 2	1	後	大竹芳夫
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

日本とアメリカの生活、文化、教育、習慣、思考様式の共通点や相違点について取り上げる英語教科書を読み、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力としての英文の読解力を高める。あわせて、教科書の付属CDや、日常生活を場面ごとに取り上げるビデオ教材を活用しながらリスニング能力の向上も目指す。

<各回毎の授業内容>

1. オリエンテーション:教材の特徴・意義と使用方法, 授業の進め方, 評価方法などについて
2. リーディング用教材 (Business) + ビデオ教材に基づく学習
3. リーディング用教材 (Jobs) + ビデオ教材に基づく学習
4. リーディング用教材 (NHK vs. PBS) + ビデオ教材に基づく学習
5. リーディング用教材 (Marriage Ceremonies) + ビデオ教材に基づく学習
6. リーディング用教材 (American Culture) + ビデオ教材に基づく学習
7. リーディング用教材 (International Marriage) + ビデオ教材に基づく学習
8. 第2週から7週までのまとめ, 効果的な英語学習について
9. リーディング用教材 (Apartments) + ビデオ教材に基づく学習
10. リーディング用教材 (Technology) + ビデオ教材に基づく学習
11. リーディング用教材 (School Rules) + ビデオ教材に基づく学習
12. リーディング用教材 (Drinking) + ビデオ教材に基づく学習
13. リーディング用教材 (Entertaining) + ビデオ教材に基づく学習
14. リーディング用教材 (Choice) + ビデオ教材に基づく学習
15. 第9週から14週までのまとめ, 今後の英語学習について
16. 定期試験

<成績評価方法>

発表内容 (10%)、小テスト (20%)、定期試験 (70%) により成績評価を行う。

<教科書・参考文献>

George Truscott et al.: *Eye on America and Japan*, 出版社:南雲堂, 1,800円+税

<受講に当たっての留意事項>

英和辞典（電子辞書も可）を授業時に持参すること。

<学習到達目標>

英語文章の内容を正確に読み解くことができると同時に、日英語話者の文化や発想の相違を理解することができる。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	基 礎	2年	英語 4 C (読む英語 2) Z 1・Z 2	1	後	高橋正平 (情報システム)
21年度以前	基 礎					

必修

<授業目的>

テキストはNews For You紙に掲載された世界のニュースを集録したものである。内容は政治、経済、社会、宗教等多岐にわたっている。平易な英文を読み、英語の読解力の向上を目指す。テキストには読解用の英文と読解の助けとなる練習問題が含まれている。

<各回毎の授業内容>

- 第1週:Unit 10 United Kingdom: Too Lazy or Too Hardworking?
- 第2週:Unit 11 The Curious History Behind "Curious George"
- 第3週:Unit 12 Should Nurses Take on Doctors' Roles?
- 第4週:Unit 13 Death of Coral reefs would Have Global Efect
- 第5週:Unit 14 Men Have a Lot to Grain from Marriage, Report Finds
- 第6週:Unit 15 Copernicus Reburied As A Hero
- 第7週:中間試験
- 第8週:Unit 16 Colorado Group Helps Build Afghan School for Deaf Children
- 第9週:Unit 16 続き
- 第10週:Unit 17 Study Finds Alcohol More Damaging Than Heroin
- 第11週:Unit 17 続き
- 第12週:Unit 18 Media Rights Group Says Journalists Who Report on Pollution Face Threats
- 第13週:Unit 18 続き
- 第14週:Unit 19 Should the Berlin Wall Have Been Saved? Berliners Disagree
- 第14週:Unit 19 続き
- 第15週:Unit 20 Utah Man Chooses to Live Without Money
- 第16週:定期試験

<成績評価方法>

中間試験 (40%)、定期試験 (40%)、出欠・授業態度 (20%) によって評価する。

<教科書・参考文献>

大月実他編: *News for You 2012/2013 Edition* (成美堂)

<受講に当たっての留意事項>

授業は演習形式で行うので、受講者は予習が必要である。座席は指定とし、授業中の私語は厳禁である。場合によっては教室からの退去を命じることもあるので注意されたい。欠席が5回越えると試験資格を失う。遅刻3回は1回の欠席とする。テキストは第2週までに必ず購入のこと。例年テキストを購入しない学生がいるが、購入しない場合は受講を取り消すことがあるので注意すること。

<学習到達目標>

平易な英文を読み、基礎的な英語の読解力の向上を目指し、マニュアル等の英文文書を読み、理解できるとともに、英語でネイティブの人と簡単な意見交換ができる能力を身につける。

(関連する学習・教育到達目標:B)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	2年	キャリア開発1	1	後	就職指導委員長 他
21年度以前	基 礎					

選択

**<授業目的>**

さまざまな生き方や働き方などに関する知識や視点を獲得するとともに、自ら主体的に学生生活を送り、適性を踏まえた進路選択の実現の準備に役立てる。読む、書く、話す、聴くといったコミュニケーション能力について学び、磨く。また筆記試験対策としてのSPI非言語問題の修得を目的とする。

**<各回毎の授業内容>**

講師:外部からの招聘および本学教員

H 24/ 9 /27第 1 回 オリエンテーション、<大学生の意味と将来>

10/04第 2 回 進路選択の視点<「学生生活における学び」と社会で活かせる力>

10/11第 3 回 SPI (割引・精算, 金銭に関する問題) 演習

10/25第 4 回 「私」の可能性を上げるために <自己理解の視点～認知と特性分析～>

11/01第 5 回 大学生の就職を考える <「求められる人材」になるために>

11/08第 6 回 SPI (時刻表, 速さ・時間・距離, 通過算, 割合) 演習

11/15第 7 回 コミュニケーションの意味と価値 <意思疎通のポイントと実践>

11/22第 8 回 特別講義「伝える、届く 私のメッセージ」(加藤雅一氏)

11/29第 9 回 大学生から社会へ 2 <先輩 (社会人) モデルに聴く 大学と就職>

12/06第 10 回 SPI (仕事算, 濃度算, 流水算) 演習

12/13第 11 回 さまざまな学生生活と意義 <それぞれの学生生活への期待、思いを自らの毎日に活かす>

12/20第 12 回 就職適性検査

H 25/01/10第 13 回 SPI (確率, 場合の数, 集合) 演習

01/17第 14 回 大学生から社会へ 1 <先輩 (4年生) モデルに聴く 大学と就職>

01/24第 15 回 卒業後につながる自分を磨く <充実した学生生活に向けた意識形成>

※グループワークまたは、小レポートの作成を授業時間内で実施する。ゲスト教員などのミニ講義を適宜、取り入れ、視野の拡大や気づきの獲得を図る。

**<成績評価方法>**

・課題レポート (将来や将来につながる学生生活に関する記述レポート) 点:30点。演習 (毎回のワークシートまたは、レポート (出欠状況含む)、合計10回→) 点:40点。SPI非言語問題演習:30点 (各回の演習問題。)

**<教科書・参考文献>**

次の教科書を使用する。情報文化学科受講生は購入すること。

著者:柳本新二, 著書名:SPI2の解法スピード&シュア-2013年度版又は2014年度版

**<受講に当たっての留意事項>**

1. 17年度以降入学生 (4年次生) がこの講義の単位を取得した場合、その単位は卒業要件の単位に算入される。

2. この科目は本学の就職指導の基礎的な役割を占める。今後の就職ガイダンス・就職サポート (適性検査・就職模擬面接講座等) を、あなたがあなたの人生の選択に有効に役立てるため、就職・進学にかかわらず、全員受講することが望ましい。

**<学習到達目標>**

1. 「自ら選択し、取り組んでいくこと」で成り立つ大学生活の中で、毎日を意識的かつ主体的に送るための視点や気づきを得る。

2. さまざまな学生の言語表現やコミュニケーションとふれあい、自分らしい表現や新しい視点や考えを取り入れる。

# 3年基礎科目（後期）

市民社会論  
新潟研究（政治と経済）  
福祉社会論  
地域経営論

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	3年	市民社会論	2	後	越智敏夫（情報文化）
21年度以前	基 礎					

選択

<授業目的>

私たちの社会の成立を「市民」という概念を中心に考える。近代市民革命を経た社会、あるいは民主主義的原理によって構成された社会は、それまでの人間が作ってきた社会とは大きく異なる。しかしその誕生は植民地形成と同時進行でもあった。その変動の現在形を<冷戦終焉><9・11><東日本大震災>など多くの状況との関連で議論したい。

<各回毎の授業内容>

1 はじめに	1-1 市民とは誰か	(講義1)
2 市民社会を準備するもの	2-1 絶対主義王政	(2)
	2-2 個人の誕生	(3)
	2-3 国民国家の思想	(4)
3 市民社会の成立	3-1 市民革命	(5)
	3-2 公共性	(6)
	3-3 民主主義	(7)
	3-4 権力の思想とニヒリズム	(8)
4 <9・11>と市民社会	4-1 冷戦の終焉: 湾岸戦争と9・11	(9)
	4-2 グローバリゼーション	(10)
	4-3 <帝国>の思想とマルチチュード	(11)
5 現代日本と市民社会	5-1 戦後とは何か	(12)
	5-2 「日本人論」の罨	(13)
	5-3 東日本大震災	(14)
6 おわりに	6-1 市民としての私たち	(15)

<成績評価方法>

学期末筆記試験（持ち込み不可）のみで採点。

<教科書・参考文献>

教科書なし。参考文献は講義中に適宜指示する。また図書館のサイトの「指定図書リスト」を参照のこと。

<受講に当たっての留意事項>

本講義は3年配当の基礎科目である。本講義の受講によって、それまでの学習の思想的意義を再検討し、3年次以降の学習内容がどのように市民社会と思想的に連関しているのかを確認してもらいたい。

<学習到達目標>

自己の存在も含めて現代のさまざまな問題を思想的に考える「癖」のようなものを身につけてほしい。それは社会を構造として考えることでもあり、市民としての自覚をもつことでもある。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基礎	3年	新潟研究（政治と経済）	2	後	鈴木聖二・佐藤 明
21年度以前	基礎					

#### 選択

##### <授業目的>

大恐慌の再来とも言われる不況に見舞われている。人口の減少と高齢化が急速に進行する日本が、この危機から脱するのは容易なことではない。ゆきすぎた市場主義経済のもとで、新潟県をはじめとする地方の存立基盤は大きく毀損された。これを立て直さないと地域社会は足元から崩壊してしまう。従来の日本の政治は官僚が主導する中央集権政治であった。これを住民自治、地方分権に組み替えなくてはならない。政権交代の真価を問う参院選が行われる今年は、地域を通じあるべき日本の姿を探る好機である。

当授業では、近現代の新潟の政治、経済を概観しながら、世界や国内で起きている出来事を新潟の目線ですっかりとらえる。そうした視点の獲得を目的とする。

##### <各回毎の授業内容>

- 1 全体ガイダンス 新潟県の立ち位置 世界と日本の視点から
- 2 総選挙結果の分析と評価
- 3 新潟の政治風土（田中角栄を中心として）
- 4 議員の役割 首長の役割
- 5 地方「行政」から自治体「経営」へ
- 6 市町村合併の功罪と今後
- 7 道州制論議と新潟の行方
- 8 政治分野試験
- 9 グローバル経済の破綻と地域経済
- 10 新潟経済の個性①＝エネルギー・素材型産業
- 11 新潟経済の個性②＝コメ中心の農業
- 12 新潟経済の個性③＝対岸への挑戦
- 13 現状と取り組み①＝加工食品など資産を生かした挑戦
- 14 現状と取り組み②＝環境関連、航空機など新規分野を拓く
- 15 経済分野試験

（政治、経済とも動きが激しい。状況によっては授業内容が大幅変更となる可能性もある。できるだけタイムリーなテーマを取り上げたいと考えている）

##### <成績評価方法>

政治、経済両分野終了時に試験を行う。論述式で1ないし2問を出題する。文字数は最低でも1000字は求めたい。

##### <教科書・参考文献>

教科書は指定しない。授業時にレジュメ、資料を配付する。参考文献は必要に応じて紹介する。

##### <受講に当たっての留意事項>

長引く経済危機は、政治経済を問わず仕組みそのものを問い直している。日本と世界は大きな転換点に立ちっており、傍観していると流される懸念が大きい。新聞などのメディアに注目し時代感覚を磨いてほしい。

##### <学習到達目標>

新潟県の政治・経済の現状と課題を認識し、地域問題への関心を高める。地方を活性化させるのはそこに暮らす人々の問題意識と意欲である。受講者一人一人が主権者であり、実践者である。そうした認識を育て、物事を主体的に考える習慣を身につける。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	基 礎	3年	福祉社会論	2	後	阿部春江
21年度以前	基 礎					

選択

**<授業目的>**

本講義は、最初に時代とともに変化してきた福祉政策の歴史、市場の論理とは異なる視点を持つ福祉思想について概説する。次に、地域に着目し、地域社会の変容・地域における福祉の考え方等について説明しつつ、援助活動を実践していくための基本について述べる。最後に、福祉政策の国際比較を通じて、日本の福祉の方向性について検討する。

**<各回毎の授業内容>**

- 1 はじめに
- 2 現代の福祉と福祉政策
- 3 現代の福祉と福祉政策
- 4 現代の福祉と福祉政策
- 5 福祉の思想
- 6 福祉の思想
- 7 地域社会と福祉
- 8 地域社会と福祉
- 9 福祉サービスと援助活動
- 10 福祉サービスと援助活動
- 11 福祉サービスと援助活動
- 12 福祉政策の関連領域
- 13 福祉政策の国際比較
- 14 福祉政策の国際比較
- 15 福祉政策の国際比較
- 16 まとめ（定期試験）

**<成績評価方法>**

定期試験50%、出席率25%、授業態度25%で総合評価する。

**<教科書・参考文献>**

教科書 テキストは使用しない。講義時に資料を配布する。

参考文献 『新社会福祉士養成講座 現代社会と福祉』中央法規 2010, 『新社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法』中央法規 2010, 『社会福祉学習双書 社会福祉概論Ⅰ』全国社会福祉協議会 2010, 『新・社会福祉士養成ブック 社会福祉原論』ミネルヴァ書房 2007, 『社会福祉士シリーズ 現代社会と福祉』弘文堂 2009,

**<受講に当たっての留意事項>**

上記の内容はこのシラバス作成時点のものであり変更の可能性もある。第1回目に、講義内容・成績評価方法等詳細について説明する。

**<学習到達目標>**

講義を通して、時代や社会の動きとともに変化し発展してきた福祉理念・福祉政策・援助活動等について学び、生活問題や福祉の課題について考察する力を身につけることを目指す。





# 共通科目



# 1年共通科目（後期）

日本経済論  
国際政治学  
ワークショップ実践論1  
経営と組織  
ネットワークコンピューティング  
社会情報システム

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1 年	日本経済論	2	後	安藤 潤（情報文化）
21年度以前	共 通					

選択

#### <授業目的>

この授業の目的は、最低限身に着けておくべき教養としての戦後日本経済の歴史を学び、長期にわたって停滞する現代日本経済が抱える課題を、主に家計という観点から理解することである。

#### <各回毎の授業内容>

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1. オリエンテーション    | 9. 平成不況と構造改革②   |
| 2. 高度成長①        | 10. 日本の所得格差     |
| 3. 高度成長②        | 11. 日本の男女間経済格差① |
| 4. 高度成長③        | 12. 日本の男女間経済格差② |
| 5. バブル経済の発生と崩壊① | 13. 日本の少子高齢化①   |
| 6. バブル経済の発生と崩壊② | 14. 日本の少子高齢化②   |
| 7. バブル経済の発生と崩壊③ | 15. 日本の少子高齢化③   |
| 8. 平成不況と構造改革①   | 16. 試験          |

#### <成績評価方法>

コメントカード（不定期、20%）、試験（80%）

#### <教科書・参考文献>

教科書：長谷川啓之 編『経済政策の理論と現実』学文社、2009年。

参考文献：安藤潤ほか『平成不況』文眞堂、2010年。

#### <受講に当たっての留意事項>

教科書は必ず購入し、授業の際に必ず持ってくること。各回の授業のタイトルと教科書の章題は必ずしも一致していないが、授業内容は教科書に準じるので、必ず予習してから臨むこと。参考文献は高度に専門的な内容が含まれており、参考とするのはごく一部なので、購入は義務付けない。1年後期配当科目ということを考慮し、できるだけ平易に講義し、ある程度は用語の説明を行うが、基本的には経済用語辞典や指定図書などを用いて自分で調べ、学ぶこと。どの授業でも同じだが、無遅刻・全出席が大原則である。

#### <学習到達目標>

戦後の荒廃から高度成長期、バブル経済期を経て現在の不況にいたるまでの日本経済の歴史を理解すること。授業終了時点で、残りの学生生活を過ごすにあたり、もって臨むべき問題意識を1つでも持っているようになること。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1 年	国際政治学	2	後	小澤治子（情報文化）
21年度以前	共 通					

選択

<授業目的>

この科目のねらいは、第1に、第二次世界大戦後における国際政治の決定要因の一つであった東西冷戦構造の形成と展開、さらには崩壊過程についての理解を深めることである。第2に、冷戦構造崩壊の結果生じた様々な問題を検討することによって、現代国際政治の基本的特色についての認識を養うことである。

<各回毎の授業内容>

- 1 現代の国際政治の特色
- 2 冷戦の始まり
- 3 ヨーロッパにおける冷戦構造の形成
- 4 アジアにおける冷戦構造の形成——朝鮮戦争を中心に
- 5 米ソ協調的競争体制の成立
- 6 多極化——社会主義圏における対立の構図 (1)東ヨーロッパ
- 7 多極化——社会主義圏における対立の構図 (2)中ソ対立
- 8 核軍備管理と緊張緩和
- 9 デタント（緊張緩和）の退潮
- 10 冷戦構造の崩壊と核軍縮問題
- 11 冷戦構造の崩壊とソ連・東欧関係
- 12 冷戦後の軍縮安全保障問題(1)
- 13 冷戦後の軍縮安全保障問題(2)
- 14 冷戦期国際政治の総括
- 15 21世紀の国際政治の展望

<成績評価方法>

学期末試験の結果を中心に成績評価を行うが、授業ごとに提出するコメントペーパーも参考にする。

<教科書・参考文献>

教科書は特に使用せず、最初の授業時に教科書に代わる資料集を配布する。また講義内容についてのプリントを毎回の授業時に配付する。参考文献は講義の中で随時紹介するが、特に次の二冊が有用である。

石井修『国際政治史としての20世紀』 有信堂 2000年。

細谷千博監修（滝田賢治・大芝亮編）『国際政治経済 グローバル・イシューの解説と資料』 有信堂 2008年。

<受講に当たっての留意事項>

授業の際は、遅刻と私語は厳禁です。その他最低限のモラルを守って下さい。

<学習到達目標>

冷戦構造の形成と展開、またその崩壊過程を学ぶことを通じて、今日の国際政治を考える視点を養う。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	共 通	1年	ワークショップ実践論1	1	後	佐々木寛・神長英輔
21年度以前	共 通					

選択

**<授業目的>**

共通科目「国際交流インストラクター演習1・2」が、ワークショップやファシリテーターといった新たな方法との「出会い」だったとすれば、本授業はその「応用」と「発展」を目指す。すなわち、「国際交流インストラクター演習1・2」があくまでも教員からきっかけを与えられて取り組む授業なのに対し、本授業は学生自らが問題意識に沿って、それぞれのワークショップ内容を深めることを目標とする。問題のありかを自分たちで見つけ、その問題を解くための方法も自主的に探究するという新しい形式の授業である。講師の招聘に関しても、参加者の要望を反映させる。さらに本授業では、参加者ができるだけ多種多様のワークショップを経験することにより、ワークショップの広範囲な技術を獲得することを目指す。

**<各回毎の授業内容>** ※招聘講師については、都合により順序が変更になることもある。

1. イントロダクションー「国際交流インストラクター演習1・2」、「ワークショップ実践論1」との関連についてなど。
2. 課題設定とグループ分け
3. グループワーク①ー課題分担とリサーチ
4. 招聘講師による実演①
5. グループワーク②ーふりかえりと実践
6. 招聘講師による実演②
7. グループワーク③ーふりかえりと実践
8. 招聘講師による実演③
9. グループワーク④ーふりかえりと実践
10. 招聘講師による実演④
11. グループワーク⑤ーふりかえりと実践
12. グループワーク⑥ープレゼンテーション準備
13. プレゼンテーション①
14. プレゼンテーション②
15. まとめ

**<成績評価方法>**

出席、授業における各グループのパフォーマンス、グループ内での各個人のパフォーマンス、期末レポートによって評価する。

**<教科書・参考文献>**

授業の際に配布する。

**<受講に当たっての留意事項>**

「国際交流インストラクター演習1」もしくは「同演習2」をすでに履修していることが望ましい。自分でテーマを見つけ、リサーチをして、講師の話を聞いて、それを自分たちのワークショップに生かす。そしてそこで学んだことをレポートにまとめる。積極的な学生の履修を期待する。

**<学習到達目標>**

本授業では、新たな知識の獲得や問題発見の技術を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力及び実践的な学力の向上を目指す。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1 年	経営と組織	2	後	内田 亨（情報システム）
21年度以前	共 通					

情報文化学科選択、情報システム学科必修

#### <授業目的>

本講義では、組織論についての基礎理論および現代企業の管理手法等を習得する。また、企業は組織をどのようにマネジメントしているか、基本的なことを理解する。

#### <各回毎の授業内容>

- 第1回 イントロダクション（ガイダンス、経営学とは）
- 第2回 第1部 組織論の枠組み I 組織とは
- 第3回 第1部 組織論の枠組み II 組織のダイナミックス
- 第4回 第2部 個人レベル I モチベーション
- 第5回 第2部 個人レベル III ストレス
- 第6回 第3部 集団レベル I グループ・ダイナミックス
- 第7回 第3部 集団レベル II リーダーシップ
- 第8回 第4部 組織レベル I 組織デザイン
- 第9回 中間まとめと中間試験
- 第10回 第4部 組織レベル II 組織文化
- 第11回 第5部 組織変革 I 危機管理
- 第12回 第5部 組織変革 II 人的資源管理
- 第13回 第5部 組織変革 III 変革の理論と実際
- 第14回 組織論における今日的議論（組織における感情労働）
- 第15回 まとめ
- 第16回 定期試験

#### <成績評価方法>

- ・中間試験:40%、定期試験:60%、で評価する。

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書:田尾雅夫(2010)『よくわかる組織論(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』ミネルヴァ書房。随時、教員が最新情報などの資料を紹介・配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・受講生の授業の理解度については、中間試験および期末試験によって確認する。なお、現在のところ試験は、すべて持ち込み不可の論述形式を考えているが、受講生の習熟度によっては他の形式も考慮する。
- ・場合によっては、企業の方をゲスト・スピーカーとしてお招きし、講義を行うことも検討する。

#### <学習到達目標>

- ・組織論における基本的な知識（組織論の枠組み、個人・集団レベル、組織レベル、組織変革など）を理解する（中間試験:30%、定期試験:30%）。
- ・企業において組織とは、どのような位置づけで、どうマネジメントすればよいか説明できるようになる（中間試験:10%、定期試験:30%）。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1年	ネットワークコンピューティング	2	後	石川 洋（情報システム）
21年度以前	共 通					

情報文化学科選択、情報システム学科必修

**<授業目的>**

現代社会の基盤となるオープンな情報通信ネットワーク（インターネット）について、プロトコルと伝送制御、符号化と伝送、ネットワーク、通信機器とネットワークソフトなどの観点から学習する。基本情報技術者試験（午前問題）やインターネット検定に出題される内容を学習する。

**<各回毎の授業内容>**

- 1 ネットワーク技術を学ぶ意義、現在のインターネットの使われ方
- 2 ネットワークアーキテクチャ
- 3 TCP/IP-通信プロトコルのデファクトスタンダード
- 4 TCP/IPで利用されるアドレス 1
- 5 TCP/IPで利用されるアドレス 2
- 6 伝送制御 ベーシック手順、HDLC手順（レポート課題1）
- 7 変調、符号化、アナログ通信、デジタル通信
- 8 伝送技術 誤り制御、同期制御、多重化方式、圧縮・伸張方式
- 9 伝送方式と通信回線 交換方式、パケット交換（レポート課題2）
- 10 LANとWAN 組織の大きさとLAN、LANの構成装置
- 11 LAN間接続機器 リピータ、ブリッジ、ルータ
- 12 インターネットの各種サービスその1 DNS, HTTP, FTP
- 13 インターネットの各種サービスその2 SMTP, POP3, NNTP, TELNET, SNMP, DHCP
- 14 ネットワークの性能、ネットワーク関連法規（レポート課題3）
- 15 ネットワークの応用、通信機器とネットワークソフト
- 16 定期試験

**<成績評価方法>**

- ・成績は期末試験（70%）と自己学習によるレポート課題（30%）により評価する。
- ・試験では講義に沿った問題を出題する。持ち込みは不可とする。

**<教科書・参考文献>**

- ・教科書 基本情報技術者テキスト No.4 ネットワーク技術  
日本情報処理開発協会監修、増進堂（2012）
- ・参考文献 随時紹介する。

**<受講に当たっての留意事項>**

- ・企業で行われている電子商取引、電子決済など、インターネット上での仕事をめざす学生や、ネットワーク関連の資格取得をめざす学生には有意義である。

**<学習到達目標>**

- ・代表的なネットワークアーキテクチャ（OSI, TCP/IP）の概要、階層構造、各層の役割について理解する（試験20%、レポート10%）。
- ・データ伝送の種類、仕組み、特徴について理解する（試験20%、レポート10%）。
- ・実用的なネットワーク（LAN, WAN）の特徴、仕組み、プロトコル、提供される多様なサービスについて理解する（試験30%、レポート10%）。

（関連する学習・教育到達目標:E）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	1 年	社会情報システム	2	後	藤田晴啓（情報システム）
21年度以前	共 通					

情報文化学科選択、情報システム学科必修

<授業目的>

電子政府、電子自治体による行政サービスのオンライン化、Suica、銀行ATM、座席予約・商品購買システムによるビジネスの電子化、経路検索サービスやオンラインゲームの普及等、これらの社会情報システムはわれわれの生活に密着し、なくてはならないものとなっている。また、これら情報システムはコンピュータ・ネットワークのモバイル化、クラウド化でさらなる進化を続けている。

本講義では、私たちが日常よく使う社会情報システムの仕組みを、周辺コンピュータ・ネットワーク技術を解説しながら理解する。また、社会における役割を把握し、運用の一翼を担う法律制度も交えながら、私たちの生活にどのように関わっているのかを学習する。さらに、社会情報システムの問題点、セキュリティー、コンプライアンスについても理解を深める。

<各回毎の授業内容>

1. 授業の目的、めざすところ、全15回の内容等ガイダンス
2. 情報システムの社会への影響、トレーサビリティ、グローバル化、生活文化の変化
3. 毎日使う社会情報システム・ICカード乗車券Suicaの処理構造と周辺技術
4. 住民基本台帳ネットワークの構造、法制度等
5. 生活と社会情報システム：銀行ATM、チケット予約購買システム（レポート課題1）
6. 電子マネー：企業により提供される電子決済サービス・通貨との法的相違と利点
7. 電子政府の構造と機能、社会的役割（行政サービスおよび広報）
8. 電子自治体・新潟市の2000行政サービス（レポート課題2）
9. 経路検索システムの仕組みとCO2排出量表示
10. ネット金融取引・個人口座間取引から大口証券取引まで、認証システムと処理フロー
11. e-Tax 国税電子申告・電子証明書、利用者識別等のセキュリティーと税優遇制度
12. 社会情報システムの根幹となるネットワーク諸技術（レポート課題3）
13. 情報社会の問題、全ての人が受益者とはならない（デジタルデバイド・情報社会学との関連）
14. 社会情報システムを支えるセキュリティーとコンプライアンス（情報セキュリティーとの関連）
15. 講義のまとめ（これからの情報社会を安全に快適に生きるには）
16. 定期試験

<成績評価方法>

定期試験70%、レポート課題30%の配分で評価する。

<教科書・参考文献>

参考書：初回の授業あるいは各回の授業にて紹介します。

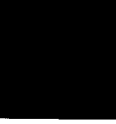
<受講に当たっての留意事項>

私語厳禁、まわりに迷惑を与えるので、注意は1回まで（2回目まで退席を勧告します）。

<学習到達目標>

- ・社会情報システムの仕組みを理解し、社会における役割等の知識を習得する（定期試験：25%）。
- ・政府・企業のデータ処理の構造および社会情報システムの社会における役割を説明できるようになる（定期試験：25%）。社会情報システムの問題点を学び、それらがデジタルデバイド等社会問題とどのように関連するのかを理解し説明できるようになる（定期試験：20%）。
- ・自己学習により社会情報システムが社会インフラとして如何に重要かについてさらに理解を深める（レポート：30%）

# 2年共通科目（後期）



国際経済学  
企業と経済

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	共 通	2年	国際経済学	2	後	安藤 潤 (情報文化)
21年度以前	共 通					

選択

<授業目的>

この科目の目的は、国際経済学の基礎理論及び国際経済の歴史を学び、グローバル化が進む国際経済現状を認識し、その背景及び問題点について理解を深めることである。

<各回毎の授業内容>

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 1. オリエンテーション           | 9. 外国為替相場③        |
| 2. 第2次世界大戦後の国際貿易・金融体制① | 10. 国際経済取引と国際収支表① |
| 3. 第2次世界大戦後の国際貿易・金融体制② | 11. 国際経済取引と国際収支表② |
| 4. 第2次世界大戦後の国際貿易・金融体制③ | 12. 国際経済取引と国際収支表③ |
| 5. 現代の国際貿易①            | 13. 地域経済統合①       |
| 6. 現代の国際貿易②            | 14. 地域経済統合②       |
| 7. 外国為替相場①             | 15. 地域経済統合③       |
| 8. 外国為替相場②             | 16. 試験            |

<成績評価方法>

コメントカード (不定期、20%)、試験 (80%)

<教科書・参考文献>

教科書は指定しない。参考文献として以下の2冊を挙げておく。

長谷川啓之 編『経済政策の理論と現実』学文社、2009年。

安藤潤ほか『平成不況』文眞堂、2010年。

<受講に当たっての留意事項>

「現代アメリカ論」を履修していることが望ましい。私語は厳禁。注意しても私語を続ける者は退室を願うことがある。体調不良などやむを得ない場合を除き大幅な遅刻・途中退出はしないこと。授業中は歩き回らないこと。携帯電話・PHSの類は必ず電源を切ること。飲食禁止。コピーを配布するが、欠席をした者は自己の責任でそろえること。板書したことだけでなく、重要と思われる点は各自ノートに書いておくこと。数式は極力避けるが、グラフは講義内容の理解を深めるために複雑でないものを用いる。全出席・無遅刻が大原則。

<学習到達目標>

この授業内容をベースとして、大学生として主要な新聞の国際経済欄や国際経済に関するニュースに関心を持ち、理解し、また自らの考えを述べることができるようになること。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	2年	企業と経済	2	後	内田 亨（情報システム）
21年度以前	共 通					

選択

#### <授業目的>

本講義では、日本・世界経済、市場、環境問題等、経済状況や今日の問題と企業の関係性を習得する。また、資本主義経済社会において企業はどのような活動をしているか、基本的なことを理解する。

#### <各回毎の授業内容>

- 第1回 インTRODクシヨN（ガイダNス、企業とは、企業経営のしくみ）
- 第2回 戦後の日本経済のあゆみと日本企業(1)
- 第3回 戦後の日本経済のあゆみと日本企業(2)
- 第4回 世界経済と日本企業(1)
- 第5回 世界経済と日本企業(2)
- 第6回 インフォメシヨN・エコノミーからナレッジ・エコノミー(1)
- 第7回 インフォメシヨN・エコノミーからナレッジ・エコノミー(2)
- 第8回 グループワークによる演習(1)
- 第9回 市場と日本企業
- 第10回 環境問題と日本企業
- 第11回 日本企業と外国企業
- 第12回 グループワークによる演習(2)
- 第13回 資本市場とコーポレートガバナNス
- 第14回 CSR（企業の社会的責任）
- 第15回 まとめ
- 第16回 定期試験

#### <成績評価方法>

- ・定期試験:60%、グループワークによる演習の成果物:20% × 2回 = 40%、で評価する。

#### <教科書・参考文献>

- ・参考文献:浅羽茂（2008）『企業の経済学』
- ・随時、教員が最新情報などの資料を紹介・配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・受講生の授業の理解度については、グループワークによる演習および期末試験によって確認する。  
なお、現在のところ試験は、すべて持ち込み不可の論述形式を考えているが、受講生の習熟度によっては他の形式も考慮する。
- ・場合によっては、企業の方をゲスト・スピーカーとしてお招きし、講義を行うことも検討する。

#### <学習到達目標>

- ・企業と経済の関係性（日本・世界経済、市場、環境問題等）を理解し、基本的な知識を習得する（定期試験:30%）。
- ・基本的知識習得を前提にして、グループディスカッションによって、企業に関する理解を深める（演習:40%）。
- ・企業活動の動向を学び、それらがどのようなメカニズムで動いているか説明できるようになる（定期試験:30%）。

# 3年共通科目（後期）

社会調査演習 1・2  
情報処理演習 2  
情報と法

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	共 通	3年	社会調査演習1・2	2	後	
	共 通					

平成24年度不開講

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	共 通	3年	情報処理演習 2	2	後	澤口晋一・山本瑞恵 佐藤徳子・谷賢太郎
21年度以前	共 通					

情報文化学科必修

**<授業目的>**

1年次の情報処理演習1で身に付けた知識と技術を土台に、主にWordとExcelの運用能力の飛躍的向上を目指します。本演習の最終目標はMicrosoft Office Specialist試験の合格ですので、授業内容も最大限それに沿った内容で組み立てます。Microsoft Office Specialist (Word, Excel) は、本学で毎年実施する企業懇談会でのアンケート調査によって、在学中に学生に取得してもらいたい検定・資格で3年連続第一位となっています。就職活動を有利に展開する上でも必須資格となっています。

**<各回毎の授業内容>**

クラスにより内容、進度は異なりますので、下記内容は一応の目安としてください。

1. 全体ガイダンス
2. MCAC攻略問題集 Word(第1章)
3. MCAC攻略問題集 Word(第2章)
4. MCAC攻略問題集 Word(第3章)
5. MCAC攻略問題集 Word(第4章)
6. MCAC攻略問題集 Word(第5, 6章)
7. 中間テスト
8. MCAC攻略問題集 Excel(第1章)
9. MCAC攻略問題集 Excel(第2章)
10. MCAC攻略問題集 Excel(第3章)
11. MCAC攻略問題集 Excel(第3章)
12. MCAC攻略問題集 Excel(第4章)
13. MCAC攻略問題集 Excel(第5章)
14. 応用練習
15. 応用練習

**<成績評価方法>**

小レポート、試験により評価する。

**<教科書・参考文献>**

・MCAS攻略問題集 (Word, Excel)

**<受講に当たっての留意事項>**

- ・情報センターの利用規則を守ること
- ・クラスは基本的に1年次のクラス編成を踏襲しますが、希望により移動は可能です。

**<学習到達目標>**

Microsoft Office Specialist 試験 (Word, Excel) の合格。

試験は、4月以降中央キャンパスで随時実施します。検定料は通常1科目12,390円ですが、大学からの補助で3500～5000円程度となる予定です。また、試験に合格すると資格取得奨学金Ⅱ種が授与されます。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	共 通	3 年	情報と法	2	後	浜田良樹
21年度以前	共 通					

選択

#### <授業目的>

インターネットは社会の重要なインフラです。皆さんは、社会人として、インターネットを用いる際に当然に守らなければならないルールがあり、注意しなければならないということを知る必要があります。この講義では、法的な観点から、インターネットをめぐる問題点を講義します。ところで、法律の問題とは、いつも単一明快な答えが存在するというものではありません。状況によっては、同じ行為が合法にも、違法にもなり得るし、人によって判断が分かれることもあります。このような考え方を理解してもらい、その上で情報技術に関する問題への臨み方を身につけてもらいます。

#### <各回毎の授業内容>

- 第1回 情報と社会生活と法～ITをめぐる法律問題とは具体的には何か
- 第2回 法律問題の考え方～著作権の基礎の基礎
- 第3回 情報と法と倫理～社会的評価未確定問題への対処
- 第4回 情報文化学部の技術者倫理～ITのプロとして、ビジネスや倫理との利益相反にどう対処するか
- 第5回 知的財産権法(1)～著作権概要
- 第6回 知的財産権法(2)～著作物の利用
- 第7回 知的財産権法(3)～著作権をめぐる訴訟
- 第8回 知的財産権法(4)～特許法、不正競争防止法
- 第9回 知的財産権法(5)～フェア・ユース (著作物を利用する場合のルール)
- 第10回 ソフトウェアづくりと法律～契約と知的財産権
- 第11回 情報の流通とプロバイダの責任～情報仲介者の責任、プロバイダ責任制限法
- 第12回 個人情報の有用性と保護～個人情報保護法と事業者の義務
- 第13回 ネットワーク犯罪と情報セキュリティ～不正アクセス、通信傍受、サイバー犯罪条約
- 第14回 情報・法・倫理・ビジネス・セキュリティ～総括講義
- 第15回 キャンパスライフとトラブルシューティング～具体的な演習を実施する
- 第16回 試験

#### <成績評価方法>

試験 (80点) と授業に際して毎回配付するミニレポート (20点)  
ミニレポートの点数が5点未満の場合は失格とする (第15回講義までに公示する)

#### <教科書・参考文献>

オリジナルテキストを配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

私語、飲食は禁止。  
2週間に一度、2限ずつの開講となる。掲示物に注意すること。

#### <学習到達目標>


IT社会において新たに生じる社会問題の存在を認識し、萎縮することなく情報ネットワークを活用できること。

(関連する学習・教育到達目標:E)



專門科目

# 1年文化専門科目（後期）



ロシア語 1  
中国語 1  
韓国語 1  
アメリカ英語 1  
ロシア史概説  
中国史概説  
韓国朝鮮史概説  
アメリカ史概説

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	ロシア語 1	3	後	神長英輔（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

ロシア語の基礎の習得をめざします。今後のロシア語学習の土台をしっかりと築くことがこの授業の目的です。

<各回毎の授業内容>

各週の内容は以下の通りです（受講者の達成度に応じて多少前後する可能性があります）。

1. 文字と音声
2. 単語の発音
3. 基本3文型（テキスト第1課）
4. 疑問詞のない疑問文とその答え（同第2課）
5. 疑問詞（同第3課）
6. 人称代名詞（同第4課）
7. 名詞の性（同第5課）
8. 所有代名詞と指示代名詞（同第6課）
9. 動詞の現在人称変化(1)（同第7課）
10. 動詞の現在人称変化(2)（同第8課）
11. 無人称文(1)（同第9課）
12. 場所の表現(1)（同第10課）
13. 場所の表現(2)（同第11課）
14. 移動・動作の目標（同第12課）
15. 総復習（第1課から第12課まで）および総復習テスト

各課では文法の解説、音読、グループワークを中心とした会話の練習をおこないます。読む力、聞く力、話す力、書く力をバランスよく伸ばすことをめざします。

<成績評価方法>

出席回数（特に重視します）、小テスト（筆記と暗唱）、課題（書写）、総復習テストをもとに総合的に判断します。

<教科書・参考文献>

教科書は佐藤純一『NHK新ロシア語入門』NHK出版（CD付き）です。また、文字の練習用として『ロシア語習字ノート』（ナウカ出版）を購入してください。いずれも教科書販売所で購入し、授業初回から必ず持参してください。辞書については授業で案内します。

<受講に当たっての留意事項>

出席が極めて重要です。語学は積み重ねです。あとでまとめてやることは不可能です。

徹底して音読してください。読めば読むほど力がつきます。

毎回の着実な復習が大事です。授業に出るだけで勝手にできるようになることはありません。教科書添付のCDを活用し、日常生活の中にロシア語を聞く時間と読む時間を確保してください。

間違いを恥じてはいけません。楽しく取り組むのは大事ですが、他の受講者の間違いを笑ってはいけません。わからないことはいつでも遠慮なく質問してください。

みなさんの積極的な取り組みを期待しています。

<学習到達目標>

文字を正しく発音すること、文字を正しく書くこと、基礎的な文法を理解すること、基本的な単語をおぼえること、簡単な文を聞いて理解できること、自分の日常生活について簡単なロシア語で表現（話す・書く）できること、ロシア語学習が楽しいと思えるようになること、以上が目標です。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	中国語 1 A・B		後	區 建英（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

中国語は声調言語であり、その言葉の流れは歌のように聞こえます。この特徴が日本語にも英語にも見られません。発音の勉強は難しく感じられるかも知れないが、発音を正しく身につければ、中国語の会話は美学的センスを持ち、コミュニケーションの相手に素晴らしい感じを与えます。この授業は長年来の発音教育の経験を生かして、声調・単母音・複母音・子音などを正しくて美しく発音するよう、ネイティブに近いものになるよう、徹底的に指導します。同時に、最も基本的な文法と常用単語をしっかりと身につけるよう指導し、さらにその活用として、パートナー或いはグループでの作文練習や会話活動を行い、これによって初歩的な会話能力を身に付けさせます。

<各回毎の授業内容>

一、発音部分

中国語の基礎として発音と声調を重点に置き、同時に、中国語漢字と日本語漢字の書き方および意味の違いを区別するよう注意します。

- 1、中国語発音の概要と単母音
- 2、声調と複母音
- 3、子音
- 4、子音
- 5、鼻母音
- 6、軽声と各種の変調
- 7、発音の総合練習

二、会話入門

会話の様々な話題をめぐって大量に単語を活用することによって、友人交際、留学、ビジネスなど中国滞在時の初歩的な実用会話を身に付けさせ、その中で下記の文法ポイントを教えます。

- 8、場所代名詞、4種の疑問文
- 9、新属呼称、数字知識、「有」の構文(1)
- 10、時間詞、名詞述語文
- 11、量詞、連動文
- 12、語気助詞「了」(1)と動相助詞「了」(2)
- 13、選択疑問文
- 14、助動詞「想」と「会」
- 15、総合練習

<成績評価方法>

成績は定期試験で評価するが、出席の状況、授業での作文・会話の状況も成績判断の参考になる。

<教科書・参考文献>

教科書：朱継征著『速問即答中国語・入門編』朝日出版社、補足のレジュメ  
辞書：適当な辞書を授業の時に指定

<受講に当たっての留意事項>

辞書を購入すること  
予習・復習をすること、積極的に作文や会話に取り組むこと

<学習到達目標>

正しい発音を身に付け、基礎的な文法を理解し、常用単語をできるだけ多く覚え、各種の練習、とくに会話活動を通じて、単語と文法の活用と口頭作文の能力を身に付けることを目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	中国語 1 A・B		後	寺沢俊一
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

正しい中国語の基礎を身につける。

<各回毎の授業内容>

ピンイン符号（発音表記符号）の読み書きができるようになるための練習をする。さらに中国語の基本的な文型と文法事項について学ぶ。発音練習にはできるだけ多くの時間を充たしたい。1冊のテキストを複数の教員が共用するため、毎回の授業内容はシラバスと若干異なる場合がある。

1. 単母音・複合母音と四声
2. 子音一有気音と無気音
3. 子音一そり舌音とその他の子音
4. 鼻音をともなう母音
- 5～6. 発音の総合練習
7. 動詞述語文
- 8～9. 数字
- 10～11. 形容詞述語文
- 12～13. 比較文
14. 時間の表現
15. 名詞述語文

<成績評価方法>

出席と発音・声調の習熟度を重視する。出席が2/3以上の者に定期試験を受ける資格を与える。成績評価は小テスト、出席率、定期試験の結果を総合的に判断する。

<教科書・参考文献>

教科書：『速問即答中国語 入門編』朱継征著 朝日出版（2700円＋税）

参考文献：『はじめての中国語』相原茂著 講談社現代新書0987（740円＋税）

<受講に当たっての留意事項>

発音練習をする際には、大きな声で歌うように発音すること。テキストの単語や文は何回も朗読して暗誦できるまで練習すること。ピンイン符号は読み・書きが完璧にできるまで繰り返し練習すること。

<学習到達目標>

発音・声調の徹底した訓練から始め、ピンイン符号の「読み・書き」が正しくできるようにしたい。さらに学習した語彙と文型を使い、自分の日常生活について中国語で表現できるようにしたい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	中国語 1 A・B		後	笠原ヒロ子
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

中国語の発音を習得し、豊富な語彙と用例を学んで、基本文型を理解し、基礎的な会話能力と作文能力を身につける。

<各回毎の授業内容>

- 1 子音
- 2 子音
- 3 "e"の音、変調
- 4 ル化音、音節の復習
- 5 発音の総合練習
- 6、7 動詞述語文、連用修飾語、3種類の疑問文
- 8、9 指示代名詞、構造助詞"的"、形容詞述語文
- 10、11 "有"と"在"、アスペクト助詞"着"、禁止用法
- 12、13 方位詞、進行文
- 14、15 選択疑問文、助動詞
- 16 定期試験

<成績評価方法>

授業参加度、小テスト、定期試験を勘案して総合評価を行います。

<教科書・参考文献>

「速問即答中国語 入門編」朱継征著 朝日出版社

<受講に当たっての留意事項>

中国語を習得するに、その過程での努力に応じた結果を得られるとはかぎりませんが、努力なしではその成果は得られません。声を出して繰り返しトレーニングしてください。  
テキストに添付されているCDを普段から利用してください。

<学習到達目標>

中国語の基本的な話す、聞く、書く、読むの四つの力を養います。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	韓国語 1 A・B		後	A:申 銀珠・金 世朗
21年度以前	専 門					B:申 銀珠・朴 修禧

選択必修

<授業目的>

韓国・朝鮮は日本に最も近い国である。言葉も日本語とよく似た構造をもっており、日本人には最も習得しやすい外国語といえる。この授業では、まず、表音文字としてのハングルの構成を正しく理解し、読み書きを十分に練習して単語・短文の自然な発音に慣れるようにする。さらに日本語と比較しながら韓国語の基本文法及び文型を学習する。

<各回毎の授業内容>

1. 예비편 母音字母と子音字母の書き方と発音(1)
2. 예비편 母音字母と子音字母の書き方と発音(2)
3. 예비편 바ッチムとしての子音字母の発音と音韻変化
4. 제 1 과 안녕하세요?
5. 제 2 과 여기가 학생 식당입니다.
6. 제 3 과 이것이 무엇입니까?
7. 제 4 과 집이 어디에 있습니까?
8. 제 5 과 종합 연습(1)
9. 제 5 과 종합 연습(2)
10. 제 6 과 내일 우리 집에 오세요.
11. 제 7 과 생일 축하해요!
12. 제 8 과 무슨 음식을 좋아하세요?
13. 제 9 과 대학교에서 한국어를 배웁니다.
14. 제 10과 종합 연습(1)
15. 제 10과 종합 연습 (2)

<成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。宿題、小テストなどを成績評価に加える。

<教科書・参考文献>

『韓国語初級 I』(国際教育院韓国語教育部、慶熙大学校出版局)

<受講に当たっての留意事項>

基礎から始める外国語なので、欠席しないこと。毎回宿題が与えられ、随時小テストも行われる。しっかりついてきてください。

<学習到達目標>

ハングルの文字体系を理解し、初級レベルの読み書き・会話ができるようにしたい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	韓国語 1 A・B		後	吉澤文寿（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

#### <授業目的>

韓国・朝鮮は日本に最も近い国である。言語も日本語とよく似た構造をもっており、日本人にはもっとも習得しやすい外国語といえる。この授業では、慶熙大学のテキストを用いた2コマの授業を補強するために、日本で出版されたテキストを用いて、日本語を母語とする者の特性を生かした言語学習を目指す。

#### <各回毎の授業内容>

1. ガイダンス
2. 1 課 基本母音字母と合成母音字母(1) (その1)
3. 1 課 基本母音字母と合成母音字母(1) (その2)
4. 2 課 基本子音字母 (その1)
5. 2 課 基本子音字母 (その2)
6. 3 課 合成母音字母(2) (その1)
7. 3 課 合成母音字母(2) (その2)
8. 4 課 パッチム (終声)(その1)
9. 4 課 パッチム (終声)(その2)
10. 5 課 私は～です。(その1)
11. 5 課 私は～です。(その2)
12. 6 課 時間ありますか。(その1)
13. 6 課 時間ありますか。(その2)
14. 7 課 それは何ですか。(その1)
15. 7 課 それは何ですか。(その2)
16. 定期試験

#### <成績評価方法>

出席が2/3以上の者に期末試験の受験資格を与え、成績は期末試験の結果で評価する。なお、宿題、小テストなどを成績評価に加える。

#### <教科書・参考文献>

金順玉・阪堂千津子『新・チャレンジ!韓国語』白水社、2009年、定価:2300円+税

#### <受講に当たっての留意事項>

基礎から始める外国語なので、とくに初めて韓国語を学ぶ学生は学習項目を着実に習得してほしい。文字や発音の習得を確認するための小テスト、そして宿題を随時出したい。

#### <学習到達目標>

言葉に親しみつつ、話す、聞く、書く、読むという基礎的な言語能力の習得を目標とする。そして、習得した言語をもって、みずからのコミュニケーションに活用することを意識しながら学んでほしい。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	アメリカ英語 1 A・B		後	矢口裕子（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

リスニング・発音の訓練に最適であるとともに、口語英語・イディオム表現の宝庫である英語のポップスを素材に英語を学習する。英語の音とことばに対する感覚をともに磨くことを目指す。テキストにそってリスニング・文法・リーディングの問題に取り組むとともに、それぞれの曲の歌詞に担当学生の訳を提供してもらう。学生が自分の好きな曲を選び、リスニングの穴埋め問題・訳詞の作成をしてもらうこともありうる。

<各回毎の授業内容>

1. イントロダクション
2. My Heart will Go On
3. Open Arms
4. Don't Look Back in Anger
5. A Whole New World
6. Livin' La Vida Loca
7. Kiss of Life
8. I Don't Wanna Miss a Thing
9. Everytime I Close My Eyes
10. Life
11. The Stranger
12. All I Want for Christmas is You
13. Hey Now (Girls Just Want to Have Fun)
14. 学生または教員作成による問題
15. まとめ

<成績評価方法>

平均的回数担当・発表することが必須。  
学期末に試験および/あるいはレポートを課す。

<教科書・参考文献>

English with Hit Songs (成美堂)

<受講に当たっての留意事項>

全員が予習してきていることを前提に授業を進める。出席のための出席は意味がない。辞書は必ず持参のこと。

<学習到達目標>

総合的英語力の修得。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	アメリカ英語 1 A・B		後	金沢泰子
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

CALLシステムを活用してTOEIC受験対策演習をおこなう。

Listening練習、基礎文法の復習、読解練習、オンラインPractice Testを通して基礎力を養成する。

<各回毎の授業内容>

- 1 講義概要、CALLシステムの使用法説明
- 2 TOEIC 実力診断テスト
- 3 Unit 1 Daily Life
- 4 Unit 1
- 5 Unit 2 Eating Out & Amusement
- 6 Unit 2
- 7 Unit 3 Cooking & Purchasing
- 8 Unit 3
- 9 Practice Test (1)
- 10 Unit 4 Traffic & Travel
- 11 Unit 4
- 12 Unit 5 Production & Logistics
- 13 Unit 5
- 14 Unit 6 Business & Economics
- 15 Unit 6
- 16 定期試験

<成績評価方法>

毎授業時の練習問題と復習小テスト40% 音声活動20%、定期試験40%

<教科書・参考文献>

M.Yasumaru et al: Seize The Essence of the TOEIC Test (KINSEIDO) 他

<受講に当たっての留意事項>

5回以上欠席すると受講資格を失う。授業開始後10分以降の入室は認めない。  
欠席回数については各自で記録し、超過しないように気をつけること。

<学習到達目標>

TOEIC形式の問題に慣れる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	1 年	アメリカ英語 1 A・B		後	大岩彩子
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

The aim of this course is to build confidence in speaking and listening to English. Students will be encouraged to communicate their own ideas while learning common phrases used in American English. Students will practice activities such as shadowing and overlapping. Class time will be also spent doing a lot of speaking and listening activities, and the students taking this course will be expected to fully participate in pair and group activities. Homework will be assigned each week, which involves discussion on Facebook.

<各回毎の授業内容>

Week 1 Introduction of the course, class survey  
 Week 2 Unit 1 Introductions  
 Week 3 Unit 2 Entertainment  
 Week 4 Unit 4 Families  
 Week 5 Unit 5 Personality  
 Week 6 Unit 7 Experiences  
 Week 7 Unit 8 Health  
 Week 8 Midterm examination  
 Week 9 Unit 9 Relationships  
 Week 10 Unit 11 Travel  
 Week 11 Unit 12 Lifestyle  
 Week 12 Unit 13 Culture  
 Week 13 Unit 14 Food  
 Week 14 Unit 15 Events  
 Week 15 Unit 16 Future  
 Week 16 Final examination

<成績評価方法>

Class participation 20%  
 Homework assignments 20%  
 Midterm examination 30%  
 Final examination 30%

<教科書・参考文献>

Impact Conversation 1 by Sullivan K. & Beucken, T. (Pearson Longman)

<受講に当たっての留意事項>

Good participation is very important.

Good participation means you:

- speak English in class.
- ask questions.
- pay attention and focus on the class activities.
- do your homework.

Poor attendance will greatly affect your grade as you will miss your participation points and the information we covered in class.

<学習到達目標>

Build confidence in speaking and listening.

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	ロシア史概説	2	後	A プラーソル（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

このコースの目的は、ロシア人の直接の先祖である東スラブ部族の結成時代から1917年の社会主義革命までのロシア史においてもっとも重要な出来事、社会の動きとその意義について考えながら、ロシア史の重要点を紹介することである。ロシア社会の歴史的発展に自分の名を残した皇帝や為政者や大将などの活躍について考察していきたいと思う。

<各回毎の授業内容>

1. キエフ・ロシア 800-1169年（その1）
2. キエフ・ロシア 800-1169年（その2）
3. 分裂時代 1169-1462年（その1）
4. 分裂時代 1169-1462年（その2）
5. モスクワ公国の創設者たち 1462-1613年
6. ロマーノフ朝の初期 1613-1677年
7. 危機 1677-1700年
8. ピョートル大帝の改革 1700-1725年
9. 宮廷革命 1725-1762年
10. エカテリーナ2世の治世 1762-1796年
11. アレクサンドル1世 1801-1825年
12. ニコライ1世 1825-1855年
13. アレクサンドル2世 1855-1881年
14. アレクサンドル3世 1881-1894年
15. ニコライ2世と革命運動 1894-1917年
16. 期末テスト

<成績評価方法>

学期末に筆記試験を行う。受験資格を獲得するために、総講義数の2/3出席が必要である。合格のために、講義の自筆ノートが必要である。

<教科書・参考文献>

毎回プリントを配布する。

使用テキスト:なし

参考書:ピエール・パスカール著 ロシア史 白水社

<受講に当たっての留意事項>

適当なテキストがないため毎回かなりの量の資料を配布する。欠席した者は自己責任で資料をそろえること。

<学習到達目標>

ロシア社会史の基礎知識を身につけ、異文化理解を深めること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	中国史概説	2	後	區 建英（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

#### <授業目的>

かつて最も富裕な文化帝国と称される中国は、なぜ近代で列強諸国に侵略される対象に転落し、また戦後で途上国となりましたか。その歴史的転換の過程に発生した多くの重大な事件は、現代中国を知るのに不可欠な知識です。というのは、今日の中国に見られる多くの現象はそうした過去の歴史にその要因が求められるからです。この講義は伝統中国から近代国家への転換、具体的にアヘン戦争から中華人民共和国成立までの過程、とくにその過程における日本と中国の関係を説明します。これによって、現代中国における対外関係のあり方、経済発展のあり方、多民族社会のあり方、および民主化の状態を理解するための基本知識と方法を提供します。

#### <各回毎の授業内容>

授業は下記のスケジュールで進めますが、授業の状況によって若干変更する場合があります。

- 1、中国の伝統思想と知性
- 2、伝統中国の民族関係—複合政治構造
- 3、チベットの由来と中国王朝
- 4、伝統中国の対外関係—朝貢体制
- 4、アヘン戦争と二つの国際秩序観
- 6、対外関係の変化と清末の外交
- 7、中国社会の変動—太平天国と洋務運動
- 8、日清戦争と戊戌変法
- 9、義和団運動と辛亥革命
- 10、王朝の終焉と中華民国の多難な出発
- 11、21カ条要求と「五四」運動
- 12、新文化運動と共産主義受容
- 13、国民革命における国共（国民党と共産党）合作
- 14、日中戦争における国共合作
- 15、国共内戦と中華人民共和国の誕生

#### <成績評価方法>

成績は主に定期試験で評価するが、毎回の授業終了時に、講義内容に関するコメント（感想、意見、質問等）を提出してもらう。これを成績評価の対象に加える。出席状況も評価の参考になる。

#### <教科書・参考文献>

教科書は、授業のテーマ毎に配るレジюме。参考文献は、授業時に紹介。

#### <受講に当たっての留意事項>

講義のメモを取りながらよく思考し、コメントを書くこと。レジюмеをよく復習し、参考書をも積極的に読むこと。

#### <学習到達目標>

伝統中国から近代国家への転換の過程、主としてアヘン戦争から中華人民共和国成立までの過程を掴み、その重要な出来事を覚え、中国社会のあり方と論理の変化を理解し、現代中国を理解するための基礎を作ります。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	韓国朝鮮史概説	2	後	吉澤文寿（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

この講義は「植民地主義克服のための朝鮮史」をテーマとして、朝鮮史を古代から現代まで通観する。具体的には、朝鮮におけるナショナリズムの起源と展開について考察をする。そして、これからの生きるわたたくしたちが現在も継続する「近代」、すなわち植民地主義を克服するための道筋について、展望を示したい。

<各回毎の授業内容>

1. 講義の概要、レポート作成および参考文献案内
2. 原始・古代…古朝鮮から統一新羅時代まで
3. 中世(1)…高麗王朝
4. 中世(2)…朝鮮王朝前期
5. 近世(2)…朝鮮王朝転換期における二つの戦乱
6. 近世(3)…朝鮮王朝後期
7. 近世から近代へ…資本主義世界経済と帝国主義、19世紀前半の朝鮮
8. 近代(1)…「開国」から日清戦争直前まで
9. 近代(2)…日清戦争、甲午農民戦争、甲午改革、閔妃暗殺について
10. 近代(3)…光武改革、日露戦争直前まで
11. 近代(4)…日露戦争、保護国期について
12. 近代(5)…韓国併合、「武断政治」期の朝鮮
13. 近代(6)…3・1運動、「文化政治」期の朝鮮
14. 近代(7)…戦時体制下の朝鮮
15. 現代の課題…解放から現在まで、まとめ

<成績評価方法>

レポートによって成績評価をする。

<教科書・参考文献>

教科書は使用しない。講義時にレジュメを配布する。

概説書として、以下の文献を紹介しておく。

武田幸男編『朝鮮史』山川出版社、2000年

田中俊明編『朝鮮の歴史 先史から現代』昭和堂、2008年

<受講に当たっての留意事項>

日本のアジア認識をテーマとする「アジアと日本」(朝鮮と日本編)を受講しておくこと、本講義の内容理解がより深まると思う。

<学習到達目標>

受講者が朝鮮史の概要を習得した上で、みずからの関心に即して文献を選択、分析し、一定の結論を示すことを目指す。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1年	アメリカ史概説	2	後	越智敏夫（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

アメリカ合衆国の現在を作り上げてきた歴史的経緯を確認することによって、その国民形成のプロセスを理解する。多様な集団によって構成されているアメリカにおいて、一元的な政治統合を可能にしている条件について多角的に検討する。また、現在の社会的・経済的格差が生じた政治的・文化的背景、さらにその解決のための施策についても考察する。

<各回毎の授業内容>

- 1 はじめに
- 2 北米植民地の形成
  - 2-1 近代世界の成立 (講義1)
  - 2-2 西洋列強による侵略以前の北米大陸 (2)
  - 2-3 西洋列強の海外発展
  - 2-4 コロンブス：発見か到達か (3)
  - 2-5 イギリスによる北アメリカ植民
  - 2-6 植民者像の転換 (4)
- 3 独立
  - 3-1 独立戦争
  - 3-2 独立宣言 (5)
  - 3-3 アメリカ合衆国憲法 (6)
- 4 移民国家の基本原則
  - 4-1 市民から排除された人々 (7)
  - 4-2 アメリカ合衆国発展の特徴
  - 4-3 市民となった人々 (8)
- 5 移民国家の拡大
  - 5-1 領土の拡大
  - 5-2 南北戦争 (9)
  - 5-3 ゴールドラッシュと移民規制法の発生
  - 5-4 1924年移民法 (10)
- 6 移民国家の変質
  - 6-1 大恐慌 (11)
  - 6-2 第二次世界大戦
  - 6-3 戦後の冷戦構造 (12)
  - 6-4 キューバ危機とヴェトナム戦争
- 7 多元的社会的統合
  - 7-1 人種問題と公民権運動 (13)
  - 7-2 1965年移民法 (14)
  - 7-5 多文化主義
- 8 まとめ (15)

<成績評価方法>

学期末の筆記試験（持ち込み可）のみで採点。

<教科書・参考文献>

教科書なし。各回2～3枚のレジュメを<A HREF="http://www.nuis.ac.jp/ic/ices/services/lecture/">本学教材ダウンロードページ</A>にアップするので、講義前に各自でダウンロードして教室に持参すること。参考文献は講義中に適宜指示する。また図書館のサイトの「指定図書リスト」を参照のこと。

<受講に当たっての留意事項>

アメリカ関連のもっとも基礎的な科目である。また近代ヨーロッパ史に関心をもっていることが望ましい。

<学習到達目標>

アメリカ社会の歴史的特質を総体的かつ相対的に理解する。

# 2年文化専門科目（後期）

ロシア語 3  
中国語 3  
韓国語 3  
アメリカ英語 3  
ロシア文化論  
中国文化論  
韓国朝鮮文化論  
日本経済史  
東南アジア文化論  
現代ヨーロッパ論  
Advanced CEP2



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	ロシア語3	2	後	中谷昌弘
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

ロシア語2に引き続き同じテキストの25～32課をもって文法、語彙、会話法をマスターするように心がける。文法の練習などを教員が用意する。

<各回毎の授業内容>

1. Урок 25 Миша прочитал книгу.(動詞の体 その1)
2. 同 本文および練習問題
3. Урок 26 Я читаю текст.(動詞の体 その2)
4. 同 本文および練習問題
5. Урок 27 Я покупаю много книг.(動詞の体 その3)
6. 同 本文および練習問題
7. Урок 28 Он учится русскому языку.(格支配)
8. 同 本文および練習問題
9. 前半のまとめと中間試験
10. Урок 29 Мой отец был инженером.(述語の造格)
11. 同 本文および練習問題
12. Урок 30 Мой отец был инженером.(名詞変化のまとめ その1)
13. 同 本文および練習問題
14. Урок 31 Мой отец был инженером.(名詞変化のまとめ その2)
15. 同 本文および練習問題
16. 後半のまとめと期末試験

<成績評価方法>

出席率および中間・期末の両試験の結果によって成績を評価する。

<教科書・参考文献>

佐藤純一著『新ロシア語入門』、NHK出版、2000年。

<受講に当たっての留意事項>

欠席が三分の一を超えると受験資格がなくなる。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	中国語3A		後	區 建英（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

中国語2で身につけた語学力を踏まえて、いっそう単語の量を増やし、文法の知識を拡大し、中国語の会話能力を向上させると同時に、読解能力の訓練も行います。この授業は引き続き、文型の活用を中心にしてパートナー或いはグループでの作文練習や会話活動を行い、中国語によるコミュニケーションを実践します。また、中国語の新聞記事を選んで読解と問答を行い、できれば、中国語の映像資料をも導入し、いっそう臨場感と実用性に富んだ言語学習を指導します。

<各回毎の授業内容>

各回の会話内容に下記の文法を組み込んで教え、また、諸分野での時事の読解を指導します。

- 1、動詞の諸形態のまとめ
- 2、形容詞の諸形態のまとめ
- 3、時事—経済発展
- 4、副詞の諸形態のまとめ
- 5、助動詞の諸形態のまとめ
- 6、時事—環境保護
- 7、前置詞の諸形態のまとめ
- 8、文章構造分析の方法
- 9、時事—国際関係
- 10、文章における修飾形式(1)
- 11、文章における修飾形式(2)
- 12、時事—政治・歴史
- 13、文章における主従複文の諸関係
- 10、時事—社会風貌
- 15、総合練習

<成績評価方法>

成績は定期試験で評価するが、授業の出席や努力の状況と練習の成績も参考になる。

<教科書・参考文献>

教科書：楊凱榮等著『表現する中国語Ⅱ』白帝社  
そのほか：必要に応じてコピー資料配布

<受講に当たっての留意事項>

授業の時、辞書を携帯すること。

会話能力の訓練はもちろん、中国語の新聞記事の読解にも積極的に挑戦すること。

<学習到達目標>

文型を軸として単語を大量に活用するような会話能力を目指しながら、文法理解は文章構造の分析へと発展します。また、中国語の新聞記事の読解や映像資料の理解を経験して、中国語の実用能力を高めることを目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	中国語3A・B		後	寺沢俊一
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

今までに学習した単語・慣用表現・文法事項を復習しつつ、新しく学ぶ事柄と有機的関連づけ、応用発展させる。「聞く・話す」の練習にできるだけ多くの時間を充当し、中国語の運用能力向上をめざす。

<各回毎の授業内容>

1冊のテキストを複数の教員で分担して講義するため、以下の授業内容と若干異なる場合がある。

- 1～2. 第2課「歓迎」
- 3～4. 第4課「交通手段」
- 5～6. 第6課「食事」
- 7～8. 第8課「交通手段2」
- 9～10. 第10課「ネット上でのおしゃべり2」
- 11～12. 第12課「趣味」
- 13～14. 第14課「観光」
- 14～15. 第15課「旅行」

<成績評価方法>

出席が2/3以上の者に定期試験を受ける資格を与える。成績評価は小テスト・レポート・出席率・定期試験の結果を総合的に判断する。

<教科書・参考文献>

教科書:『表現する中国語Ⅱ』楊凱榮・張麗群著 白帝社（本体2400円+税）

参考文献:講義中に紹介する。

<受講に当たっての留意事項>

学んだ単語や文は日本語で意味を理解するだけでなく、正しい発音と語調で読めるようすること。さらに朗読練習を繰り返して暗誦すること。暗誦できたら、ピンイン符号と漢字で書く練習をすること。

またテキスト本文の要旨を中国語で言えるようにすること。

<学習到達目標>

より正確かつ自然な発音ができるようにしたい。テキスト本文の内容について中国語で説明ができるようにしたい。さらにテキストの内容について中国語で質疑応答できるようにしたい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	中国語3B		後	小林元裕（情報文化）
21年度以前	専 門					
<p>選択必修</p> <p><b>&lt;授業目的&gt;</b> 2年前期までに学んだ中国語の基礎を徹底し、実用的なレベルにまで高める。</p> <p><b>&lt;各回毎の授業内容&gt;</b> とくに読む練習を重視する。テキストの会話を暗記し、場面ごとの会話や必要単語を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 打 電話(1)</li> <li>3. 打 電話(2)</li> <li>4. 介 紹(1)</li> <li>5. 介 紹(2)</li> <li>6. 換 銭(1)</li> <li>7. 換 銭(2)</li> <li>8. 生 病(1)</li> <li>9. 生 病(2)</li> <li>10. 中国語検定対策－過去問題の分析と問題練習(1)</li> <li>11. 中国語検定対策－過去問題の分析と問題練習(2)</li> <li>12. 网上 聊天儿 1(1)</li> <li>13. 网上 聊天儿 1(2)</li> <li>14. 买 东西(1)</li> <li>15. 买 东西(2)</li> <li>16. 試 験</li> </ol> <p><b>&lt;成績評価方法&gt;</b> 授業中に行う確認テスト及び定期試験によって評価する。授業に3分の2以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。</p> <p><b>&lt;教科書・参考文献&gt;</b> 楊凱榮・張麗群『表現する中国語Ⅱ』白帝社（2400円＋税）を予定しているが、変更する場合がありますので、掲示等をよく確認すること。</p> <p><b>&lt;受講に当たっての留意事項&gt;</b> 中日辞典を必ず携帯すること。</p> <p><b>&lt;学習到達目標&gt;</b> 中国語のレベルを初級から中級に高め、実際に使える中国語の習得を目指す。</p>						

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	2年	韓国語 3		後	吉澤文寿 (情報文化)
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

韓国語2までの学習に引き続き、日本で出版されたテキストを用いて、日本語を母語とするものの特性を生かした言語学習を通して、初級段階前半の語学力をさらに高めることを目指す。

<各回毎の授業内容>

1. 韓国語2の復習
2. 1課 お名前はなんとおっしゃいますか?(その1)
3. 1課 お名前はなんとおっしゃいますか?(その2)
4. 2課 朝子といますが、日本から来ました。(その1)
5. 2課 朝子といますが、日本から来ました。(その2)
6. 3課 魚は焼かないで下さい。(その1)
7. 3課 魚は焼かないで下さい。(その2)
8. 1～3課の復習
9. 4課 ファンの集いに行くことにしました。(その1)
10. 4課 ファンの集いに行くことにしました。(その2)
11. 5課 道を渡って左にずっと行ってください。(その1)
12. 5課 道を渡って左にずっと行ってください。(その2)
13. 6課 ファンの集いへ行ってみたんですけど...(その1)
14. 6課 ファンの集いへ行ってみたんですけど...(その2)
15. 4～6課の復習
16. 定期試験

<成績評価方法>

出席が2/3以上の者に期末試験の受験資格を与え、成績は期末試験の結果で評価する。なお、宿題、小テストなどを成績評価に加える。

<教科書・参考文献>

金順玉・阪堂千津子・崔榮美『ちょこっとチャレンジ!韓国語』白水社、2011年、定価:2400円+税

<受講に当たっての留意事項>

前学期に引き続き、学習項目を着実に習得してほしい。宿題も随時出したい。

<学習到達目標>

1年間学んだ韓国語をさらに楽しんでほしい。基礎的な語学能力をさらにステップアップさせつつ、より実践的に韓国語を活用できるようになることを目指す。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	韓国語 3		後	金 世朗
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

韓国語1・2にひきつづき、基本的な語彙や表現を着実に身につけていきます。教科書に基づき、読む・書く・聞く・話す練習を繰り返し、各課の最後は具体的な場面を設定し、学生達にロールプレイ（役割演技）してもらってまとめます。

<各回毎の授業内容>

1. 제 1 과 시험이 있어서 시간을 낼 수 없어요.
2. 제 1 과 시험이 있어서 시간을 낼 수 없어요.
3. 제 1 과 시험이 있어서 시간을 낼 수 없어요.
4. 제 1 과 시험이 있어서 시간을 낼 수 없어요.
5. <復習>
6. 제 2 과 구내식당으로 갑시다.
7. 제 2 과 구내식당으로 갑시다.
8. 제 2 과 구내식당으로 갑시다.
9. 제 2 과 구내식당으로 갑시다.
10. <復習>
11. 제 3 과 불고기도 좀 시킬까요?
12. 제 3 과 불고기도 좀 시킬까요?
13. 제 3 과 불고기도 좀 시킬까요?
14. 제 3 과 불고기도 좀 시킬까요?
15. <復習>
16. 定期試験

<成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与えます。成績は小テスト、課題、定期試験の結果から評価します。

<教科書・参考文献>

『아름다운 한국어 1-3』(韓国語教育開発研究院, ソウル)

<受講に当たっての留意事項>

学生が中心になって行われる授業です。授業中は積極的な態度が求められます。

<学習到達目標>

韓国語でちょっとした意思伝達ができることを目標とします。また、授業では韓国の社会や文化も紹介しますが、それを通して自分の国とは違うものについて考えるきっかけになればいいと思います。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	アメリカ英語3A・B		後	本間多香子
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

TOEIC対策のテキストを使って、実際の試験を受験する準備をするとともに、リスニングの訓練や基本的な文法・語法・語彙の定着を図る。

<各回毎の授業内容>

1. Introduction
2. Unit 1
3. Unit 2
4. Unit 3
5. Unit 4
6. Review Test, Practice Test
7. Unit 5
8. Unit 6
9. Unit 7
10. Unit 8
11. Review Test
12. Unit 9
13. Unit 10
14. Unit 11
15. Unit 12
16. 試験

<成績評価方法>

定期試験60% 授業中の小テスト、授業への取り組み状況等40%

<教科書・参考文献>

大賀リエ他 著 TOEIC Test: On Target <Book 1> (南雲堂)  
必要に応じて、配布物で問題演習を行う。

<受講に当たっての留意事項>

予習として、教科書の問題を解いてくること。

遅刻2回で欠席1回とする。欠席が3分の1を超えると試験を受ける資格を失う。

<学習到達目標>

基本的な文法を理解し、応用できるようになる。簡単な英語での会話を理解できるようになる

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	2年	アメリカ英語3A・B		後	デロシェ ジェラルド
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

The objective of this course is to encourage the students to communicate freely and with confidence.

The course is designed to be a continuation of 2A class. With more emphasis on free communication.

The course is also designed in focusing on American English and culture.

<各回毎の授業内容>

1. "BQ3" A grade 3 quiz game
2. "Taboo Jr" An English activity that the students will acquire the ability to explain and describe things
3. Listen In 1 "David Nunan" from chapter 6 plus reading comprehension and grammar exercise.
4. puzzle (homework assignment)
5. Movie -on American culture genre
6. "Scattagories" #3,4,5 An English vocabulary activity.
7. Listen In 1 "David Nunan" plus reading comprehension and an English grammar exercise.
8. Puzzle (Homework assignment)
9. "Outburst" # 2 An English activity game based on American culture.
10. "Dealer's Choice" a car selling, buying, bargaining activity. (2lessons)
12. Listen In 1 "David Nunan" plus reading comprehension and grammar exercise
13. "Counterfeits" An exercise that enables the students to explain the differences in their pictures.
14. Review
15. Final test Based on Listen In 1 and reading comprehension and grammar exercise.-

<成績評価方法>

Final test 40% Homework assignment 20% Class participation 40%

<教科書・参考文献>

Prints will be supplied

<受講に当たっての留意事項>

The students who participate and attend the lecture will be very successful in passing the class.

<学習到達目標>

I hope the lecture will encourage the students confidence and joy of trying to speak English. I would like to see the class tension free and get the students to participate as much as they can.



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	ロシア文化論	2	後	A プラーソル（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

ロシアはヨーロッパではなく、東洋でもないとは、しばしば口にされる言葉であるが、この国を旅し、この国の文化の文化に親しんでみると、それが実を射た言葉と思わざるを得ない。明治以来、ロシア文学は日本で広く読まれてきたし、音楽やバレエ、絵画なども親近感をもって受け入れられてきた。このコースでは、文学をはじめ、あらゆる角度からロシア文化の分子を紹介したいと思う。

<各回毎の授業内容>

1. 日本とロシア伝統文化タイプの共通点・相違点について（その1）
2. 日本とロシア伝統文化タイプの共通点・相違点について（その2）
3. 現代ロシアの市民生活(1)
4. 現代ロシアの市民生活(2)
5. ロシアの社会生活と文化（教材ビデオ1）
6. ロシアの社会生活と文化（教材ビデオ2）
7. 帝政ロシア-ソ連-現代ロシア 民族と宗教の多様性(1)
8. 帝政ロシア-ソ連-現代ロシア 民族と宗教の多様性(2)
9. ロシアの祭り その歴史・現状・社会的な意味（その1）
10. ロシアの祭り その歴史・現状・社会的な意味（その2）
11. 外国人の目を見たロシア-ミハルコフ監督の映画「シベリアの理髪師」(1)
12. 外国人の目を見たロシア-ミハルコフ監督の映画「シベリアの理髪師」(2)
13. ロシアの音楽文化
14. 音楽の都市サンクト・ペテルブルグ（教材ビデオ）
15. 演劇の歴史と現状
16. まとめ

<成績評価方法>

教材ビデオを利用するたびに小レポートを書いてもらう。学期末にコースの内容をまとめた最終的レポートを書いてもらう。出席率とレポート提出により成績評価をする。

<教科書・参考文献>

使用テキストなし、毎回プリントを配布する。

参考書

- ロシア 原卓也監修、新潮社、1997.
- ロシア 目で見る世界の国々 68 国土社 2004
- ロシア その民族とところ 川端香男里著 悠思社 1991

<受講に当たっての留意事項>

講義出席率は66%以上でなければならない。レポート総数の79%以上提出する必要がある。  
講義を休んだ者は配布されたプリント・資料などを自己責任でそろえること。

<学習到達目標>

現代ロシア社会と文化の基礎知識を身につけ、異文化理解を深めること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	2年	中国文化論	2	後	小林元裕 (情報文化)
21年度以前	専 門					

選択必修

**<授業目的>**

中国の首都北京は2008年のオリンピック開催によってその街並みを大きく近代化させた。また中国第二の都市上海は従来から持っていた都市の近代性を2010年の上海万博によってさらに拡大させた。世界第2位の経済大国となった中国は、目覚ましい経済発展を続けるなかで伝統的な文化をどう受け継ぎ、どう発展させていくのだろうか。中国文化の現在を様々な観点から考察する。

**<各回毎の授業内容>**

1. はじめに－中国とは何か、中国文化とは何か
2. 中国文化を考える4つの視点
3. 中国文化の歴史的背景1－前近代の東アジア世界と冊封体制
4. 中国文化の歴史的背景2－「中華民族」の創出
5. 中国文化の歴史的背景3－抗日戦争から内戦へ
6. 中国文化の歴史的背景4－権力闘争から社会主義市場経済へ
7. 民族の視点1－民族・言語・宗教
8. 民族の視点2－漢族の文化・少数民族の文化
9. 政治・経済の視点1－変容する伝統文化
10. 政治・経済の視点2－「京劇」から考える文化と政治
11. 都市と農村の視点1－都市（北京）の文化
12. 都市と農村の視点2－中国映画から考える伝統文化(1)
13. 都市と農村の視点3－中国映画から考える伝統文化(2)
14. 地域の視点1－食の文化(1)
15. 地域の視点2－食の文化(2)
16. 試験

**<成績評価方法>**

学期末の試験および授業中の課題（コメント・感想文）によって評価する。3分の2以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

**<教科書・参考文献>**

その都度プリントを配布する。

参考文献:岸本美緒『中国社会の歴史的展開』放送大学教育振興会 (2600円+税)

竹内実『中国という世界』岩波新書 (780円+税)

**<受講に当たっての留意事項>**

必ず1週間の新聞報道（中国関係）に目を通したうえで授業に出席すること。

**<学習到達目標>**

中国文化の多様性に興味を持ち、文化に対する理解を深める。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	韓国朝鮮文化論	2	後	申 銀珠（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

この授業は、韓国朝鮮の文化及び社会全般について基本的な理解を深めることを目的とする。衣食住などの生活文化、歴史、社会制度、文学、大衆文化などを幅広く取り上げ、多角的に検討する。さらにそれぞれの変貌及び日本との関連など、<比べる>ことを視野に入れて、学習者自らが<今><自分>の視点から韓国朝鮮人とその社会を理解するようにしたい。

<各回毎の授業内容>

1. 韓国・朝鮮文化の基礎知識
2. 風土と生活:衣・食・住の生活文化の日韓比較
3. 現在の韓国人の生活
3. 年中行事と通過儀礼:生活規範としての儒教、<昔>と<今>
4. 韓国の料理:宮中料理（『チャングムの誓い』）
5. 家族制度:戸主制廃止と新しい家族関係登録簿
6. 族譜と創氏改名:身分社会、その変貌（映画:『族譜』①）
7. 映画:『族譜』②
8. 伝統舞踊と仮面劇:韓国人の情緒、風刺と諧謔の精神『王の男』
9. パンソリの世界:映画『風の丘を越えて』
10. 韓国古典文学の理解:映画『春香伝』
11. 陶磁器にみる韓国人の美意識:洗練さと素朴さ（『高麗人のこころ—青磁』）
12. 日本人と朝鮮（柳宗悦と浅川巧）
13. 韓国の神話・民話・民画
14. 「民画」の世界
15. 韓国近現代文学の理解

<成績評価方法>

出席20%、レポート80%（感想文、小テスト、最終レポート）

<教科書・参考文献>

毎回プリントを配布する。ビデオ、写真集などを副教材として使う。

<受講に当たっての留意事項>

適当な教材がないため、毎回かなりの量のプリントを配布する。欠席した者は自己責任で資料をそろえること。

<学習到達目標>

日韓文化の「比較」を通して、韓国朝鮮文化を幅広く理解し異文化理解の大切さを知ること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	日本経済史	2	後	藤井隆至
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

明治維新时期から高度成長期までを対象にするが、日本社会の市場経済化は江戸時代から本格的にはじまっているので、江戸時代の日本経済についても簡単に言及する。日本経済の展開過程を概観し、特徴と課題を時代ごとに整理する。

そのさい、日本史についての基礎知識はすでに有していると思うので、この授業では、日本経済のダイナミズムを理解するために、歴史の大きな流れを把握することを目的とする。

<各回毎の授業内容>

1. 江戸時代の日本経済(1)
2. 江戸時代の日本経済(2)
3. 明治維新时期の経済改革(1)
4. 明治維新时期の経済改革(2)
5. 殖産興業政策
6. 日清戦争期の日本経済
7. 日露戦争期の日本経済
8. 財閥と地主制
9. 日露戦争後の日本経済
10. 第一次大戦期の日本経済
11. 1920年代の日本経済
12. 1930年代の日本経済
13. 戦時経済
14. 戦後復興期の日本経済
15. 高度成長期の日本経済
16. 定期試験

<成績評価方法>

レポートと定期試験の成績を総合的に評価する。

<教科書・参考文献>

なし。

<受講に当たっての留意事項>

毎回授業の終わりに復習レポートを課す。

<学習到達目標>

日本経済の展開過程を大きく把握することが目標。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	東南アジア文化論	2	後	木佐木哲朗
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

東南アジア地域の、自然・歴史・政治・経済・社会・宗教などと文化の関連を、諸側面から多面的に分析し、それら諸側面の関連性や地域の特性と問題点を探ります。東南アジア地域あるいは東南アジア世界とはどのような文化的特色をもつもののでしょうか。つまり、単なる地理的区分ではなくて、多様であるがある種の共通項ないし紐帯で結び付けられた、ひとつの個性的な「東南アジア」の文化論にせまりたいと思います。また、日本を含む「東アジア」との比較検討もおこないます。

<各回毎の授業内容>

- 1、グローバリズムと地域研究の意義
- 2、地理的かつ社会的空間としての東南アジア地域
- 3、自然環境と人々の原点
- 4、生業の変遷と稲作の重要性
- 5、稲作を媒介とした自然と人間の関係
- 6、多様な民族とその移動を主体とした歴史
- 7、固有文化と外来文化の重層性
- 8、歴史の非連続性と国家の意味
- 9、社会の双系制原理と間柄の論理
- 10、移動性と定着性・蓄積化と簡素化・畏怖神と守護神
- 11、社会変容と多様な価値体系
- 12、学校教育と世俗教育や宗教教育
- 13、近代の意味や統合のあり方
- 14、多民族国家のかかえる諸問題
- 15、まとめ
- 16、定期試験

<成績評価方法>

出席状況等（30％）と定期試験等（70％）

<教科書・参考文献>

教科書は指定せず、適宜プリントを配布したり参考図書を紹介します。

<受講に当たっての留意事項>

授業中私語等は厳禁です。

<学習到達目標>

他者を知り自己を認識して相互理解・交流の必要性に気付いてもらいたいと思います。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	現代ヨーロッパ論	2	後	臼井陽一郎（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

第二次大戦後、ヨーロッパは恒久平和の誓いのもと、地域統合の理想へと歩みを進めていった。それはやがて、EU・欧州連合の誕生という高みへ到達する。時あたかも米ソ冷戦構造崩壊の轟音響き渡る、まさに歴史的転換のときであった。世界の政治と経済に与えたインパクトは計り知れない。ただし、EUという巨大で複雑な機構を創り進化させることだけが、ヨーロッパ統合の意味ではない。ヨーロッパ統合の過程では、ドイツとフランスの、西ヨーロッパと東ヨーロッパの、そしてバルカン半島の、和解へ向けた果てしのない努力が、曲がりなりにも積み上げられてきた。ヨーロッパ統合とはこの意味において、和解のプロジェクトであると理解することができる。もちろん画に描いた餅、ただのキレイごと、非現実的な夢想といった部分、決して少なくない。そもそも統合を進めること自体、統合の根本目的を阻害してしまうという皮肉な事態も生じてしまった。この講義では、こうしたヨーロッパ統合の理念と現実と迫っていく。

#### <各回毎の授業内容>

- 第1回：授業のねらい——<現代>とはいつからか？ <ヨーロッパ>とはどこまでか？
- 第2回：ヨーロッパ統合の意味——統合とは何を意味するのか？ EUリスボン条約の前文より
- 第3回：ヨーロッパ統合の背景——ドイツ問題と米ソの冷戦
- 第4回：ヨーロッパ統合の概史——三つの共同体からEUの設立へ
- 第5回：ヨーロッパの国際組織①——欧州審議会（CE）・統合理念の確立
- 第6回：ヨーロッパの国際組織②——北大西洋条約機構（NATO）・統合の軍事的条件
- 第7回：ヨーロッパの国際組織③——全欧安保協力機構（OSCE）・広域欧州の信頼醸成装置
- 第8回：ヨーロッパ統合史・40年代～70年代——西欧統合の発展と限界
- 第9回：ヨーロッパ統合史・80年代～90年代——ワンマネー・ワンマーケットへ
- 第10回：ヨーロッパ統合史・2000年代以降——東方拡大の成功と憲法条約の挫折
- 第11回：東西ドイツの統一——ヨーロッパ統合へのインパクト
- 第12回：東欧革命——東西ヨーロッパの和解へ
- 第13回：ユーゴ内戦——西バルカンの和解へ
- 第14回：ユーロ危機の行方——通貨統合の崩壊か？ 財政統合の進展か？
- 第15回：統合ヨーロッパの理念——さまざまなヨーロッパ像
- 第16回：定期試験

#### <成績評価方法>

学期末試験100%。

#### <教科書・参考文献>

授業中に指示する。

#### <受講に当たっての留意事項>

ノートをしっかり取って、試験前にきちんと復習することが大切。授業を通じて最新のヨーロッパ情勢を紹介していくので、ニュースのフォローも確実に。

#### <学習到達目標>

ヨーロッパ統合について基本的なことがらに習熟して、新聞・雑誌の現代ヨーロッパ関連の記事を読んで理解できるようになること。また東アジアの現在と比較する視点を手に入れること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2 年	AdovancedCEP2	2	後	M.Ruddick, P.Dickinson
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

CEPは英語を楽しく集中的に学習するプログラムです。CEPで積極的に取り組んだ学生は、そのほとんどが学年末には自信を持って英語を話すことができるようになっていきます。CEPでは、国際英語を教えます。英語を自分のことばにして、日本人としてのみなさんの視点から話しましょう。CEPでは、みなさんが英語を話したくなるような、楽しいクラスを目指します。

**<各回毎の授業内容>**

このクラスの受講を希望する学生には、全員プレイズメント・テストを受けてもらいます。テストの結果が一定の基準に達しない場合は、受講が許可されません。受講が許可された学生は、テストの結果によって、レベル別クラスが編成されます。Aクラスが最も難しく、Dクラスが基礎レベルです。しかし、このレベルの違いはみなさんの成績に影響しません。例えば、Dクラスだからという理由で悪い成績をとったり、Aクラスだからといって他のクラスの人より自動的に良い成績を修めるといったことはありません。レベル別にするのは、学習内容が簡単過ぎたり難し過ぎたりすることを避けるためです。適切なレベルから始めることで、学習効果が上がります。CEPで英語の力がつけば更に高度なクラスへ、また、あまり上達しないようなら基礎的なクラスに移動することも可能です。CEPでは毎回の出席と授業への積極的な取組みが要求されます。遅刻はしないこと。欠席時数（届出があり、やむをえないと認められた欠席を除く）が30%を超えると不合格となります。CEPには、スピーキング・リスニングの授業があります。リスニングとスピーキングのテストは3週間に1回あります。

**<成績評価方法>**

みなさんの成績は、テスト、宿題、授業活動への積極的な取組みなどから総合的に判定されます。


**<教科書・参考文献>**

Materials Created by CEP Instructors.

**<受講に当たっての留意事項>**

以下は基本的なルールです。必ず守ってください。授業中は英語で話すこと。教員に質問されたときにその意味や答えがわからなければ、まず教員の方を向いて、教員に直接そう伝えること。（すぐに友達に聞いたりしない。）ほとんどの問題は教師と良い関係を築いていく中で解決できるものです。授業中や空き時間に遠慮なく話してください。

# 3年文化専門科目（後期）



ロシア語 5  
中国語 5  
韓国語 5  
アメリカ英語 5  
地方自治論  
東アジア関係論  
現代イスラーム論  
南北問題  
国際経済法  
NGO論  
環日本海交流論  
地域統合論  
外国語文献講読 2



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	ロシア語5 A		後	A プラーソル（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

ロシア語1・2・3・4基礎文法の導入に引き続き、基本的な知識を整理し、発展させながらロシア語の運用能力を高めることを目的とする。特に語彙力、文法知識を体系的に整理することを目標とする。「話す」「聞き分ける」能力を身に付けるための訓練には十分な時間を割く。

<各回毎の授業内容>

- 1・2 講義のガイダンス、テキストの第37課
- 3・4 テキストの第39課
- 5・6 テキストの第40課
- 7・8 テキストの第41課
- 10・11 テキストの第42課
- 12・13 テキストの第43課
- 14・15 テキストの第44課
- 16 期末試験

<成績評価方法>

出席率と期末試験の結果によって成績を評価する。

<教科書・参考文献>

①佐藤純一、新ロシア語入門 NHK出版 ②研究者露和辞典等 ③教員が用意したプリントを配布する。

<受講に当たっての留意事項>

- ①毎回宿題あり ②欠席が3分の1を超えた場合は期末試験の受験を認めない。

<学習到達目標>

教科書の基本例文を完全に習得すること。テキストに説明されている高度な文法を習得し、文章の読解能力を身に付けることを目標とする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	ロシア語5 A・B		後	ライサ プラーソル
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

ロシア語1・2・3・4基礎文法の導入に引き続き、基本的な知識を整理し、発展させながらロシア語の運用能力を高めることを目的とする。文法知識を体系的に整理することを目標とし、特に「話す」「聞き分ける」能力を身に付けるための訓練には十分な時間を割く。テキストだけではなく、ロシア文化の基礎知識を養うために映画やビデオ教材を利用する。

<各回毎の授業内容>

- 1・2 講義のガイダンス、テキストの第39課
- 3・4 テキストの第40課
- 5・6 テキストの第41課
- 7・8 テキストの第42課
- 10・11 テキストの第43課
- 12・13 テキストの第44課
- 14・15 テキストの第45課
- 16 期末試験

<成績評価方法>

出席率と期末試験の結果によって成績を評価する。

<教科書・参考文献>

①佐藤純一、新ロシア語入門 NHK出版 ②研究者露和辞典等 ③教員が用意したプリントを配布する。

<受講に当たっての留意事項>

- ①毎回宿題あり ②欠席が3分の1を超えた場合は期末試験の受験を認めない。

<学習到達目標>

教科書の基本例文を完全に習得すること。テキストに説明されている高度な文法を習得し、文章の読解能力を身に付けることを目標とする。学習者が外国旅行等際に必要に応じて簡単な会話ができることも目標とする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	ロシア語5B		後	水上則子
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

この授業は、ロシア語の文法や語彙の基本的な知識を整理し、発展させながら、ロシア語の運用能力を高めることを目的とする。特に、語彙力をつけ、文法知識を体系的に整理することを目標とする。これまでに身に付けている事柄を確認し、新しい知識を獲得するため、単語・熟語・文法事項の小テストなども適宜行う。

<各回毎の授業内容>

「NHK新ロシア語入門」(佐藤純一著)に基づいて、文法事項の解説と練習、単語や語句の解説と練習を行う。第37課から第43課まで扱う。ただし、ロシア語4終了時点での到達度に応じて前後する場合がある。また、二回の授業につき一課の割合で進めることを予定しているが、受講者の到達度に合わせて調整する場合がある。

- 1 講義のガイダンス 第37課
- 2 第37課
- 3 第38課
- 4 第38課
- 5 第39課
- 6 第39課
- 7 第40課
- 8 第40課
- 9 第41課
- 10 第41課
- 11 第42課
- 12 第42課
- 13 第43課
- 14 第43課
- 15 まとめ
- 16 試験

<成績評価方法>

小テストの成績を40%、定期試験の成績を60%として評価する。小テスト実施時、遅刻や欠席のために受験しなかった場合は、その回は0点となるので留意すること。ただし、交通機関の障害などやむをえない理由による不在と認められる場合は、追試験などの措置をおこなう。

<教科書・参考文献>

「NHK新ロシア語入門」(佐藤純一著) 研究社露和辞典他、必要に応じてプリントを配布する。

<受講に当たっての留意事項>

欠席が3分の1をこえた場合は期末試験の受験を認めない。

<学習到達目標>

学んだ語彙・表現・構文を活用して、ある程度複雑な内容のロシア語の文章を作ることができる。未知の語彙と複雑な構文を含む一定の長さのロシア語の文章を読解できる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	中国語 5 A		後	小林元裕（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

3年前期までに学んだレベルをさらに深め、中級レベルの中国語を自由に駆使できるようにする。中国語の学習を通じて中国文化（中国人の考え方、習慣、生活）への理解を深める。

<各回毎の授業内容>

中国語 4 A で使用したテキスト（張継濱・小川文昭『中国ってどんな国？』）を引き続き使用する。

1. はじめに
2. 考碗族(1)
3. 考碗族(2)
4. 保姆(1)
5. 保姆(2)
6. 中国語検定対策－過去問題の分析及び問題練習(1)
7. 中国語検定対策－過去問題の分析及び問題練習(2)
8. 民以食为天(1)
9. 民以食为天(2)
10. "80后"与"养儿防老"(1)
11. "80后"与"养儿防老"(2)
12. 养老危机(1)
13. 养老危机(2)
14. 公益活动在中国(1)
15. 公益活动在中国(2)
16. 試験

<成績評価方法>

授業中に行う小テスト及び定期試験によって評価する。3分の2以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

<教科書・参考文献>

孟広学・本間史『変化する中国』白水社（2100円＋税）を予定しているが、変更する場合がありますので、掲示等をよく確認すること。

<受講に当たっての留意事項>

中日辞典を必ず携帯すること。

<学習到達目標>

上記授業目的の達成及び「読む」「聞く」「話す」のバランスのとれた語学力の習得を目指す。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	中国語5A		後	朱 継征
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

この授業は中国語の聴解力、会話力、読解力、作文力などの総合的運用能力を高め、中国語検定試験3級合格を目指します。

中国語と日本語の異同についての説明及び通訳、翻訳の訓練においても、日本語の使用を最小限にしますが、単語、本文と文法の説明及び討論会、発表会と授業での指示を基本的に中国語で行います。

<各回毎の授業内容>

1. "是～的"構文
2. 二重目的語
3. 存在文
4. 所在文
5. 連動文
6. 従属節
7. 連体修飾
8. 連用修飾
9. 将然相
10. 起動相
11. 進行相
12. 完了相
13. 残存相
14. 持続相
15. 総合練習（中国語検定試験、TECCとHSKについて）

<成績評価方法>

平常点と期末試験によって判定。平常点（小テスト、発表会、宿題）40%、期末試験60%。  
5回以上無断欠席した者は失格。

<教科書・参考文献>

教科書：授業中に指示します。

参考書：『講談社 中日辞典』相原茂編集 2002年（第二版）

『講談社 日中辞典』相原茂編集 2006年（初版）

<受講に当たっての留意事項>

毎回必ず予習して出席すること。積極的に質問すること。大きな声で返事すること。宿題をちゃんとやること。

<学習到達目標>

中国語の総合的運用能力を高め、中国語検定試験4～3級合格、HSK（漢語水平考試）3～4級合格を目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3 年	中国語 5 B		後	小林元裕（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

日常で実際によく使う中国語の言い回しを何度も練習することで中国語に対する苦手意識を克服する。また問題練習を通じて中国語検定3級の合格を目指す。

<各回毎の授業内容>

中国語 4 B で使用したテキスト（崎原麗霞『ひとめぼれ中国語』）を引き続き使用する。

1. はじめに－「中国語 4 B」の復習
2. 近在眼前(1)
3. 近在眼前(2)
4. 网虫(1)
5. 网虫(2)
6. 老鼠和大米(1)
7. 老鼠和大米(2)
8. 中国語検定対策－過去問題の分析及び問題練習(1)
9. 中国語検定対策－過去問題の分析及び問題練習(2)
10. 中国語検定対策－過去問題の分析及び問題練習(3)
11. 天天向上(1)
12. 天天向上(2)
13. 一目了然(1)
14. 一目了然(2)
15. まとめ
16. 試験

<成績評価方法>

授業中に行う確認テスト及び定期試験によって評価する。3分の2以上出席しないと定期試験が受けられないので注意すること。

<教科書・参考文献>

遠藤光暁監修『リアルタッチ中国』朝日出版社（2300円＋税）

<受講に当たっての留意事項>

中日辞典を必ず携帯すること。

<学習到達目標>

中国語の学習を通して、単に語学だけでなく、言葉の背景にある中国文化に触れ、理解する。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	3年	中国語5B		後	寺沢俊一
21年度以前	専 門					

選択必修

**<授業目的>**

「聞く・話す・読む・書く」の能力をバランスよく伸ばすことを目的とする。話し言葉と書き言葉の違いについても学習する。さらに中国語の教材を通じて中国社会への理解をより深める。

**<各回毎の授業内容>**

- 1～3 「ボーリング」
- 4～6 「朝食」
- 7～8 「滋養強壯品」
- 9～10 「アルバイト」
- 11～12 「工場見学」
- 13～15 「パソコン」 その他にテキスト付属の文法練習問題を学習する

**<成績評価方法>**

出席および発音の正確さ、流暢さを重視する。出席が2/3以上の者に定期試験を受ける資格を与える。成績評価はレポート、小テスト、出席率、定期試験の結果を総合的に判断する。

**<教科書・参考文献>**

教科書:『会話と文章で学ぶ中級中国語』顧春芳・荆明月著 白帝社 (1800円+税)

参考文献:講義中に紹介する。

**<受講に当たっての留意事項>**

必ず予習をすること。予習をする際には声を出して読むこと。テキスト本文の内容について中国語で質疑応答するので、学んだ中国語文は繰り返し朗読をして暗誦すること。

**<学習到達目標>**

会話表現だけでなく、書き言葉による表現についても理解を深める。また既習の文法事項を総復習して中国語各種検定試験にも対応できるようにしたい。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	韓国語 5 A		後	申 銀珠（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

今までより高度な文法や語彙、多様な表現を学習し、コミュニケーション能力を向上する。授業では教科書の語彙や文法項目を重点的に取り扱い、なるべく学んだことを実際に使用する練習を行うことにする。会話だけでなく、読解力・作文力を向上させるため、教科書以外の課題として新聞社説の日本語訳の他、韓国語で日記・エッセーなどを書いてもらい、個々のレベルに合う学習を並行する。

<各回毎の授業内容>

1. 제 4 과 환불
2. 제 4 과 환불
3. 제 4 과 환불
4. 제 4 과 환불
5. 제 4 과 환불
6. 제 5 과 날씨와 생활
7. 제 5 과 날씨와 생활
8. 제 5 과 날씨와 생활
9. 제 5 과 날씨와 생활
10. 제 5 과 날씨와 생활
11. 제 6 과 여행
12. 제 6 과 여행
13. 제 6 과 여행
14. 제 6 과 여행
15. 제 6 과 여행

<成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与え、成績は試験結果で評価。課題、小テストを成績評価に加える。

<教科書・参考文献>

『韓国語中級Ⅰ』（国際教育院韓国語教育部、慶熙大学校出版局）

<受講に当たっての留意事項>

予習と復習をしっかりとくること。授業はペアワークやグループ活動が多いので、学生たちの積極的な態度が求められる。

<学習到達目標>

中級レベルの読み書き・会話ができるようにしたい。「韓国能力試験」4級・「ハングル能力検定試験」準2級合格を目標とする。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	韓国語5 A		後	金世朗
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

外国語を学ぶということはその国の文化や社会についても学ぶことです。この授業では今まで学習してきた韓国語の知識を活かし、韓国の文化や社会に関するさまざまなテーマの資料を読んで、それについて考え、(日本のそれと比較しながら) 意見を交わすことによって韓国語のさらなる上達を目的とします。

<各回毎の授業内容>

1. 韓国人の余暇の過ごし方
2. 韓国人の余暇の過ごし方
3. 韓国人の余暇の過ごし方
4. まとめ
5. 韓国人の一生と記念イベント
6. 韓国人の一生と記念イベント
7. 韓国人の一生と記念イベント
8. まとめ
9. 韓国人の姓名
10. 韓国人の姓名
11. 韓国人の姓名
12. まとめ
13. 韓国の少子化と高齢化問題
14. 韓国の少子化と高齢化問題
15. 韓国の少子化と高齢化問題
16. 定期試験

<成績評価方法>

授業態度（発言など）、課題、個人発表、定期試験（+小テスト）

<教科書・参考文献>

教科書は使用せず、授業中に資料を配布します。

<受講に当たっての留意事項>

学生が中心になって行われる授業です。授業中は積極的な態度が求められます。

<学習到達目標>

授業でやっていることを理解し、自分の考えていることを韓国語で十分に表現できるようになることです。また、授業を通してそれが自分の国の文化や社会についても考える機会になってほしいです。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	韓国語5B		後	金世朗
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

韓国語1～4にひきつづき、より多様な語彙や表現を身につけていきます。教科書に基づき、読む・書く・聞く・話す練習を繰り返し、各課の最後は具体的な場面を設定し、学生達にロールプレイ（役割演技）してもらってまとめます。

<各回毎の授業内容>

1. 제 7 과 곧 비가 오겠어요.
2. 제 7 과 곧 비가 오겠어요.
3. 제 7 과 곧 비가 오겠어요.
4. 제 8 과 수영을 좋아하지만 잘하지 못해요.
5. 제 8 과 수영을 좋아하지만 잘하지 못해요.
6. 제 8 과 수영을 좋아하지만 잘하지 못해요.
7. 제 9 과 제주도에 가 봤어요?
8. 제 9 과 제주도에 가 봤어요?
9. 제 9 과 제주도에 가 봤어요?
10. 제 10 과 저희 아버지 생신입니다.
11. 제 10 과 저희 아버지 생신입니다.
12. 제 10 과 저희 아버지 생신입니다.
13. 제 11 과 어른들께서는 건강식품을 좋아하시니까 인삼을 선물하세요.
14. 제 11 과 어른들께서는 건강식품을 좋아하시니까 인삼을 선물하세요.
15. 제 11 과 어른들께서는 건강식품을 좋아하시니까 인삼을 선물하세요.
16. 定期試験

<成績評価方法>

出席が2/3以上の者に受験資格を与えます。成績は小テスト、課題、定期試験の結果から評価します。

<教科書・参考文献>

『아름다운 한국어 1-3』(韓国語教育開発研究院, ソウル)

<受講に当たっての留意事項>

学生が中心になって行われる授業です。授業中は積極的な態度が求められます。

<学習到達目標>

日常的な場面で話される韓国語を理解し、自分でも表現できる能力を養うことが目標です。また、授業を通して韓国の社会や文化を接し、広い世界観が持てる機会になればいいと思います。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	3年	韓国語 5 B		後	朴 修 禧
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

韓国語 1～4 で学習した基本語彙、基礎文法をもとに、連語、語句などを加え、自然な会話ができるように多様な文型練習、発話練習を行う。授業中、具体的な場面を設定し、学習者にスキットを演じてもらう。基本の韓国語を習得しながら 韓国の文化に自然に触れることによって、韓国を理解することと同時に、国際人としての資質を整えることを目的とする。

<各回毎の授業内容>

1. 제 7 과 곧 비가 오겠어요.
2. 제 7 과 곧 비가 오겠어요.
3. 제 7 과 곧 비가 오겠어요.
4. 제 7 과 곧 비가 오겠어요.
5. <復習>
6. 제 8 과 수영을 좋아하지만 잘하지 못해요.
7. 제 8 과 수영을 좋아하지만 잘하지 못해요.
8. 제 8 과 수영을 좋아하지만 잘하지 못해요.
9. 제 8 과 수영을 좋아하지만 잘하지 못해요.
10. <復習>
11. 제 9 과 제주도 에 가 봤어요?
12. 제 9 과 제주도 에 가 봤어요?
13. 제 9 과 제주도 에 가 봤어요?
14. 제 9 과 제주도 에 가 봤어요?
15. <復習>
16. 期末試験

<成績評価方法>

期末試験 (70%) 課題 (20%) 出欠 (10%)

<教科書・参考文献>

『아름다운 한국어 1-3』(韓国語教育開発研究員、아름다운 한국어 학교)

<受講に当たっての留意事項>

1. 一つの言葉を覚えるだけでなく、隣の国と人を理解しようとする開いた心を構えること。
2. ただ受け入れるのではなく、自分で何かを積極的に探ろうとする姿勢を取ること。
3. 母国語以外の言葉を覚えることは、人生を広げることであることを忘れないこと。

<学習到達目標>

韓国語の初・中級レベルの会話力・文章力を身につける。韓国語学習を通して現代韓国社会及び韓国文化についての理解を深める。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	アメリカ英語5A・B		後	矢口裕子（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択必修

#### <授業目的>

生きた英語を学ぶのに、映画が格好の素材を提供してくれることは異論のないところだろう。登場人物の設定によって、方言、スラング、時に訛りを含む多種多様な英語が話される口語英語の宝庫であることはもちろんだが、一流の劇作家を含む脚本家によって練り上げられテキストは、文学的な価値も持っている。また、硬軟さまざまなテーマの背景にある歴史・文化を学ぶ良い教科書ともなってくれる。

この授業では、90年代にロサンゼルスで起きたいわゆる「ロス暴動」を時代背景として、ある高校の新人教師と生徒たちが自らの体験を著してベストセラーとなったThe Freedom Writers' Diaryの映画化作品を素材としたテキストを取りあげる。クラスのなかで白人は1人のみ、後はアフリカ系、アジア系、ラテンアメリカ系の、困難な家庭環境・生育歴を持つ生徒たちがぶつかり合い、教師の情熱に励まされ学ぶことに目覚めていく過程を描くとともに、アメリカの人種問題の根深さ複雑さを改めて考えさせる作品である。

#### <各回毎の授業内容>

1. イントロダクション
- 2-3. 作品鑑賞
4. Unit 1 人種間の対立
5. Unit 2 国語の教師
6. Unit 3 縄張り
7. Unit 4 国境線
8. Unit 5 知らないのに？
9. Unit 6 ライン・ゲーム
10. Unit 7 戦争
11. Unit 8 許可
12. Unit 9 寛容の博物館
13. Unit 10 ここがぼくの家
14. Unit 11 アンネの日記
15. 復習・まとめ

#### <成績評価方法>

授業への準備、貢献、期末試験/レポートの成績等を総合的に評価する。

#### <教科書・参考文献>

『フリーダム・ライターズ』（鶴見書店）

#### <受講に当たっての留意事項>

テキストはScriptとExerciseからなる。どちらも全員が予習してくることを前提として授業を進める。Scriptとはト書きも含む脚本で、俳優・映画製作者はこれをもとに映画を創りあげる。皆さんも役者になったつもりで台詞を読み、かつ日本語に訳し、文法的質問にも答えられるよう準備をしてきてほしい。予習しないで授業に臨むことは、教員のみならず他の学生にとっても迷惑となるのでくれぐれも謹んでほしい。

#### <学習到達目標>

総合的英語力の修得、英語表現の背後にある文化・思想・時代を探ること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	アメリカ英語5A・B		後	デロシェ ジェラルド
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

This course is designed to introduce to the students the world through Academic listening. Each chapter contains interesting topics for the students to master listening in English.

<各回毎の授業内容>

Week 1- Introduction to class description and preparation for Vocabulary homework assignment  
 Week 2- Napoleon from school boy to Emperor  
 Week 3- Napoleon continue  
 Week 4- Pompeii destroyed, forgotten and found  
 Week 5- Pompeii continue  
 Week 6- A Tidal Wave  
 Week 7- Tidal Wave continue  
 Week 8- Lincoln and Kennedy similar destinies  
 Week 9- Lincoln and Kennedy continue  
 Week 10- Lincoln and Kennedy continue  
 Week 11- Dinosaurs why they disappeared  
 Week 12- Dinosaurs continue  
 Week 13- The American Civil war why it happened  
 Week 14- Civil war continue  
 Week 15- Asian and African Elephants  
 Week 16- Asian and African Elephants continue

<成績評価方法>

Bi weekly Vocabulary assignment 50%  
 Class participation and attendance 50%

<教科書・参考文献>

Prints will be provided

<受講に当たっての留意事項>

The students who participate and come to class will be very successful.

<学習到達目標>

To enable the students to enjoy English and encourage them to speak freely and with confidence.

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	地方自治論	2	後	馬場 健
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

地方と中央との関係に対立とみるか相互依存と見るかという議論がある。学説の問題はさておき、自治体（都道府県、市町村）の首長もメディアもこぞって中央が地方を強力に統制してきたと非難し、地方に対して今まで以上の権限の付与（権限移譲）を要求する。他方で、多くの自治体は、地方税を中心とした自前の収入では自分たちの支出を賄うことができず、中央からの財政移転（富裕な自治体から国を介してもたらされる移転財源）に頼っている。

さて、本講義ではこのような対立か相互依存かという単純な二分法にはよらず、日本における地方自治の歴史、現行制度、現在の課題について概説することを目的とする。

**<各回毎の授業内容>**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 地方自治の歴史1（明治から第二次世界大戦まで:第1章）
- 第3回 地方自治の歴史2（戦後:第1章）
- 第4回 住民（第3章）
- 第5回 地方制度（自治を支える構造か、統治を支える構造か:第9章）
- 第6回 自治体を束ねる長（第5章）
- 第7回 自治体を束ねる議会（第5章）
- 第8回 自治体の運営を担う公務員（第6章）
- 第9回 自治体をめぐる主体間をどう繋ぐのか（第2章、第4章）
- 第10回 自治を支えるために必要な財政（第7章）
- 第11回 地域の問題を解決する手法1（枠組み:第8章）
- 第12回 地域の問題を解決する手法2（担い手の変化:第10章）
- 第13回 地域の問題は解決されたのか（第12章）
- 第14回 今、都市と農村で何がおきているのか（おわりに）
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

**<成績評価方法>**

期末試験

**<教科書・参考文献>**

教科書：今川晃・馬場健編著『市民のための地方自治入門 新訂版』（実務教育出版、2009年）

**<受講に当たっての留意事項>**

必ず全国紙に目を通してから授業に出席すること。その内容について受講生に問う場合がある。

**<学習到達目標>**

現在の日本の地方自治制度に関する基本的事項（例えば、2層制、専決処分、経常収支比率、指定管理者等）について説明できる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	東アジア関係論	2	後	佐々木寛（情報文化）
21年度以前	専 門					

#### 選択

##### <授業目的>

本科目は、「環日本海交流論」とともに、東アジアの各国地域・歴史研究を横断的に理解する知的枠組みを模索する。「環日本海交流論」が<海>をめぐる自治体や市民の交流史に重きを置くとすれば、「東アジア関係論」では、東アジア国際政治史などのより高次元次元をも含むより包括的な視点に基づく。概して、「東アジア」の歴史は、暴力とディスコミュニケーションに彩られた不幸なものであったといえるかもしれないが、近年、主に経済分野で多くの協力関係が模索され、「東アジア共同体」構想も浮上してきた。歴史認識問題や冷戦期米国の東アジア政策、核問題など、「東アジア」に根雪のように残る障害をしっかりと見つめると同時に、新たな地域主義や地域協力の胎動も確実にききとげたい。本講の最終的な目的は、「東アジア<共生>の条件」がどこにあるのかを探ることにある。揺れ動く東アジア情勢の中で、一人の市民としてそれをどう理解し、行動するべきなのか、具体的な素材を通じ考えたい。

##### <各回毎の授業内容>

新鮮な題材を多く取り入れたいため細目は限定しないが、以下の内容には触れる予定である。

1. 「東アジア」とは何か —— 歴史編 [1回]
2. 「東アジア」とは何か —— 理論編 [1回]
3. 歴史認識問題と「東アジア」 [2回]
4. 分断国家と「東アジア」 [2回]
5. アメリカと「東アジア」 [2回]
6. リスク共同体としての「東アジア」 [1回]
7. エネルギー問題と「東アジア」 [1回]
8. 経済共同体としての「東アジア」 [1回]
9. 「東アジア」共生のために [3回]

※+1回分は、資料映像の鑑賞に充てる。

##### <成績評価方法>

しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立てるだけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績によりすべての評価を決定し、出席も重視しないが、このコメントカードの内容は成績に加味する。また、試験は、個別的な知識よりはそれをもとにした思考力（学期中にどれだけ考えたか）を重視した問題を出題する。

##### <教科書・参考文献>

教科書 佐々木寛編『東アジア<共生>の条件』（世織書房）

参考書は、授業中、それぞれのサブテーマに即して随時指定する。必読参考文献の一例として、五十嵐暁郎・佐々木寛・高原明生編『東アジア安全保障の新展開』（明石書店）を挙げておく。

##### <受講に当たっての留意事項>

内容的に高度なものも含むので、知的好奇心が高い学生を望む。ロ・中・韓・米各地域・歴史研究の基礎的な知識が前提となる。「平和学」「国際組織論」をすでに受講していることが望ましい。

##### <学習到達目標>

受講者がそれぞれ、揺れ動く東アジア情勢に多角的な視点を持てるようになること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	現代イスラーム論	2	後	小山田紀子（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

2001年の9・11事件以来「イスラム原理主義」の運動が世界の注目を集めている。なぜイスラームは最近になって復興してきたのか。この授業では、まず第一に、「イスラームとは何か」やイスラーム世界の発展と中東の地域概念などの基礎知識を紹介し、現代イスラーム世界を理解する鍵を提示する。次に中東の中の東アラブ地域（マシュリク）と西アラブ地域（マグリブ）のそれぞれの歴史と現在をたどる。さらには2010年12月におこったチュニジア革命を契機とするアラブ世界の変革の現状についても考える。21世紀の世界の新潮流はイスラームの理解なくしては語れないだろう。グローバル・イシューとしてのイスラームを、中東・北アフリカの現地から考えてみたい。

**<各回毎の授業内容>**

1. 序論
2. イスラームとは何か
3. イスラーム世界の発展      1) 中世イスラーム世界の展開
4.                                      2) イスラームの近代
5. 中東の地域概念
6. マシュリクの歴史と現在    1) エジプトの歴史
7.                                      2) スーダンとサウジアラビア
8.                                      3) イスラエル・パレスチナ問題
9. マグリブの歴史と現在    1) マグリブとは
10.                                     2) フランスの植民地化の歴史
11.                                     3) 民族運動と独立
12.                                     4) 独立後の国家建設
13.                                     5) イスラーム主義運動の高揚
14. チュニジア革命とアラブ世界の変革    1) チュニジア革命
15.                                     2) エジプトの政変と周辺諸国への影響

**<成績評価方法>**

小レポートと定期試験

**<教科書・参考文献>**

教科書 未定

参考書 宮治一雄・宮治美江子編著『マグリブへの招待―北アフリカの社会と文化―』  
大学図書出版、2008年2月  
大塚和夫『イスラーム主義とは何か』岩波新書、2004年  
立山良司『中東』自由国民社、2002年  
宮治一雄『アフリカ現代史Ⅴ. 北アフリカ』山川出版社、2000年  
その他、授業で適宜指示する。

**<受講に当たっての留意事項>**

外部講師を招くので授業をよく聞くこと。

**<学習到達目標>**

メディアによって作られた「イスラム原理主義」のイメージを払拭し、正しいイスラームの知識を獲得して今日の国際社会の問題を見る目を養ってほしい。



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	南北問題	2	後	高橋正樹（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

世界を「不平等」という観点から考察することが、この授業の目的です。日本に住むわたし達は世界では特権的な位置にあります。（とりあえずは）食糧の不足におびえる心配もせず、身の回りはモノで溢れかえっています。他方で日々の食べ物にも事欠く人々がたくさん世界にはいます。また、大学までの教育を受けることができる人は、世界の同世代の中では全体の1%に過ぎません。文字通り、わたし達は特権階級です。それはわたし達が世界の仕組みの中ではかなり有利な位置にある日本社会の一員だからです。

他方で90年代以降、経済的グローバリゼーションの結果、途上国は益々貧富の格差が広がり、日本を含む先進国でも貧富の格差が拡大しています。日本でも日々の生活に苦勞する人々の数が確実に増えています。授業の前半は南北問題に、後半はグローバリゼーションに焦点を合わせて、世界規模での不平等問題に触れていきます。

#### <各回毎の授業内容>

1. 不平等をどう考えるか
2. 植民地主義の構造
- 3～5. 第2次世界大戦後の南北問題をめぐる新たな展開
- 6～9. 南北問題をめぐる諸理論
- 10～13. グローバリゼーションによる現代の世界の不平等構造
- 14～15. 南北問題解決への糸口

#### <成績評価方法>

原則として、全出席が最低条件になります。さらに、レポート・中間テスト・学期末テストによって評価します。

#### <教科書・参考文献>

教科書はありませんが、毎回授業内容をレジュメにまとめて配布します。

##### 参考文献

1988年；ラス・カサス『インディアスの破壊についての簡単な報告』岩波書店、1976年；ヨハン・ガルトゥング『構造的暴力と平和』中央大学出版部、1991年；室井義雄『南北・南南問題』山川出版社、1997年；恒川恵市『従属の経済学』東京大学出版会、1988年；伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か』平凡社、2002年。山田昌弘『希望格差社会』筑摩書房、2004年。

#### <受講に当たっての留意事項>

南の貧困を単なる同情の対象としてではなく、わたし達の社会との関係で考えていきたいと思えます。一緒に考える授業にしたいと思えますので積極的な授業参加を期待します。

#### <学習到達目標>

上記授業目的の達成

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授 業 科 目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	国際経済法	2	後	藤本晃嗣
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

第二次世界大戦後、国際社会のグローバル化の進展とともに経済もグローバル化・国際化の一途をたどってきた。これによって、わたしたちは多くの外国製製品に囲まれ、それらを安価に購入することができるようになり、便利な生活を営めるようになった。このように経済の国際化は、私たちの生活を豊かなものにしてきた半面で、さまざまな新たな問題を発生させてきた。

本授業では、こうした経済の国際化を国際経済法という分野から分析することで、国際社会の問題を考えるきっかけを受講者に提供したいと思う。授業では、第二次世界大戦後に成立した自由貿易体制の沿革を学んだ上で、1995年1月に発足したWTO（世界貿易機関）に関する法と制度を中心に取り扱うことを予定している。

<各回毎の授業内容>

- 1 国際経済とは
- 2 国際経済法と国際公法
- 3 ブレトンウッズ・ガット体制の成立と展開(1)
- 4 ブレトンウッズ・ガット体制の成立と展開(2)
- 5 ブレトンウッズ・ガット体制の成立と展開(3)
- 6 WTO概説(1)－ウルグアイ・ラウンドとWTOの設立
- 7 WTO概説(2)－WTOの構造
- 8 WTO協定の構造－WTO設立協定と4つの附属書
- 9 WTOと紛争解決手続
- 10 WTO体制の基本的規律(1)－最恵国待遇
- 11 WTO体制の基本的規律(2)－最恵国待遇とその例外、FTA
- 12 WTO体制の基本的規律(3)－内国民待遇
- 13 WTO体制における規律の拡大－農業貿易
- 14 WTOと通商救済制度
- 15 まとめ－今後のWTOと日本の貿易政策（EPA、TPP）

<成績評価方法>

原則として試験の成績に基づき評価します。

<教科書・参考文献>

授業ではレジュメ・資料を配布するため、教科書は使用しない。参考文献は、授業中に適宜指示します。

<受講に当たっての留意事項>

授業中、私語をした学生には退席を指示しますので、指示された学生は速やかに退席してください。

<学習到達目標>

WTOに関する法と制度についての基本的な理解を深め、国際経済活動に関する報道や新聞記事を自分の力で分析し、評価する能力を備えられるようになること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	NGO論	2	後	佐々木寛（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

現代社会の様々な局面で、NGO（非政府組織）やNPO（非営利組織）の活動が注目されるようになって久しい。しかし、これを大学の講義などで体系的に論じ、学問的にとらえ直す作業は始まったばかりである。本講義では、これら新たな市民活動のうねりを比較的長い歴史的な観点からとらえ直し、その現代的な意味について考えてみたい。さらに、流動化する世界に呼応して刻々と変化するNGO/NPOの多様な活動の現実をも見据えてみたい。また、これら「自発的結社」の可能性のみならず、実際の活動にともなう構造的・実践的な課題や問題点も明らかにしたい。本講義では、NGO/NPOの諸活動を広く「ボランティア」論や「市民社会」論の文脈に位置づけ、これら市民活動の文明論的な意義についても考察を展開したいと思っている。テーマの性質上、受講者の自発的な参加や招聘講師の講演などにも触発されながら、新しい講義や大学そのもののあり方も探ってみたい。

#### <各回毎の授業内容>

新鮮な題材を多く取り入れたいため細目は限定しないが、以下の内容には触れる予定である。また、反グローバル化運動や環境NGOについての映像資料を多用する他、実際に様々なNGOやNPOで活躍する人を教室に招き、現場の視点から話をしてもらう予定である。

1. NGO/NPOとは何か、その歴史的意味 [2回]
2. NGO/NPOの分類と争点 [1回]
3. グローバル化とNGO/NPO [2回]
4. 国連とNGO [1回]
5. 地方発のNGO [1回]
6. 女性とNGO [1回]
7. 難民問題とNGO [1回]
8. 小火器問題とNGO [1回]
9. 核問題とNGO [1回]
10. アイデンティティ・市民社会・NGO [2回]

※+1回を、資料映像の鑑賞、+1回を招聘講師による講演に充てる。

#### <成績評価方法>

しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立てるだけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績により評価を決定するが、課題として作成してもらう「NGO調査レポート」の内容も大きく加味する（レポート35%、試験65%）。

#### <教科書・参考文献>

共通テキストは、西川潤・佐藤幸男編『NGO/NPOと国際協力』（ミネルヴァ書房）。必読参考文献の一例として、高島通敏編『現代市民政治論』（世織書房）、D.ヘルド『デモクラシーと世界秩序』（N T T出版）、M.ウォルツァー『グローバルな市民社会に向かって』（日本経済評論社）、目加田説子『地雷なき地球へ』（岩波書店）を挙げておく。

#### <受講に当たっての留意事項>

内容的にかなり高度なことも含むので、知的好奇心が旺盛な学生の参加を望む。また、2年次に「平和学」、3年前期に「国際組織論」を受講していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

受講生が将来、社会的企業やボランティアに関わるための基本的な知識や動機を獲得する。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	環日本海交流論	2	後	神長英輔（情報文化）
21年度以前	専 門					

#### 選択

##### <授業目的>

日本列島・中国・朝鮮半島との関係に注目してロシア極東の近現代史を学びます。歴史が現代の私たちの生活にどう関わっているかを考えていきましょう。歴史や社会を理解する方法についても考えていただきます。

##### <各回毎の授業内容>

ロシア極東の歴史を概観します。周辺地域との関係を重視しつつ、近現代を中心に論じます。講義の内容は以下の通りです。

- ・第1回 ガイダンスと「ロシア極東とは その1」
- ・第2回 「ロシア極東とは その2」
- ・第3回 「ロシア極東の歴史 前近代」
- ・第4回 「ロシア極東の歴史 日露戦争 その1」
- ・第5回 「ロシア極東の歴史 日露戦争 その2」
- ・第6回 「ロシア極東の歴史 シベリア出兵」
- ・第7回 「ロシア極東の歴史 第2次世界大戦」
- ・第8回 「ロシア極東の歴史 北洋漁業を考える」
- ・第9回 「ロシア極東の歴史 捕鯨業からみる北東アジアの歴史」
- ・第10回 「ロシア極東の歴史 コンブからみる北東アジアの歴史」
- ・第11回 「ロシア極東の歴史 中国・朝鮮・日本人の歴史 その1」
- ・第12回 「ロシア極東の歴史 中国・朝鮮・日本人の歴史 その2」
- ・第13回 「ロシア極東の歴史 先住民の歴史 その1」
- ・第14回 「ロシア極東の歴史 先住民の歴史 その2」
- ・第15回（予備回）

以上は予定です。細目は随時変更します。順番が変わることもあります。

随時、私がテーマを設定した上で数人単位のグループワークをおこない、その場で口頭の発表をしていただきます。グループ分けは名簿をもとに不作為におこないます。

また、課題として毎回の授業回の最後にその日の講義の要旨（200から400字程度）を5分程度で書き、提出していただきます（返却しません）。これを提出しない場合は欠席（ないし早退）扱いにします。

##### <成績評価方法>

出席回数、上記の授業内容要旨の提出、グループワークにおける積極性、学期末のペーパーをもとに総合的に判断します（予定）。

##### <教科書・参考文献>

常時使う教科書はありません。資料は必要に応じて配布します。

参考文献としては地図帳（ロシア極東、朝鮮半島、中国東北部、日本列島が記載されているもの。中学や高校で使用していたものでよい）を毎回必ず持参してください。不明点があれば、授業中に質問するほか、『ロシアを知る事典』（平凡社）で随時確認してください。

東洋書店から出版されているユーラシア・ブックレットシリーズ（図書館にあります）のうち、自分で興味のあるものを読み進めてください。

##### <受講に当たっての留意事項>

参加者に求めるものは主体性と積極性です。グループワーク等に積極的に参加する気がない方、約束事を守れない方はご遠慮ください。

健康に留意し、できるだけ出席するよう心がけてください。また、積極的に質問し、授業に関わってください。私語をする方、携帯メールを見ている方、寝ている方、遅刻や早退の程度が過ぎる場合は欠席扱いにすることがあります。

大学での学習は自学自習が基本です。もちろん質問や相談は随時承ります。

ロシア極東について関心のある方の参加を希望します。

グループワーク等の形で、学期あたり1人数回以上の口頭発表をしていただきます。

##### <学習到達目標>

授業がきっかけとなり、受講後もロシア極東について何らかの興味関心を持ち続けていただければうれしく思います。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	地域統合論	2	後	白井陽一郎（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

20世紀後半は地域主義が着実に進展した時代となった。欧州（EU）を先頭に東南アジア（ASEAN）、北米（NAFTA）、南米（アンデス共同体やメルコスール）が追随し、アフリカもあらたな動きを見せていった（アフリカ連合）。こうした世界の潮勢に押し流されるかのように、東アジア共同体の形成もようやく、政治のアジェンダとして具体的に認識されるようになってきた。このような弛まぬ流れは衆目集めることなくとも水滴岩を砕くかのごとく、国際社会のあり方を変えつつあるのではないだろうか。地域主義の動きを根本に立ち返って再考する研究が求められる。地域統合はそのための重要な根本概念の一つである。この講義では、地域主義のひとつのあり方である地域統合の概念について、経済・法・政治・社会の各側面から原理的に吟味するための理論枠組を紹介する。事例としてはとくに東アジアそしてASEANに注目していく。

<各回毎の授業内容>

- 第1回:世界の地域主義——導入と紹介
- 第2回:地域統合の概念——協力と統合・地域化と地域主義・連邦国家と地域共同体
- 第3回:東アジア地域主義の基本的特徴——ASEANを核とした国際フォーラムの重層的形成
- 第4回:東アジアの国際フォーラム①——APECとASEM
- 第5回:東アジアの国際フォーラム②——ASEANプラス3とEAS
- 第6回:東アジア地域主義の歴史①——マハティール構想からアジア金融通貨危機へ
- 第7回:東アジア地域主義の歴史②——金大中イニシアティブからEASの発足へ
- 第8回:ASEANの概要——政治的プレゼンスと経済的ポテンシャル
- 第7回:ASEANの歴史——悲惨なインドシナ戦争から夢のASEAN憲章へ
- 第8回:ASEANの組織機構——銃を持つ暇なく握手を求める会議外交
- 第9回:ASEANの対外戦略——東アジアの基本規範・TAC（東南アジア友好協力）
- 第10回:東アジア共同体憲章案の試み——共通法秩序樹立へ向けた政治協力慣行の進化へ
- 第11回:経済統合の理論①——貿易創出効果と貿易転換効果
- 第12回:経済統合の理論②——バラッサの統合段階論
- 第13回:政治統合の理論①——古典理論の対抗関係・新機能主義と政府間主義
- 第14回:政治統合の理論②——現代理論の対抗関係・歴史制度主義とリベラル政府間主義
- 第15回:政治統合の理論③——PA理論応用の試み
- 第16回:定期試験

<成績評価方法>

学期末試験100%。

<教科書・参考文献>

中村民雄・須網隆夫・白井陽一郎・佐藤義明『東アジア共同体憲章案:実現可能な未来をひらく論議のために』昭和堂。

<受講に当たっての留意事項>

ノートをしっかり取って、試験前にきちんと復習することが大切。授業を通じて最新の東アジア国際情勢を紹介していくので、ニュースのフォローも確実に。また教科書の指定箇所は必ず読み込んでおくこと。

<学習到達目標>

地域主義の動きを分析する基本概念に習熟するとともに、ASEANや日中韓による東アジア地域主義の動向について、新聞・雑誌・テレビなど各メディアの報道を自分なりの理論的視点から批判的に分析できるようになること。

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	外国語文献購読2	2	後	小澤治子（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

この授業の目的は、英文の学術雑誌の講読を通して日本、アメリカ、ロシア、中国、韓国、北朝鮮など東アジアの国際関係について深く考察し、その理解を深めることである。従って英語の学力は無論のこと、東アジアの国際関係に対する深い関心と一定の知識が要求される。二年半にわたって本学で学んだ経験、また派遣留学を通じて得られた知識と能力などをさらに発展させて英語力を向上させ、東アジアの国際関係に対する多面的な見方を養うことが授業の目的である。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス：資料の配布及び本授業内容の解説、進め方の説明
- 2 指定外国語文献①の講読－1
- 3 指定外国語文献①の講読－2
- 4 指定外国語文献①の講読－3
- 5 指定外国語文献①の講読－4
- 6 指定外国語文献②の講読－1
- 7 指定外国語文献②の講読－2
- 8 指定外国語文献②の講読－3
- 9 指定外国語文献②の講読－4
- 10 指定外国語文献③の講読－1
- 11 指定外国語文献③の講読－2
- 12 指定外国語文献③の講読－3
- 13 指定外国語文献③の講読－4
- 14 指定外国語文献③の講読－5
- 15 まとめ
- 16 試験

#### <成績評価方法>

本授業では、受講生に課題として文献の翻訳、要約が課される。従って、成績は①文献の翻訳、要約の良し悪し（50%）および②学期末試験の良し悪し（50%）によってつけられる。

#### <教科書・参考文献>

初回の授業で講読する英文資料を配布する。毎回、英和辞書を持参すること。

#### <受講に当たっての留意事項>

外国語文献講読という授業は、ゼミナールと語学の授業を足して2で割ったようなスタイルの授業である。それゆえ毎回の出席は当然（原則として欠席は認めない）のことであり、また相当程度の子習、復習が求められる。

#### <学習到達目標>

英文の専門誌の講読を通じて、英語の読解力を向上させ、合わせて東アジアの国際関係についての知識と関心を深めることである。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3 年	国際研究特論	2	後	
21年度以前	専 門					
平成24年度不開講						

# 4年文化専門科目（後期）

ロシア語 7  
中国語 7  
韓国語 7  
アメリカ英語 7



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	4年	ロシア語7	1	後	ライサ プラーソル
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

ロシア語会話における新しい文法形態、語彙、その利用について学習する。コミュニケーションと発音の技能、ロシア語の会話を聞き理解する能力を向上する。日常会話に関連した短い文の読み書き能力を発展させる。いくつかのロシアの象徴と生活習慣を学習する。毎回、時間を割いて映画、歌、アニメ、現代ロシア文化を紹介する。

<各回毎の授業内容>

- 1 - 3 テキスト第1課 電話での会話
- 4 - 6 テキスト第2課 歳月の表現（年・月・日にち）日本とロシアにおける祭日クイズ「ロシアの有名な人たち」
- 7 - 9 テキスト第3課 レストランでの注文 ロシア料理 クイズ「ロシア料理」
- 10 - 12 テキスト第4課 勉強しすぎじゃないか？ 日本語の一番難しいところなに？
- 13 - 14 ロシアの映画
- 15 復讐
- 16 末期テスト

<成績評価方法>

評価は授業の出席（15%）、小テスト（20%）、学期末試験（65%）。

<教科書・参考文献>

A. デボフスキー、会話で学ぶロシア語 中級2。会話編等のプリントを教員が配布する。

<受講に当たっての留意事項>

欠席率が授業数3部の1を超えると受験資格がなくなる。宿題が毎回出る。

<学習到達目標>

ロシア語の高度な文法とロシアの知識を習得し、会話能力を身につけることを目標とする。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	4 年	中国語 7	1	後	朱 継征
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

中国語の人文・社会科学分野の文献、新聞記事やテレビニュースなどを理解するには、一層高いレベルの語学力と知識が要求されます。中国語は実用性の面でも将来性のある言語の一つです。その実力は若いうちに身に付ければ一生の財産になります。

この授業は中国語の聴解力、会話力、読解力、作文力などの総合的運用能力を高め、中国語検定試験2級合格を目指し、TECC 500点、HSK 6級に挑戦します。

中国語と日本語の異同についての説明及び通訳、翻訳の訓練においても、日本語の使用を最小限にしますが、単語、本文と文法の説明及び討論会、発表会と授業での指示を基本的に中国語で行います。

**<各回毎の授業内容>**

1. 並列複文
2. 継起複文
3. 累加複文
4. 選択複文
5. 因果複文
6. 転折複文
7. 条件複文
8. 仮定複文
9. 譲歩複文
10. 取捨複文
11. 目的複文
12. 時間複文
13. 連鎖複文
14. TECCとHSK対策
15. 総合練習（中国語検定試験、TECCとHSKについて）

**<成績評価方法>**

平常点と期末試験によって判定。平常点（小テスト、発表会、宿題）40%、期末試験60%。

5回以上無断欠席した者は失格。

**<教科書・参考文献>**

教科書：授業中に指示します。

参考書：『講談社 中日辞典』相原茂編集 2002年（第二版）

『講談社 日中辞典』相原茂編集 2006年（初版）

**<受講に当たっての留意事項>**

毎回必ず予習して出席すること。積極的に質問すること。大きな声で返事すること。宿題をちゃんとやること。

**<学習到達目標>**

中国語の総合的運用能力を高め、中国語検定試験3～2級合格、HSK（漢語水平考試）4～6級合格を目指します。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	4 年	韓国語 7	1	後	朴 修禧
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

この授業は、韓国語最後の授業で、韓国語は勿論、韓国の文化をより深く理解する過程です。韓国の文化全般に関する教師の講義の後、それに関して学生達を中心になって自由に意見を交わしたり討論しながら韓国の文化及び韓国人を理解する。またそれを内容とするCDを聞いたり対話の練習をする事によって韓国語の上達を目的とします。

<各回毎の授業内容>

1. 韓国の風物紀行
2. 国際結婚
3. 韓国の子どもたち
4. 忠孝 と礼節
5. IT先進国・韓国
6. 歴史を動かした美女
7. 伝統工芸
8. 世宗大王
9. 世界で活躍する韓国人
10. 済州島の文化
11. 伝統芸能と武術
12. 韓国の地域気質
13. 独立記念日（光復節）
14. イベント好きな韓国人
15. 世界の中の韓国人
16. 期末試験

<成績評価方法>

平常発表（30％） 出欠及び課題（10％） 定期試験（60％）

<教科書・参考文献>

テキストは使用しません。 講義の時資料を配布します。

<受講に当たっての留意事項>

他国を理解しようとするオープンマインド

<学習到達目標>

隣接国を言葉だけでなく文化を知ることによって、より深い理解が出来、グローバル時代の一人としての資質を見に付けるようになる。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	4 年	アメリカ英語 7	1	後	矢口裕子（情報文化）
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

この授業では、比較的平易な英語で書かれた英字新聞やウェブ上の情報等を素材とし、その時々  
のup-to-dateなニュースを英語で読む。自分について、日本について、世界について、日本語でも英  
語でも、語るべきことを持っているか否かは、充実したコミュニケーションを展開するための鍵であ  
る。英語を道具として世界を知る端緒になれば、と思う。補助的に映像資料等を用いることもある。

**<各回毎の授業内容>**

1. イントロダクション
2. 配布資料①を使用したの授業
3. 配布資料①を使用したの授業
4. 配布資料①を使用したの授業
5. 配布資料②を使用したの授業
6. 配布資料②を使用したの授業
7. 配布資料②を使用したの授業
8. 配布資料③を使用したの授業
9. 配布資料③を使用したの授業
10. 配布資料③を使用したの授業
11. 配布資料④を使用したの授業
12. 配布資料④を使用したの授業
13. 配布資料④を使用したの授業
14. 配布資料④を使用したの授業
15. 総復習

**<成績評価方法>**

授業への準備、貢献、期末試験／レポートの成績等を総合的に評価する。

**<教科書・参考文献>**

プリントを配布。

場合により、受講者と相談して教材を決めることもありうる。

**<受講に当たっての留意事項>**

全員が予習してくることを前提として授業を進める。出席のための出席は意味がない。予習の段階  
では、すらすら音読でき（特にアクセントに注意）、意味を的確につかみ、文法的質問にも答えられ  
るよう準備をしてくること。

**<学習到達目標>**

時事英語、ジャーナリズム特有の表現の習得。

# 1年システム専門科目（後期）

情報産業  
情報リテラシーと倫理  
人間情報工学1  
ビジネスモデル  
コンピュータソフトウェア  
情報論理  
システム数学  
統計と情報2/生活統計  
基本情報処理特論2

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	1 年	情報産業	2	後	西山 茂 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

現代社会はコンピュータと電子通信（ネットワーク、特にインターネット）の複合した技術（ICT）によって支えられている。ICTはこれを供給する側（ICT供給産業）の存在は不可欠であるが、これを利用・活用する側（ICT活用産業）の拡大も重要である。本授業では、この二つを併せて「情報産業」と位置付け、それぞれの現状、市場構造、トレンド、最新情報を学ぶ。更に「情報産業」のインフラとなる標準化、情報産業政策、関連法制度、情報産業従事者の働き方などの動向と課題についても学ぶ。

<各回毎の授業内容>

- [1] イントロダクションー 情報産業の位置付けとデジタルエコノミーの意味
- [2] ICT供給産業(1)ー コンピュータ産業
- [3] ICT供給産業(2)ー 電子ネットワーク産業
- [4] ICT供給産業(3)ー 情報サービス産業
- [5] ICT活用産業(1)ー デジタルコンテンツビジネス
- [6] ICT活用産業(2)ー 商取引 (eコマース)
- [7] ICT活用産業(3)ー 教育 (eラーニング)、Web関連産業
- [8] ICT活用産業(4)ー 行政 (e-Gov) その他の産業分野
- [9] 情報産業基盤(1)ー 政策・法令と標準化
- [10] 情報産業基盤(2)ー 知的財産権
- [11] 情報産業基盤(3)ー 情報セキュリティと個人情報保護
- [12] 情報産業基盤(4)ー 情報産業における人材と働き方
- [13] 情報産業及びデジタルエコノミーの将来展望
- [14] 情報産業最新情報アップデート (ICT及び利用法の最新動向など)
- [15] まとめー ICTがもたらす仕事、家庭生活の変化 (過去、未来)、ICTの社会へのインパクト
- [16] 定期試験

<成績評価方法>

- ・ 期末テスト:60% (理解度確認テストを1回以上提出していること)
- ・ 理解度確認テスト (ミニテスト):40% (予告なく4回実施する)

<教科書・参考文献>

教科書はない。講義資料を配布する (履修登録確定後は各自本学HPからダウンロードし印刷する)。

参考文献:

- ・ 政府・業界系白書:情報化白書、情報通信白書、情報サービス産業白書、デジタルコンテンツ白書等
- ・ 民間の白書等:インターネット白書;インターネットビジネス白書;情報通信ハンドブック等
- ・ OECDレポート:OECD information Technology Outlook 2010
- ・ 米国商務省レポート:Digital Economy 2003、<http://www.esa.doc.gov/Reports/digital-economy-2003>
- ・ 林 紘一郎著、電子情報通信産業、電子情報通信学会、2002

<受講に当たっての留意事項>

- ・ 4回実施する理解度確認テストを1回も提出しない場合は期末試験の受験資格を与えない。

<学習到達目標>

1. ICT供給産業 (コンピュータ、ネットワーク、情報サービスなど) の動向と課題を理解し、説明できる。(期末テスト/理解度確認テスト:30%/10%;以下同様)
2. ICT活用産業 (商取引、教育、行政など) の動向と課題を理解し、説明できる。(10%/10%)
3. 情報産業基盤 (法制度、標準化、知的財産権、情報セキュリティ、個人情報保護、情報産業人材の働き方と人材育成) に関する知識を理解し、説明できる。(10%/10%)
4. デジタルエコノミーの進展と情報産業政策の動向およびICTの潮流を理解し、説明できる。(10%/10%)

(関連する学習・教育到達目標:G)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	情報リテラシーと倫理	2	後	岸野清孝（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

コンピュータネットワーク社会と情報倫理、著作権、情報セキュリティ、技術者倫理の関係を理解し、公衆の安全と福利における技術者の知識の重要性、技術者が担う責任について学ぶ。

<各回毎の授業内容>

1. 情報リテラシーと倫理の全体概要説明
2. 情報リテラシーと倫理概要:情報リテラシーとは、情報倫理の意義
3. ネットワークと情報機器利用時の基本ルール:ネットワーク社会と従来 of 社会の違い
4. ネットワークとホームページ:ネットワーク・エチケット、ホームページの注意事項
5. コンピュータウイルス:コンピュータウイルスとは、感染防止方法、ハッカーとは
6. 個人情報不正利用:個人情報とは、不正利用による被害、振り込め詐欺
7. 情報漏洩対策:情報漏洩の原因と問題点、個人情報保護法、情報漏洩の防止対策
8. プライバシー侵害と情報操作:プライバシーの権利と保護、情報操作（レポート課題1）
9. 事例研究:プライバシー侵害と情報操作の事例
10. 知的財産権と倫理:知的財産権とは、著作権とは、著作物の使用と利用
11. 情報セキュリティ:情報セキュリティと倫理、セキュリティ対策と技術
12. 企業の倫理:ビジネスにおける倫理、コンプライアンス（法令遵守）
13. 企業の製造物責任（PL）:製造物責任とは、訴訟事例、製品安全活動（レポート課題2）
14. 技術者の倫理:技術者の倫理とは、正直性・真実性・信頼性、倫理問題の解決方法
15. 事例研究:技術者倫理と内部統制
16. 定期試験

<成績評価方法>

定期試験:80%と自己学習によるレポート課題:20%の配分で評価する。

<教科書・参考文献>

資料を配布する（本校のHPからダウンロードし、各自がプリントアウトする）。

<学習到達目標>

- ・ コンピュータネットワーク社会と情報倫理（エチケット、ウイルス、個人情報、プライバシーなど）の関係を理解し、基本的な知識を習得する。（定期試験:25%）
- ・ 情報倫理に関する事柄について正しいか誤りであるかの判断がある程度できるようになる。（定期試験:25%）
- ・ 情報倫理に関連する義務と責任（ウイルス、個人情報、著作権、情報セキュリティ、PL、技術者倫理など）を学び、それらが情報倫理の問題解決にどのように役立つかを理解し説明できるようになる。（定期試験:30%）
- ・ 自己学習による調査により情報倫理について、さらに考える力を養う。（レポート:20%）

（関連する学習・教育到達目標:E,G）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	人間情報工学 1	2	後	上西園武良（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

人間情報工学（人間工学）では、人間の使用する機器が使用しやすいものになることを目指している。本講義では、人間の特性を心身機能別に分類し、それぞれの機能に適合した機器の設計手法を習得する。情報の観点からは、機器使用に関わる人間の特性情報をどのように設計情報に翻訳するかを習得する。同時に、設計時に必要となる統計的なデータ処理手法も合わせて修得する。

**<各回毎の授業内容>**

1. 人間工学の歴史、人間の特性の分類
2. 寸法・体格の特性への適合設計(1)イスの座面幅の事例
3. 寸法・体格の特性への適合設計(2)棚の高さの事例
4. 感覚特性への適合設計(1)感覚の一般的性質
5. 感覚特性への適合設計(2)評点法
6. 感覚特性への適合設計(3)2点法
7. 感覚特性への適合設計(4)針の見易さの事例
8. 感覚特性への適合設計(5)洗浄強さの事例①
9. 感覚特性への適合設計(6)洗浄強さの事例②
10. 感覚特性への適合設計(7)洗浄強さの事例③
11. 運動特性への適合設計(1)データベース
12. 運動特性への適合設計(2)レバー形状の事例
13. 被験者実験の注意事項
14. 統計学的な補足
15. まとめ
16. 定期試験

**<成績評価方法>**

- ・小テスト3回（各10点、計30点）と期末試験（70点）の合計（100点）で評価する。
- ・3回の小テストのうち少なくとも1回は受験していることを期末試験の受験資格とする（0回の人を受験資格なし）。
- ・期末試験は「電卓（通信機能なし）」以外は持ち込み不可（小テストは持ち込み可）。

**<教科書・参考文献>**

特定の教科書は使用しない。

**<受講に当たっての留意事項>**

毎回、統計的なデータ処理計算を行うので平方根（ $\sqrt{\quad}$ ）計算機能のある電卓を持参すること。

**<学習到達目標>**

人間の心身機能に適合した機器の設計が行える。

（関連する学習・教育到達目標:H）



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	1 年	ビジネスモデル	2	後	桑原 悟 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

情報システムは、組織の既存業務の効率化や精度向上などを狙って導入されてきている。それらの業務は、担当部門にとっては常識ともいえるが、システム開発側にとっては、未知の分野であるかもしれない。一方で、論理的、機械的に振舞うコンピュータを活かすには、その特性を理解していなければならない。システム開発側は、これらを理解しているが、業務部門が理解しているとは限らない。

そこで、双方を繋ぐために行われるのがモデル化である。この授業では、情報システム化の対象としての業務の情報モデルについて学び、情報通信技術を前提にした新しいビジネスの形態についても紹介する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1) 授業のオリエンテーション, ビジネスモデル及び情報モデルと企業活動
- 2) 流通業の形態
- 3) 流通業の情報モデル(1)販売管理
- 4) 流通業の情報モデル(2)在庫管理
- 5) 流通業の情報モデル(3)利益管理
- 6) 流通業の情報モデル(4)販売分析
- 7) 製造業の生産形態と方式
- 8) 製造業の情報モデル(1)資材計画
- 9) 製造業の情報モデル(2)部品展開
- 10) 製造業の情報モデル(3)在庫管理, 購買管理
- 11) 製造業の情報モデル(4)能力計画
- 12) 製造業の情報モデル(5)品質管理
- 13) 製造業の情報モデル(6)損益管理
- 14) 企業組織と情報システム開発
- 15) ネットビジネス (ビジネスモデルの創出)
- 16) 定期試験

注) 受講する学生の理解度により講義順序や分量を調整することがある。

#### <成績評価方法>

定期試験及び任意課題 (任意であるので加点のみ最大10%) により評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

資料を学内ネットワークに掲載する予定である。

#### <受講に当たっての留意事項>

数学1, 2, 組織と経営の単位を取得していることが望ましい。また、基礎自由科目「数学基礎」の履修を指導された者は、これを履修していることが望ましい。授業に集中している学生の邪魔になる行為をするものは退出させる (出席を認めない)。質問は歓迎するので、遠慮なく質問して欲しい。

#### <学習到達目標>

企業を代表とする組織の業務を情報システム化の対象として理解できるようになることを目標とする。

(関連する学習・教育到達目標:E,I)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	コンピュータソフトウェア	2	後	石川 洋（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

コンピュータシステムを有効利用するための基本的な考え方をソフトウェアの側面から学習する。プロセス管理、メモリ管理、ファイル管理などの主要な機能とその役割や、言語処理系の基本についても学習する。

**<各回毎の授業内容>**

- 1 オペレーティングシステムの概要
- 2 プロセス管理 1
- 3 プロセス管理 2
- 4 プロセスの同期
- 5 プロセス間通信
- 6 実記憶管理 1
- 7 実記憶管理 2
- 8 仮想記憶管理 1
- 9 仮想記憶管理 2
- 10 仮想記憶管理 3（レポート課題 1）
- 11 ファイルシステム
- 12 割り込み処理
- 13 情報システムの基盤としての Windows および Linux（レポート課題 2）
- 14 言語処理プログラムの種類と構造
- 15 言語処理プログラムにおける字句解析と構文解析（レポート課題 3）
- 16 定期試験

**<成績評価方法>**

- ・成績は期末試験（70%）と自己学習によるレポート課題（30%）により評価する。
- ・試験では講義に沿った問題を出題する。持ち込みは不可とする。

**<教科書・参考文献>**

- ・教科書 オペレーティングシステムの基礎 大久保英嗣、サイエンス社（1997） 1600円＋税
- ・参考文献 随時紹介する。

**<受講に当たっての留意事項>**

- ・専門用語が多く出てくるが、意味のわからない用語は必ず調べておくこと。

**<学習到達目標>**

- ・オペレーティングシステムの基本を理解し、諸機能の役割（試験60%、レポート15%）を習得する。
- ・具体的なオペレーティングシステムの利用動向（レポート10%）を理解する。
- ・コンパイラの仕組みを学習し、プログラミングを支える基本的な知識（試験10%、レポート5%）を習得する。

（関連する学習・教育到達目標：E,J）

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	1 年	情報論理	2	後	中田豊久 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

結論が前提から正しく導き出されることを、妥当な推論と呼ぶ。この妥当な推論、言い換えると「正しく考えること」は情報システムに関わらず、様々な学問にとって重要なことである。そこで本講義では、この妥当な推論を行うための技術の1つである記号論理（命題論理、述語論理）を学習する。

#### <各回毎の授業内容>

1. 論理学、離散数学入門
2. 離散数学（集合）
3. 離散数学（数学的帰納法、写像（関数））
4. 命題論理 1（否定、かつ）
5. 命題論理 1（または、ならば）
6. 命題論理 1（同値）
7. 命題論理 2（真理値表による恒真判定）
8. 命題論理 2（真理値分析による恒真判定）
9. 命題論理 2（真理値割り当てによる恒真判定）
10. 命題論理 2（命題の標準化による恒真判定）(レポート課題 1)
11. 命題論理の推論 1（真理値表による妥当性判定）
12. 命題論理の推論 1（真理値割り当てによる妥当性判定）
13. 論理回路（ブール代数、論理ゲート）
14. 述語論理 1（命題関数、量化記号）
15. 述語論理 2（量化命題）(レポート課題 2)
16. 定期試験

#### <成績評価方法>

定期試験90%、レポート課題10%の配分で評価する。

#### <教科書・参考文献>

教科書:「論理学の基礎」、飯田賢一 他、昭和堂、ISBN 4-8122-9408-8  
その他に講義資料をホームページによって配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

3年時に「人工知能」を履修するものは、この科目を履修していることが望ましい。

#### <学習到達目標>

- \* 離散数学（集合、写像など）についてその概念を理解する（定期試験30%、レポート課題5%）
- \* 自然言語による論理を記号論理として記述し、妥当な推論を行う力を習得する（最終テスト60%、レポート課題5%）。

(関連する学習・教育到達目標:D)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	システム数学	2	後	近山英輔（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

数学の基礎概念は情報システムを深く理解するために役立つ。本講義では、高校数学から、大学教養数学と情報システム数学へつながる道案内を行う。講義は数学概念に潜む描像を広く理解することを目的とし、計算法の簡単な演習によってその理解を具体化する。

**<各回毎の授業内容>**

1. 数
2. 集合
3. 行列
4. ベクトルと行列
5. 代数系
6. 小テスト
7. 連続、関数、極限
8. 微分と積分
9. 初等関数
10. 初等関数の微分と積分(1)
11. 初等関数の微分と積分(2)
12. 微分法と積分法の諸公式(1)
13. 微分法と積分法の諸公式(2)
14. 多変数関数入門
15. 小テスト
16. 定期試験

**<成績評価方法>**

定期試験:60%、小テスト:40%で評価する。

**<教科書・参考文献>**

特になし

**<受講に当たっての留意事項>**

定期試験は自筆ノートのみ持ち込み可（印刷物又は印刷物の貼付不可）。講義内容だけでなく、講義中の演習や自己学習等も自筆ノートに整理して記録しておくこと。小テストを行う。

**<学習到達目標>**

- ・ 数学の基礎概念の理解（定期試験15%、小テスト10%）。
- ・ 初等関数と極限の理解（定期試験15%、小テスト10%）。
- ・ 微分計算の修得（定期試験15%、小テスト10%）。
- ・ 積分計算の修得（定期試験15%、小テスト10%）

（関連する学習・教育到達目標:D）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	1 年	統計と情報 2	2	後	伊村知子 (情報システム)
21年度以前	専 門		生活統計			

選択

#### <授業目的>

本講義では、データの特徴を把握するための記述統計の技法と、部分的な情報から全体を推測するための推測統計の考え方やデータの解析方法について学びます。

#### <各回毎の授業内容>

1. はじめに一記述統計と推測統計
2. 記述統計の基礎
3. 2変数間の関係
4. 推測統計の基礎(1)母集団と標本
5. 推測統計の基礎(2)母数の推定と有意性検定
6. 推測統計の基礎(3)信頼限界
7. 2変数間の関係
8. 直線回帰と相関係数
9. 直線回帰と有意性検定
10. まとめ:中間試験
11. 2つの代表値の有意差検定(1):  $\chi^2$  検定
12. 2つの代表値の有意差検定(2): t検定
13. 分散分析
14. 実験計画法
15. まとめ
16. 定期試験

#### <成績評価方法>

授業中に実施する練習問題 (20%)、中間テスト (20%)、定期試験 (60%) により、総合的に評価します。

#### <教科書・参考文献>

必要な資料は授業中に随時、配布します。

参考図書: 森 敏昭・吉田 寿夫「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」北大路書房

#### <受講に当たっての留意事項>

わからない点については授業中に積極的に質問すること。予習と復習をこころがけること。

#### <学習到達目標>

日常生活において、調査によって得られたデータを統計学の手法を用いて解析し、その結果から得られた情報を理解できるようになること。(練習問題:20%、中間テスト:20%、定期試験:60%)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	基本情報処理特論 2	2	後	山田賢一
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

この授業ではC言語プログラムを解読し、処理の流れを理解できるようになることを目的とする。初めにC言語の文法事項について重要項目をまとめ、次にプログラムで用いられるデータ構造やアルゴリズムを講義し、これらを用いたプログラムの解析演習を行うことで、基本情報処理技術者試験のC言語プログラム問題を解くことのできる実践力を身に付ける。

**<各回毎の授業内容>**

本講座の各回のテーマは次の通りです。

1. 1日目 受講ガイダンス、C言語プログラム作成の流れ
2. 2日目 演算と型
3. 3日目 プログラム制御構造（分岐）
4. 4日目 プログラム制御構造（繰り返し）
5. 5日目 一次元配列
6. 6日目 二次元配列
7. 7日目 関数
8. 8日目 列挙体・再帰処理
9. 9日目 文字列処理
10. 10日目 ポインタの基本
11. 11日目 文字列ポインタ
12. 12日目 構造体
13. 13日目 ファイル処理
14. 14日目 総合演習 1
15. 15日目 総合演習 2
16. 16日目 期末試験

**<成績評価方法>**

毎回の出席を基本とし、成績は授業内の演習課題（70%）、期末試験（30%）により総合的に判断します。

**<教科書・参考文献>**

授業及び課題に使用する教材は適宜配布しますが、C言語の文法解説書籍を用意すると便利です。

**<受講に当たっての留意事項>**

履修者数と教室などの都合が付けば、パソコン設置教室での実習を行う場合があります。

**<学習到達目標>**

C言語プログラムの解析ができ、プログラム動作の詳細を把握できるようになること。及び「基本情報技術者試験」(午後問9) で2/3以上の正解率を確保できるようになることを目標とします。

# 2年システム専門科目（後期）

情報論  
生理機能と情報  
行動科学  
生活統計／地域統計  
生産企画と管理  
流通と物流  
管理会計  
プログラミング環境  
プログラミング技術特論  
オペレーションズリサーチI

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	情報論	2	後	高木義和（情報システム）
21年度以前	専 門					

#### <授業目的>

情報をめぐるさまざまな考え方を概観し、情報を組織や社会における人・物・金に並ぶ重要な資源あるいは資産ととらえ、情報を効果的に活用できるようになるための考え方について理解を深める。情報の概念、情報の基本的性質、人の行為と情報の関係を説明する。情報の活用段階毎に生じる問題点を通して情報活用のために有用な考え方を紹介する。さらに情報社会と知識基盤社会の概念をもとに個人による情報の利用について考える。情報を柔軟に受け入れることができるようになるように具体例を含めて多くの考え方を並列的に紹介する。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 言葉としての情報
- 2 情報の概念 1 ①データと情報と知識の概念的把握
- 3 情報の概念 2 ②情報と知識構造
- 4 情報の基本的性質 1
- 5 情報の基本的性質 2
- 6 情報の基本的性質 3
- 7 人の行為と情報 ①意志的行為と身体的行為
- 8 ②意志、意図、企図と情報
- 9 ③意思決定、行動と情報
- 10 情報の活用 ①目的、目標の確認～情報の収集段階の問題点と対応
- 11 ②選択、整理、加工、分析～行動段階の問題点と対応
- 12 情報社会の概念
- 13 情報社会と情報の価値
- 14 知識基盤社会と個人による情報の利用 1
- 15 知識基盤社会と個人による情報の利用 2

#### <成績評価方法>

成績は定期試験の結果で評価する。試験は資料の持ち込みは禁止で、講義に基づく記述式の問題を出題する。授業に1/3以上欠席した場合は受験資格を認めない。

#### <教科書・参考文献>

必要に応じ資料を配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

ノートを良く整理すること。大教室のため授業中の出入りは禁止します。教室の前方で受講すること。後方で受講する場合は私語を禁止します。

#### <学習到達目標>

- |                                      |     |
|--------------------------------------|-----|
| 情報という言葉の概念を理解しできること 1-6              | 35% |
| 情報の基本的性質を理解し、人の行為と情報の関係を理解できること 7-11 | 35% |
| 情報の活用の問題点と対応を理解し情報の価値を認識できること 12-15  | 30% |

(関連する学習・教育到達目標:G)



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	生理機能と情報	2	後	藤瀬武彦（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

日本は近い将来に極端な少子高齢社会を迎え、医療費や介護費が高騰してさらに国民負担の重くなることが予想されることから、国民一人一人が健康体力づくりや健康診断に関する知識をもつことは必要である。また、生涯にわたり健康を保持するためには医療機関との関わりが欠かせない。従って、この授業では身体の機能、体力評価や健康診断に関すること、さらには医療システム（問題点や情報公開）などについて言及し、身体の自己管理能力や患者力を身に付けることが目的である。

#### <各回毎の授業内容>

1. はじめに ……少子高齢社会における健康体力づくりの意義
2. 生活習慣病 ……脳梗塞、心筋梗塞、糖尿病、高血圧、高脂血症
3. 身体組成 ……肥満度（BMI・体脂肪率）の評価、隠れ肥満とは
4. 体 液 ……膠質浸透圧、脱水と水分補給、血液の組成
5. 血 液① ……赤血球の酸素運搬能、貧血、平均赤血球指数（MCV, MCH, MCHC）
6. 血 液② ……白血球の機能（液性免疫と細胞性免疫）、性感染症・エイズ
7. 心機能① ……心臓の構造、心拍数と運動強度・RPEとの関係、心電図
8. 心機能② ……心電図の評価、異常心電図、AED（自動体外式除細動器）
9. 循 環 ……心拍出量、血圧の測定・評価、メディカルチェック
10. 呼 吸 ……スパイロメトリー、努力肺活量（1秒率）、ガス交換（拡散能力）
11. エネルギー代謝 ……VO<sub>2</sub>、VCO<sub>2</sub>、RQ（呼吸商）、基礎代謝、最大酸素摂取量
12. 物質代謝 ……糖質・脂質・蛋白質の代謝、ビタミンとミネラル
13. 骨格筋 ……筋線維組成と運動能力、筋力・筋肥大、プロテインスコア
14. 内分泌・生殖 ……各ホルモンの作用、男女の生殖生理、成人病胎児期発症説とは
15. 医療システム ……医療費とレセプト、医師免許制度、カルテ開示・電子カルテ
16. 試 験

#### <成績評価方法>

この授業における評価は、基本的には定期試験（100点満点）の点数により行うが、授業中の課題によるレポートなどで若干加点する場合もある。なお、試験ではノート・資料等の持ち込みは一切できない。

A（優）：80点以上、B（良）：70点以上、C（可）：60点以上、D（不可）：59点以下

#### <教科書・参考文献>

授業中に必要に応じて資料を配布する。

#### <受講に当たっての留意事項>

特になし。

#### <学習到達目標>

- (1)基本的な生理機能や健康体力づくりに関する知識を習得する（約70%）。
- (2)健康診断に関する知識を習得し、また医療システムに対する問題意識をもつ（約30%）。

（関連する学習・教育到達目標：H）

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	2年	行動科学	2	後	小宮山智志 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

"現実"から、「なぜ～だろうか」という"問い"を考えて、つい見逃してしまいがちな人間行動のしくみに目を向けて原因を推理し(仮説を考え)、今後の行動や企画・対策を考えることを学びます。これは人類に残された最大の仕事です。覚えること、解答を計算することはコンピュータには勝てませんが問いや仮説を考えることは人類にしかできません。

仕事や人生で、自分や愛する人々のことを真剣に考え"現実"に背を向けずに行動を決定するとき、私が実践してきた、そして人類がたどり着いた"ある一つの方法"をこの講義で実際に皆さんに体験してもらいます。皆さんの先輩が自分の関心に基づいて、問い・仮説を真剣に考えた卒業論文を題材にしています(皆さんの関心に合わせて、題材とする論文は変更されることがあります)。

<各回毎の授業内容>

講義は2回1セットで行われます。1回目は、それぞれの課題について個人またはグループで考え、2回目は皆さんの考えを紹介しながら解説し、さらにグループワークを行います。

\*『風の谷のナウシカ』(スタジオジブリ)で解き明かす"社会的ジレンマ"

1～3 周りの人々の行動と自分の行動の関係:実際にゲームを通して、考えて行きます。

\*"杉下右京(テレビ朝日『相棒』)"を超えろ:人間行動の原因を推理する

4・5 観察して仮説をたてる

6・7 仮説から観察する

8・9 現実の問題で考えよう:あなたはビジュアルタイプ?! 文字タイプ?!

\*複数の仮説を比較

10・11 なぜ私はいつも同じ店に行くのか? 店舗選択の要因解明

12・13 再び社会的ジレンマ どうしたら協力できるのか?

『デスノート the Last name』(日本テレビ) & 『ヒューマン なぜ人間になれたのか』(NHK)

14～16 最終レポートに向けてのグループワーク

<成績評価方法>

成績は、第1～15回のグループワーク・個人ワーク(35%)と最終レポート(65%)によって、評価します。オリジナリティを高く評価します。

<教科書・参考文献>

参考文献:チャールズ・A・レイブ,ジェームズ・G・マーチ(佐藤嘉倫[ほか]訳)

『社会科学のためのモデル入門』ハーベスト社 1991年

小林淳一/木村邦博編『考える社会学』ミネルヴァ書房 1991年

<受講に当たっての留意事項>

- 1.体調不良、忌引き、就職活動、部活動などで欠席した場合、第16回の授業での個人・ワーク・グループワークを行うことで、欠席した分の個人ワーク・グループワークを補うことができます。
- 2.授業中、私が説明しているときは、誰も話してはいけません。小声でもダメです。私が聞こえなくてもあなたの周りの人が迷惑です。個人ワーク・グループワークのときは、どんどん周りの人と話してください。友達の意外なアイデアを楽しみ、また友達を楽しませてあげてください。

<学習到達目標>

- 1) 観察した結果を矛盾なく説明できる仮説を考えられるようになってください(グループワーク 1～9回・最終レポート)。
- 2) 一つの現象について複数の推理(仮説)を考えられるようになってください(グループワーク 10～15回・最終レポート)。
- 3) 自分の関心に基づいて問いを見つける方法を身につけてください(最終レポート)。

(関連する学習・教育到達目標:H)

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	生活統計	2	後	近山英輔（情報システム）
21年度以前	共 通		生活情報			

選択

<授業目的>

人間、生物、経済、社会、環境の作る複雑ネットワークでは日々膨大な情報が生み出されている。これらの現象の全体像を把握するための効果的な方法が統計的方法である。そのような人間・社会に関わるデータを、統計学と情報技術を用いて読み解く例を学ぶ。

<各回毎の授業内容>

1. 記述統計学の予備知識
2. 人間・社会の様々な統計データ(1)
3. 人間・社会の様々な統計データ(2)
4. 確率論の予備知識
5. 確率分布(1)
6. 確率分布(2)
7. 確率分布(3)
8. 人間・社会の様々な確率分布(1)
9. 人間・社会の様々な確率分布(2)
10. 推計統計学の予備知識
11. 人間・社会の様々な統計データの検定
12. 回帰分析の予備知識
13. 人間・社会の様々な統計データの回帰分析
14. 複雑ネットワーク
15. 定期試験の解説
16. 定期試験

<成績評価方法>

定期試験100%で評価する。

<教科書・参考文献>

特になし

<受講に当たっての留意事項>

特になし

<学習到達目標>

- ・ 人間・社会データの平均値、分散、標準偏差の計算（30%）。
- ・ 人間・社会データの統計的検定（30%）
- ・ 人間・社会データの相関係数、回帰直線の計算（30%）。
- ・ 確率分布の理解（10%）。

（関連する学習・教育到達目標：H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	2年	地域統計	2	後	藤田晴啓 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

地域を理解し研究する手法に「地域分析」がある。地域分析では、統計および地理データを使い、地域の計量的分析および空間的分析を行い、土地と人の生業の関係、すなわち地域社会や産業構造をモデル化する研究手法が主として使われる。特に前者の、地域の計量的分析では多変量解析という統計手法が多く用いられる。対象地域の統計データを収集し、コンピュータで統計解析を行い、その結果をモデル化、地図化することにより、地域構造をさらに深く調べることが可能となる。本授業では計量的分析として、地域の統計データを処理・分析する一連の手法を学習し、「地域分析」のてがかりとする。

<各回毎の授業内容>

1. 授業の目的、めざすところ、全15回の内容等ガイダンス
2. 地域統計データの種類と収集方法
3. 地域統計データの解析方法と地図作成
4. 地域分析と多変量解析
5. 地域事象予測のための回帰分析 (レポート課題1)
6. 地域構造を知るための因子分析
7. 地域事象類型化のためのクラスター分析
8. 質的データを数量化するための数量化理論-1
9. 質的データを数量化するための数量化理論-2 (レポート課題2)
10. 地域事象の空間配置のための多次元尺度構成法
11. 地域事象間関連性を知るための正順相関分析
12. 住民の選好性を解析できるコンジョイント分析 (レポート課題3)
13. その他の地域統計分析法
14. GISによる地域統計データ表示
15. 講義のまとめ (地域分析・地域統計をどう地域社会に活かせるか)
16. 定期試験

<成績評価方法>

定期試験70%、レポート課題30%の配分で評価する。

<教科書・参考文献>

教科書:地域分析-地域の見方・読み方・調べ方- (村山佑司・古今書院)  
参考図書:地域分析入門 (大友篤・東洋経済新報社)

<受講に当たっての留意事項>

私語厳禁、まわりに迷惑を与えるので、注意は1回まで (2回目で退席を勧告します)。

<学習到達目標>

- ・ 地域分析のデータ取得、解析方法を理解し、基本的な知識を習得する (定期試験:25%)。
- ・ 多変量解析の内容と解析例および地域分析としての役割を理解し説明できるようになる (定期試験:25%)。地域の人および土地に関わる業務の内容を学び、それらが問題解決にどのように役立つかを理解し説明できるようになる (定期試験:20%)。
- ・ 自己学習により統計的手法により地域分析を行い、さらに理解を深める (レポート:30%)

(関連する学習・教育到達目標:H)

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	生産企画と管理	2	後	佐々木桐子（情報システム）
21年度以前	専 門					

#### 選択

#### <授業目的>

生産の概念、歴史、さらに生産企画（計画）や生産管理の諸手法を学習する。具体的には、生産における物の流れ、情報の流れ、価値（原価）の流れを理解し、生産管理の史的考察をおこない、科学的なアプローチとして意思決定の諸手法を習得し、生産における諸問題の解決案を提案する。

#### <各回毎の授業内容>

- |                  |                               |
|------------------|-------------------------------|
| 1. 生産の概念         | 生産, 生産要素, 生産工程, 生産財, 生産性      |
| 2. 生産管理の史的考察①    | 社会の変遷, 成行管理, 課業管理（小テスト①）      |
| 3. 生産管理の史的考察②    | 同時管理, 自己制御管理, システム管理（小テスト②）   |
| 4. 大量生産方式の起源と発展① | 初期のアメリカ自動車産業（小テスト③）           |
| 5. 大量生産方式の起源と発展② | 初期の日本自動車産業, トヨタ生産方式（小テスト④）    |
| 6. 生産の形態, 需要予測   | 分類, 見込生産と受注生産 需要予測のモデル（小テスト⑤） |
| 7. 生産計画①         | 種類, 戦略（小テスト⑥）                 |
| 8. 生産計画②         | 長期生産計画（小テスト⑦, レポート課題）         |
| 9. 生産スケジューリング①   | 2工程フローショップスケジューリング（小テスト⑧）     |
| 10. 生産スケジューリング②  | 多工程フローショップスケジューリング（小テスト⑨）     |
| 11. 在庫管理①        | ABC在庫管理, 経済発注量（小テスト⑩）         |
| 12. 在庫管理②        | 定量発注法, 定期発注法（小テスト⑪）           |
| 13. 工程計画         | 評価基準, 最適工程計画（小テスト⑫）           |
| 14. ロジスティクス      | 概念（物流とロジスティクス）, 変遷（小テスト⑬）     |
| 15. 総括           |                               |
| 16. 定期試験         |                               |

#### <成績評価方法>

- ・毎回の小テスト:20%（学習到達目標①、および学習到達目標②に相当、比率①:②=50:50）
- ・レポート:20%（学習到達目標②に相当）
- ・定期試験:60%（学習到達目標①、および学習到達目標②に相当、比率①:②=50:50）

#### <教科書・参考文献>

- ・教科書:「生産企画と管理 講義ノート」を使用する。
- ・参考文献:人見勝人著 『新・生産管理工学』 コロナ社、1997。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・各自、電卓を持参すること。

#### <学習到達目標>

- ① 企業における生産の管理全般を理解し、現実の問題へと応用することができる。
- ② 管理に関わる諸問題を発見し、解決する能力を身につけることができる。

（関連する学習・教育到達目標:I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	流通と物流	2	後	岸野清孝（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

社会は、大きく生産、流通、消費の3つの領域に分けられる。流通の働きにより財が生産から消費へと移転し、財の所有権の移転を「商流」、財の場所的・時間的移転を「物流」という。企業においては流通・物流コストは割高が実態であり、効果的に管理するためのノウハウ・技法などを学ぶ。

<各回毎の授業内容>

1. 流通と物流の全体概要説明
2. 流通とは何か:流通機構とその社会的役割、流通とは、商流と物流、流通機構とは
3. 流通構造と流通チャンネルの基本概念:流通構造と流通経路、閉鎖的チャンネルと開放的チャンネル
4. 日本の流通構造および流通政策の概要:自由な流通活動、構成取引、統制・規制、消費者保護
5. 流通チャンネルにおける取引慣行と情報ネットワーク化
6. 流通業の機能分類と流通戦略の事例:販売方法、組織管理、物流方法、商品ブランド、取引方法
7. 流通構造の変遷:小規模流通、チェーンストア、量販店の拡大、専門店チェーン、流通構造変化
8. 物流とは何か:物流7機能、物流センターの必要性
9. 輸送機関の分類と動向:輸送機関の分類、メリット、トラック運送の運賃（レポート課題1）
10. 物流における在庫管理:物流ネットワークと在庫、在庫の種類、在庫管理方式
11. 物流情報システム:倉庫管理システム、配車配送システムの考え方、特徴、効果
12. 物流戦略と共同化:共同物流の背景、共同物流の有効性・影響、サードパーティロジスティクス
13. 物流戦略と企業同盟:製造・卸・小売の物流同盟、SCM（レポート課題2）
14. 国際貿易・輸出入業務と物流:貿易とは、通関制度、輸出入業務と信用状の考え方
15. 事例研究:小売業の経営効率化の比較
16. 定期試験

<成績評価方法>

定期試験:80%と自己学習によるレポート課題:20%の配分で評価する。

<教科書・参考文献>

教科書:岸野清孝著「流通と物流」静岡学術出版（2007年）を使用する。

<学習到達目標>

- ・ 流通と物流の仕組み（流通機構、流通チャンネル、流通構造、取引慣行、輸送、在庫管理など）を理解し、基本的な知識を習得する。（定期試験:25%）
- ・ 流通と物流の内容と役割およびその中での情報活用の方法を理解し説明できるようになる。（定期試験:25%）
- ・ 流通と物流の効率化の動向（共同化、サプライチェーンマネジメントなど）を学び、それらが問題解決にどのように役立つかを理解し説明できるようになる。（定期試験:35%）
- ・ 自己学習による調査により流通と物流について、さらに理解を深める（レポート:20%）

（関連する学習・教育到達目標:I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	管理会計	2	後	山下 功（情報システム）
21年度以前	専 門					

#### 選択

##### <授業目的>

管理会計は、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。管理会計は、企業内部の「計画と統制のための会計（第2～7講）」と、「意思決定のための会計（第8～12講）」に分けることができます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。この授業を履修することによって、管理会計の基本的な知識を習得することを目的とします。

##### <各回毎の授業内容>

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| 1. 管理会計とは           | 8. 長期利益計画       |
| 2～3. 標準原価計算と原価統制    | 9～10. 個別計画意思決定  |
| 4～5. 直接原価計算と損益分岐点分析 | 11～12. 設備投資意思決定 |
| 6. 予算管理と短期利益計画      | 13. 経営情報システムと会計 |
| 7. 事業部制と会計          | 14～15. 管理会計の実務  |
|                     | 16. 期末定期試験      |

##### <成績評価方法>

期末定期試験60%、第2～15講の授業中に実施する復習テスト40%。

##### <教科書・参考文献>

教科書として、拙著テキスト『管理会計 前編・後編』を使用します。授業中に配付します。

##### <受講に当たっての留意事項>

授業で計算問題を解くことがありますので、電卓を持参してください。なお、期末定期試験では、使用できる電卓が制限されます。

##### <学習到達目標>

管理会計の概要についての知識を習得し、企業内部で計画と統制を行う際に、管理会計から得られる情報がどのように役に立っているかを理解できるようになってください。（期末定期試験30%、復習テスト20%）

企業内部で意思決定を行う際の管理会計の役割を理解するとともに、経営情報システムと会計との関係や、管理会計の実務についての知識を習得してください。（期末定期試験30%、復習テスト20%）

（関連する学習・教育到達目標:I）

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	プログラミング環境	2	後	河原和好（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

コンピュータでプログラミングを行う際に必要な知識や技術を学習する。具体的には、UNIX環境の使用方法を学習し、それを用いてプログラミングの基礎知識を学習する。さらに、プログラミングの演習課題を実施することにより、ソフトウェア開発手法の基礎知識についても学習する。

<各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス:プログラミング環境、UNIX、プログラミング言語、ソフトウェア開発について
- 2 UNIXの利用1:UNIXの基本操作、Telnet、基本コマンド
- 3 UNIXの利用2:ファイルとディレクトリ、応用コマンド1
- 4 UNIXの利用3:X Window System、応用コマンド2
- 5 UNIXの利用4:ユーザーの権限とアクセス権
- 6 UNIXの利用5:Windowsとの連携 (FTP)
- 7 プログラミング1:プログラミング言語の諸概念、プログラムの基礎 (入出力、変数、演算)
- 8 プログラミング2:制御構造 (分岐)
- 9 プログラミング3:制御構造 (反復)
- 10 プログラミング4:データ構造 (配列)
- 11 プログラミング5:関数
- 12 ソフトウェア開発手法1:ソフトウェアの仕様作成 (要求分析など)
- 13 ソフトウェア開発手法2:ソフトウェアの設計 (構造化プログラミング、モジュール分割など)
- 14 ソフトウェア開発手法3:ソフトウェアの実装 (コーディングスタイルなど)
- 15 ソフトウェア開発手法4:ソフトウェアのテスト、まとめ
- 16 レポート提出

注) 受講する学生の理解度により講義順序や分量を調整することがある

<成績評価方法>

時間内に行う演習課題及び宿題の評価点の合計を50%、期末レポートの評価点を50%として評価する。

<教科書・参考文献>

- ・ 資料を配付する (学内専用ウェブページから授業前に各自ダウンロードしておくこと)
- ・ 参考文献は講義中に紹介する

<受講に当たっての留意事項>

- ・ 演習課題やレポートでプログラムを作成するので、プログラミングに関する講義や演習を履修済みであることが望ましい
- ・ 連絡事項や追加情報はウェブページに掲載する <http://www.nuis.ac.jp/~kawahara/>

<学習到達目標>

- ・ UNIXシステムを理解し活用する方法を学習する (1~6回の演習課題及び宿題により評価)
- ・ プログラミングの基本について学習し活用できる (7~11回の演習課題及び宿題と期末レポート40%により評価)
- ・ ソフトウェア開発に関する知識と技法を習得する (12~15回の演習課題及び宿題と期末レポート60%により評価)

(関連する学習・教育到達目標:J)



入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	プログラミング技術特論	2	後	石井忠夫（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

#### <授業目的>

ソフトウェア設計における抽象化技術としてオブジェクト指向分析／設計／プログラミングを取り上げ、ソフトウェア開発における一連の流れを解説する。本講義においては、特に、オブジェクト指向分析／設計のための言語としてUML (Unified Modeling Language)、また、オブジェクト指向プログラミング言語としてJavaを用いて説明する。また、実際にJavaプログラミング開発を体験してもらう。

#### <各回毎の授業内容>

1. ソフトウェア開発の入門（ソフトウェア開発の基礎、講義の位置付け）
2. オブジェクト指向の基礎概念（モジュール性、抽象データ型、クラス）
3. オブジェクト指向プログラミング言語とJavaの使い方
4. Javaプログラミング1（制御構造と配列）
5. Javaプログラミング2（クラスの定義、カプセル化、多重定義）
6. Javaプログラミング3（クラスの継承、再定義）
7. Javaプログラミング4（抽象クラス、インターフェイス、例外）
8. オブジェクトの静的モデル（クラス、関連、継承、集約とコンポジション）
9. オブジェクトの動的モデル（ユースケース分析、シナリオ分析、シーケンス図）
10. 酒屋倉庫問題（ユースケース分析とクラス設計）
11. 生成に関するデザインパターン（Factory, Singleton, Prototype）の例
12. 構造に関するデザインパターン（Adapter, Composite）の例
13. ソフトウェア作成演習課題の説明
14. 振舞いに関するデザインパターン（Observer, Chain of responsibility）の例
15. ソフトウェアテストとコンポーネント指向プログラミング
16. 定期試験

#### <成績評価方法>

レポート2回の合計が20点、ソフトウェア作成演習課題1回が20点、および定期試験が60点の合計点で評価する。

#### <教科書・参考文献>

- ・毎回、講義資料を配布する。
- ・参考文献：1) Javaの教科書例えば、高橋麻奈著：「やさしいJava」第4版  
(ソフトバンク出版2009年) 2,730円
- 2) マーチン・ファウラー著、羽生田栄一監訳：「UMLモデリングのエッセンス第3版  
(翔泳社、2005年) 2,400円

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・既に、情報処理演習C1を履修していることが望ましい。
- ・レポート課題の演習時に、自ら積極的に取り組む態度が必要となる。

#### <学習到達目標>

ソフトウェア開発の一連の作業手順を理解し（30%）、また、小規模の課題については自らオブジェクト指向分析／設定を行い（40%）、課題を解決する能力（30%）を習得する。

（関連する学習・教育到達目標：D,J）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	2年	オペレーションズリサーチ1	2	後	白井健二（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

確率現象に対する問題解決能力とコーポレートファイナンスを通して企業価値についての考え方を修得する。将来、企業の財務部門、金融機関などを志望する学生には特に有益な科目を目途とする。

<各回毎の授業内容>

- 1 事象と確率（集合、順列、組み合わせ、確率）
- 2 離散系確率変数と確率関数
- 3 ベルヌーイ分布
- 4 離散系モーメント母関数
- 5 連続系確率変数と確率密度関数
- 6 指数分布
- 7 連続系モーメント母関数と確率変数の変換
- 8 ポアソン分布
- 9 大数の法則と中心極限定理
- 10 正規分布
- 11 金融工学基礎（将来価値、現在価値、金利）
- 12 コーポレートファイナンス（リスクとリターン）
- 13 コーポレートファイナンス（事業価値の計測）
- 14 コーポレートファイナンス（資金調達と企業価値）
- 15 コーポレートファイナンス（企業評価の手法）
- 16 定期試験

<成績評価方法>

期末試験：60％と適時実施する確認テスト：40％の配分で評価する。

<教科書・参考文献>

教科書および配布資料

教科書：コーポレートファイナンス入門，砂川伸幸著，日本経済新聞出版社，  
ISBN 978-4-532-11035-2

<学習到達目標>

- ・ 事象と確率（集合、順列、組み合わせ、確率）を修得する。（定期試験：5％，確認テスト：5％）
- ・ 離散系確率変数と確率関数（含むベルヌーイ分布，離散系モーメント母関数）の問題を解くことを修得する。（定期試験：5％，確認テスト：5％）
- ・ 連続系確率変数と確率密度関数（含む指数分布，連続系モーメント母関数と確率変数の変換）の問題を解くことを修得する。（定期試験：20％，確認テスト：10％）
- ・ ポアソン分布，大数の法則と中心極限定理および正規分布の理解と問題を解くことを修得する。（定期試験：10％，確認テスト：10％）
- ・ 金融工学基礎（将来価値，現在価値，金利）とコーポレートファイナンスを修得する。（定期試験：20％，確認テスト：10％）

# 3・4年システム専門科目（後期）

情報システム開発  
情報セキュリティ  
社会理論と調査法  
生活と法律  
地域情報システム  
ベンチャービジネス  
人工知能  
データベース  
シミュレーション  
ビジネス英語入門2

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授 業 科 目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	3年	情報システム開発	2	後	小林満男 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

コンピュータを活用して企業の情報システム化を進めるための方法論と手順について学ぶ。情報システムの導入計画から、分析、設計、製造、テスト、運用・保守にいたるライフサイクルの中で、どのような仕事が行われるのか、どのような組織でどのような管理が必要なのかを理解する。

演習では提案依頼書に基づき、プロジェクトとして業務の仕組みを調査・分析しコンピュータを活用した情報システム化の提案を行うことを通し、計画的に目標を達成することを体得する。

<各回毎の授業内容>

- 1 オリエンテーション (企業経営と情報システム)
- 2 ソフトウェアエンジニアリング (技術者の仕事、ソフトウェアエンジニアリングの知識体系)
- 3 ソフトウェアの開発プロセス (プロセスとプロダクト、ソフトウェア開発モデル)
- 4 分析と設計 (ソフトシステムアプローチ、構造化分析・設計、モデルとモデリング)
- 5 プロジェクト管理 (モダンプロジェクトマネジメント、PMBOK、PMI、PMP)
- 6 システム提案書の作成方法 (提案依頼書から情報システム化提案書作成までのステップ)
- 7 情報システム開発の実際 (特別講義)
- 8 チーム学習①-1 プロジェクト発足 (方針・役割分担等)[講義:チーム学習の進め方]
- 9 チーム学習①-2 課題、現状分析 [講義:要求分析、要件定義]
- 10 チーム学習②-1 提案システムの検討[講義:処理方式、HW/SW/DBシステムの検討]
- 11 チーム学習②-2 提案システムの見積り[講義:情報収集、各種見積り方法]
- 12 チーム学習③-1 費用対効果の検討[講義:IT投資目的、評価の手法、TCO]
- 13 チーム学習③-2 提案書作成、提案書レビュー、プレゼン準備[講義:品質管理とレビュー]
- 14 チーム学習④-1 提案書プレゼン[講義:提案(書)の評価方法]
- 15 チーム学習④-2 提案書・チーム学習の講評、チーム学習のまとめ
- 16 期末試験

<成績評価方法>

情報システムを開発する方法についての理解度と、コンピュータを使って業務の効率化を行うシステムをモデリングしデザインする能力を期末試験結果で評価する (持込み不可) (60%)。

チーム学習でのチームとしての提案書、プレゼンテーション、プロジェクトマネジメントおよびチームの成果に対する個人の貢献度を相互アンケートなどにより評価する (40%)。

<教科書・参考文献>

教科書:鶴保・駒谷共著「ソフトウェアエンジニアリングの授業1,2」翔泳社 各2050円

参考書:永井昭弘著「RFP & 提案書 完全マニュアル」日経BP社 2205円

<受講に当たっての留意事項>

授業に出席することは単位認定の必須条件です。欠席が1/3をこえた場合は単位認定しません。

<学習到達目標>

情報システムを開発する手順を理解し、開発過程で発生する問題点に対する問題解決の方法等を考えることができる。(40%)

SEやプロジェクトリーダーとして、与えられた制約下においてチームで目標を持って計画的に仕事を進め、進捗の把握、修正するための知識を理解し、説明と実施ができる。(30%)

社会(顧客)の要求を解決するため、問題の認識、制約条件の特定、及び問題を分析しモデル化を行い、情報処理上の要件としてまとめるデザインの基本的な能力が身につく。(30%)

(関連する学習・教育到達目標:E,G)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	情報セキュリティ	2	後	桑原 悟（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

情報セキュリティは、IT社会を支える重要なものであることには疑問の余地がない。この授業では、組織にとって情報セキュリティが必要な背景、情報セキュリティの実現に利用されている個々の要素技術、その技術を具現化した製品の適用と利用技術及び、組織経営にとっての情報セキュリティの位置付けについて学ぶ。

<各回毎の授業内容>

- 1) 授業ガイダンス及びアンケート
- 2) ネットワークとビジネス（情報セキュリティの必要性）
- 3) 組織の置かれた状況
- 4) 情報セキュリティポリシー
- 5) リスクマネジメント1（リスク分析）
- 6) リスクマネジメント2（リスク対応）
- 7) 組織と情報セキュリティ施策まとめ
- 8) 情報セキュリティとITC産業界（外部講師を招聘する場合がある）
- 9) ネットワーク構成とセキュリティ（ファイアーウォール）
- 10) ネットワーク構成とセキュリティ（侵入検知システム、セキュリティ設定、認証、その他）
- 11) ネットワーク構成とセキュリティ（暗号化、公開鍵技術基盤など）
- 12) ネットワーク構成とセキュリティ（コンピュータウイルス）
- 13) 情報セキュリティ監査、脆弱性検査、コンティンジェンシープランなど
- 14) 標準、規格、関連の法令、制度
- 15) 情報セキュリティ技術まとめ
- 16) 定期試験

注）受講する学生の理解度により講義順序（日程）や分量を調整することがある。

<成績評価方法>

定期試験及び任意課題（任意であるので加点のみ最大10%）により評価を行う。

<教科書・参考文献>

{新技術の登場が盛んな分野であるので、授業開始時期に合わせて最適なものを選定し指定する}

<受講に当たっての留意事項>

ネットワークコンピューティングの授業内容の理解及び、数学1、数学2、テレコミュニケーション、組織と経営の単位を取得していることが望ましい。授業に集中している学生の邪魔になる行為をするものは退出させる（出席を認めない）。質問は歓迎するので、遠慮なく質問して欲しい。また、この授業は、学内の環境が整備されれば、e-learningファシリティを用いて行う予定である。

基礎自由科目「数学基礎」の履修を指導された者は、これを履修していることが望ましい。

<学習到達目標>

情報セキュリティが必要な背景、個々の要素技術、製品、利用技術及び、組織にとっての情報セキュリティの位置付けについて理解できるようになることを目標とする。

（関連する学習・教育到達目標：G）

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	3年	社会理論と調査法	2	後	小宮山智志 (情報システム)
21年度以前	専 門					

#### 選択

#### <授業目的>

社会理論と調査法では、社会理論と調査法の「間」を学びます。「間」を埋める方法はいくつに分類可能ですが、私たちは、その中の一つ、以下の3ステップをこの授業で学びます。

ステップ1:インタビューで話を引き出す。

ステップ2:引き出した話から、仮説を立てる。

ステップ3:インプリケーションを考えて、再びインタビューし、仮説を改良する。

社会調査(インタビュー)で現実を調べ(ステップ1)、地域のいまに即した「私たちの私たちに  
よる私たちのための新しい社会モデル(=ステップ2・ステップ3における仮説)」を考えるための方  
法を学びます(行動科学で学んだ「観察・仮説・インプリケーション」を実践)。

情報社会論では「新しい情報社会」について考察しました。この講義では、「新しい情報社会」を築く  
ための具体的な方法論の一部を学びます。あなたの人生を、そしてこれからの社会を真剣に考え、実  
りあるものにしてゆく実践のための講義です。

#### <各回毎の授業内容>

講義は2回1セットで行われます。1回目は、それぞれの課題について個人またはグループで考  
え、2回目は皆さんの考えを紹介しながら解説し、さらにグループワークを行います。

1・2 本講義の目的と射程・クラスでのインタビュー練習

3・4 インタビューを計画・実施しよう(実施は授業外での課題となります)

5・6 仮説を立てよう

7・8 インプリケーションと真理表

9・10 調査を企画しよう

11・12 調査の練習と実践

13・14 報告書のまとめ方

15・16 まとめ

#### <成績評価方法>

成績は、1回～15回の各回の個人ワーク・グループワークによって評価します。オリジナリティ  
を高く評価します。

#### <教科書・参考文献>

教科書:資料を配布します。参考書:以下3点です。

チャールズ・A・レイブ,ジェームズ・G・マーチ(佐藤嘉倫[ほか]訳)『社会科学のためのモデル入門』  
ハーベスト社 1991年

佐藤郁哉『フィールドワーク 書を持って街に出よう』新曜社

ウヴェ・フリック(小田博志[ほか]訳)『質的研究入門<人間の科学>のための方法論』春秋社

#### <受講に当たっての留意事項>

1.体調不良、忌引き、就職活動、部活動などで欠席した場合、第16回の授業での個人・ワーク・グ  
ループワークを行うことで、欠席した分の個人ワーク・グループワークを補うことが出来ます。

2.授業中、私が説明しているときは、誰も話してはいけません。小声でもダメです。私が聞こえな  
くてもあなたの周りの人が迷惑です。個人ワーク・グループワークのときは、どんどん周りの人と話  
してください。友達の意外なアイデアを楽しみ、また友達を楽しませてあげてください。

#### <学習到達目標>

行動科学で身につけた問い・仮説の発見方法と社会調査・多変量解析などの検証方法を扱う講義の  
間をつなぐ講義です。自分の問い・仮説をどのように検証するのがふさわしいか考える力を身につ  
けてください。

(関連する学習・教育到達目標:H)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3 年	生活と法律	2	後	下井康史
21年度以前	専 門					

#### 選択

##### <授業目的>

水や電気と無縁の生活をしている人はいないだろう。ところで、水はどこから流れてくるのだろうか？我々が汚した水はどこに流れていくのだろうか？いずれも市役所、つまり、お役所（=行政）である。他方、電気は電力会社から買っている。これは民間企業だ。しかし、電気料金は、電力会社が勝手に決めてはいけぬ。経済産業大臣のお墨付きが必要である。その結果、市民は、生活に絶対必要な電気を、それほど高価ではない価格で購入できることになる。役所のお墨付きがないと料金を決められないというシステムは、バスやタクシー、JRの料金なども同じである。このように、我々市民の生活は、行政（役所）とのつながりを抜きにして語ることはできない。そして、その内容は、様々な法律によって様々に決められている。この講義では、日頃気がつくことが少ない、市民と行政の関係についての法制度（行政法）を学ぶ。

##### <各回毎の授業内容>

- 1) 行政法とはどんな法律科目か？
- 2) 身の回りの行政活動
- 3) 法とは何か？
- 4) 裁判制度の基本
- 5) 運転免許と運転者の責任
- 6) 三権分立
- 7) 法律と行政
- 8) 行政法の法源
- 9) 行政組織
- 10) 行政法の基本原理
- 11) 行政と市民の法律関係
- 12) 行政手続
- 13) 行政上の強制執行
- 14) 行政訴訟
- 15) 国家補償
- 16) 期末試験

##### <成績評価方法>

期末試験 試験に当たっては、携帯電話・PHS・パソコン等の情報端末を除いた全てのものの持ち込みを認める。

##### <教科書・参考文献>

石川敏行他『はじめての行政法（第2版）』（有斐閣、2010年）

##### <受講に当たっての留意事項>

教科書は毎回持参すること。出席はとらないので、授業中の私語を我慢する自信がない者は、出席を遠慮して欲しい。

##### <学習到達目標>

行政法についての大まかな知識を得ることを目標とする。

（関連する学習・教育到達目標H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	3年	生産情報システム	2	後	佐々木桐子 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

生産情報の処理プロセスを理解し、生産の運用に関わる諸手法を習得する。さらに、シミュレーション手法を活用し、仮想の生産システムを構築し、円滑な生産に向けた提案を行う。

<各回毎の授業内容>

- |                      |                              |
|----------------------|------------------------------|
| 1. 生産情報システムの概要①      | 生産、情報、システム                   |
| 2. 生産情報システムの概要②      | 生産システム、生産情報システム (小テスト①)      |
| 3. 方略的生産計画①          | 需要予測 (小テスト②)                 |
| 4. 方略的生産計画②          | 長期生産計画、利益計画 (小テスト③)          |
| 5. 方略的生産計画③          | 販売計画、設備投資計画 (小テスト④)          |
| 6. 全般的生産計画①          | 短期生産計画① (線形計画法:基礎) (小テスト⑤)   |
| 7. 全般的生産計画②          | 短期生産計画② (線形計画法:応用①) (小テスト⑥)  |
| 8. 全般的生産計画③          | 短期生産計画③ (線形計画法:応用②) (小テスト⑦)  |
| 9. 確認テスト             |                              |
| 10. 確認テストの返却と答え合わせ   |                              |
| 11. 生産スケジューリング       | ディスパッチングルール、ロット生産 (小テスト⑧)    |
| 12. シミュレーション・Arena概要 | SIMAN/Arenaの変遷、用語の説明 (小テスト⑨) |
| 13. シミュレーション演習①      | 生産システムのシミュレーションモデルの構築 (基礎)   |
| 14. シミュレーション演習②      | 生産システムのシミュレーションモデルの構築 (応用)   |
| 15. シミュレーション演習③      | 生産システムのシミュレーションモデルの構築 (発展)   |
- (レポート課題)

<成績評価方法>

- ・ 毎回の小テスト:20% (学習到達目標①、および学習到達目標②に相当、比率①:②= 50:50)
- ・ 確認テスト:20% (学習到達目標②に相当)
- ・ レポート:60% (学習到達目標①、および学習到達目標②に相当、比率①:②= 50:50)

<教科書・参考文献>

- ・ 教科書:「生産情報システム 講義ノート」を使用する。
- ・ 参考文献
  - ・ 人見勝人著 『新・生産管理工学』 コロナ社、1997。
  - ・ 高桑宗右エ門監訳 『シミュレーション』 コロナ社、2005。

<受講に当たっての留意事項>

- ・ 各自、電卓を持参すること。

<学習到達目標>

- ① 企業における生産の運用全般を理解し、現実の問題へと応用することができる。
- ② 運用に関わる諸問題を発見し、解決する能力を身につけることができる。

(関連する学習・教育到達目標:E,I)



入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	ベンチャービジネス	2	後	吉田 博（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

**<授業目的>**

時代の変化に伴い、次々と誕生する革新的事業「ベンチャービジネス」について、その誕生の背景、事業を起こす起業家の特性、成功させるための支援制度、資金調達の仕組み、関連する法律や課題等について学習する。さらに、ベンチャービジネスを立ち上げるための事業プランの作成方法を学習し、自ら事業プランを実際に作成し、情報収集力や事業企画力を修得する。

**<各回毎の授業内容>**

- 1 ベンチャービジネスとは 定義、歴史・分類
- 2 ベンチャービジネスを生み出す背景、ベンチャービジネスの意義と課題
- 3 起業家の輩出 起業家の特性・能力・資質 現状と課題
- 4 新事業の創造 ベンチャービジネスの成功要因
- 5 ベンチャービジネスに対する支援制度・機関・システム、関連法律
- 6 資金調達 種類・方法、ベンチャーキャピタル
- 7 ソーシャルベンチャー、NPO
- 8 ベンチャービジネスの事例研究
- 9 ベンチャービジネスの事例研究
- 10 ベンチャービジネスの事例研究
- 11 事業プランの構築、情報収集
- 12 事業プランの作成
- 13 事業プランの作成
- 14 事業プランの作成
- 15 事業プランの発表
- 16 事業プランの発表

**<成績評価方法>**

成績は①毎回出席時のレポート（基礎知識・発想力）を30%、②課題レポート、事業プランの作成・発表（情報収集・構想・企画・プレゼンテーション力）を70%

**<教科書・参考文献>**

毎回資料を配布する。必要に応じ、ビデオ、インターネット、図書を使って具体的な事例を紹介する。

事例やテーマに応じて、参考となる文献・図書の情報源を紹介する。

**<受講に当たっての留意事項>**

取上げる事例について、インターネット、新聞・雑誌等で自主的に情報を収集し、理解するように。

グループ（2～3人）で事業プランを作成し、発表する。

**<学習到達目標>**

新たな事業、ベンチャービジネスや起業家の特徴と生み出す背景を理解する基礎知識を身につける（毎回出席時のレポート）。課題レポート、事業プランの作成を通じ、情報を収集する能力、発想する能力、構想・企画する能力を身につける（課題レポート・事業プランの作成）。

（関連する学習・教育到達目標:I）

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	3年	人工知能	2	後	中田豊久 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

人工知能とは、コンピュータに人間と同様の知能を持たせようとする技術である。コンピュータに知能を持たせるためには、人間の知識をコンピュータに覚えさせ (知識表現)、それを活用する方法 (推論) を実装する必要がある。本講義ではこれらの技術について学ぶ。

<各回毎の授業内容>

1. 人工知能入門
2. 問題解決 (問題の表現)
3. 探索 (横型、縦型探索)
4. 探索 (分岐限定法、山登り法)
5. 探索 (最良優先探索)
6. 探索 (A\*アルゴリズム)
7. 記号論理 (命題論理) (レポート課題1)
8. 記号論理 (恒真、恒偽)
9. 記号論理 (命題の標準化)
10. 記号論理 (意味木)
11. 記号論理 (推論)
12. 記号論理 (述語論理)
13. 導出原理
14. 論理による問題解決 (解の抽出)
15. 論理による問題解決 (フレーム問題) (レポート課題2)
16. 定期試験

<成績評価方法>

定期試験50%、レポート課題50%の比率で評価する。

<教科書・参考文献>

教科書:「新 人工知能の基礎知識」、太原育夫、近代科学社、ISBN978-4-7649-0356-2  
 その他に講義資料をホームページによって配布する。

<受講に当たっての留意事項>

情報論理、情報処理演習C1、C2を履修していることが望ましい。

<学習到達目標>

- \* 記号論理によって問題を定義し、解決する方法を理解する (定期試験30%、レポート課題20%)。
- \* 探索の手法を理解し、プログラムによって実現する技術を習得する (定期試験20%、レポート課題30%)。

(関連する学習・教育到達目標:J)

入学年度 区分	授業科目 区分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	データベース	2	後	槻木公一（情報システム）
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

コンピュータによる情報技術として応用範囲の広いデータベースについて、利用される技術や仕組み、概念、モデルなどについて学習する。できるだけ理解を促すために事例や例題を多く使用する。特に関係データベースを中心に説明し、主キーや正規化を具体的に理解して、データベース設計、利用における基本技術を習得する。

<各回毎の授業内容>

- 1 データベースの基本概念
- 2 情報の表現と概念モデル
- 3 ER図から関係データモデルへの展開（練習課題レポート）
- 4 データモデルの種類と構造
- 5 関係データモデルの定義と表現（練習課題レポート）
- 6 非正規形リレーションと正規化（練習課題レポート）
- 7 リレーションスキーマ、キーの概念と主キー
- 8 一貫性の保証とキー制約
- 9 関数従属性（練習課題レポート）
- 10 本質的な関数従属と導出された関数従属
- 11 高次の正規化の意義と情報無損失分解
- 12 1NF,2NF,3NFの定義と高次正規化の方法
- 13 高次の正規化事例（練習課題レポート）
- 14 RDBMSとデータ操作
- 15 リレーションの集合演算（練習課題レポート）
- 16 期末試験

<成績評価方法>

- ・成績は期末試験結果（100%）で評価する。試験は各講義に沿った問題を数題出題し、全問の解答を求める。理解を促すためのレポート提出を授業中数回実施する。期末試験結果の評価が低い場合は提出レポートの評価を加味する。（最大20%）

<教科書・参考文献>

- ・参考文献は初回の講義の中で紹介する
- ・適時、プリントを配布する。

<受講に当たっての留意事項>

- ・配布したプリントを授業中に充実すること。そのままでは理解できない。

<学習到達目標>

- ・情報システム領域の基本的な専門技術として、データベースの概念およびERモデルを理解する。（期末試験25%）
  - ・関係データモデルの基本的を理解する。（期末試験25%）
  - ・キーの概念、正規化の意義と方法を理解し、具体的なデータベース設計への展開方法を習得する。（期末試験40%）
  - ・データ操作の基本となる集合演算を理解する。（期末試験10%）
- （関連する学習・教育到達目標：E, J）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	3年	シミュレーション	2	後	白井健二 (情報システム)
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

確率現象に対する問題解決能力と金融工学を通して金融商品の定量的な考え方を修得する。将来、企業の財務部門、金融機関などを志望する学生には特に有益な科目を目途とする。

<各回毎の授業内容>

- 1 事象と確率 (集合, 順列, 組み合わせ, 確率)
- 2 確率変数と確率分布
- 3 期待値と分散
- 4 ベルヌーイ分布と二項分布
- 5 ポアソン分布
- 6 連続系確率変数と確率密度関数
- 7 一様分布
- 8 指数分布
- 9 正規分布
- 10 ポートフォリオ選択理論
- 11 ポートフォリオの具体例
- 12 金融工学 (2項1期間モデル)
- 13 金融工学 (デリバティブとは)
- 14 金融工学 (ブラック・ショールズのオプションプライシング)
- 15 金融工学 (不確実性分析)
- 16 定期試験

<成績評価方法>

期末試験:60%と適時実施する確認テスト:40%の配分で評価する。

<教科書・参考文献>

資料を配布する。

<学習到達目標>

- ・ 事象と確率 (集合, 順列, 組み合わせ, 確率) を修得する。(定期試験:10%, 確認テスト:10%)
- ・ 確率変数と確率分布, 期待値と分散およびベルヌーイ分布と二項分布を修得する。(定期試験:10%, 確認テスト:10%)
- ・ 連続系確率変数と確率密度関数, 一様分布, 指数分布, 正規分布の修得。(定期試験:20%, 確認テスト:10%)
- ・ ポートフォリオ選択理論, ポートフォリオの具体例および金融工学 (2項1期間モデル, デリバティブとは, ブラック・ショールズのオプションプライシング) の修得。(定期試験:20%, 確認テスト:10%)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	ビジネス英語入門2	2	後	グレゴリー デイック
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

Students will be exposed to a variety of real-world business and workplace situations in an interesting and enjoyable way.

<各回毎の授業内容>

1. Orientation
2. Office Role Play & TOEIC practice
3. Business Technology
4. Office Role Play & TOEIC practice
5. Workplace
6. Office Role Play & TOEIC practice
7. DVD: Office Culture in England
8. Mid-term Test
9. Job Hunting
10. Interview Role play
11. Office Presentations
12. DVD: Office Culture in America
13. Future Plans
14. Christmas in an Office
15. Business Party
16. 定期試験

<成績評価方法>

Attendance & Class Participation: 50%, Tests: 50%.

<教科書・参考文献>

The teacher will provide teaching materials every week. There will be no textbooks.

<受講に当たっての留意事項>

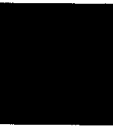
Students will be expected to attend class regularly and participate fully.

<学習到達目標>

Students will learn business English that they can use both in Japan and abroad that will help them in their future careers.

# 文化演習・ゼミナール

基礎演習 1  
基礎演習 2  
国際研究ゼミナール 1  
国際研究ゼミナール 2  
国際研究ゼミナール 3  
国際研究ゼミナール 4  
国際研究ゼミナール 5  
国際研究ゼミナール 6



安藤 潤 (あんど う じゅん)

●教員の研究テーマ

大学院時代は80年代のアメリカ経済を中心に、軍事支出が経済にどのような影響を与えたのかについて研究していました。最近では労働と家事・育児の時間配分、結婚と女性の労働供給、結婚の経済分析といった家計経済学も研究しています。

●新入生への一言

入学おめでとうございます。昔、僕が小学生のころ、「6・3・3で12年」という学習机のCMがありました。僕の場合、振り返れば6・3・3の後にさらに2・4・2・6が付け加わります。まるで昔の大阪市内の電話番号みたいですね(と言ってもわからないか)。長いこと学生をやっていましたが、学生生活は本当に楽しかったです(30歳まで学割を使いました)。皆さんも4年後卒業するときに「楽しかった」と思ってもらいたいと思います。ただ、「楽しさ」といってもいろいろな「楽しさ」があります。大学生としての本当の「楽しさ」を見つけてください。

●ゼミテーマ・タイトル

日本と海外の社会：「結婚」と「食」を中心に

●内容

前期においては、4年間この大学でゼミを受ける基本的な姿勢、技術、マナーを身につけてもらいます。具体的には、図書館の利用法、ノートの取り方、文章の読み方、文章の要約の仕方、小論文の書き方、レジュメの作成、参考文献・資料の使い方、プレゼンテーション、司会進行の方法などです。テキストは決めません。主に新聞記事を用います。

後期は、前期で身につけた技術を用いながら、私たちの「食」をテーマにした文献を読んだりビデオを見たりして、全員で議論したいと考えています。なお、この後期のテーマは2年の「国際研究ゼミナール1」、「国際研究ゼミナール2」でも扱います。時間に余裕があれば「国際研究ゼミナール1・2」や「国際研究ゼミナール3・4・5・6」のゼミ紹介も読んでみてください。もう少しイメージがわくと思います。

ゼミは教員が主役ではありません。皆さんが主役です。高校までの授業のように、あるいは大学での講義と違って板書されたものをノートに書き写している受動的な姿勢ではゼミにはなりません。ゼミ以外の空いた時間にいかに関心を持って調べ、準備するかが重要になってきます。つまり、皆さんが積極的かつ主体的に取り組まなければゼミは成立しません。教室を沈黙が支配するだけです。特に後期については教員はサポート役に回ります。

●使用予定テキスト

ありません。基本的に図書館でコピーしてもらいます。

●ゼミの進め方

前期は基本的な技術やマナーを身につけるまでは、どちらかといえば講義に近いかもしれません。前期の途中からそれを実践の場で生かすべく、テキストを選定し、レポーターにレジュメを作成してもらい、ゼミ員と教員に配布・報告してもらいます。担当者以外の参加意識を高めるために全ゼミ生共通の課題を課し、必ず提出してもらいます。そのうち代表者をコメンテーターとして指名し、同じ資料をもとにしてコメントをしてもらい、後に議論に移ります。担当者はさらにレジュメの中でそれに対する反論や問題提起、図書・資料による下調べをもとにした補足的説明を行ってもらいます。後期は学生に司会進行も行ってもらいます。

●成績評価基準

出席50%、ゼミでの発言や取り組む姿勢(レジュメの作成など)30%、課題の提出20%。ゼミ中の態度や遅刻があまりにひどい場合、前期・後期のタームレポート未提出者には、たとえ欠席がなくとも単位を与えません。原則として欠席は認めません。

●ゼミ選択上のアドバイス

国際交流インストラクターの活動で世界の食糧問題を扱いたい人や、「食」を通じて新潟、日本、アジア、世界の現状に目を向けたい人はぜひ。

白井 陽一郎 (うすい よういちろう)

●教員の研究テーマ

EU (欧州連合) の政治がメイン、少しだけ東アジアの地域主義。事例は国家間共同体の環境政策で、この領域にしぼって、国家間共同体のガバナンスとデモクラシーのあり方を批判的に検討しようとしてきた。いまは少しずつ、平和活動(peace operations)について勉強をはじめていて、EUやASEANといった国家間共同体がどの程度、国際社会で規範を突きつけ活用するパワーになりえるのか、想いをめぐらせている。

●ゼミテーマ・タイトル

国際政治学へのいざない

●内容

このゼミでは、国際政治学について勉強していくための準備トレーニングを行う。なぜ国際政治学なのか。絶対に何が何でも国際政治学でなくてはいけない理由など、もちろんない。たまたまこのゼミでこれを取りあげる、というにすぎない。そもそも担当教員の私からして、国際政治学が好きだ、というわけではない。正直言って、実は嫌いな部類に入りたいほどだ。世界史の教科書を思い起こして欲しい。出てくるのは戦争と支配・被支配の話ばかり。国際社会における国家と国家の関係について勉強していると、人間がいかに支配をめぐる戦争ばかり繰り返してきたか、いやというほど思い知らされる。世界史や政経の先生が黒板に書き連ねる授業内容は、シンプルに見直せば、ようするに殺し合いの歴史に過ぎない。こんな分野の学問、面白いだろうか。人間は戦争で互いに殺し合うために生まれてきた実に汚れた種族であり、存在に値しない滅亡すべき最低の生物であると、自虐的な結論を出したくなる。ところが、だ。人間はまたポジティブなユートピアを語る性向も持ち合わせていて、大量殺戮の歴史に終止符を打つための本来あるべき国際社会の秩序のあり方について、これまでに実に多くの知的営為が積み重ねられている。戦争と支配・被支配を語る国際政治学のもう一つの姿が、この平和へ向けた理念や価値や規範を語る知的営為の体系である。この面の国際政治学は、芳醇な知的魅力にうち満ちている。二つの顔をもった国際政治学、そのスリリングな緊張関係に刺激を受けるのも、大学という場の魅力のひとつだと思う。

●ゼミの進め方

1年を通じて次の6つの課題に取り組む。

課題1 ポジティブなユートピアについて考えてみる。

テキスト：ミヒヤエル・エンデ『オリーブの森で語りあう』前半部分90頁ほど。

課題2 第二次世界大戦後の世界史についてイメージを作っておく。

テキスト：山川の『世界史』の教科書、NHKスペシャル(DVD)『映像の世紀』および『キューバ危機』

課題3 グローバル化時代の地球的問題について把握しておく。

テキスト：シュミット『ヨーロッパの挑戦』第1章。

課題4 平和について考えてみる。

テキスト：最上敏樹『いま平和とは』第4章。

課題5 情報革命による国際政治の変容について理解を深めておく。

テキスト：ジョセフ・ナイ『国際紛争』第8章。

課題6 国際政治が向かうべき方向について考えてみる。

テキスト：ジョセフ・ナイ『国際紛争』第9章。

以上の課題ごとに教員が提示する問いについて学生が報告を行い、また手分けしてテキストを輪読、理解を深めていく。課題の報告もテキストの輪読も、パワーポイントを利用してプレゼンしてもらう。プレゼンに慣れ自分なりの表現スタイルを確認していくことも、ゼミの目的のひとつにしたい。

●成績評価基準

課題ごとのプレゼンと4000字ほどのターム・レポートで成績を評価する。

●ゼミ選択に際してのアドバイス

国際社会で貫徹されるべき理念や価値や規範とは、どのようなものでなければならないのか。この問いを問うのは実にスリリングな経験なんだと、そう実感できる感覚を身につけることができれば、これまで見えなかったたくさんの大切な現実が、あらたにありありと見えてくるはず。大学での勉学を通じて、あたらしい現実の開拓を進めたい。



小澤 治子（おざわ はるこ）

●教員の研究テーマ

ソ連とロシアの外交を東アジアの国際関係の中で考察することが、私の主たる研究テーマです。特に20世紀末のソ連の改革、続くソ連の解体を経て、ロシア外交や国際政治がどのような特色を示すようになったのか、また今後の日ロ関係はどうあるべきかに関心を持って研究を進めています。

●新入生への一言

自分の心を偽らない素直さ、そして勇気を持ってほしいと思います。それはわがままや自分勝手という意味とは違います。たとえ自分の意見が少数であってもそれを主張するには、時には勇気が必要です。皆さんには是非そうした勇気を持ってほしいと思います。

●ゼミテーマ・タイトル

「政治、経済、社会の動きに関心を持とう」

●内容

一年生の皆さんのほとんどは未成年だと思います。つまり選挙権をまだ持っていません。では20歳になって国や地方の選挙が行われるとき、あなたは投票に参加しますか。最近の日本の選挙における投票率の低さには、ちょっと首を傾げてしまうことが多いです。特に若者の投票率が低いと言われるのは残念なことです。その原因の一つは、若い皆さんの政治や経済、社会に対する関心を育てる機会が少ないことにあるのでしょうか。

そこでこのゼミでは、政治、経済、社会の動きに大に関心を持って、時には怒り、熱くなって議論したいと思います。やり方は、次ぎのようなことを考えています。まず前期（基礎演習1）のゼミでは、政治、経済、社会問題を中心にそれぞれが関心を持った記事を選んで、毎回数名に発表してもらい、それについて皆で意見を出し合います。後期（基礎演習2）は、前期のゼミで各自が関心を持った内容をもう少し掘り下げて調べ、まとまった発表を各自に行ってもらい、それについて全員で議論しようと思います。

●使用予定テキスト

特に決まったものはありません。授業の中で必要に応じて参考文献を紹介します。

●ゼミの進め方

毎回の授業で2人から3人程度の発表者を決め、発表について皆で意見を出し合います。また司会についても、順番にゼミの受講者に担当してもらいます。

●成績評価基準

①欠席、遅刻をしないこと。②授業時間中の発表をきちんと行うこと。③提出物（レポートなど）を期日までに提出すること。④授業中積極的に発言し、議論に参加すること。以上4点を総合的に判断して、成績をつけます。

●ゼミ選択に際してのアドバイス

ゼミの内容はもちろん重要ですが、担当教員との相性も大事です。可能な限り多くの教員と実際に話をして、選択することを進めます。

小山田 紀子（おやまだ のりこ）

●教員の研究テーマ

北西アフリカの旧フランス植民地であった地域（チュニジア・アルジェリア・モロッコ）の近現代史を勉強しています。この地域は、アラブ・イスラーム世界に含まれますので、中東やイスラームについても研究しています。今は、特にヨーロッパ（フランスやドイツ）のイスラーム系移民問題に関心を持っています。

●新入生への一言

大学という恵まれた自由な環境の中で、いろいろなことを学び考えて、自分の生き方を模索して下さい。先生や友人との交流を大切に充実した4年間を過ごしてほしいと思います。基礎ゼミもそういう場にしたいと思います。

●ゼミテーマ・タイトル

「国際社会を見る眼を養おう」

●内容

1990年代以降、世界的なイスラーム復興運動が注目を集める中、2001年の9.11事件（アメリカの同時多発テロ）が起きました。グローバル化の進む今日の世界では、このような大事件は直ちに日本にも影響を及ぼします。なぜ、どのようにしてこのようなことが起こるのか、を考えていくために、世界の動向を特に中東や第三世界（発展途上諸国）の側から検討していきたいと思っています。

●使用予定のテキスト

授業の第1回目に文献リストを配布し、ゼミ学生の関心に沿ってテキストを選びます。例えば、入江昭『平和のグローバル化』（日本放送協会）、小熊英二『日本という国』（理論社）、スーザン・ジョージ『なぜ世界の半分が飢えるのか』（朝日新聞社）等を考えていますが、テキストは未定。

●ゼミの進め方

第1回目のゼミでテキストを決定し、これを全員で輪読します。毎回報告者は、担当の箇所を読んでレジュメを作成してきて発表します。それに対して、他の学生も質疑応答して議論に参加します。テキストを読み終えたらレポートを作成してもらいます。これらを通して、本の読み方、議論の仕方、レポートの書き方など、基本的な勉強の方法を学びます。

●成績評価基準

ゼミでの発表の内容、レポート、出席状況とゼミ活動に積極的に参加しているか等により評価する。

●ゼミ選択についてのアドバイス

大学生活をスタートさせる大事なゼミです。欠席は認めません。

熊谷 卓（くまがい たく）

●教員の研究テーマ

一応「法律学」について勉強をしています。

●新入生への一言

皆さんもご存知のように大学にはゼミという時間があります。ここでの主役は先生ではなくて参加しているすべての学生です。ですから、ゼミの時間を楽しくするもしないも、主役である皆さんにかかっているといってもよいでしょう。ゼミでどうか「スター」になってください。

●ゼミテーマ・タイトル

「法律学ってけっこう役に立つ!？」

●内容（目的やねらいも含む）

賃貸借契約、遺言、黙秘権、表現の自由、条約、ということばに共通するものはなにか、と問われれば、なんと答えるでしょうか。「法」とか「ルール」という答えを想定することができるとは思いませんか。より細かく見れば、それぞれ民法（借地借家法）、刑法（刑事訴訟法）、憲法、国際法といった具合です。そして、わたしたちは実は様々な場面でこの法と関わっているということが出来ます。

ところで、ほとんどのみなさんは民法そして刑事法的にみて、「未成年」の年に1年生ゼミナールに参加することになります。2年後には、およそすべての法律の適用対象となってしまいます。原則として、もう少年（少女）Aではありません。その前にできるかぎり、法というものの考え方に接しておくことは決して無駄ではないとは思いませんか。

そこで、このゼミナールは、各ゼミ生の法的な思考をより深めさせることを目的とし、また目標としています。具体的にいうと、死刑廃止の是非、男女区別の合法性（レディース・デイとは男性に対する差別か、適法か）、美容整形に納得がいかないときの慰謝料、同性間の結婚、児童の権利といったトピックや問題について法というフィルターを通して検討してゆきたいと考えています。

●使用予定テキスト

松井ほか『初めての法律学』有斐閣

『わたしたちと法』現代人文社

円道祥之『空想科学裁判』宝島社

など

●ゼミの進め方

まずは、指定したテキスト（文献）をゼミ生全員で読み、それについて議論をしてもらおうということを考えています。その後、各ゼミ生が自分で選択したテーマを素材に、報告をし、それについてゼミ生全員で検討するというかたちでゼミを進めます。レポートの提出を求めることも考えています。

●成績評価基準

報告やレポートの良し悪し、ゼミへの参加度（単に出席しているという意味ではない）を基準に成績をつけます。

●ゼミ選択上のアドバイス

上にみた「内容」でとりあげたような諸問題に関心がある学生の参加を求めます。これらの問題について自分なりの意見をしっかりと提示できるよう、十分なりサーチをし、その上でなにか問題を解決・調整してやろうというやる気をもった学生を歓迎します。

佐々木 寛 (ささき ひろし)

●教員の研究テーマ

平和学・地球政治学という新しい学問の枠組みで、戦争・環境破壊・貧富の格差などの国境を越えた「地球的問題群」の実実を全体的に把握し、この問題にたちむかう社会運動や国際組織の活動について研究しています。

●新入生への一言

大学はこれまでのつまらない「勉強」ではなく、よりよく生きるために必要となる「学問」を自分の思うまま存分にできることです。「勉強」が苦手だった人も、(むしろそういう人こそ!)「学問」のたのしさを是非味わってみてください。そのためのお手伝いができればと思っています。

●ゼミテーマ・タイトル

「知の旅への誘い」

●内容

身の回りのできごとや日常の生活を掘り下げてゆく中から世界へと通じる回路を発見していくことができるような本当の意味での社会科学的センスを、それぞれが自分なりに獲得することを目標にします。新しい「知」と出会い、それに触発されて思考し、またそれを表現し、他者との相互対話を通じて自分自身が自由になってゆく、そんな「学問」の楽しさを分かち合いたいと思います。それゆえテキストは、「面白い」と思われるものならジャンルも年代もこえた多種多様なものを用います。高校や予備校までの、あるいは家庭や世間一般の知的なしがらみをいったん解きほぐしてみることで、専門知識を蓄積する以前の柔軟な知的土壌をそれぞれが作りあげることを目指します。

●使用予定テキスト (一例)

- ◎C. ダグラス・ラミス『考え、売ります。』平凡社 (ファンタジー)
- ◎黒澤明『羅生門』(映画)
- ◎鷲田清一『ちぐはぐな身体』ちくまプリマーブックス (哲学)
- ◎井上ひさし『父と暮らせば』(演劇)
- ◎田口ランディ『根をもつこと、翼をもつこと』晶文社 (エッセイ)
- ◎A. スピーゲルマン『マウス』晶文社 (コミック)
- ◎阿部謹也『自分のなかに歴史をよむ』ちくまプリマーブックス (自伝)
- ◎G. オーウェル『1984年』ハヤカワ文庫 (小説)
- ◎S. アレクシェービッチ『チェルノブイリの祈り』岩波書店 (ルポルタージュ)
- ◎中江兆民『三酔人経綸問答』岩波文庫 (政治思想) など。

●ゼミの進め方

基本的にさまざまなテキストを共同で読みこんでいきます。その他、ゼミ合宿 (おそらく原子力発電所の見学に行きます!) や、戦争経験の聞き取り調査なども予定しています。さらに具体的な運営方法に関しては、参加者と相談して決めます。

●成績評価基準

ゼミへの参加態度や貢献度 + レポートの出来。

●ゼミ選択に際してのアドバイス

佐々木ゼミの参加者は以下のいずれかを条件とします。

1. ゼミという「社会」を自分で作りあげることに意欲のある学生。
2. 価値あるものには苦勞をいとわない学生。
3. おしゃべりが好きな学生。
4. 知的好奇心が旺盛な学生。

●ゼミテーマ

「生徒から学生へ」

みなさんは、すでに「学生」であることを要求されています。

もう「生徒」ではありません。

「生徒」のままでは授業をはじめとして大学のさまざま、かつ特有のしくみについていくことは難しくなります。私のゼミでは、この1年間で「生徒から学生へ」を目標に、これからみなさんが「学生」として大学でしっかり学んでいくうえで必要となることをいくつかの視点から考え、具体的に取り組んでみようと思います。

●どんなことをするか

I. 導入

1. 大学進学 of 動機を確認してみよう

・なぜ大学に進学したの？ ・大学生活。最も力を入れて取り組みたいことは。

2. 大学を知ろう

・大学とは何か ・大学とは何を教えるところか、何を学ぶところか。  
・大学教員とは ・本学の専任教員、非常勤講師

3. 大学で学ぶことの意義

・「生徒」と「学生」 ・「高校までの学び」と「大学での学び」

II. 取り組み

ここでは、大学の「学生」になるために必要となる「学び方」について、主に技術的な視点から、その方法やコツ、ルールとはどういうものかを考え、実践していきます。取り上げるのは以下の6項目です。学びや学問に技術（スキル）などいらないと考える人もいるかもしれませんが、それは大きな誤解です。技術は学んでいく上での土台です。

1. 基本編

1) 聴く・・・「聞く」のではなく「聴く」

2) 読む・・・マンガをよむのとは違う。「読む」とは考えること

3) 考える・・・覚えることではない。「なぜ」「どうして」それが考えることの基本。

4) 調べる・整理する・・・「なぜ」「どうして」自分だけで考えたってわかるはずがない。そこで調べる。調べただけじゃ意味がない。調べたことを整理する。整理が次の疑問を生み出す。世の中、問われるのは情報整理能力。

2. 応用編

1) まとめる・書く（レポート）・・・整理したことをまとめる。「まとめる」とはどういうことか。文章とはどのようなものか、どう書くものか。

2) 表現し、伝える（プレゼンテーション）・・・人を説得させるためにはどうするか。最後は全員パワーポイントにまとめて発表会。

●成績評価基準

原則全回出席。1回1回の取り組み姿勢。レポート、プレゼンテーション。

高橋正樹（たかはし まさき）

●教員の研究テーマ

わたしの研究分野は世界の不平等を考える国際研究とタイをはじめとする東アジア研究です。自分の研究によって、日本に住むわたし達の生活が、東アジアを初めとする世界中の人々の生活と深い関係があることを明らかにしたいと考えています。

2011年3月11日から、私にもう一つの研究テーマができました。原発事故が発生し日本に人間が住めない土地ができ、さらに多くの人々が長期間にわたり放射能汚染におびえることになりました。これを引き起こし、なお原発を維持しようとする日本社会の病理を徹底的に解明することが新しい関心事です。

●新入生への一言

新潟国際情報大学（略称、国情大）への入学、おめでとう。いま、皆さんは大きな希望と不安を抱いていると思います。いまのこの新鮮な気持ちを大切に、感動と情熱にあふれた有意義な4年間を過ごしていきましょう。

3・11後の社会に無関心であってははいけません。

●ゼミテーマ・タイトル

感動と情熱のワクワクするゼミです。

●内容

新聞や書物を通じて、現代社会の諸問題に対する関心をもってもらいます。前期は原発事故関連の論文や本を読みながら議論していきましょう。後期は日本で貧富の格差が拡大していることに注目します。さらに、それらの諸問題をどのように考えたらいいのかという視点から、大学の外や教室や図書館で問題について調査研究をしましょう。そして、最後に授業の成果として個人研究を発表し、研究レポートを作成してもらいます。学ぶということは、疑問をもちそれについての答えを探すことです。学ぶことは本来楽しいことです。そのことを感じ取ってください。

同時に、大学生活を生きぬき人生を生きぬくための能力である本の読み方、文章の書き方、議論の仕方、さらにはコンピューターの利用といった「学習作法」をしっかり身につけてもらいます。

●使用テキスト（一例です）

山田昌弘『希望格差社会』筑摩書房、2004年。

原発と原発事故に関する多数の書籍・論文

●ゼミの進め方

毎回の授業では、議論を重視します。授業では全員参加の議論をおこないます。授業では、毎回順番の学生が司会者となり授業を進めてもらいます。わたしの出番は、司会が司会の役割を十分に果たさない時、議論の内容が支離滅裂な時、そして議論の最後のまとめの時に限定します。

授業の最初に1分間スピーチをやり、人前で要領よく話す練習をします。

●成績評価の基準

毎回、出席さえしてくれば大丈夫です。

●ゼミ選択に対してのアドバイス

充実したゼミですので、少しでも学習意欲のある人の参加を待っています。

松尾 瑞穂 (まつお みずほ)

●教員の研究テーマ

文化人類学を専攻しています。文化人類学とは、自分と異なる文化や社会に生きる人々について学び、究極的には他者理解を目指す学問です。私は特に、インドを調査地として、女性のリプロダクション（出産や避妊、不妊など文字通りの人と社会の「再生産」にかかわること）の近代化と変容について研究をしています。

●新入生への一言

入学おめでとうございます。大学4年間は長いようで、終わってしまえばあっという間です。昨今の社会状況を考えると、せっかく大学に入学したのに、何かに追われるように、もう次のことを考えなければならないという不安もあるでしょう。それでも、この4年間で何を学び、何をしたのかということは、みなさんの今後の人生にも大きな意味を持っています。どうかこの贅沢で潤沢な「はざま (in-between)」の時間を大切にしてください。

●ゼミテーマ・タイトル

私たちの身近にある「異なるもの」と出会う

●内容

自分が今まで知らなかったもの、出会ったことのない人、経験したことがないこと。よくよく周りを見てみると、世界は「異なるもの」であふれています。昔の人はそうしたことを「異界」「異人」と呼んできました。それは日常生活とは違う論理やルールが適用される存在ですが、じつは異界には異界の、異人には異人の論理とルールがあります。本ゼミでは「異なるもの」を学ぶことを通して、私たちの固定観念や既成概念を打ち破り、「他者」への想像力を鍛えることが目標です。とはいえ、まずは図書館での情報収集の仕方、文献の提示法、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方など、これから必要とされる学問的営みの基礎を徹底的に習得します。その後で、日本社会における「異なるもの」を、私たちにとって身近な外国人移民やエスニック料理、国際結婚を事例に考えていきます。また、その際には映画などの映像資料も授業に活用したいと思っています。

●使用予定テキスト

みなさんと相談しながら、興味のあるものから読んでいきたいと思っています。

(一例)

青木保2001『異文化理解』、岩波新書。

嘉本伊都子2008『国際結婚論?!現代編』、法律文化社。

「特集 日本で暮らす外国人」『アジア遊学』117号、勉誠出版。

川田順造(2008)『もう一つの日本への旅-モノとワザの原点を探る』中央公論新社

石毛直道(2004)『食卓の文化誌』岩波現代文庫

●ゼミの進め方

最初はひとつのテーマを選んで、グループワークを通してみんなで調べ、発表するというを通して、大学でのゼミというものがどんなものか、慣れていってほしいと思います。新聞、エッセイ、論文などを使って、読む、調べる、書く、まとめる、発表する、という一連の流れを身につけましょう。特に書くということにはいろいろなルールがありますので、それらを早い段階からきちんと身につけてもらいたいと思っています。後半は、グループワークのほかに、決められた文献を全員が輪読します。また、文献発表のほかに、各自が関心テーマに基づいて調べ物をしてそれぞれの報告をします。

●成績評価の基準

授業への貢献度(70%)、レポート(30%)

●ゼミ選択に際してのアドバイス

外国の生活や文化に興味がある、大学生になったらぜひ外国を旅行してみたい、あるいは日本のなかにある外国やエスニックなものを知りたい!といった好奇心がある方を大歓迎します。日常生活のなかで感じる疑問や不満をトコトン考えたい、と思っている方も同様です。

安藤 潤 (あんど う じゅん)

●ゼミテーマ・タイトル

家庭から考える日本と世界の経済と社会

●内容

このゼミでは、結婚、家事・育児、生活利用時間、食生活、余暇と労働といった問題について、新聞や雑誌の記事を用いつつ、時に他国と比較しながら世界とつながる日本の経済と社会について考える。たとえば「婚活」はなぜ起きているのか、人はなぜそこまでして結婚したいのか、既婚男女の生活利用時間の配分をどう考えるか、なぜそのような配分が起こるのか、回転寿司で比較的安くお寿司を食べられることに問題はないか、日本食が世界に普及していることと背景とその問題点、世界の食料安全保障問題とは、「食育」が語られることの本質は何だろうか、日本人にとっての労働とは何だろうか、今の働き方を見直す必要はないか、等である。

なおレジュメはワープロで作成してもらおうが、課題は自筆で提出してもらおう。

●使用予定テキスト

テキストは指定しないが、図書館を活用しつつ、『AERA』など雑誌記事、主要新聞各紙の記事を用いる。時にビデオ等視聴覚資料を使用する。

●ゼミの進め方

15回のゼミのうち最初の3分の1は文章の読み方、要約の仕方、レジュメの作成の仕方、小論文の書き方に重点を置く。

何も無い「引き出し」からは何も出てこない。つまり、ゼミで発言を求められても今まで知らなかったことや考えたこともなかったことについて発言するのは難しい。したがって、レポーターだけでなく、ゼミ生全員が当日取り上げるテーマについて事前に十分な準備が必要である（その準備についても当日提出してもらおう）。また、ゼミ中には各ゼミ生から出た発言を書き取ってもらい、ゼミ全体を振り返りつつ小論文を書いて翌週に提出してもらおう。書きながら考えて話すのはとても大変な作業ではあるが、大人の社会では当たり前のように行われている。3・4年ゼミでどの教員のゼミを選ぶかはわからないが、より専門的なゼミを充実させるためにもこの段階で経験しておくことは決して無駄にはならない。

当日は事前に決められた司会進行役に進行を任せ、レポーターによる報告とコメンテーターによる質問を経て、自由に議論してもらおう。レポーターは当日扱う文章における筆者の主張を要約し、問題提起をレジュメにして発表してもらおう。なお、期末にはレポートを課題として出し、提出してもらおう。

●成績評価基準

出席60%、課題提出40%。他のゼミ同様、全出席が当然である。ただしやむを得ないと判断できる欠席については3回までは認める。ゼミ中の態度や遅刻も考慮する。レポーター、コメンテーター及び司会進行役の欠席は認めない。

●ゼミ選択上のアドバイス

3・4年次の、つまり大学生としての後半2年間における専門ゼミを充実させたいと思う人、担当教員の結婚観に触れ、それに一言モノ申してみたい人、食べることが好きな人などに来てもらえればと思う。



白井 陽一郎 (うすい よういちろう)

●ゼミテーマ・タイトル

国際政治学入門——人道的介入とコソボ紛争

●内容

国際政治学の入門的なガイドを目的として、人道的介入とコソボ紛争というテーマで6つの課題を勉強していく。人道的介入とは、大量虐殺が生じてしまった場合に虐殺されている人々を保護する目的で国際社会が武力行使を実施することをいう。人道的介入は20世紀を通じてさまざまな政治的思惑から何度も行われてきたことであるが、そのことばが国際社会で自覚的にやり取りされるようになったのは、1999年のコソボ紛争をきっかけとする。そのコソボ紛争は、ユーゴスラビア連邦の内戦の一環として発生した紛争であり、ユーゴ連邦内セルビア共和国のコソボ自治州を舞台に、セルビア人とアルバニア人の争いが激化したものである。アメリカ中心のNATO軍は、国連安保理の決議なしに、アルバニア人を救うための人道的介入として、87日間におよぶ大規模な空爆を敢行する。その背景には、冷戦後のNATOの新軍事戦略があった。よってコソボ紛争とはまさに、現代国際政治を理解するにあたって重要な事件であり、国際政治学の入門的なガイドとして取りあげるべき、格好の事例である。

課題1 人道的介入は是か非か？

ブレンストーミング：正義の戦争はありえるか？被害者と加害者を区別できるか？

課題2 民族紛争の原因は？和解と復興に必要なことは？

ブレンストーミング：政治指導者の罪か、構造的な貧困か？平和構築の担い手は？

課題3 ユーゴ内戦とは？：コソボ紛争の歴史的・政治的背景について学ぶ。

テキスト：月村太郎『ユーゴ内戦』

課題4 人道的介入とは？：国際法上の諸問題について学ぶ。

テキスト：最上敏樹『いま平和とは』

課題5 コソボ紛争とは？：歴史的経緯と紛争の契機そしてNATOによる空爆について学ぶ。

テキスト：町田幸彦『コソボ紛争』

課題6 難民問題と国連機関の役割：コソボ紛争100万人難民という現実について学ぶ。

テキスト：緒方貞子『紛争と難民』

●ゼミの進め方

以上の課題ごとに教員が提示する問いについて学生が報告を行い、また手分けしてテキストを輪読、理解を深めていく。課題の報告もテキストの輪読も、パワーポイントを利用してプレゼンしてもらう。プレゼンに慣れ自分なりの表現スタイルを確認していくことも、ゼミの目的のひとつにしたい。学期の最後には、人道的介入とコソボ紛争という共通テーマを独自の視点から論じる4000字ほどのレポートを義務づける。これを卒業論文の予行練習としたい。

●成績評価基準

プレゼンテーションやディスカッションの際の発言をベースに(30%)、4000字ほどのターム・レポートのクオリティ(70%)で成績を評価する。

●ゼミ選択上のアドバイス

特定のテーマで文献を読み進め、自分なりの観点から論じるというのが、卒業論文で行うこと。このゼミはその準備トレーニングとして役に立つはず。(たぶん)

小澤 治子 (おざわ はるこ)

●ゼミテーマ・タイトル

20世紀の国際政治を考えよう

●内容 (目的やねらいも含む)

2001年9月11日にアメリカで起こった同時多発テロ事件は、国際社会全体に大きな衝撃を与えました。あの事件は、20世紀の国際政治が新たな世紀に持ち越した様々な矛盾や問題点が、きわめて悲劇的な形で爆発したものであるといえます。今日冷戦が終わったとは言っても、世界全体では悲惨なテロ事件や民族紛争が後を絶たず、21世紀の国際政治の行方は依然として予断を許しません。そこで21世紀に生きる私達が平和な国際社会を築くために何をすべきなのか、20世紀の国際政治から学ぶべきことは何か、そのことを考えることがこのゼミの目的です。

二度の世界大戦とそれに続く冷戦にみられるように、20世紀は戦争の世紀でした。一般市民を巻き込んだ不幸な戦争によって、多くの人々が犠牲になりました。しかし同時に、そのような悲惨な戦争の体験を通じて、国家の役割や性格が変容し、国家間や地域間の協力の枠組みが形成されて重要な役割を果たすようになってきたことも見逃せません。このゼミでは、20世紀の国際政治を学ぶことを通して、21世紀の国際政治のあり方について考えてみたいと思います。

●使用予定テキスト

参考文献については授業の中で随時紹介しますが、テキストを特に指定することはありません。

●ゼミの進め方

20世紀から今日21世紀に至る時期の国際政治に関連した内容のテーマを各自が決めて研究し、それについて授業の中で発表して皆で議論していきたいと思います。取り上げるテーマは国際関係に関するものであれば、内容、地域は問いません。ヨーロッパ、アジア、中近東など各自が関心を持った地域や国を取り上げて下さい。

●成績評価基準

欠席をしないこと、決められた時にきちんと発表を行うこと、提出物の期限を守ること。以上は単位の取得にあたって最低限の必要条件です。加えて発表の内容や提出物の内容、また授業中の発言の質量などで成績を考えます。

●ゼミ選択上のアドバイス

一年後期配当の国際政治学 (共通科目)、二年前期配当の国際政治史 (文化学科専門科目) のいずれかを履修していることが望ましいです。

越智 敏夫 (おち としお)

●ゼミテーマ・タイトル

「現代の社会問題と私たち」(前期・後期同一テーマ)

●内容 (目的やねらいも含む)

国際研究ゼミナール1・2は基礎演習の延長線上にあると僕は考えています。ものを読み、考え、議論し、それを文章にまとめるという作業は基礎演習と同じです。しかしこのゼミで中心になるのは基本的な読解力を前提とした上での議論です。

今年度の細かいテーマは未定です。ただし「現代社会は多くの問題をかかえていて、その多くの問題と人間一人ひとりが生きにくいという事実は関連している」という基本的認識をはずれることはありません。特に先進資本主義国に特有の諸問題を取り扱う予定ですが、どんな事例を議論するときにも他人事としてではなく自分の問題として考えることを要求します。

たとえば現在、世の中で多くの人々が殺されています。その「殺人」という行為には変わりがなくても、それら多くの殺人を私たちは細かく差異化していきます。テロリストによる虐殺、法治国家における死刑、正当な防衛行為、教育の「行き過ぎ」としての体罰、英雄的戦功、医療過誤、テロ根絶のための必要悪、反逆者の処刑、武装蜂起に対する秩序維持……など、呼び方はいろいろです。しかしすべての行為が「人が人を殺す」という点においては同じです。こうした呼称の差異という問題は、そのままそれらの人殺しという行為と私たちの関係を明らかにしていきはざす。その関係の総体が現代社会を構成していると考えられませんか。

こうしたことについて「そんなもん知るか。全部違うのは当たり前だろ」と言って開き直るのは、現在の社会のありかたをまったく批判していないということです。目の前の世界を「快適」だと思いこんでいるということで、それは実は何も考えてないということを表明しているだけです。酸素を吸って二酸化炭素を吐いているだけです。マレーシアの森林資源のためにはなっているでしょうが、人生の意義は限りなく低いでしょう。何かを考えて1日生きるのと、何も考えずに5万年生きるのを比較すれば、それは前者のほうがはるかに人間として意義深いと僕は考えます。

●使用予定テキスト (前期・後期で別種のものを読講予定)

田中克彦	『ことばと国家』	岩波新書
フロム	『自由からの逃走』	東京創元社
小倉千加子	『セックス神話解体新書』	ちくま文庫
杉田敦	『デモクラシーの論じ方』	ちくま新書
鶴見俊輔	『戦時期日本の精神史』	岩波書店

●ゼミの進め方

テキストを全員で講読します。内容の要旨を報告する「レポーター」と、その内容を批判する「コメンター」を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

●成績評価基準

出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。

●ゼミ選択上のアドバイス

自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そここのところをよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。

小山田 紀子 (おやまだ のりこ)

●ゼミテーマ・タイトル

移民からみた現代の世界—国民国家を問う—

●内容 (目的やねらいも含む)

いま日本では「ヒト、モノ、カネ、情報」の国境を越えた往来が活発に行われ、グローバル化が急速に進んでいる。われわれの身のまわりでも外国人の姿が目立つようになったし、また私たちが海外に行くチャンスが増えてきている。このようなグローバル化の時代にあって「異文化」への理解、あるいは国際理解が必要になってきているといえよう。

しかし、外国の文化や社会を知るためには、まず自分の国を知る必要があるだろう。そこでこのゼミでは、まず第1に、「日本という国」の置かれた状況を、歴史的現在という視点から学ぶ。これを踏まえ、近年議論になっている日本の外国人労働者問題について調べていく。第2に、日本と外国との比較の視点から、ヨーロッパの移民問題、とくに「フランスという国」を取り上げ、移民から見たフランス社会の問題を考えていく。以上のようなテーマは、3・4年ゼミでさらに発展させていきたい。

●使用予定テキスト (変更の可能性あり。)

小熊英二『日本という国』理論社、2006年

梶田孝道『外国人労働者と日本』日本放送出版協会、2001年

依光正哲編『国際化する日本の労働市場』東洋経済新報社、2003年

アジット・S・バラ、フレデリック・ラペール著、福原博之ほか監訳『グローバル化と社会的排除』昭和堂、2006年

桜井啓子『日本のムスリム社会』ちくま新書、2003年

樋口直人他『国境を越える—在日ムスリム移民の社会学』青弓社、2007年

東長靖『イスラームのとらえ方』(世界史リブレット) 山川出版社、2006年

宮島喬『移民社会フランスの危機』岩波書店、2006年

本間圭一『パリの移民・外国人—欧州統合時代の共生社会—』高文研、2001年

他

●ゼミの進め方

第一回目のゼミで、テキスト輪読のための各自の報告分担を決める。毎回、報告者は担当個所のレジュメを用意して配布し発表する。報告の当たっていない学生もテキストを読んできて、必ず1回は質問や意見を述べ議論に参加する。各テキストを読み終える毎に、レポートを作成し提出してもらう。

●成績評価基準

ゼミでの報告内容、レポート、出席状況、ゼミ活動に意欲的に取り組んでいるか等により総合的に評価する。

●ゼミ選択上のアドバイス

今世界で何が起きているのか、そしてそれは私たちの生活とどのように関わっているのか、この二つの問題を結びつけて考えたいと思っている人はこのゼミを選択してほしい。政治・経済・社会のあらゆる分野でグローバル化が進む現代にあって、私たちは世界各地で起きていることに無関心ではありえないはずだ。毎日、新聞やテレビ、インターネットなどから送られてくる世界の情報を敏感にキャッチする眼を養い、私たちの生きていく道をひとりひとり考えてみよう。

熊谷 卓（くまがい たく）

●ゼミテーマ・タイトル

「法的な思考（リーガル・マインド）を深化させよう！」

●内容（目的やねらいも含む）

賃貸借契約、遺言、黙秘権、表現の自由、条約、ということばに共通するものはなにか、と問われれば、なんと答えるだろうか？「法」とか「ルール」という答えを想定することができるとは思わないだろうか。より細かく見れば、それぞれ民法（借地借家法）、刑法（刑事訴訟法）、憲法、国際法といった具合に。そして、われわれは実は様々な場面でこの法と関わっているということができる。

ところで、ほとんどのみなさんは民事法そして刑事法的にみて、「未成年」最後の年に2年次生ゼミナールに参加することになると思う。その翌年には、およそすべての法律の容赦ない適用対象となってしまう。そのため、原則として、もう少年（少女）Aではない。その前にできるかぎり、法というものの考え方に接しておくことは決して無駄ではないと、思うのであるが、どうだろうか？

そこで、このゼミナールは、各ゼミ生の法的な思考をより深めてもらうことを目的とする。具体的にいうと、次の二つのテーマ、①性同一性障害者をめぐる問題および②死刑廃止の是非に関する問題について、じっくりと、深く検討する予定である。さらに、時間が許せば、男女区別の合法性（レディース・デイとは男性に対する差別か、適法か）、美容整形に納得がいかないときの慰謝料、児童の権利などの問題についても検討したい。

●使用予定テキスト

別途指示する。

●ゼミの進め方

上記のテーマに関して、ゼミ生のなかから報告者とコメントを決める。彼らの議論を土台としてその他のゼミ生はテーマにつき、理解を一層深め、議論を進める。

レポートの提出も適宜求める。

●成績評価基準

報告やレポートの良し悪し、ゼミへの参加度（単に出席しているという意味ではない）を基準に成績をつける。

●ゼミ選択上のアドバイス

「内容」からすると、「面白そうな」（気楽な）ゼミに見えると思いますが、「面白い」と感ずるかどうかは、皆さんの勉強量にかかっています。

「法律は面白い」と感ずるまでにはハードワークが要求されます。それでもよい、という人のみ歓迎します。

佐々木 寛 (ささき ひろし)

●ゼミテーマ・タイトル

映画で観る——〈現代〉とはいかなる時代か

●内容 (目的やねらいも含む)

1年生の基礎演習にひきつづき、専門的な勉強に入る前の知的な柔軟体操を行います。どんなに専門的な勉強を積んでも、社会科学の「センス」のない人は努力が空回りしてしまいます。当ゼミでは、身の回りのできごとや日常の生活を掘り下げてゆく中から世界へと通じる回路を発見していくことができるような真の意味での社会科学的な想像力を、それぞれが自分なりに獲得することを目指します。大学で学んだ個々の知識の断片は卒業すれば忘れてしまうかもしれません。でも、物事の本質的な側面を切り取る思考の技術(アート)は、どんな道に進もうとも古びたりしません。

ただ、2年生のゼミですから、基礎演習よりさらに進んで、〈現代〉とはいかなる時代か、自分たちは今どういう時代に生きているのかという、〈歴史的な自己認識〉との出会いを目指したいと思います。それゆえゼミでは、〈現代〉という時代を読み解くための視点や方法を獲得するために知的に面白いと思われるテキストなら何であれ、分野を越えて縦横無尽に読んでいこうと思います。とくにできるだけ多くの映画を観る中で、このテーマを追求しようと思います。

また、当ゼミでは、〈オキナワ〉や海外での合宿研修を予定しています。たとえば〈オキナワ〉という土地は、日本の近代や平和の問題を考える上でとても重要な土地です。新潟との共通点も少なくありません。〈オキナワ〉の歴史や風土を身体で感じることによって、かならずや、それぞれの参加者が自分なりの問題意識をもつようになると思います。頭でっかちではなく、感性や身体で世界の問題を捉え、思考できるようになることも、このゼミの目標です。

「この際おもいっきり勉強してみたい！」と思う人向きのゼミナールだと思います。

●使用予定テキスト

一例です。

- ・D.リーン『アラビアのロレンス』(映画)
- ・D.リーン『ドクトル・ジバゴ』(映画)
- ・S.キューブリック『博士の異常な愛情』(映画)
- ・F.トリュフォー『華氏451度』(映画)
- ・E.クストリッツァ『アンダーグラウンド』(映画)
- ・A.ニコル『ガタカ』(映画)
- ・P.ワーナー『ノーマンズランド』(映画)
- ・E.ホブズボーム『20世紀の歴史』三省堂
- ・オルテガ『大衆の反逆』ちくま学芸文庫
- ・E.H.カー『危機の20年』岩波文庫
- ・H.アレント『人間の条件』ちくま学芸文庫
- ・丸山眞男『現代における人間と政治』
- ・栗原彬『いじめの政治学』
- ・佐々木寛『グローバルな『全体主義』と新しい戦争』
- ・大田昌秀『沖縄 - 戦争と平和』朝日文庫

●ゼミの進め方

基本的にさまざまなテキストを共同でじっくり味わっていきます。「内容」のところでも述べたように、沖縄や海外でのゼミ合宿も予定しています。さらに具体的な運営方法に関しては、参加者と相談して決めます。

●成績評価基準

ゼミへの参加態度や貢献度 + レポートの出来。

●ゼミ選択上のアドバイス

いままでの経験から、「学生はおのれにふさわしいゼミしかもてない」と思います。能力や知識よりも、ゼミというひとつの社会を自分の力で楽しくつくっていくとする気概をもった学生を歓迎します。価値あるものには苦勞をいとわない学生を歓迎します。

澤口 晋一（さわぐち しんいち）

- ゼミテーマ・タイトル  
「新潟の地理をしらべる」

- 内容（目的やねらいも含む）

ゼミや卒論指導で学生と接して毎年強く感じることは、今の学生（昔からそうだったのかもしれないが）は、「自分でしらべる」ちからが弱い、ということです。本をみんなで購読しても、書かれてある内容をほとんどそのまま言ってみたり、ひどい場合には字面をそのまま読んだりということが少なくありません。

原因はいろいろあるでしょうが、ひとつにはテキストに書かれてある内容を皆さんはそのまま鵜呑みにしてしまうということがあるように思われます。私のゼミでは、書かれてある内容に対して自分の意見を求めたり、批判的検討を行ったりということは特にしませんが、代わりにその内容が事実なのか、著者がどのようにしてその結論に達したのかを、関係する文献・資料等を使って調べ、場合によっては自分で分析してみるといったことを通じて、丹念に読み進めていくものとしたと思っています。これによって、自分で調べるちからを養いつつ、書かれてある内容を吟味・確認していく習慣がつくようになればと考えています。

今年のゼミのテーマは、「新潟の地理をしらべる」としました。「地理をしらべる」だとなんとなく趣味的な感じもしますので、「新潟を地理学の観点から調べる」、と言い換えたほうがいいかもしれません。「国際化」はもちろん重要だけれど、ひとまずこの半期は、日常生活を営んでいる地元新潟のことを、まずは知り、じっくり調べ、考えてみることにしてはいかがでしょうか。

使用するテキストは以下の2点です。いずれもトピックテーマによって構成されますが、内容的には深く広がりのあるテーマもかなり含まれています。

- 使用テキスト：まだ未定だが、基本的には以下にあげるようなものが使用される。
  - ・新潟もの知り地理ブック編集委員会『新潟もの知り地理ブック』新潟日報社、2007年。1400円
  - ・新潟地図ウォッチング編集委員会『新潟地図ウォッチング』新潟日報社、2006年。2940円（ゼミ員が決まり次第まとめて購入します）

- ゼミの進め方：

まず、地理学と地理学的調査手法について説明します。その後、何をどのように調べ、発表するかを解説し、またパワーポイント使用についての実習を行います。これらの後に、みなさんが興味を抱く事項を選択し、それについて資料をつくりプレゼンしてもらいます。最後に発表項目についてレポートを作成してもらいます。

- 成績評価基準：

出席、資料作成、プレゼンテーション、質疑応答などに基づいて評価します。

- 選択上のアドバイス

世界にも興味はあるが、まずは新潟のことについて知りたいと思っている人、歓迎。

高橋 正樹 (たかはし まさき)

●ゼミテーマ・タイトル

感動と情熱のワクワクするゼミです。

●教員の研究テーマ

わたしの研究分野は世界の不平等を考える国際研究とタイをはじめとする東アジア研究です。自分の研究によって、日本に住むわたし達の生活が、東アジアを初めとする世界中の人々の生活と深い関係があることを明らかにしたいと考えています。

2011年3月11日から、私にもう一つの研究テーマができました。原発事故が発生し日本に人間が住めない土地ができ、さらに多くの人が長期間にわたり放射能汚染におびえることになりました。これを引き起こし、なお原発を維持しようとする日本社会の病理を徹底的に解明することが新しい関心事です。

●内容 (目的やねらいも含む)

原発事故関連の論文や本を読みながら議論していきましょう。それを通じて、日本の政治、経済、社会、文化の深刻な問題に切り込みましょう。最後に授業の成果として個人研究を発表し、研究レポートを作成してもらいます。学ぶということは、疑問をもちそれについての答えを探すことです。学ぶことは本来楽しいことです。

大学生活を生きぬき人生を生きぬくための能力である本の読み方、文章の書き方、議論の仕方、さらにはコンピューターの利用といった「学習作法」をしっかり身につけてもらいます。

●使用予定テキスト

原発と原発事故に関する多数の書籍・論文。

●ゼミの進め方

毎回の授業では、議論を重視します。授業では全員参加の議論をおこないます。授業では、毎回順番の学生が司会者となり授業を進めてもらいます。わたしの出番は、司会が司会の役割を十分に果たさない時、議論の内容が支離滅裂な時、そして議論の最後のまとめの時に限定します。

授業の最初に1分間スピーチをやり、人前で要領よく話す練習をします。

●成績評価基準

毎回、出席さえしてくれば大丈夫です。

●ゼミ選択上のアドバイス

充実したゼミですので、少しだけでも学習意欲のある人の参加を待っています。



松尾 瑞穂 (まつお みずほ)

●ゼミテーマ・タイトル

世界遺産からみる観光と文化の力学

●内容

近年、旅行のパンフレットや雑誌、テレビの番組などで、「世界遺産」という言葉がやたらと目に付きます。書店の旅行コーナーには「いつかは行きたい世界遺産リスト!」といった本もたくさん売られていますし、「世界遺産検定」なるものも人気です。皆さんの中にも、世界遺産を見に行っただことがある人はいませんか。世界遺産は、現在(2011年時点)、世界で911件、そのうち日本では14件が登録されています。そのほかにも、世界遺産登録を目指して、多くの自治体や地域が運動を行っています。新潟の佐渡もその一例です。いまや、世界遺産は単に文化財や自然の保全という目的にとどまらず、観光開発や地域振興、経済発展などと深く結びついています。このゼミでは、この世界遺産のうち、特に文化財を題材として、「文化」が現代社会のなかでどのように政治性を帯びていくのか、どのように表象されるのか、といった問題を考えてみたいと思います。

●使用予定テキスト

佐竹剛弘(2009)『世界遺産の真実—過剰な期待、大いなる誤解』、祥伝社。

毛利和雄『世界遺産と地域再生—問われるまちづくり』

山下晋司編(2007)『観光文化学』、新曜社。

山下晋司(2009)『観光人類学の挑戦—「新しい地球」の生き方』、講談社。

●ゼミの進め方

決められた文献を全員が輪読することが大前提です。最初に「観光」がいかに経済的、社会的、そして歴史的に形成され、人びとの文化的アイデンティティと結びついているのかを、しっかり理解したいと思います。やり方は、担当者がレジュメを用意して発表し、調べ物担当には決められた課題を調査してもらい、その後、全員で議論をします。司会とコメンテーターも学生が順番に担当してゼミを主体的に運営してもらいます。また、場合によっては最初にグループワークをすることも考えています。取り上げる世界遺産にまつわる映像や写真、ドキュメンタリーなどを見ることもあります。

●成績評価基準

出席(30%)、ゼミでの発表(30%)、レポート(40%)

●ゼミ選択に際してのアドバイス

文献を読むだけでなく、実際に自分で調査をしてみたい、話を聞いてみたいと思っている人に向いています。テレビで何となく見たり聞いたりしたことがある世界遺産を多角的に学ぶことで、新しいものの見方を発見してください。あるいは、みんなで「世界遺産検定」に挑戦するのも楽しいかもしれません。また、旅行好きの人や、世界遺産を見て回りたいと思っている人にも、将来の役に立つかもしれません(?)。

安藤 潤 (あんど う じゅん)

●教員の研究テーマ

家計経済学、経済社会学、アイデンティティ経済学、防衛経済学

●教員の現在の関心：

夫婦間の家事分担、ジェンダー経済格差

●これまでの卒業研究のテーマ

参考までにゼミ卒業生の代表的テーマをいくつか挙げておきます。

「新潟県内女子学生の結婚行動に関する女性の経済的自立仮説からの一考察－男性の雇用形態と所得水準が与える影響－」

「日本の子育てにおける現状と課題－アメリカ、フランスとの比較から－」

「男性の家事・育児参加と出生率の関係：政府の少子化対策の批判的考察」

「食の外部化は妻の家事分担を減らしたか」

「新潟県版『自給自足』型フードシステム確立への課題」

情報文化学科のカリキュラムの中でこれまでに学んだ様々なことをベースに、仮説を構築・検証し、できればアンケート調査を行い、その結果から自分の頭で考えて結論を導き、自分の言葉で述べる－私のゼミではこういった卒論を書いてもらいます。

●ゼミテーマ・タイトル

現代の経済・社会と：ジェンダー、家事労働、結婚を中心に

●内容

教員の専門は経済学ですが、経済学というよりはむしろ社会学、あるいは経済社会学のゼミにします。3年次前半では、下記テキストを用い、雇用や労働といった経済問題も含め、現代社会におけるジェンダーの基礎学習をします。3年次後半では4年次の卒業研究・卒業論文執筆に向けて学術論文を読みます。たとえば下記参考文献や公益財団法人家計経済研究所『季刊 家計経済研究』から「父親」、「結婚・出産後の女性のキャリア」、「女性・家族・仕事」、「生活の中の食」などをテーマを選び、論文を読みます。雑誌記事を用いながら、家事労働、結婚、婚活について考えます。なぜ「婚活」までしなければ結婚できないのか、あの「婚活」産業を私たちはどのように考えればよいのか、日本ではなぜ家事労働負担がこんなにも男女間で差があるのかといったことについて議論したいと思います。

4年後期は基本的に各ゼミ生の卒業研究のテーマがこのゼミのテーマになります。卒業研究のテーマについては幅広く「家族」、「生活」、「家庭」に関連していれば、そして私が指導できる範囲であれば必ずしもゼミテーマと一致させる必要はありませんし、対象国・地域も限定しません。「食」についてでも構いません。

卒論は自分の選んだテーマを批判的に考察し、仮説を構築してそれを検証してもらいます。そういうこともあったか、最近、アンケート調査を行い、自らの仮説を検証し、結論を導くというスタイルで卒論を書くゼミ生が増えました。もしアンケート調査をするのであれば、「社会調査」もしくは「社会調査実習」を履修してもらえると幸いです。卒業論文執筆の際、必要最低限の表計算・グラフ作成、卒論中間報告でのプレゼンテーションの方法については指導します。

ゼミ合宿はゼミ生と相談の上で決めたいと思いますが、私としてはぜひ実現したいと考えています。

●使用予定テキスト（全部使用するわけではありません）

以下のテキストは必ず購入してください。

江原由美子・山田昌弘『ジェンダーの社会学 入門』岩波書店、2008、2,200円＋税

参考文献

川口章『ジェンダー経済格差』勁草書房、2008年。

公益財団法人家計経済研究所『季刊 家計経済研究』各年各号。

佐藤博樹・永井暁子・三輪哲〔編著〕『結婚の壁 非婚・晩婚の構造』勁草書房、2010。

治部れんげ『稼ぐ妻・育てる夫 夫婦の戦略的役割 アメリカ人52人のワーク・ライフ・バランス』

橋木俊昭〔編著〕『現代女性の労働・結婚・子育て』ミネルヴァ書房、2005。

西村純子『ポスト育児期の女性と働き方 ワーク・ファミリー・バランスとストレス』慶應義塾大学出版会、2009.  
松田茂樹『何が育児を支えるのか 中庸なネットワークの強さ』勁草書房、2008.  
山田昌弘[編著]『「婚活」現象の社会学 日本の配偶者選択のいま』東洋経済新報社、2010.

●ゼミの進め方

担当者には、テキストを批判的に読み、考察し、その上でレジюмеを作成して報告してもらいます。司会進行もゼミ生に任せます。

●成績評価基準

報告・司会進行・質問・課題提出などゼミへの取り組み方全般で評価します。欠席は理由の如何を問わず前期後期各3回までですが、無欠席が大原則です。

●ゼミ選択上のアドバイス

ゼミの内容はどちらかと言えば経済学（家計経済学）よりも家族社会学に近いかもしれません。1・2年次に私が担当している「経済学（マクロ）」、「日本経済論」、「現代アメリカ論」、「国際経済学」を理解できたか、履修済みか、単位を取得できたかということとはまったく関係ありません。真剣に取り組む意思のある学生であれば拒みません（上限を超えない限りは）。

白井 陽一郎 (うすい よういちろう)

●教員の研究テーマ：

EU (欧州連合) の政治がメイン、少しだけ東アジアの地域主義。事例は国家間共同体の環境政策で、この領域にしぼって、国家間共同体のガバナンスとデモクラシーのあり方を批判的に検討しようとしてきた。いまは少しずつ、平和活動(peace operations)について勉強をはじめていて、EUやASEANといった国家間共同体がどの程度、国際社会で規範を突きつけ活用するパワーになりえるのか、想いをめぐらせている。

●教員の現在の関心：

小説 (村上春樹、中上健次、大江健三郎、安部公房、小川洋子、野上弥生子、宮沢賢治、松本大洋、ドストエフスキー、ドリス・レスリング、ポール・オースター、ウィリアム・フォークナー、エミール・ゾラ)。音楽 (マイルス・デイビス、ジョン・コルトレーン、セロニアス・モンク、アルトゥール・ルービンシュタイン、グレン・ゲールド、マルタ・アルゲリッチ、エンディ・リー、ヴィルヘルム・バックハウス、パブロ・カザルス、サザンオールスターズ、山下久美子、佐野元春)。

●ゼミテーマ・タイトル

紛争と和解：国際政治学を学ぶ

●内容

紛争と和解をキーワードに、国際政治のありようについて考えていくための準備的なトレーニングを行う。サブ・テーマとして、次の7つを取り上げる。

- (1) 欧州国際政治史の中の欧州統合
- (2) パレスチナ問題から世界を見る
- (3) シューマン・プランのねらいの普遍性
- (4) 東アジア共同体の建設が意味すること
- (5) 難民問題と UNHCR
- (6) 紛争解決と国際裁判
- (7) 国連安保理の歴史と国連平和維持活動
- (8) 紛争と和解から見た国際政治の歴史

●使用予定テキスト

田中孝彦「国際政治の秩序転換とヨーロッパ：衝突・和解・寛容」  
最上敏樹「絶望から和解へ：人を閉じこめてはならない」  
最上敏樹「隣人との平和：自分を閉じこめてはならない」  
緒方貞子「戦時と平時における人道活動」  
マーサ・ミノウ『復讐と赦しのあいだ』(第1～3章)  
ブラヒミ・レポート  
ナイ『国際紛争』  
UNDP「人間の安全保障」

●ゼミの進め方

使用テキストをベースとした課題報告、文献輪読、意見交換を進めて行く。卒論テーマは、下記より選択してもらうが、個別の事例については、学生と相談しながら決定したい。

- (イ) 国際紛争
- (ロ) 国際組織
- (ハ) 国際裁判
- (ニ) 地域統合

なお特定の映画、芝居、文学作品を取り上げ、そこで描かれている紛争と和解を題材とするのも好い。

●成績評価基準

出席70%、報告討論20%、ターム・レポート10%。

●ゼミ選択上のアドバイス

国際政治学を学ぶゼミです。人生一度くらい、本気になってトレーニングしてみても、悪くないと思います。いままで見えなかった世界が開けてきます。

區 建英 (おう けんえい)

●教員の研究テーマ：

中国で生まれ育った私は、20年以上日本に生活している立場によって、日本の視線から祖国を見ると同時に、中国の視線から日本を見ています。双方向の異文化理解によって、自分の関心を寄せている中国の民主化と平等な多民族社会の構築の問題を研究しています。

●教員の現在の関心：

私の関心は一貫して、現代中国が抱えている民主化の問題と多民族社会の問題にあります。同時に、グローバル化と中国の発展および日中関係における諸問題にも注目しています。

●これまでの卒業研究のテーマ

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1、戦後の日中民間友好交流   | 2、中国における日本の漫画・アニメ  |
| 3、日中のマスメディアの比較  | 4、中国のNGO—環境保護と「扶貧」 |
| 5、華僑・華人とチャイナタウン | 6、台湾と大陸の兩岸関係問題     |
| 7、中国の大衆文化の移り変わり | 8、中国少数民族の言語・文字     |

●ゼミテーマ・タイトル

「現地の視点を導入した中国研究」

●内容 (目的やねらいも含む)

このゼミはミニ留学にしたい、つまり、留学済の学生に留学経験を保ち、未留学の学生に留学のような授業を少しでも体験してもらいたいです。語学の授業ではなく、研究の中で中国語を用い、よって中国語の使用能力を高めるのです。

研究テーマは私の研究分野に縛られず、なるべく学生たちの個性を自由に伸ばしてそれぞれの関心を学問に組み込みます。中国を国際研究の具体例として取り上げ、中国そのものを知ること、または中国を通じて日本を見、世界的な問題を見ることを目指します。

例えば、中国は急速な経済発展において貧富格差や環境問題も発生しており、どのように格差を縮め、環境を守るのか。中国には56の民族があり、どのように相異の文化をもって共存するのか。これらの問題は中国の問題でありながら、世界的な問題でもあります。また、世界の同時不景気の中で各国はどのように景気回復を図るのか、国家間の利益対立の中でどのように協力を図るのか。これらの問題は、中国の経済振興策や、中日関係を含む中国の外交関係および中国が作った各種の国際協力体制に対する分析を通じて考えることができます。また、華僑・華人と呼ばれる世界各地にいる中国移民のあり方と役割を考察することもできます。近年、中国は「和諧」(調和が取れている)という核心概念を打ち出し、国内政策では「親民」や「扶貧」を唱え、国際関係では「協和万邦」を唱えています。この理念はどのように現実に働きかけ、国家行為を制約するのか、これを実験することの意味は中国だけに止まらないです。

要するに、学生はそれぞれ自分の関心から、経済・政治・外交・環境・民族・文化などの分野にわたって研究テーマを選ぶことができ、私はそれに応じて研究方法を指導します。

このゼミの特色は外国を研究する時、現地の視点を導入する方法を重視する点にあります。外国研究において、対象国の言葉で理解することがとても重要です。また、私たちはふだん無意識のうちに、自分の生活環境やマスコミによって「与えられた」画一的な見解を持たせられがちです。これも国際理解を妨げる要因です。したがって、中国という異文化を研究するには、翻訳書や日本語文献のみに頼るのではなく、なるべく直接中国語文献を読むよう勧めます。異文化の中に入りそこからその文化を見つめるという方法によって、できるだけ既存の観念や常識に囚われず、自分の独立見解を形成するような研究を期待します。その手段として、ゼミでは、中国語を語り、中国語文献を読解し、自らの手による中国語資料の製作をも学びます。

●ゼミの進め方

中国の映像資料を見、中国語文献を読解し、討論を行ったりして、原語による研究の能力を身に付け、この能力によって研究を行います。具体的に、学生たちはそれぞれ関心ある原典を素材にして研究発表を行い、様々な角度から原典を学ぶことによって自分の真の関心を見つけ、卒業研究へと発展させます。3年次は主として、中国語による中国研究の技能を学び、自分の関心がある課題を見つけ、学術研究の基本的な方法を学び、卒業研究の基礎をととのえていきます。4年次は自分の課題に基づいて研究を進め、1つの成果にまとめるよう指導します。

●成績評価基準

ゼミの出席と発表・討論の状況によります。

●ゼミ選択上のアドバイス

このゼミは語学の授業ではなく、一定程度の中国語の修得を前提にして、中国語を研究に使用しますので、中国語使用能力の訓練を受け、その能力を駆使して研究を行いたい学生が望ましいです。したがって、ゼミに入るために下記の「条件」を設けています。

中国語履修者であること、中国語文献の読解や中国語使用の訓練に意欲あること。

小澤 治子（おざわ はるこ）

●教員の研究テーマ：

冷戦構造の崩壊過程でソ連外交はどのような変容を示したのか、そうした変容はソ連解体後のロシアの外交にどのように継承されたのか、さらには東アジアの国際関係や日本との関係においてソ連（ロシア）外交の変容がもたらした意味は何か。以上のことに関心を持ってこれまで研究を進めてきました。

●教員の現在の関心

20世紀におけるロシア（ソ連）の二度の大きな体制転換（ロシア革命とソ連解体）が国際社会や日本にどのような意味があったのかを考えながら、日ロ関係を軸にロシアのアジア政策について研究を続けています。

●これまでの卒業論文のタイトル一例

- 「日本政府のアイヌ政策」
- 「定住外国人参政権獲得問題」
- 「カンボジア紛争と自衛隊」
- 「沖縄問題から考える日米同盟」
- 「日中経済交流——新潟市と黒龍江省ハルビン市に焦点をあてて」
- 「上海協力機構——実態と今後の課題」
- 「資源をめぐる CIS 諸国の新たな挑戦——カスピ海資源開発を中心に」
- 「稼動し続ける原子炉——チェルノブイリ原発の『必要性』」
- 「国際社会における少年兵問題——取り組みと課題」

●ゼミテーマ・タイトル

- 「ユーラシアの国際関係——そして日本」

●内容

冷戦構造の崩壊、ソ連解体によって、ヨーロッパやアジアの国際関係、また地域間関係は大きく変容しました。ヨーロッパとアジアは一つの大陸ユーラシアとして生まれ変わりつつあります。そこでは様々な形の協力や交流が生み出されてきていますが、同時に新たな紛争や摩擦の火種が起こっていることも重要なポイントです。その中で日本はこれから国際社会でどのような行動をとるべきでしょうか。

このゼミでは上記のような問題に関心を持っている皆さんに参加を呼びかけたいと思います。具体的には、以下3つの柱を掲げますので、①②③の中からいずれかに関するテーマを自分で見つけ、研究を進めて最後に卒業論文をまとめて下さい。

- ① 20世紀における日本、アメリカ、ロシア（ソ連）、中国、朝鮮半島など東アジアの国際関係、また地域間関係について。東アジアであれば二国間関係でも多国間関係でも、あるいは地域間協力についてのテーマでもかまいません。
- ② 20世紀の日本外交。日本外交に関するテーマであれば、対象となる相手国や地域は自由に選んで下さい。第二次大戦前の日本外交の問題点、戦後日本外交の特色、これからの国際社会と日本など様々な角度から研究することが可能だと思います。
- ③ 旧ソ連、中東欧関係。ソ連解体によって、ロシアを含め15のソ連構成共和国はそれぞれ独立し、今日新たな関係のあり方を模索しています。また冷戦期にソ連の支配下にあった中東欧諸国も独自の道を歩んでいます。それらの国や地域のいずれかに関連したテーマを考えて下さい。

●使用予定テキスト

特定のテキストを使用することは考えていませんが、以下の文献を参考図書として挙げておきます。またそれぞれの関心に応じて随時参考文献を紹介します。

石井修『国際政治史としての20世紀』、有信堂、2000年。

小澤治子『ロシアの対外政策とアジア太平洋——脱イデオロギーの検証』、有信堂、2000年。

横手慎二編『東アジアのロシア』、慶應義塾大学出版会、2004年。

岩下明裕編著『国境・誰がこの線を引いたのか——日本とユーラシア』、北海道大学出版会、2006年。

木村汎・袴田茂樹編著『アジアに接近するロシア——その実態と意味』、北海道大学出版会、2007年。

広瀬佳一・小笠原高雪・上杉勇司編著『ユーラシアの紛争と平和』、明石書店、2008年。

細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済——グローバル・イシューの解説と資料』、有信堂、2008年。



●ゼミの進め方

3年次前期は、受講者それぞれが共通して関心を持つことができるようなテーマの文献を一冊か二冊、全員で読み、その内容について意見交換します。その後各自で研究テーマを決め、3年次後期はそれぞれテーマに関連した内容を発表し、全員で発表内容についての質疑応答を行います。

●成績評価基準

授業を欠席しないこと、授業中に積極的に発言すること、きちんと発表を行うこと、期限までにレポートを提出すること。以上の点に発表の内容やレポートの質などを考慮して成績評価を行います。

●ゼミ選択上のアドバイス

国際政治学、または国際政治史を履修していることが望ましい。

越智 敏夫 (おち としお)

●教員の研究テーマ：

現代政治理論の発展がアメリカ政治の現実的な変化とどのように関連しているかを研究しています。社会科学が厳密な意味で「科学」になりえないのは、対象と研究者のあいだに価値の問題が存在するからです。政治におけるその価値の問題について考えています。

●教員の現在の関心

現代世界において国民国家という枠組みはどのような機能を果たしているのか。またそれを超克する論理は可能なのか。そういう問題とポストコロニアルな状況はどう結びついているのか。人間の解放とは何か。そんなことに関心をもっています。

●これまでの卒業論文のタイトル一例

国民国家形成における言語の機能

●ゼミテーマ・タイトル

「政治思想と現代社会」

●内容

卒論指導では各学生がテーマを見つけてそれに取り組みます。しかしこのゼミナールではそれらのテーマに直接関連したことを全員で議論することはありません。各自のテーマについては「政治」と「思想」と「アメリカ」に関連したことであれば広く指導するつもりでいます。

ゼミナールでは現代の古典と呼ぶべき政治思想家の論文をとりあげ、「ものを考えるということはどういうことか」について全員で深く議論したいと思います。それは人間らしく生きるということはどういうことかを問うことでもあります。すべての人間は阿呆のふりをしているうちに本当の阿呆になってしまいます。しかしその危険性を少しでも低くするにはどうしたらいいのか。また、なぜここまで現代社会は味気ないのか。どんな理由でこうなってしまったのか。さらには、どうせ社会の歯車として生きていくのなら少しでも存在意義を自分で見出せる歯車になるにはどうしたらいいのか。そういう問題について考えたいと思います。

もし「今の社会はすばらしい」とか「自分は歯車じゃない」と思っている人がいたら、それは社会に関する理解が足りない、あるいはたんに頭が悪いということです。ゼミナールという学習には絶対的に不向きですから何か別の道を歩まれたら良いと思います。

ゼミナールの具体的な内容として5人の政治思想家を考えています。マックス・ヴェーバー、ヴァルター・ベンヤミン、ハンナ・アレント、丸山眞男、ミッシェル・フーコーの5人です。このなかの一人の論理に限定して徹底的に議論します。一人を選んだらその他の者の著作は読みません。どの思想家にするかは一回目のゼミナールで参加者と相談して決めます。

こうしたゼミナールが各自の卒業論文の問いとどう結びつくのか心配する人もいるかもしれませんが。しかしこれらの問いについて考えることは必ず論文を書くうえで役立つことです。もっと正確に言えば、このような問いを欠いた問題設定によって書かれた論文に価値はありません。価値のある論文を書いてもらいたいと思っています。

●使用予定テキスト

ヴェーバー 『職業としての学問』	岩波文庫
ヴェーバー 『職業としての政治』	岩波文庫
ヴェーバー 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	岩波文庫
ベンヤミン 『複製技術時代の芸術』	晶文社
ベンヤミン 『暴力批判論 他十篇』	岩波文庫
ベンヤミン 『ドイツ悲哀劇の根源』	講談社文芸文庫
アレント 『人間の条件』	ちくま学芸文庫
アレント 『全体主義の起原』	みすず書房
アレント 『暴力について』	みすず書房
丸山眞男 『現代政治の思想と行動』	未来社
丸山眞男 『日本の思想』	岩波新書
丸山眞男 『忠誠と反逆』	筑摩書房
フーコー 『知への意志 性の歴史』	新潮社

フーコー 『監獄の誕生 監視と処罰』 新潮社  
フーコー 『言葉と物 人文科学の考古学』 新潮社

●ゼミの進め方

テキストを全員で講読します。内容の要旨を報告する「レポーター」と、その内容を批判する「コメンター」を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

●成績評価基準

出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。

●ゼミ選択上のアドバイス

自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そここのところをよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。

小山田 紀子 (おやまだ のりこ)

●教員の研究テーマ：

マグレブ近現代史(マグレブとは、北西アフリカの西方アラブ圏諸国を指すアルジェリア・チュニジア・モロッコ三国)、アルジェリアの植民地史研究、フランス帝国主義研究、マグレブの脱植民地化の過程に関する比較研究、フランスのイスラーム系移民問題

●教員の現在の関心：

アメリカ大統領選挙とイラク戦争のゆくえ、フランスの移民問題、国民国家とアイデンティティ、アルジェリア独立戦争の記憶と歴史の書き方、ヨーロッパのサッカーとジダン

●これまでの卒業研究のテーマ(小山田ゼミで取り上げられたテーマ)

- 「フランスの移民政策とアルジェリア人移民労働者問題」
- 「ドイツにおけるトルコ系移民—国民国家への統合をめぐる—」
- 「フランスの移民問題—移民統合の危機と共生に向けて—」
- 「独立国家アルジェリアにおけるイスラーム復興運動の展開」
- 「日本におけるムスリム—東京モスク・新潟モスクの調査を中心に—」
- 「日本の無国籍者」
- 「シオニズム運動の思想とその時代背景」
- 「イスラエル・パレスチナ問題と中東和平のゆくえ—イスラエル側からの視点—」
- 「クルド民族運動の展開」
- 「ケマル革命—トルコ近代国民国家形成に関する考察—」
- 「石油開発の歴史と環境問題—中東石油を中心に—」
- 「エジプト革命—ナセルの政治—」など

●ゼミテーマ・タイトル

人の移動から見た国際関係—グローバル化の中の国民国家—

●内容(目的やねらいも含む)

本ゼミでは、グローバル化にともなう人の移動に着目し、先進諸国における移民や外国人労働者問題を取り上げる。具体的には、ヨーロッパと日本の事例の比較研究を行う。例えば、フランスでは1960年代の高度経済成長の時期に旧植民地であった北アフリカや西アフリカからの移民労働者が多く流入したが、日本は先進国の中でも外国人労働者なしに高度経済成長を遂げた唯一の国である。しかし日本でも1990年代以降は合法非合法を問わず、多くの外国人労働者が確実に増えてきている。こうした中、日本の外国人労働者に関する議論も近年盛んになってきた。いずれにせよ今日、経済のグローバル化にともない活発化する人の移動は、受入れ社会である先進諸国において異文化接触—摩擦や対立、あるいは相互理解や友好—の機会を増大させている。

それではなぜこのように発展途上国から先進国に労働移動が起こるのであろうか。その歴史的背景を次に19世紀のヨーロッパの植民地主義の発展にまでさかのぼって探っていく。すなわち、イギリスを頂点とする資本主義市場経済が世界的規模で拡大する世界構造の中に、アジアやアフリカ地域がいかに組み込まれ、その中でどのように後進的経済群あるいは「周辺部」を形成することになったのか、また第一次世界大戦以降の植民地の民族独立運動はどのように展開され、第二次世界大戦後新興独立諸国が生み出されたのか、といった歴史を振り返る。その上で、独立後の第三世界を形成した発展途上国と先進国との関係を、新ためて人の移動という視点から捉えなおしてみた。そして、今日の移民をめぐる問題—包摂と排除など—を考察し、グローバル化の現代世界において「国民国家とは何か」を問い直す試みを行いたい。

なお、ここで取り上げる移民や外国人は、イスラーム教徒(ムスリム)を多く扱うので、イスラームの基礎知識や中東・北アフリカの社会や文化についても学ぶ。

●使用予定テキスト(変更の可能性あり)

- 梶田孝道『外国人労働者と日本』日本放送協会、2001年
- 桜井啓子『日本のムスリム社会』ちくま新書、2003年
- 樋口直人他『国境を越える—在日ムスリム移民の社会学』青弓社、2007年
- 宮島喬『移民社会フランスの危機』岩波書店、2006年
- 内藤正典『アッラーのヨーロッパ—移民とイスラーム復興—』東京大学出版会、1996年

本間圭一『パリの移民・外国人—欧州統合時代の共生社会—』高文研、2001年  
東長靖『イスラームのとらえ方』世界史リブレット、山川出版社、2006年  
立山良司編著『中東』、自由国民社、2002年  
中岡三益『アラブ近現代史』、岩波書店、1991年  
新井政美『トルコ近現代史—イスラム国家から国民国家へ—』、岩波書店、2001年  
私市正年・栗田禎子編『イスラーム地域の民衆運動と民主化』、東大出版会、2004年  
宮治一雄・宮治美江子編著『マグリブへの招待—北アフリカの社会と文化—』大学図書出版、2008年  
その他、適宜指示する。

●ゼミの進め方

3年次は上記のテキストを順次選び、全員で輪読する。報告者は担当箇所のレジюмеを作成してきて報告し、それに対して他のゼミ生と議論を行い、理解を深める。このようにして国際研究の方法論を学ぶ一方、各自の関心に沿って、これらの地域が抱える諸問題の一つを取り上げて個別研究を進める。4年次には、それをさらに発展させて卒論に仕上げていく。3年次の夏休み（あるいは春休み）にはゼミ合宿を行う予定である。

●成績評価基準

レポートと卒業論文の成績に加え、演習の出席状況・ゼミ活動に取り組む姿勢等により総合的に評価する。欠席は原則として認めない。欠席が続く学生はゼミをやめてもらうこともある。

●ゼミ選択上のアドバイス

ゼミでは日本やヨーロッパ（とくにフランス）を舞台に、そこにおける異文化接触の問題を多く扱うが、これに限らず、中東地域の国民国家の問題（例えば、イスラエル・パレスチナ問題など）やイスラームをめぐるテーマを取り上げてよい。ただし担当教員のカバーできる歴史学や国際社会学等の分野のテーマであることが望ましい。また卒論テーマに関しては、先輩の扱ったテーマを継承し、その研究をより深めていくという方法もあるだろう。ゼミの卒業研究は自分ひとりだけのものではなく、ゼミのメンバーの相互交流によって深まっていくだろう。またゼミ（演習）は、教員からの一方的な指導によって進めるものではなく、ゼミ学生がその運営に積極的に参加して作り上げていく共同研究グループであるので、みんなと一緒にやっていくのだという気構えを持ってこのゼミに入ってほしい。今年はどのようなメンバーが集まるのか楽しみである。

神長 英輔 (かみなが えいすけ)

●教員の研究テーマ

日露関係史、ロシア極東近現代史、現代日本文化研究。具体的には、サハリン・樺太の歴史、北洋漁業と「北洋」概念の歴史、現代日本文化における「ロシア」表象の変遷などを研究。

●教員の現在の関心

コンプの生産・加工・流通の歴史。特に言説や表象が文化の中で複製される過程。うたごえ運動とは何か。日本における「ロシア嫌い」言説の構築過程。サハリン・樺太史の諸問題。

●これまでの卒業研究のテーマ

「坂本龍馬の自由な発想と行動力：薩長同盟・大政奉還で果たした役割とは何か」  
「なぜ格差が起こり、なくなるのか：猫缶という視点から見た格差」

●ゼミテーマ・タイトル

ロシアと私、ロシアと日本、日本のなかのロシア、ロシアのなかの日本。  
自分は何が知りたいのか、それを発見しよう。どうしたらそれを「わかる」ことができるのか、考えよう。

●内容

専門分野の研究書の精読と多読を通じてロシア史（日露関係史と極東ロシア史にやや重点を置く）と現代歴史学の方法に関する基本知識を身につけ、歴史学の発展に貢献できる卒業論文を書いていただきます。たくさん読み、書き、話しましょう。

●使用予定テキスト

輪読(1)では『世界歴史大系 ロシア史』（田中ほか編、全3巻、山川出版社）、『銃・病原菌・鉄』（上下巻、ジャレド・ダイヤモンド著、草思社）、『文化とは何か』（テリー・イーグルトン著、松柏社）を検討しています。本はコピーでなく購入することを勧めます。輪読(2)のテキストはこちらで用意します。

●ゼミの進め方

授業は三本立てです。毎回の授業で下記の1・2・3をやります。

1. 輪読(1)

上記の本を読み進めます。毎回の担当者を決め、担当者は自分が分担する部分を精読し、必要なことを調べて報告します。担当者は事前に説明のための配布物（A4で1枚）を配付します。ほかの人も当該部分を読んで内容に即した質問（3回）をするのが義務です。質問が少ない方にはそのつどペーパー執筆を課します。

2. 輪読(2)

現代のロシア極東に関する新聞・雑誌記事（ロシア語）ないし J. Stephan, “The Russian Far East. A History.”（英語）を読みます。全員の予習が前提です。どちらを読むかは参加者の希望や履修言語に応じて決めます（ロシア語履修者以外の方の参加も可能です）。

3. 発表

毎週、自分で1冊の本（研究書）ないし1篇の研究論文を探し、読み、内容の要旨を口頭で発表してください（全員）。要旨は文章の形で提出してください。4年ゼミでは卒業論文の進捗状況も報告してください。

長期休業中には計10冊程度の研究書を読み、要旨をまとめ、休業明けに提出してください。

すべての連絡はメーリングリストでおこないます。指示に従い、自分でメールアドレス（携帯メールアドレスは不可）の登録をおこなってください。

●成績評価基準

出席回数、授業の参加度（質問回数と予習）、課題の提出状況をもとに評価します。欠席の多い方、ご自分の発表回を無断欠席した方の単位は認めません。提出物の期限は厳守してください。

●ゼミ選択上のアドバイス

参加者に求めるものは主体性と積極性です。約束事を守れない方はご遠慮ください。

毎週の課題が多いため、予習はかなりの時間が必要になります。ロシア史（日露関係史を含む）や歴史学の方法について情熱を持って学びたい人のための授業です。覚悟を決めて参加してください。

学問もスポーツや芸術と同じです。徹底した基礎訓練の蓄積の上に創造性が開花します。いっしょに本気で学びましょう。

熊谷 卓（くまがい たく）

●教員の研究テーマ：

国際法（international law）

●これまでの卒業研究のタイトル（ごく一部ですが）

多国籍企業の社会的責任について

集団的安全保障体制の課題－ケーススタディーを中心に－

人道法はなぜ守られないのか－アメリカによる対テロ戦争（war on terror）を中心に－

裁判員制度が及ぼす国内司法制度への影響

公共交通の課題－新潟市の事例を中心に

日本の小学校英語教育について－韓国との比較を中心に－

●ゼミテーマ・タイトル

たかが法、されど法－人権という視点から

●内容（目的も含む）：

本ゼミナールにおいては、自分が弁護士だったらどう訴訟するか、検察官だったらどう有罪を勝ち取るか、あるいは裁判官だったらどのような判決を下すべきかという多様な視点から、今まさに解決を求められる諸問題についてじっくり取り組むことを目的とする。そして、これらの問題に法というスパイスをふりかけ、検討し、その解決策を提示することを内容とする。

●使用予定テキスト（現在または過去に使用したものとして）：

水上編著『国際法』（2002年、不磨書房）

阿部浩巳『国際人権の地平』（2002年、信山社）

なお、判例（裁判の判決）を読みます。

●成績評価基準

研究報告やレポート、ゼミへの参加度（単に出席していても意味なし）を基準とする。

●ゼミ選択上のアドバイス

(1)ゼミ合宿実施予定

\*これまで日光、会津、村上、新発田、咲花温泉、群馬、伊香保、越後湯沢等で実施

(2)いわゆる3、4年ゼミは4年間の学業の集大成です。「絶対頑張ります！」という人だけにこのゼミナールを勧めます。

(3)（国際）社会の動向に何らかの意味で関心を持っている人に勧めます。

(4)裁判傍聴に行きます。

●まとめ

(1)熊谷ゼミの分析視覚は？→法学的思考（社会科学的思考の1つ）

(2)熊谷ゼミで使う材料は？→判決、書籍、論文

(3)熊谷ゼミでの切り口は？→広い意味での人権（極めて重要な概念です）

(4)熊谷ゼミの地理的フィールドは？→主に日本ですが他の地域（フランス等）も可能！

(5)「やる気がある人」、大歓迎します。



小林 元裕 (こばやし もとひろ)

●教員の研究テーマ

近代から現在にいたる日中関係論。とくに近代中国における日本人の社会・経済活動

●教員の現在の関心

日本、中国、米国における格差社会の出現とその背景、少子高齢化と老いゆく東アジア問題、世界経済に果たす日中経済の役割、新潟の少子高齢化と人口流出、等々。

いま私たちの身の回りは様々な問題に満ちあふれている。人々は「豊かさ」、「快適さ」、「安心・安全」を求めて努力してきたはずなのに、世界では全く逆の事態が噴出ししている。明るい未来像を持たなくなっている私たちはこれから一体どう生きていったらいいのか。

●これまでの卒業論文のタイトル一例

- ・「中国のエネルギー問題」
- ・「中国の若者－『80后・90后』と日中関係のあり方」
- ・「日本住宅メーカーの新たな市場開拓－中国市場進出の可能性－」
- ・「ディズニーがつくり出す顧客満足と従業員満足の関係性」
- ・「子供のケータイ世界」
- ・「新潟県の介護サービス研究」

●ゼミテーマ・タイトル

「私たちが生きている世界は一体どのような世界なのか」

●内容

小林ゼミでは、学生が「自立」する力を身につけることを最終的な目標としている。「自立」とは、ある問題に直面したとき、その問題解決のために自分で考え、調査して結論を導き出す方法であり技術である。

私は世界がいま抱えている問題のほとんどは、少なくとも第2次世界大戦、多くの場合、近代にまでさかのぼって考えなければいけないと考える。そこでまず、学生が大学生として最低限身につけておかなければいけない基礎知識として特に日本の近代、現代について学ぶ。次いでその基礎の上に、現在起こっている問題を取り上げ、その解決策を探求する。取り上げるテーマは学生と話し合って決めるが、格差問題、少子高齢化問題、地球温暖化防止問題等を考えている。2011年度は「TPP問題」、2010年度は「尖閣諸島問題」、2009年度は「地球温暖化問題」を取り上げた。

●使用予定テキスト：

- ・由井正臣『大日本帝国の時代』岩波ジュニア新書
- ・鹿野政直『日本の現代』岩波ジュニア新書
- ・読売新聞中国取材団『メガチャイナ』中公新書
- ・白波瀬佐和子『生き方の不平等』岩波新書
- ・生田武志『貧困を考えよう』岩波ジュニア新書
- ・宮台真司『日本の難点』幻冬舎新書

●ゼミの進め方：

3年前期は基本的な文献を読んで基礎的な知識を習得する。3年後期はテーマを決め、グループワークによって問題解決の提言を行う。4年は専門的な論文読解に挑戦し、各自の卒業論文作成につなげる。

●成績評価基準：

出席、報告の内容および学期末のレポートによる。

●ゼミ選択上のアドバイス：

積極的かつ自主的に行動できる学生に来てほしい。上級生、卒業生と接触する機会が多いので、その中で社会性を身につけてもらいたい。中国語の能力は問わない。

佐々木 寛 (ささき ひろし)

●教員の研究テーマ

平和学・地球政治学という新しい学問の枠組みで、戦争・環境破壊・貧富の格差などの国境を越えた「地球的問題群」の現実を全体的に把握し、この問題に立ち向かう国際組織や社会運動の取り組みや活動について研究しています。

●教員の現在の関心

現時点で思いつくもの。順不同。――新潟の民衆史。沖縄や新潟のミクロな地域主義を含んだ「東アジア」のゆくえ。「グローバル化」というものの真の正体。「グローバル化」にともなう「人権」概念の再構成。原子力発電および核兵器をめぐる政治。遺伝子や臓器をめぐる政治。人間の生活を破壊する対人地雷や劣化ウラン弾、クラスター爆弾などの問題とそれにとりくむ各種の活動。民間軍事会社 (PMC) や新しい軍事経済について。国際報道のしくみ。「国際世論」はどのように形成されるのか。無数のNGO活動の把握と分類。「ボランティア」型社会の可能性。戦後日本の平和運動の世界史的意味付け。フォルクローレの音楽史。子供の成長の様子。などなど。

●これまでの卒業論文のタイトル一例

- ◎臓器売買から見える世界――あなたは買う？それとも…。
- ◎「慰安婦問題」の意味を考える――歴史を学ぶということはどういうことか
- ◎「ナナムの家」からのメッセージ――暴力をこえて
- ◎環境問題に取り組むことの意味――富山市を事例にして
- ◎構造的暴力としての児童虐待――歴史・現状・要因
- ◎死刑に関する一考察
- ◎イスラエル・パレスチナ問題を考える――現代戦争の構造
- ◎原子力と民主主義
- ◎戦争と情報
- ◎侯孝賢の映画と台湾社会 など

●ゼミテーマ・タイトル

平和のための地球政治学

●内容

当ゼミでは、危険や問題がグローバルに展開する現代で、人間がすこしでもよりよく生きぬいていくための方策をいっしょに考えてみようと思います。そのためにはまず、現代の危機や問題の本当の姿をしっかりと知的につかまなければなりません。身近な問題がもつ世界的な意味をおのおのが理解すること。これが第一のねらいです。第二に、このような問題を考えるにあたって、なぜ既存の知的な枠組み＝専門分化した社会科学だけではダメなのか、いかにこれまでの「勉強」が、人間がいきいき生きていくための「学問」をダメにしてきたのか、について考えてみようと思います。その意味で、新しい学問運動としての「平和学」の可能性や新しい大学のあり方などについても議論できればと思います。そして最後に、広い世間でさまざまに展開する新しい試みや活動を見る中で、現代でよりよく生きてゆくための新たな方策をともに探求できればと思います。さまざまな市民活動やNGOで活躍する人たちをゼミに招いたり、ゼミ学生自身が自分たちの力でNGOを設立・運営したり、いろいろなことに挑戦しようと思います。

最終的に各自ゼミ論文 (3年次)、および卒業論文 (4年次) の作成を目指すため、多種多様なテキストを読みこんでゆきだけでなく、さらに必要に応じて調査旅行やフィールド・ワークも行います。また、映画をはじめとする映像資料もできるだけ多く活用する予定です。なお、佐々木ゼミでは毎年、韓国・台湾・中国いずれかの地域に平和研修旅行に訪れるのが慣例になっています。各地の歴史資料館や戦争/平和記念館 (韓国では「ナナムの家」) などを訪れ、身体全体で世界の問題を感じ、思考することを目指します。

当ゼミでは広い意味での暴力や平和に関する問題を扱いたいと思いますが、細かいことは、参加学生の自由意思にゆだねます。扱うテキストに関しては以下に一例として挙げたものを参考にしてください。

●使用予定テキスト

- ◎H. アレント『暴力について』みすず書房
- ◎A. ギデンズ『近代とはいかなる時代か?』而立書房
- ◎U. ベック『危険社会』法政大学出版局

- ◎A.メルッチ『現代に生きる遊牧民』岩波書店
- ◎E.サイド『知識人とはなにか』平凡社
- ◎P.ブルデュー『メディア批判』藤原書店
- ◎日本平和学会編『平和研究26号—新世紀の平和研究』早稲田大学出版部  
—他に必要に応じて英語文献も読みます。
- ◎M.Shaw, Civil Society and Media in Global Crises.
- ◎D.della Porta et al., Social Movements in a Globalizing World. など。

●ゼミの進め方

ゼミの進め方や運営方法に関しては、基本的に参加者と相談して決めます。ただ、テキストを読む場合は、報告者をたてて報告をしてもらい、それを討論者が整理・コメントするという方法をとろうと思います。その後は自由討論。司会も学生です。だから教員は必要最小限のことしか話しません。参加学生がゼミをつくりあげます。

●成績評価基準

ゼミへの参加態度や貢献度 + レポートの出来。

●ゼミ選択上のアドバイス

能力や知識よりも、ゼミというひとつの社会を自分の力で楽しくつくっていかうとする気概をもった学生、また、大学生生活を締めくくる上で悔いのない卒業論文を書き上げたいと思っている諸君を歓迎します。

澤口 晋一（さわぐち しんいち）

### ●指導できる分野と範囲

私が3年ゼミ～卒業論文として指導できる（本学で指導可能な）分野は、地理学（地球科学を含めた自然地理学全般と人文地理学の特定分野）および地球・地域環境問題、資源・エネルギーに関する分野です（詳しくは以下を参照のこと）。

#### ・地理学分野

自然地理学：地形学（高山・山岳、段丘、変動（活断層）地形、沖積平野等）

第四紀学（古環境変動）

気候学（小気候・微気候、気候景観、ヒートアイランド等）

地生態学・景観生態学（植生、自然景観保全、ビオトープ）

人文地理学：土地利用（景観変遷）、食糧問題、地域研究、観光地理学

地誌学

・地球環境問題分野：地球温暖化問題、酸性雨、砂漠化、生物多様性等

・地域環境問題分野：地域環境保全、ゴミ問題、森林保全等

・資源・エネルギー分野：資源枯渇、自然エネルギー、原子力発電に関する問題（と核問題）等

### ●指導方針

私は、たとえ卒業論文であってもそれは研究論文だと考えています。研究論文であるからには、どんな些細なことでもその分野に何か新しい知識をもたらすものでなくてはなりません。これをできる限り実現させるため、私のゼミでは、『各自が決めたテーマに基づいて、自分の手と足で資料やデータを集め、それを分析して得られた結果を解釈し考察すること』（テーマによってはレビュー研究も認めます）を基本原則としています。既存の文献資料の文章を引用と称して大量に“借用”して作成するようなことは私のゼミでは決して認めません。とはいえ、たがが1～2年の勉強で日進月歩の研究に新たな知識を付け加えるなどということはほとんど困難です。努力はしたが結局うまくいかなかったことのほうが圧倒的に多いのが現実です（私だってそうですから）。しかしその努力は決して無駄ではありません。新しい知識の獲得を目指して行った努力の過程にこそ、実は本当の意味があります。私はそこをみます。そこに最大の評価ポイントを置きます。完成度の高さなどは問題にしません。

### ●指導スケジュール

3年 前期：文献検索等を通じ卒論で取り組みたい対象や分野を決定し、関係分野の概説書購読。

夏休み：取り組む対象・分野に応じて各自に課題を提示する。

後期：前期で決めた対象・分野から卒論として取り組むテーマを具体的に絞り込み、それについての勉強を始める。最初は基本的知識を得るために概説書的な書籍の購読を繰り返す。後半以降は様子を見て、可能ならば論文読みにもチャレンジし、調査方法についての検討もおこなう。

春休み：文献・資料収集、論文読み。フィールド調査の必要なテーマならその調査も。

4年 前期：関係する論文読みを通じて基礎知識をさらに固める（関係論文を最低5本は読みます）。同時に資料・データ収集、必要ならフィールド調査。さらに資料・データ分析。

夏休み：論文読み。資料・データ収集、必要ならフィールド調査。さらに資料・データ分析を自主的におこなう。

後期：論文執筆（完成までに最低でも10回の原稿添削があります）

### ●成績評価基準

受講態度、プレゼン、レポートなどによって総合的に判断します。

### ●これまでの卒業論文タイトル一例

人文系：『環境と市民運動－長岡市のマイカーデーを事例に』『新潟県下におけるチューリップ球根栽培の動向』『新潟市鳥屋野地区における土地利用の変化』『古地図に基づいて復元した新潟市の堀の変遷と市街地発達過程』『新潟市における山の神信仰について』

自然系：『気候景観からみた新潟県下越地方における卓越風とその影響範囲』『守門岳における地形と植生の対応関係』『新潟平野北東縁部・村松断層とそれにともなう変動地形』『会津朝日岳とその周辺の山地における多雪景観の分布特性とその形成要因』『25年前と現在の国上山におけるブナ林の構造比較』

環境・エネルギー系：『京都議定書における日本の施策とその状況－森林吸収の観点から』『日本のエネルギー需要における自然エネルギーの可能性』

## 申 銀珠 (シン ウンジュ)

### ●教員の研究テーマ

韓国近代文学形成期における日本からの影響及び日韓近代文学の関連様相について。特に日本統治期、韓国人作家によって書かれた〈日本語文学〉、戦後から現在までの〈在日文学〉、〈中野重治〉など、文学と政治、言語と表現という観点から研究を進めている。

### ●教員の現在の関心

〈在日文学 (日本語文学)〉。金石範・金達寿・李恢成・梁石日・李良枝・柳美里・玄月・金城一紀など、戦後から現在にいたるまでの在日作家の作品世界を探り、その特徴と変貌、表現媒体としての日本語のもつ意味について考えたい。さらに日本近代文学における〈在日文学〉の位置付けの問題を考えながら、ナショナリズム、国家と国民、同化と差別、国際化と地域化の観点からそれぞれの作家と作品世界を読み直したい。

### ●これまでの卒業論文のタイトルの一例

「日本統治下の朝鮮における皇民化政策と創氏改名」

### ●ゼミテーマ・タイトル

「文学で考える日本と韓国・朝鮮、アジアと世界」

### ●内容

日韓比較文化論の一環として、前期は、〈在日文学〉についていっしょに勉強したいと思う。〈在日文学〉というと、皆さんは「堅い」「地味」という印象をもっているかも知れないが、日本人・日本社会の他者として生きていく〈在日〉の人々によって書かれた作品世界は、まさに日本社会の本質を映し出す鏡のようなものである。

朝鮮・韓国人作家が日本語による文学活動を通して日本の政治的・文化的体制に深く関係付けられていたのは、戦前の日本の植民地政策が日本語政策とともにあったことと無関係ではない。日本の植民地政策の結果として、在日の作家は、戦後も日本社会において民族や国家や言語の問題を問いつつ自らのアイデンティティを探っていかざるを得なかった。同一性共同体といわれる日本社会において排除される存在として認識されていく〈在日〉の問題に、作品を通して近づいていく。そして祖国としての〈朝鮮〉とは〈在日〉の人々にとってどんなものだったのか、〈韓国〉と〈北朝鮮〉のそれぞれの現実を彼らはどのように受けとめ、あるいは反目し合ってきたのかを、小説、エッセー、評論などを通して探りたい。

3年後期と4年では、3年前期での内容を踏まえた上で、皆さん自身が選んだテーマについて発表してもらい、討論を行う形で進めていきたい。広い意味での日韓比較文化論という範囲で、日韓の伝統文化、生活文化、大衆文化、時事問題など、日韓相互理解のための〈日本と韓国〉〈日本人と韓国人〉に関わる諸課題を積極的に取り上げる予定である。

3年・4年ともに、〈比べる〉〈調べる〉という二つの言葉をキーワードにした、学習者自身が自主的で積極的に参加する〈元気のいい〉ゼミにしたい。特に3年後期のゼミでは、4年の卒業論文の前段階という意味においても、自分の問題意識をしっかりとつかんで自らの課題に近づいてほしい。

### ●使用予定テキスト

- ・金史良『光の中に』（講談社文芸文庫）
- ・金石範『新編「在日」の思想』（講談社文芸文庫）
- ・金石範『鴉の死 夢、草深し』（小学館文庫）
- ・金石範・金時鐘『なぜ書きつづけてきたか なぜ沈黙してきたか』（平凡社）
- ・竹田青嗣『〈在日〉という根拠』（ちくま学芸文庫）
- ・李良枝『由熙 ナビ・タリオン』（講談社文芸文庫）
- ・柳美里『家族シネマ』（講談社）
- ・玄月『蔭の棲みか』（文芸春秋社）
- ・林浩治『在日朝鮮人日本語文学論』（新幹社）
- ・林浩治『戦後非日文学論』（新幹社）
- ・韓国挺身隊研究所『よくわかる韓国の「慰安婦」問題』（アドバンテージサーバー）
- ・小倉紀蔵『韓国は一個の哲学である』（講談社）

### ●ゼミの進め方

3年の前期では、参加者全員が事前にテキストを読み、ゼミでは一人か二人に内容をまとめて発表してもらったあと、皆で討論を行う。後期からは、毎回の発表者と司会者を事前に決め、ゼミの内容・進行等を学生が主導するものにしたい。

●成績評価基準

学期末のレポートで評価する。出席率、普段の授業態度、発表の内容を評価に加える。

●ゼミ選択上のアドバイス

3年のゼミは4年の卒論につながるものだから、自分の興味・関心のある分野を積極的に選んでほしい。

高橋 正樹 (たかはし まさき)

●教員の研究テーマ

現在は、グローバリゼーションが国家と社会にもたらす影響についてと、タイを中心とした東南アジアの政治や国際関係について研究しています。

●教員の現在の関心

タイの今後の政治変動はどのようになるのか。学生の就職は大丈夫だろうか。原発事故によって明らかになった日本社会のひどさは一体何だ。

●これまでの卒論テーマ

「戦争責任と戦後世代」「ビルマの民主化問題」「民族主義と国民国家」「中国の経済成長と農村問題」「コメ自由化と新潟のコメ農家の将来」「新潟における国際交流」「格差社会と教育」他

●ゼミテーマ・タイトル

グローバリゼーション・格差・原発事故

●ゼミ内容

3年前期は原発事故で明らかになった日本社会の問題点を明らかにします。3年後期は、グローバリゼーションと日本社会の格差問題を扱います。これらの研究を元にして、3年の12月頃からは卒論研究をスタートさせます。卒業論文のテーマに関しては、世界と日本の政治経済関係という範囲の中で学生の主体性を尊重します。

●使用テキスト

橋木俊詔『格差社会』岩波書店、2006年；伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何か』平凡社、2002年。  
原発事故関連の書籍、論文。

●ゼミの進め方

ゼミでは、学生が中心となって議論を重視します。また、学生の主体的・自発的学習を求めます。

●成績評価基準

出席、ゼミでの議論、課題の内容を重視します。

●ゼミ決定に際してのアドバイス

和気藹々とした楽しいゼミです。充実した楽しい大学生活を送りたい学生は是非、高橋ゼミへ。

## グレゴリー・ハドリー

### ●教員の研究テーマ

The teacher studies cross-cultural issues, Niigata's local history, Issues of War and Peace, and English Language education are studied.

### ●教員の現在の関心

The teacher has written a book on Niigata during the end of the Pacific War.

### ●これまでの卒業論文のタイトル一例

- \* Researching the Causes of Class Breakdowns in Junior High Schools
- \* A Study of the History of the Bible in Japan
- \* How to Write a Research Paper in English

### ●ゼミテーマ・タイトル

Studying Today's International and Local Issues

### ●内容

Students and teacher will work together to choose a number of international issues and/or local themes which are of common interest and that we will study together. The goal is to encourage speaking skills, analytical thinking, and debate.

### ●使用予定テキスト

Field of Spears: Last Mission of the Jordan Crew (2007, Paulownia Press) , ¥3000.

### ●ゼミの進め方

Students will read a short assignment before coming to class, and will have prepared two questions based on the reading. The teacher will check to see if the student has read their assignments, and ask the students further questions. The teacher may lecture on certain themes to help students better understand the subjects that are discussed.

### ●成績評価基準

Grades are based on class participation, attendance, and writing assignments.

### ●ゼミ選択上のアドバイス

This is a seminar for students to practice English. Those who have finished CEP 2 and who have studied in the American Overseas Program are encouraged to attend. The main language of the seminar is English, and students are encouraged to write their graduation papers in English. The minimum TOEIC score to participate in this class is 500.



## アレクサンドル・プラーソル

### ●教員の研究テーマ

ロシアの大学・大学院の修了後、日本語と日本文化の研究を進めてきたが来日すると、ロシア語・ロシア文化の授業を与えることになった。現在、両方とも行っていきたいと思う。最近の研究テーマは「日本教育史」である。

### ●教員の現在の関心

ロシアの上代文化と社会、ロシア人発想の起源、ロシア人論の説に興味を持っている。

19世紀半ばのロシア詩人チュチェフは書いた

ロシアは頭では理解できぬ 並みの尺度でははかれぬ。

ロシアだけの特別の姿がある ロシアはただ信じるのみ。

この発言の背景にあるのはなんだろうか、ということをあきらかにするなめにロシア社会のもっとも大切な時代や歴史的な出来事や人物等について研究したり考察したりしたいと思っている。

### ●これまでの卒業論文のタイトル一例

M.ブルガーコフ著の「巨匠とマルガリータ」における悪魔と並みの人

M.ブルガーコフ著の「巨匠とマルガリータ」における人間としてのキリストの現象

ロシア民族音楽の変遷と伝承

ロシア語と比較してみる日本のオノマトペ

日本とロシアのユーモア文化の比較

### ●ゼミテーマ・タイトル

「ロシア文化のルーツ」

### ●内容

ロシア国家の起源から現代までのロシア史を探りながら、その文化と世界観等がどう形成してきたかと突き詰めるのが主な課題である。それと同時にゼミ学生の発言力がつくようにゼミ中の論争をあくまでも励ましたいと思う。そのために全員は毎回資料の読んだ部分をプリントにまとめてみんなに配付しなければならない。よくわからなかったまたは疑問に思ったところについては、ゼミの相手に答えてもらうことと他人の疑問に答えるのは義務づけられている。

### ●使用予定テキスト

岩間徹著 ロシア史 (増補改訂版) 山川出版社 1992

藤沼孝著 ロシア - その歴史と心 第三文明社 1995

### ●ゼミの進め方

ロシア史の一番画期的、興味のある時代を選んで以上に書いてあるように授業を進めたいと思う。学生の意見を考慮に入れて教材を選ぶつもりであるが、毎回の授業は全員の積極的な参加活動を必要とする。

### ●成績評価基準

出席率、発表の内容と形、討論参加度を考慮に入れて成績評価を行う。

### ●授業選択に際してのアドバイス

人の前で自分の見解等を発表し、意見交換の形で討論の進め方と高等レベルの基礎知識を身につけたい人を歓迎する。ロシア社会史を通じて異文化の理解を深めたい人なら、だれでもいい。

松尾 瑞穂（まつお みずほ）

●教員の研究テーマ

文化人類学（特にジェンダーと医療の人類学）を専攻。南アジア、インド社会をフィールドとして、女性のリプロダクション（出産や避妊、不妊など文字通りの人と社会の「再生産」に関わること）の近代化と変容過程について研究をしている。

●教員の現在の関心

身体とテクノロジー（科学技術に限らず広義の技法）との関わりに関心を持っている。たとえば、インドにおける代理出産や体外受精がもたらす家族関係の変容、家族計画・産児制限と優生思想、科学技術とカースト間の浄・不浄観念の変容など。近年はインドにおけるトランスナショナルな代理出産の実践について考えている。

●これまでの卒業研究のテーマ

日本における少子高齢化、新潟の人口流動と過疎化、家族と住宅の変容、ジェンダーと女性就労、サッカーとグローバリゼーション、食生活と食育、食の欧米化、宗教による食のタブー、HIV / AIDS の増加要因、老人福祉と在宅介護、性のボーダーレス化とファッション、など。

●ゼミテーマ・タイトル

変わりゆく日本の家族－グローバル化する家族、個人化する家族、家族を越える家族

●内容

本ゼミでは、ジェンダーや結婚、生活や文化の変容、少子化、高齢化、グローバル化などのさまざまなトピックを、「家族」という大きなテーマのもとで考える。取り上げるトピックは「家族」に関わるものとはいえ、社会学、人類学、経済学、ジェンダー、歴史学など多岐にわたるので、様々な視点からある現象を広く深く学び姿勢をぜひゼミで育てたい。そして、4年生以降の卒業論文のテーマ決めに活かしてもらいたい。なお、本ゼミは必ずしも文化人類学の予備知識を必要とはしないが、何らかの「調査」に基づいて卒業論文を執筆することを強く推奨する（そのための指導とガイダンスは行う）。教員の研究テーマである「文化」や「ジェンダー」などのトピックに関心があればベストだが、それ以外でも広く指導するつもりである。

●使用予定テキスト

稲賀繁美編（2000）『異文化理解の倫理にむけて』、名古屋大学出版会。

春日直樹編（2008）『人類学で世界を見る－医療・生活・政治・経済』、ミネルヴァ書房。

西川祐子（2004）『住まいと家族をめぐる物語－男の家、女の家、性別のない部屋』、集英社新書。

上野千鶴子（1994）『近代家族の成立と終焉』、岩波書店。

上野千鶴子（2011）『ケアの社会学－当事者主権の福祉社会へ』、太田出版。

その他、受講生と相談の上決定。理解を深めるために、映画やドキュメンタリーを用いて分析することも考えている。

●ゼミの進め方

前期には、グループ活動を取り入れながら、ゼミ・テーマに関連するトピックについて自分たちで調べ、分析し、発表してもらおう。その後、決められたテキストの各章を全員が読み、担当者がレジメを用意して発表、そして全員で討論するという形式をとる。また、前期の早いうちに論文（感想文ではなく！）の書き方について、基本からしっかり学ぶ時間を取りたいと思う。さらに、ゼミでは毎回、必ず全員が発言することを義務とする。何も考えていないテーマに発言することは不可能ではないが、難しい。発言するためには必ず全員が与えられたテーマについて調べ、読解し、自分なりによく咀嚼したうえでゼミに出席すること。後期では、前期と同様、文献の読解を進めるとともに、各自が卒業論文で取り上げたいテーマに関する基本文献のリストを作成したうえで、もっとも重要だと思われる文献を選んで発表する。4年次は各自が調査研究の結果を報告し、全員で討論する形式としたい。ゼミの主役はゼミ生であり、それぞれが積極的に質疑、討論に参加し盛り上げていくことを期待する。

●成績評価基準

ゼミへの貢献度と発表レポートから総合的に評価する。

●ゼミ選択に際してのアドバイス

日本、外国に限らず、自分で調査をして卒業論文を書いてみたいと思う人に向いている。また、社会のなかで、「自明（当たり前）」だと思われていることに疑問を抱いたり、批判的に問い直したいと思ったりする学生を歓迎する。あるいは、身体にもジェンダーにも関心はないが、アジアのことを知りたい！だとか、インドに興味があるという場合も大歓迎である。なお、本ゼミでは文化人類学関連のテキストを読むことも多いので、ゼミ生は「文化人類学」（2年次）や、3年次後期に開講される社会調査演習も履修する（している）ことが望ましい。

矢口 裕子 (やぐち ゆうこ)

●教員の研究テーマ

女性作家を中心としたアメリカ文学研究。フェミニスト/ジェンダー/セクシュアリティ批評。

●教員の現在の関心

ヨーロッパに生まれ、アメリカに移住した女性作家アナイス・ニンの日記研究。彼女の日記には、生前出版された全7巻のシリーズがあるが、死後「無削除版」と銘打たれたものが続々と刊行され、それ以前のイメージを裏切る新しいニン像を提出している。無削除版第1弾となる『ヘンリー&ジューン』では、作家ヘンリー・ミラー、その妻ジューンとの特異な三角関係の中で、ジェンダー/セクシュアリティの実験者としてのニンが立ち現れる。新しいジェンダー/セクシュアリティ批評の成果を使い、アナイス・ニンを「読み直す」ことが現在の関心事。

●これまでの卒業論文のタイトル一例

なし

●ゼミテーマ・タイトル

フェミニスト/ジェンダー批評入門

●内容

フェミニスト/ジェンダー批評とはいったいどういうものかを理解するとともに、実際にそれを使って文学や映画、あるいは音楽を読み解き、批評の実践をすることを目指す。

最近の若者は本を読まなくなったとよく言われるが、このゼミナールでは「読む」ことを学び、かつ楽しむことをめざす。だがむろん、ただ漫然と読むのではなく、一定の批評的視点をもって読むと、作品の表面から隠れている構造が明らかになったり、作者の意図を超えた問題が浮かび上がってきたりする。そうすると「読む」ことは単に受動的行為でなく、主体的に作品に関わり、切り込んでいく作業となる。そのさい、作品を読み取る視点を与えてくれたり、切り取る道具となるのが批評理論と呼ばれるものだ。

フェミニズムには、女性の権利拡張を求める社会運動の側面と、学問的批評理論の側面があり、このふたつは切り離すべきものではない。現実の女性をめぐる状況が理論を研ぎ澄まし、また、精緻な理論的活動が運動を背後から支えてきた歴史があるからだ。

本ゼミナールでは、批評言語としてのフェミニズムに注目し、それを道具として使いこなす批判的読み手、さらにはフェミニスト批評の書き手の養成を最終的な目標とする。

●使用予定テキスト

『文学を社会学する』朝日新聞社

『男流文学論』筑摩書房

『もう女はやってられない』講談社

『ヒロインは、なぜ殺されるのか』講談社プラスアルファ文庫

『ヒロインからヒーローへ』田畑書店

『女が読む日本近代文学』新曜社

『男性作家を読む』々

『女というイデオロギー』南雲堂

『どうにもとまらない歌謡曲――70年代のジェンダー』晶文社

●ゼミの進め方

レポーターとコメンテーターを学生が担当する。レポーターの仕事はテキストの要約、資料情報の提供、自分の意見を述べることである。それを受けてコメンテーターが質問・意見等を述べ、他のゼミ生の発言や参加を促す。いずれにせよ、ゼミを動かす、回していくのは学生の役割である。

●成績評価基準

レポーターとしてのゼミへの貢献、普段の発言等授業へ取り組む積極性、そして無論レポートの成果を総合的に判断する。

●ゼミ選択上のアドバイス

3年ゼミは卒論に直結する重要なものなので、自分の興味・適正を熟慮の上選択してほしい。

吉澤 文寿 (よしざわ ふみとし)

●教員の研究テーマ

朝鮮現代史、とくに「植民地責任」／植民地主義をめぐる日朝関係。

●教員の現在の関心

1) 1965年に実現した日韓国交正常化に至るまでの交渉過程について、日韓双方で新たに開示された外交文書を使って再検討を試みている。2) 「植民地責任」をキーワードとして、在日朝鮮人、植民地・戦争被害者などの視点から朝鮮及び日本の現代史、ひいては世界史を理解する方法を追究している。3) 新潟のなかの朝鮮の歴史にも関心をもって史料を集めたり、歴史の現場を訪れたりしている。

●これまでの卒業研究のテーマ

2011年度吉澤ゼミの学生による卒業論文のタイトルは以下の通りである。

・韓国ワーキングプア～青年貧困問題とその解決に向けて～

●ゼミテーマ・タイトル

3年次：朝鮮近現代史を自主的に学ぶ

4年次：みずから定めたテーマを最後まで考え抜く

●内容

3年次に韓国の高校教科書をテキストとして、朝鮮近現代史を学ぶ。テキスト講読を通して、学生各自が関心や疑問を持ったことをさらに追究することを課題とする。また、学生からの要望があれば、他の文献及び史料講読、フィールドワークなども行ないたい。

4年次にみずから定めたテーマで卒業研究を行なう。卒業論文のテーマは韓国／朝鮮関係に限らなくてもよい。

●使用予定テキスト

3年次：韓哲昊他著／三橋広夫訳『韓国近現代の歴史』明石書店、2009年。

4年次：とくになし。このほか、学生と相談して、講読すべき文献などがあれば、取り上げたい。

●ゼミの進め方

3年次：報告者はテキストの内容をまとめ、関心や疑問があることを調べ、論点を明確にする。他の学生もテキストを読み、関心や疑問があることを調べておく。議論を通して、各自が理解を深める。

4年次：学生が卒業研究報告を順次行ない、議論を通して理解を深める。

●成績評価基準

卒業研究にいちばん大切なことは、自らの課題に真剣に向き合い、粘り強く問い続ける意志である。

●ゼミ選択上のアドバイス

志望理由書には残りの2年間で自分が何を学びたいのか、できる限りでよいので、よく考えて書いてほしい。

# システム演習

基礎演習 1  
基礎演習 2  
情報処理演習 (F, U, C, W)  
情報システム演習 1  
情報システム演習 2  
専門演習 A  
専門演習 B  
専門演習 C  
専門演習 D

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1年	基礎演習 1	1	前 後	情報システム教員
21年度以前	専 門		基礎演習 2	1		

必修

<授業目的>

特定テーマについて少人数のクラス（1クラス16名程度）による演習を通して、情報収集、プレゼンテーション、チーム作業、社会への適応などの能力を養う。各種資料からテーマを見つけ、自分の解釈、意見、提案をまとめたものや、グループ内で議論した内容などを各自が発表する。なお、各クラスを教員1名が担当し、学生と教員の密接なコミュニケーションをすすめる場としても活用する。「自ら考え、自ら行動すること」を重視する。

<各回毎の授業内容>

以下は演習のガイドラインを示したものである、各クラスで内容や順序が変更になることがある。

【基礎演習 1】

- 1～2. 自己紹介、履修指導
- 3～4. 映像鑑賞
- 5～6. 情報閲覧室の利用、情報収集
- 7～10. プレゼンテーション、文章表現
- 11～12. 学生生活、キャリア設計に関すること
- 13～15. クラス独自の課題による演習

【基礎演習 2】

- 1～3. プレゼンテーション、文章表現
- 4～10. チーム作業による演習
- 11～12. 学生生活、キャリア設計に関すること
- 13～15. クラス独自の課題による演習

<成績評価方法>

適宜実施するプレゼンテーション、チーム作業、レポートなどに点数を付け、合計点を100点満点に換算して評価する。

<教科書・参考文献>

最初の授業時に配布する。

<学習到達目標>

【基礎演習 1】

人前で自分の考えを説明し、他人の考えを聞いて意見交換することができること。(約50%)  
情報を収集、整理して、問題点、解決策、考察をプレゼンテーションやレポートに表現できること。(約50%)

【基礎演習 2】

情報を収集、整理して、問題点、解決策、考察をプレゼンテーションやレポートに表現できること。(約50%)  
チーム作業を通して問題解決にあたることができること。(約50%)

(関連する学習・教育到達目標:A)



入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門		情報処理演習F・U・C・W	2		情報システム教員
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

コンピュータを用いてさまざまな情報を処理する手法を学ぶ。習熟度や希望コースに対応できるように、並列して各演習を開講するので、学生は各自の目的に合わせて学習モデルを作り、履修する。開講される演習は以下の通りである。

1) 情報処理演習F

コンピュータの基本操作に慣れることを目的とし、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、HTMLなどの演習を通して、コンピュータの基本的な技術を身につける。

2) 情報処理演習U1

実社会における問題などを解くために、Excel, SQL, Visual Basicを用いてアプリケーションの高度利用技術を習得する。

3) 情報処理演習U2

情報処理演習U1を受け、さらなるデータ処理（Excelによる統計的手法及びシミュレーション）と、データベース（Access）について学習する。

4) 情報処理演習C1

コンピュータを使用して、情報処理の問題を解決するために必要な、プログラミング技術の基本をC言語により学習する。

5) 情報処理演習C2

情報処理演習C1を受け、より進んだC言語のプログラミング技術を学習する。

6) 情報処理演習W

コンピュータの仕組みやOSについて体験的に学習した上で、ウェブプログラミングに関して学習する。

<受講に当たっての留意事項>

- ・ 1、2年次前期後期に各演習を2科目以上履修する（選択必修）。
- ・ 1、2年次生が同時に受講する。
- ・ あらかじめ開講クラス数が決まっているので、履修希望人数が多いときは履修できない場合がある。
- ・ 前後期の最初に説明会を行い、履修希望調査を行う。

各演習の授業内容、成績評価方法、教科書・参考文献、受講に当たっての留意事項、学習到達目標は次頁以降を参照すること。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1 年	情報処理演習F	2	前	西山 茂・岸野清孝
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

コンピュータの基本操作に慣れていない学生および一から学習したい学生を対象とし、コンピュータの基本操作の学習を目的とする。ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、インターネット、ウェブページ作成などの演習を通してコンピュータの活用技術を身につける。

<各回毎の授業内容>

- 1 パスワードの登録、ウェブブラウザ、ウェブメール
- 2 コンピュータの基本操作
- 3 ワードプロセッサ1 (word 1)
- 4 ワードプロセッサ2 (word 2)
- 5 ワードプロセッサ3 (word 3)
- 6 ワードプロセッサ4 (word 4)
- 7 表計算1 (excel 1)
- 8 表計算2 (excel 2)
- 9 表計算3 (excel 3)
- 10 表計算4 (excel 4)
- 11 表計算5 (excel 5)
- 12 プレゼンテーション (power point 1)
- 13 ウェブページ1 (HTML1)
- 14 ウェブページ2 (HTML2)
- 15 ウェブページ3 (HTML3)

<成績評価方法>

適宜レポートを提出させる。演習時間の評価 (40点)、レポートの評価 (60点) の合計点を100点とする。

<教科書・参考文献>

入学時に全学生に配布される情報システムガイドを使用する。

<受講に当たっての留意事項>

情報センター利用規則を守ること。

<学習到達目標>

コンピュータの基本操作を学習することにより、仕事や生活にパソコンやインターネットを活用する力をつける。

(関連する学習・教育到達目標:C)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1年 2年	情報処理演習U1	2	前 後	高木・槻木・山下 小林・上西園
21年度以前	専 門					

選択必修

**<授業目的>**

実社会における問題などを解くためにアプリケーションの高度利用技術を習得することを目的とする。アプリケーションとしてExcel、SQL、VB（Visual Basic）を使用する。Excelは基礎的な内容を理解していることを前提に、文書の作成やデータの分析など、さらに進んだ内容を扱う。SQLは情報システムとして最も使用されているデータベースを扱う言語であるが、演習では主にリレーショナルデータベースのデータ照会について学ぶ。VBはWindows用アプリケーションを簡単に作成できるプログラミング言語であるが、演習では簡単ないくつかのプログラムを作成し稼動させることにより理解を深める。

**<各回毎の授業内容>**

- 1 Excel グラフの作り方の応用
- 2 〃 カウント、集計表、度数
- 3 〃 様々な関数の使い方
- 4 〃 表引き関数の使用の仕方
- 5 Excel 表計算ソフトの歴史と現状、理解度テスト
- 6 SQL データ操作言語（DML）の利用
- 7 〃 データの照会 SELECT文によるデータの取り出し
- 8 〃 データの照会 FROM節、WHERE節、GROUP BY節、ORDER BY節
- 9 〃 RDB（Relational DataBase）の表に対する基礎
- 10 SQL 理解度テスト
- 11 VB VBについて、プログラミングの基礎
- 12 〃 計算の仕方
- 13 〃 コントロールの使い方
- 14 〃 グラフィックスの使い方
- 15 VB 理解度テスト、全体のまとめ

**<成績評価方法>**

時間内に行う演習課題の評価点の合計を40%、適宜提出させたレポートと理解度テストの評価点の合計を60%として成績評価を行う。

**<教科書・参考文献>**

必要な資料は配付する。

**<受講に当たっての留意事項>**

情報センター利用規則を守ること。

**<学習到達目標>**

アプリケーションの利用技術を学習することにより、仕事や生活にパソコンやインターネットを活用する力を習得する。

（関連する学習・教育到達目標:C,D）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	1年	情報処理演習U2	2	前後	高木義和・白井健二 小宮山智志
21年度以前	専 門	2年				

選択必修

<授業目的>

ExcelやAccessのようなアプリケーションは道具であり、目的達成のための手段である。この科目ではソフトの操作の仕方よりも、目的の方を重視して学習する。Excelを使って、統計分析やシミュレーションを学ぶ。Accessを使ってデータベースの作成を学ぶ。このような学習によって対象とする分野の理解と共にレベルの高いアプリケーションの使い方が習得できる。

<各回毎の授業内容>

- 1 オリエンテーション  
Excelによる統計分析 担当 小宮山  
(1)基本統計量
- 2 (2)会社が求めている人材と 売れ筋商品
- 3 (3)顧客のランキング
- 4 (4)ファミリーレストランの印象
- 5 (5)同上及びテスト
- 6 Accessによるデータベースの作成 担当 高木  
(1)Accessの概要
- 7 (2)オブジェクトの作成
- 8 (3)リレーションシップとコンボボックス
- 9 (4)クロス分析とデータベースの正規化
- 10 (5)同上及びテスト
- 11 Excelによるシミュレーション 担当白井  
(1)方程式の利用と最適化
- 12 (2)VBAと連続型シミュレーション
- 13 (3)乱数で学ぶ確率論
- 14 (4)リスク分析とモンテカルロシミュレーション
- 15 (5)同上及びテスト

<成績評価方法>

・演習課題・レポート課題及び最終回（各5回目）のテストの成績による。

<教科書・参考文献>

・教科書を配布する。

<受講に当たっての留意事項>

・Excelの基礎的事項を習得していることが望ましい。

<学習到達目標>

・専門科目の中でアプリケーションがどのように使われるかを理解させるとともに、アプリケーションの高度な技能を習得させる。

(関連する学習・教育到達目標:C,D)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1年 2年	情報処理演習C 1	2	前 後	桑原・石川・中田・河原 佐藤
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

コンピュータを使用して情報処理の問題を解決するために必要なプログラミング技術の基本を、C言語により学習する。初めてC言語を学ぶ学生を対象に、データ型、入出力処理、演算、制御構造、配列、関数といったプログラミングの基本を学習する。

<各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス及びクラス分け
- 2 C言語プログラムの基礎、プログラミング環境について
- 3 データ型、入出力
- 4 演算
- 5 制御構造（分岐 if文）
- 6 制御構造（分岐 switch文）
- 7 制御構造（反復 do文）
- 8 制御構造（反復 while文）
- 9 制御構造（反復 for文）
- 10 制御構造のまとめ
- 11 配列の基礎
- 12 配列の応用
- 13 関数の基礎
- 14 関数の応用
- 15 まとめ、理解度テスト

注) 受講する学生の理解度により、講義順序、分量を調整することがある。

<成績評価方法>

時間内に行う演習課題の評価点の合計を40%、宿題レポートの評価点の合計を30%、理解度テストの評価点を30%として成績評価を行う。

<教科書・参考文献>

- ・教科書「新版 明解C言語 入門編」柴田望洋 ソフトバンククリエイティブ 2,310円
- ・参考文献はその都度紹介する。

<受講に当たっての留意事項>

- ・情報センター利用規則を守ること。

<学習到達目標>

C言語プログラミングに関する基本的な知識を理解し学習することにより、簡単な問題の解析を行うことができること（演習10%・宿題10%）。プログラム作成やデバッグができるようになること（演習30%・宿題20%・テスト30%）。

（関連する学習・教育到達目標:C,D）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	1年 2年	情報処理演習C2	2	前 後	石井忠夫・中田豊久
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

コンピュータを使用して、情報処理の問題を解決するために必要な、プログラミング技術をC言語により学習する。情報処理演習C1を受けて、さらにポインタ、構造体、ファイル処理を使用したプログラミングの応用方法を学習する。

<各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス及びクラス分け
- 2 復習:全般
- 3 復習:配列について
- 4 復習:関数について
- 5 ポインタの基礎
- 6 ポインタと配列
- 7 ポインタと文字列
- 8 ポインタと関数
- 9 構造体の基礎
- 10 構造体の応用
- 11 ファイル処理の基礎
- 12 ファイル処理の応用
- 13 応用問題
- 14 〃
- 15 まとめ、理解度テスト

<成績評価方法>

時間内に行う演習課題の評価点の合計を40%、宿題レポートの評価点の合計を30%、理解度テストの評価点を30%として成績評価を行う。

<教科書・参考文献>

- ・教科書「新版 明解C言語 入門編」柴田望洋 ソフトバンククリエイティブ 2,310円
- ・参考文献はその都度紹介する。

<受講に当たっての留意事項>

- ・情報処理演習C1を履修し、C言語の基礎について理解しておくことが望ましい。
- ・情報センター利用規則を守ること。

<学習到達目標>

C言語プログラミングに関する全般的な知識を理解し学習することにより、さまざまな問題の解析を行うことができ（演習10%・宿題10%）、プログラム作成やデバッグができるようになる（演習30%・宿題20%・テスト30%）。

（関連する学習・教育到達目標:C,D)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門		情報処理演習W	2		近藤 進・石井忠夫 河原和好
21年度以前	専 門					

選択必修

#### <授業目的>

コンピュータの基本構成やネットワークについての知識を体験的に学習した上で、ウェブプログラミングに関する基礎技術を学習する。前半では、コンピュータの仕組みを理解し、OS (Linux) をインストールして使い方を理解する。次にネットワークの設定を行い、ウェブサーバを構築する。後半では、CSS、JavaScript、CGI等のウェブプログラミング技術に関する基本的な学習を行う。

#### <各回毎の授業内容>

- 1 ガイダンス
- 2 前半1 コンピュータの仕組み
- 3 前半2 コンピュータの組立て
- 4 前半3 OSのインストール
- 5 前半4 OSの基本設定、使い方
- 6 前半5 ネットワークの設定
- 7 前半6 ウェブサーバの構築・設定
- 8 前半7 まとめ
- 9 後半1 WWWのしくみ、ウェブプログラミングの基礎、HTML
- 10 後半2 スタイルシート (CSS)
- 11 後半3 JavaScriptの基礎
- 12 後半4 JavaScriptの応用
- 13 後半5 CGIの基礎
- 14 後半6 CGIの応用
- 15 後半7 まとめ

#### <成績評価方法>

時間内に行う演習課題の評価点の合計を40%、適宜提出させるレポートと理解度テストの評価点の合計を60%として成績評価を行う。

#### <教科書・参考文献>

- ・必要な資料を配付する。
- ・参考文献はその都度紹介する。

#### <受講に当たっての留意事項>

- ・講義や演習でHTMLに関して理解しておくことが望ましい。
- ・情報センター利用規則を守ること。

#### <学習到達目標>

コンピュータやネットワーク、ウェブプログラミングに関する演習を行うことにより、コンピュータの構成とネットワーク（前半の成績評価による）、ウェブの仕組み（後半の成績評価による）について理解できるようになる。

(関連する学習・教育到達目標:C)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員 (所属等)
22年度以降	専 門	2年	情報システム演習 1	1	前 後	情報システム教員
21年度以前	専 門		情報システム演習 2	1		

必修

**<授業目的>**

各自が主体的に"情報システム"を創造し、または情報システムを活用し情報を創造するために必要になるであろう、基礎的な方法・概念の取得を目的とした演習である。

**<各回毎の授業内容>**

情報システム演習 1 と情報システム演習 2 をあわせると 30 回の演習が行われる (前期:「情報システム演習 1」15回、後期:「情報システム演習 2」15回)。前期の第 1 回目 (総合演習 1) では演習のガイダンスならびにこの演習の位置づけの説明を行う。第 15 回目 (総合演習 2) では前期のまとめを行う。後期の第 1 回目 (総合演習 3) では、研究室配属のガイダンスを行う。第 15 回目 (総合演習 4) では情報システム演習 1・2 全体のまとめを行う。この他に前後期あわせて 26 回の演習を行う。演習で学ぶ内容は以下の 4 つのグループに分けられる。

- 1) 地域社会や企業を経済的・経営的視点から捉えるための種々の方法を学ぶ。新潟・日本・世界といった地域的な広がりに着目した経済的分析と、需要予測、金利と償却、在庫管理について学ぶ (No.1～7)。
- 2) 数量的なデータの解析の仕方を学ぶ。自らデータ分析ができるように、また既存のデータ分析の結果を評価し、利用できる能力を身につけるための基本的なトレーニングを行う。さらに、就職試験問題に出題される問題を解くために必要な数学の基礎を学ぶ (No.8～15)。
- 3) 企業での業務を分析し、コンピュータを利用した情報システムを設計するための一連の方法を学ぶ。コンピュータによる情報システムを設計するために業務・情報の流れを図式化し分析すること、コンピュータに入力すべき情報を確定し、入力画面を設計すること、入力された情報をデータベース化する方法を修得する (No.16～21)。
- 4) コンピュータの中ではどのようにして演算が行われているのかということを理解する。まず論理回路の実験を行ない、電子による演算を体験する。次にマシン語によるプログラムの作成を行ない、演算の仕組みを学ぶ。また、制御用マイコンにプログラムを書き込み、その使い方を学ぶ (No.22～24)。

**<成績評価方法>**

半期ごと、演習時課題点 40 点、レポート点 60 点の合計 100 点満点で成績評価を行う。

**<教科書・参考文献>**

第 1 回演習時にテキストを配布する。

No.12～No.15では別途テキストを指定するので、教科書販売時に購入すること。

**<受講に当たっての留意事項>**

演習に出席しなければ、成績評価の対象とならない。

**<学習到達目標>**

- 1) 情報システムを分析し、設計するためのさまざまな手法を使って、問題解決に応用できるデザイン能力を身につける。
- 2) 情報システムを有効に活用するための基礎的な考え方を、演習を通して身につける。

(関連する学習・教育到達目標:E)



No.	演習項目	演習内容
1	世界経済と日本	世界主要国の人口および GNP per capita を求め、貿易収支と為替レートの関係を理解する。
2	日本経済の動向	日本経済の GNP・GDP、産業構造の変化、個人消費構造の変化等のマクロ経済について学ぶ。ついで、GDP の変化と個人消費構造の変化と相関分析を行う。
3	新潟県の位置付け	国内統計データより、各県毎の経済指標、生活指標を比較し、全国における新潟県の位置付け、特色を理解する。新潟県の情報産業データを分析し実態を理解する。
4	需要予測	モデルデータのグラフ化、数式化、数式モデルによる需要予測の考え方を学ぶ。
5	在庫管理	発注時期や発注量は、在庫の基本的な意思決定因子であり、これらが一定か変化するかにより、種々の在庫管理方式が存在する。これらについて学習する。
6	金利と償却	金利について単利・複利の概念を解説し、実際の金利計算をおこないその違いを体験する。固定資産の減価償却の概念を学び、定額法と定率法償却計算の構造を理解する。
7	財務諸表分析	財務諸表の数値を加工することによって、成長性、利益性、採算性、安全性、生産性などを測定する。過去の会計情報を分析し、将来に生かす方法を理解する。

No.	演習項目	演習内容
8	サンプリング	偶然との付き合い方を学びます。一見すると偶然は予測不能なように思えますが、違うのです。偶然だから推定できるのです。なぜ"ランダムサンプリング"しなければならないのか、そのしくみを実験を用いて、実感していただきます。さらにこのしくみを用いて、推定することを学びます。
9	さまざまな分布の理解とデータの単純集計	調査や測定によってデータが得られたならば、どのような結果が生じたかを知るために代表値を算出したり図表を作成したりする。本演習では、実際に得られたデータを用いて度数分布図や散布図等を作成する。
10	統計的検定と推定	推測統計学の代表的な手法である統計的検定について学ぶ。理解すべき概念は帰無仮説と対立仮説・有意水準・ノンパラメトリック検定とパラメトリック検定などである。具体的手法として2つの平均値の差の検定(t検定)・2つの分散の検定(F検定)・独立性・関連性の検定(クロス集計表による検定)を例題により演習する。
11	相関分析と回帰分析	2つの特性の間関係を知るための方法として、散布図、相関係数、寄与率を理解する。ついで回帰直線を求め、回帰係数、切片、残差などを理解し、一方で実測値からもう一方の値を推定する方法を学ぶ。また、複数の実測値から一つの値を推定する重回帰分析についてもこの章で学ぶ。
12	数学の基礎(1)	割合の計算・損益算・年齢算・仕事算など就職試験問題に出題される問題を中心に解法を概説する。また、指定テキストにある問題など演習問題を多く解くことで、実力をつける。
13	数学の基礎(2)	速度算・通貨算など文章題および数学的推論や論理的思考問題など就職試験問題に出題される問題を中心に解法を概説する。また、指定テキストにある問題など演習問題を多く解くことで、実力をつける。
14	数学の基礎(3)	就職採用試験に広く採用されている SPI2 非言語問題を突破できるように、ここでは、場合の数、集合、確率、n進法について指定テキストの演習問題を解くことにより、解法を修得する。
15	数学の基礎(4)	就職採用試験に広く採用されている SPI2 非言語問題を突破できるように、ここでは、虫食い算、不等式、進路と方向、PERT 手法について指定テキストの演習問題を解くことにより、解法を修得する。

No.	演習項目	演習内容
16	システム構造の理解と図式表現	業務（仕事）の情報システム化を考える時には、対象とする仕事の仕組みを調査し、その仕事は何を目的とし、どのように行われているかを理解する必要がある。仕事の仕組みを誰でもが理解できる図表で表現し、仕事の内容を分析する方法を学ぶ。
17	情報の流れの分析	仕事の内容を分析し、機能（仕事の単位）に分解したら、各機能を実行するためにどのような情報が必要かを分析する。その結果を、機能と情報の関係を表現する図である、データフローダイアグラムに書き表す方法を学ぶ。
18	入力情報の分析	仕事を実行するために必要な情報（入力情報）の内容を分析し、必要とされる情報項目を明らかにする。そして、入力情報をコンピュータにインプットするための入力画面を設計する方法を学ぶ。
19	蓄積情報の分析	入力された情報をコンピュータ内に蓄積し、必要な時に利用できるようにするために、どのような情報を蓄積するべきかを考える。蓄積するべきいろいろな情報の内容と、それらの関連を分析し、エンティティリレーションシップダイアグラムに書き表す。
20	リレーショナルデータベース	コンピュータ内に情報を蓄積するための方法として、最も一般的なテーブル形式のデータベースであるリレーショナルデータベース（関係データベース：RDB）について、その設計方法と活用方法を学ぶ。
21	SQL（データベース照会言語）	リレーショナルデータベース（RDB）に情報を蓄積し、必要な情報を的確に取り出すためのデータベース操作言語であるSQL（Structured Query Language）を実習を通して学ぶ。

No.	演習項目	演習内容
22	論理演算	ロジックトレーナーを用いて論理回路を組み、電子による演算の仕組みを知る。
23	ワンボードコンピュータ	マシン語のプログラムを作成し、コンピュータの動作の基本を理解する。
24	PIC マイコンによる制御	マイコンはコンピュータの機能を圧縮したもので、自動車や家電に広く使われている。ここでは、マイコンに簡単なプログラムを書き込み、その使い方を学ぶ。

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	専門演習 A	2	前	桑原・小林・石井・石川 槻木・西山・高木
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

「情報とシステム」を専門分野とする学生を対象とし、オブジェクト指向型の情報システム開発手順と図式記述法（UML）を学び、具体的な問題を対象にオブジェクト指向による分析、設計、及び Visual Basic 言語による実装を行うことにより、実際の問題解決をコンピュータを使って実現する方法を体得する。

<各回毎の授業内容>

1 演習ガイダンス及びオブジェクト指向設計概説	桑原,
2 オブジェクト指向分析、設計の概念	小林
3 UMLの概要と要件定義（ユースケース分析）	小林
4 動的モデリング（シナリオ分析）	石井
5 静的モデリング（オブジェクト分析）	石井
6 Visual Basicによる例題の実装1 （オブジェクト指向設計による住所録システムのプログラム）	石川
7 Visual Basicによる例題の実装2 （オブジェクト指向設計による住所録システムのプログラム）	石川
8 予約システムの分析設計1	槻木
9 予約システムの分析設計2	槻木
10 予約システムの実装1（プログラム作成）	西山, 石川, 桑原
11 予約システムの実装2（データベース作成）	西山, 石川, 桑原
12 予約システムの実装3（実装とデバッグ）	西山, 桑原
13 予約システムの実装4（システムのテスト）	西山, 桑原
14 成果発表と評価	西山, 高木
15 理解度テスト	桑原

<成績評価方法>

- ・ 課題レポート、実習および理解度テストで、情報システムの企画、設計、構築の方法に関する理解度を評価する。(50%)
- ・ オブジェクト指向技術を実際の問題解決に応用できる力を、システム実装結果及び成果発表により評価する。(50%)

<教科書・参考文献>

参考書:ジョセフ・シムラー著、長瀬嘉秀監訳 「独習UML」 翔泳社 3600円  
テキスト「専門演習A」を配布する。

<学習到達目標>

- ・ UMLを使ったオブジェクト指向分析、設計、プログラミングの方法を理解できるようになる。(50%)
- ・ 簡単な問題に対し、オブジェクト指向モデルでの開発ができるようになる。(50%)

(関連する学習・教育到達目標:G)

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	専門演習B	2	前	小宮山・上西園・白井 藤瀬
21年度以前	専 門					

選択

<授業目的>

この演習では、卒業研究の前段階として、テーマ（問題）を選定し、その問題についてどう解決すべきなのかを考え、それを実践し、報告するといった一連の研究形式を学びます。テーマは、B分野で取り上げられるべき「人間と社会」に関するものに限定します。各研究室単位でその研究室に必要な基本的研究方法、およびデータ解析方法を学び、最終的には、報告書を作成し、発表会を行います。

<各回毎の授業内容>

全体を大きく4つに分けて演習を行います。第1回目から第4回目までは、テーマとして取り上げられるべきB分野の研究領域に関して概説を行います。第5回目から第10回目までは、各研究室に分かれ、研究テーマ（問題）を選定し、その問題を解決するために調査・実験を行いデータを収集します。第11回目～第13回目では、それぞれ収集したデータを持ちより、実際にデータ解析を行いながら、データ解析方法に関して理解を深めます。最後に、第14回目と第15回目には、全体で発表会を行い、それぞれのグループでまとめた研究成果を報告します。

1. ガイダンス
- 2～4. B分野における研究テーマおよび研究方法の概説
5. 研究テーマ設定
6. 研究計画立案
- 7～10. 調査・実験など
- 11～13. データ解析
14. 研究報告書作成およびまとめ
15. 発表会

<成績評価方法>

研究発表の成果（30％）および毎回の実習課題レポート（70％）

<教科書・参考文献>

各回に資料を配布します。

<学習到達目標>

この演習を通して以下の4つの能力を身につけることを目標とします。

- 1) 問いを見つける構想力
- 2) 斬新な仮説を導き出す独創性
- 3) 検証方法に関する応用力
- 4) 結論を導き出す論理的思考力

（関連する学習・教育到達目標：H）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	専門演習C	2	前	岸野・高木・小林・吉田 内田・山下
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

本演習では、企業経営における情報システムの利活用に関する基礎的な知識の習得を目指す。具体的には、経営組織や経営戦略、経営分析、マーケティング、流通と物流などを理論的に学習し、ビジネスゲームを通じて、より実践的な意思決定能力、データ分析能力、プレゼンテーション能力を養う。さらに、事業計画の技法を取り入れながら、企業経営における問題を発見し、解決策を立案し、問題解決に至るプロセスを学ぶ。所属研究室を基本としたチームを構成することで、コミュニケーション能力の向上も充分期待される。

<各回毎の授業内容>

回次	主担当	内 容
1	岸野	オリエンテーション・ビジネスゲーム説明 ビジネスゲーム（練習）Ⅰ期、Ⅱ期
2	山下	財務諸表と経営分析
3	内田・岸野	経営組織演習 ビジネスゲーム（基礎）Ⅰ期、Ⅱ期
4	内田・岸野	経営戦略演習 ビジネスゲーム（基礎）Ⅲ期、Ⅳ期
5	吉田	マーケティング演習 第1回取締役会：株主総会の資料作成
6	吉田	第1回株主総会：発表会
7	高木	市場情報利用演習 ビジネスゲーム（応用）Ⅰ期、Ⅱ期
8	岸野	流通と物流演習 ビジネスゲーム（応用）Ⅲ期、Ⅳ期
9	小林（満）	企業経営と情報システム演習 第2回取締役会：株主総会の資料作成
10	吉田	第2回株主総会：発表会
11	山下	生産管理と原価管理演習
12	小林（満）	グループワークによる事業定義策定演習
13	小林（満）	グループワークによる事業定義策定演習 報告書の作成
14	小林（満）	発会
15	高木	総括

<成績評価方法>

- ・ 個人の達成度（66％）：小テスト、レポート等。
- ・ チームの貢献度（34％）：経営力（事業内容の統一性、意思決定の妥当性）、プレゼンテーション能力（発表の分かりやすさ、質疑の対応の仕方）等。必ず出席し、レポートを提出することが重要。欠席、遅刻は減点する。

<教科書・参考文献>

- ・ 専門演習Cのテキスト、資料等は各担当教員が必要に応じて配布する。

<学習到達目標>

- ・ 理論を通じて、企業経営に関わる基礎的な知識を習得することができる（個人の達成度として60点の配点）。
- ・ ビジネスゲームを通じて、企業経営における意思決定能力、データ分析能力、プレゼンテーション能力を養うことができる（チームの達成度として25点の配点）。
- ・ 事業計画を通じて、企業経営における問題発見、問題解決のプロセスを理解することができる（チームの達成度として15点の配点）。

（関連する学習・教育到達目標：I）

入学年度 区 分	授業科目 区 分	学 年	授業科目	単 位 数	学 期	担当教員（所属等）
22年度以降	専 門	3年	専門演習D	2	前	槻木・石井・河原・中田 小野・近藤・石川
21年度以前	専 門					

選択必修

<授業目的>

情報システムを開発するために必要なコンピュータと通信技術について、演習を通して具体的に学習する。自由にプログラムを開発できるようになるために、まずOSの機能と操作を学び、次に実際に稼動する応用プログラムを作成する。通信技術については、ネットワークを実際に構築することによって、インターネットの仕組みを理解する。

<各回毎の授業内容>

- 1 OSの機能と操作・・・シェルの役割とプロセス制御
  - 2 OSの機能と操作・・・ファイルシステムとセキュリティ
  - 3 OSの機能と操作・・・正規表現、リダイレクション、パイプ
  - 4 シェルプログラミング・・・利用環境の設定とシェルスクリプト
  - 5 画像処理プログラミング・・・画像処理ソフトの活用方法
  - 6 画像処理プログラミング・・・濃淡画像処理とヒストグラム
  - 7 画像処理プログラミング・・・カラー画像処理
  - 8 Lispによるエキスパートシステム・・・基本設計とルール記述
  - 9 Lispによるエキスパートシステム・・・プロダクションシステムの作成
  - 10 計算機アルゴリズム・・・8クイーン問題プログラムの作成
  - 11 計算機アルゴリズム・・・最短経路問題プログラムの作成
  - 12 ネットワークおよびweb、mailサーバ構築実習・・・サーバとクライアントシステムの設定
  - 13 ネットワークおよびweb、mailサーバ構築実習・・・ネットワーク環境設定と接続テスト
  - 14 電子回路の製作・・・発光ダイオードを用いた光通信回路の組み立て
  - 15 まとめ
- 1～4の対象OSはUNIX (Linux)、5～7と10～11で使用する言語はC言語である。

<成績評価方法>

- ・毎回、時間内での演習課題の評価点50%、宿題レポート点50%として成績評価する。

<教科書・参考文献>

- ・演習テキストを配布する。
- ・参考文献は必要な都度紹介する。

<受講に当たっての留意事項>

- ・UNIXのコマンド、C言語やLispの文法、ネットワーク設定など演習中に理解不足と感じたら、指導教員に質問する、自ら進んで調べるなど積極的で自立的な学習態度が不可欠である。

<学習到達目標>

- ・情報システムを構成するコンピュータ技術とネットワーク技術を演習を通して体得し、情報システム開発に必要な技術的基盤を構築できる力と、実際の問題解決に応用できる力を育成する。

(関連する学習・教育到達目標:J)

# システム卒業研究

卒業研究 1  
卒業研究 2  
卒業研究 3  
卒業論文



## 卒業研究の所属について

### 1. 専門分野と卒業研究指導教員

情報システム学科では、卒業論文の提出が必修として課されており、3年次より専門領域の学習・研究に着手することになります。学生諸君は、以下に示されたA～Dの4分野から研究対象としたい分野を選択し、さらにその分野に属する研究室の中から1つを卒業研究の配属先として選択します。なお、一度決定した分野および研究室は、原則として変更することができません。

分野	A 情報とシステム	B 人間と社会	C 経営と組織	D コンピュータと通信
研究室	石井忠夫※ 石川 洋※ 岸野清孝※ 桑原 悟 高木義和※ 小林満男※ 槻木公一※ 西山 茂 藤田晴啓※	伊村知子 上西園武良 小宮山智志 白井健二 近山英輔※ 藤瀬武彦 藤田晴啓※	内田 亨 岸野清孝※ 佐々木桐子 高木義和※ 小林満男※ 山下 功 吉田 博	石井忠夫※ 石川 洋※ 河原和好 近藤 進 近山英輔※ 槻木公一※ 中田豊久
数	9 研究室	7 研究室	7 研究室	7 研究室

分野と研究室を切り離して選択することはできません。希望する分野に属する研究室を選択する必要があります。例えば、A 分野（情報とシステム）を研究対象として希望しながら伊村研究室（B 分野）を選択することはできません。

※印のついた研究室は複数の分野に対応します。これらの研究室へ出願する場合は、志望する分野を確定しておく必要があります。所属決定後に分野を変更することはできません。例えば「A 分野の石井研究室」に所属した学生が後になって「D 分野の石井研究室」に変更することはできません。

### 2. 研究室の定員

各研究室の定員は9名を予定しています（ただし、状況によって変更になる場合があります）。

複数の分野にまたがる研究室（上表で※マークが付されている研究室）の定員は、分野毎の定員ではなくトータルで9名です。

志願者数が研究室の定員を超えた場合は、教員が採否を決定します。卒業研究は必修科目ですから、残念ながら選から漏れた学生は他の研究室を選択しなければなりません。

### 3. 選考方法

選考は原則として書類審査で行います。卒業研究選択説明会（2012年9月～10月に実施予定）にて配付する選考志願書に必要事項および志望理由を記入の上、期限までに提出してください。

各研究室の研究概要や研究計画は、本冊子の以降の頁に掲載されています。また、本学 HP の卒業論文データベース（<http://www.nuis.ac.jp/~takagi/soturou/>）では卒業生の論文検索が可能です。また、関心のある研究室へは志願書を提出する前に必ず訪問し、自らの目指す方向性（研究内容など）と合致しているかを確認するようにしてください。





## 【石井研究室】 A分野・D分野

### <授業目的>

世の中のいろんな対象について論理的思考の立場から、その振る舞いや特性を記号論理学的手法を用いてモデル化する。また、これ以外にも、オブジェクト指向に基づいた分析手法があり、これを用いて問題領域をモデル化する。次に、これらの各モデルの正しさの検証を論理的な検証手法、またはプログラムの実現により確認する。論理的な検証には定理証明プログラム Coq、また、プログラムの実現にはオブジェクト指向スクリプト言語 Ruby を使用する。

### <授業内容>

卒業研究1：卒業研究を進める上での基礎科目を輪講形式で学習する。

- (1)記号論理学の基礎
- (2)プログラミングの基礎

また、各自の研究テーマを1月までに決定する。

卒業研究2：研究対象とする問題領域の記述（モデル化）について学習し、また、各自のテーマに沿って卒業研究に着手する。研究の流れは次の通りである。

- (1)研究の計画書を作成する。
- (2)基礎調査および参考文献の収集と調査を行う。
- (3)研究の背景を纏め、目標を設定する。
- (4)研究対象の問題領域を分析／モデル化し、仕様記述書を作成する。
- (5)仕様の検証作業を、論理的な検証手法またはプログラムの実現により行う。
- (6)検証結果を評価する。
- (7)最後に、研究を考察する。

卒業研究2では、上の(1)～(5)までを進めるが、その結果を順次に纏めて発表し議論する。また、9月に中間の成果報告会を行う。

卒業研究3：論文の書き方について学習し、上の(5)～(7)に取り組み、卒業論文に仕上げる。卒業研究3では自分の結果を評価し、また、考察を加えて研究を完了する。その内容について順次に纏めて発表し議論する。

### <成績評価>

- (1)卒業研究1は、輪講担当の発表内容が50点、レポートが50点の合計点で評価する。
  - (2)卒業研究2は、途中結果の発表内容が40点、研究テーマの問題記述が60点の合計点で評価する。
  - (3)卒業研究3は、自分の成果の発表内容が30点、研究テーマの成果が70点の合計点で評価する。
- 尚、卒業研究1・2・3は独立に評価する。

### <教科書>

- ・小野 寛暁：情報科学における論理（日本評論社、1994年）3,300円
- ・玉井 哲雄：ソフトウェア工学の基礎（岩波書店、2004年）3,400円

### <留意事項>

- (1)予備知識は特に必要としないが、真剣に取り組める人を歓迎する。
- (2)研究を進める上でプログラムの作成が必要となることがある。(Ruby 言語など)
- (3)A / D 分野選択者を受け入れるが、授業内容は同じとする。

### <学習到達目標>

自分で新しいテーマ（問題）を認識すると共に、その解決のために論理学やソフトウェア工学などの関連科目を習得し、対象をモデル化して自ら問題の解決を図る能力を養う。

（関連する学習・教育到達目標：F）

## 【石川研究室】 A分野・D分野

### <授業目的>

情報技術者にとって必須である、ソフトウェア工学またはネットワーク技術に関連した分野から各自が興味のあるテーマを設定し、研究、開発、環境整備などを行う。その成果を論文としてまとめ、発表する。研究過程で必要になる情報、技術、環境については輪講、実習、各自の調査などで習得し、レジュメを作成して発表する。

研究を通して、問題設定、問題解決、知識共有、知識伝達などの能力を養うことを目的とする。

### <授業内容>

限定はしないが、以下のようなキーワードに関連するテーマ設定を想定している。

#### A分野

- ・ソフトウェア工学関連 (Java、開発環境、オブジェクト指向、リファクタリングなど)
- ・形式仕様記述関連 (モデルチェッキングツールによる検証作業など)

#### D分野

- ・ネットワーク関連 (サーバ設定、ネットワークプログラミング (サーバ・クライアント、サーバサイドなど))

#### ◎卒業研究1

- ・卒業研究に必要な基礎知識の獲得 (輪講、実習)  
Java 言語の習得、Linux のインストールやサーバの設定など
- ・卒業研究テーマの決定

#### ◎卒業研究2

- ・卒業研究テーマに関する調査・進捗報告
- ・中間発表

#### ◎卒業研究3

- ・卒業研究テーマに関する調査・進捗報告
- ・論文執筆、成果発表

### <成績評価>

- ◎卒業研究1：課題への取り組み方、輪講での発表内容、実習での到達度などを総合的に評価する。
- ◎卒業研究2：課題への取り組み方、調査・進捗報告での発表内容、中間発表の内容などを総合的に評価する。
- ◎卒業研究3：課題への取り組み方、調査・進捗報告での発表内容などを総合的に評価する。

◎卒業論文 (成果物)：テーマ設定の具体性、完成度や達成度、有用性などにより総合的に評価する。

◎卒業論文 (発表)：発表内容の正確さ、内容のわかりやすさ、質疑応答での対応などにより総合的に評価する。

### <学習到達目標>

自ら問題を設定し計画を立てる、情報を集めて考察または製作する、自らの見解を加えて記述し発表する能力を育成する。

### <教科書・参考文献>

- ・教科書  
卒業研究1：Java 言語の入門書、Linux 関連書籍 (相談の上決定する)  
卒業研究2、卒業研究3：随時指定する。
- ・参考文献  
随時紹介する。

### <留意事項>

- ・情報やネットワークの資格取得 (取得済みの場合はさらに上位資格) をめざす意欲的な人を歓迎する。

(関連する学習・教育到達目標：F)

## 【伊村研究室】B分野

### <授業目的>

本研究室では、人間の認知能力とその特性を実験的手法により理解することを目的とする。卒業研究1では、実験的研究に必要な基礎能力として、「読む力」、「書く力」、「データを扱う力」を育成する。卒業研究2では、関心のあるテーマについてそれぞれが問題を設定し、問題解決に向けて研究計画をたて、実験を遂行することとおして「考える力」を養う。卒業研究3では、論文作成と研究成果発表に取り組むことにより、研究の意義や成果を他者に理解できる形で「表現する力」を伸ばす。

### <授業内容>

卒業研究1：与えられたテーマで実験をおこない、研究遂行のための基礎能力を養う。

- ① 研究方法についての解説
- ② 研究論文の輪読
- ③ レポートの作成方法についての解説
- ④ 実験実習（データの収集と解析・レポートの作成）

卒業研究2：それぞれのテーマについて研究する

- ① 卒業論文のテーマの決定
- ② 先行研究のまとめ
- ③ 研究計画の作成・口頭発表
- ④ 実験開始（データの収集）

卒業研究3：研究結果のまとめと報告

- ① 実験遂行（データの解析とまとめ）
- ② 研究成果についての口頭発表
- ③ 卒業論文の作成

### <成績評価>

- ・卒業研究の評価：研究論文・研究計画・研究成果についての口頭発表（40点）、論文輪読や研究活動に取り組む姿勢（20点）、レポートまたは研究計画の内容（40点）
- ・卒業論文の評価：論文の内容（50点：目的と結果の整合性、テーマの新奇性、研究方法の妥当性、結果の解釈の客観性）、発表の内容（30点：スライドの構成、発表態度、質疑応答）、研究態度（20点）

### <学習到達目標>

自ら問題を設定し、問題を解決するための情報収集能力や実験遂行能力を養う。さらに、得られた実験成果を論文にまとめ、発表する能力を育成する。

（関連する学習・教育到達目標：F）

## 【内田研究室】 C分野

### <目的と研究対象分野>

本研究室では、卒業研究を通して、経営の理論の習得および社会人として通じるような実践的な人材を育成します。また、卒業論文では、問題設定が最も重要となります。教員は、つまらない仮説の検証や当然の結果が出るようなテーマを好みません。誰も気づいていない研究に、ぜひ、挑戦してみてください。

研究対象分野は、営利（企業）・非営利（医療・福祉施設）にかかわらず主に組織体の研究をします。ただし、卒業研究のテーマは何でも構いません。卒研究生が心から打ち込めるテーマを自分で決めてください。教員および過去の卒研究生の研究テーマのタイトル・キーワードには、次のようなものがあります（コーポレート・ガバナンス、人間的経営、巡礼、サケ・ブリ養殖、フランスの大学病院、大学教員の自己開示、ガソリンスタンド、ソーシャル・キャピタル、エビアン…）。

### <研究内容>

#### 1. 卒業研究1（3年後期）

- (1)経営学関連の良書を章ごとに担当者を決め、要約と考察について発表してもらいます。
- (2)研究方法に関する図書の輪読および講義によって、その理解を深めていきます。
- (3)グループで事例研究をしてもらいます。
- (4)他大学の卒業論文発表会を聴講します。

【評価】 要約と考察の出来栄え、ディスカッションへの参加度、グループ事例研究の出来栄え。

【留意事項】 卒研究生には、セルフ・マネジメントと、積極的にディスカッションに参画することが求められます。

【目標】 厚い本でも難なく読めるような基礎学力をつける。グループで、事例研究を1本書いてみる。

#### 2. 卒業研究2（4年前期）

- (1)担当者を決め、学会論文を輪読します。
- (2)研究方法に関する図書の輪読および講義によって、その理解を深めていきます。
- (3)卒業論文の研究計画書を作成してもらいます。
- (4)グループで懸賞付学生論文（NPO 法人さいたま起業家協議会主催）に投稿してもらいます。
- (5)7月から9月までの間、希望者には、業界・企業研究を行い、5大学（成城、高千穂、明治、早稲田）合同ゼミ 合宿（9月中旬）において発表の機会もあります。

【評価】 輪読での発表、研究計画書の出来栄え、メンバーおよび外部への影響度・貢献度によって総合評価します。

【留意事項】 書くことが多くなりますので、文章力をつけるよう努力してください。大学院進学を希望する学生も歓迎します。

【目標】 論文の形式を習得する。卒業論文の章立てができている。

#### 3. 卒業研究3（4年後期）

- (1)卒業論文の中間発表をしてもらいます。
- (2)卒業論文の形式・内容について指導をしていきます。
- (3)卒業論文の発表会を行います。

【評価】 卒業論文の出来栄えを、①独創性40%、②論理性30%、③形式・方法30%、で評価します。

【留意事項】 卒業研究を通して、社会に通用するスキル・能力・思考力を身につけるという意識を持ってください。また、後輩指導もしてもらいます。

【目標】 卒業論文を完成させる。

### <卒研活動についての留意事項>

- (1)「自分はどこに行っても通用する人間になるのだ」という強い向上心と信念を持った学生を歓迎します。
- (2)卒研究生のメーリングリストを作り、その中で出欠や情報交換をしていきます。
- (3)井の中の蛙にならないように、インターゼミナール（他大学との交流）をしてきますので、積極的に参加してください。
- (4)個別相談をするときには、A4用紙1枚程度のメモを書いてきてください。

### <学習到達目標>

問題発見能力の醸成と自律的、計画的な論文作成を行うことができる。また、洞察力・考察力を育成する。

（関連する学習・教育到達目標：F）

## 【上西園研究室】 B分野

### <目的と研究対象>

本研究室では、私たちの日常生活の中で「使いづらい」や「快適に使えない」と感じられる「モノやシステム」を取り上げ、人間工学の手法を使って解決策（＝人の特性により合っている）を見出すことを目的とする。

研究対象は、自分自身で「使いづらい」や「快適に使えない」などの実感がある「身近な製品（家電、家具など）」や「身近な公共物（学校、駅、公園など）」等とする。自分自身の実感のないテーマは研究に対するモチベーションが低く、困難に遭遇した時に挫折しやすいためである。

研究の進め方としては、まず当該対象に関する文献調査を徹底的に行い、既存研究でどこまでなされているかを明確にする。この結果に立脚して各自の仮説を設定する。さらに、設定した仮説の検証に当たっては、実験（または調査）に基づいて行う。従って、本研究室では実験（主に被験者実験）主体の研究となる。

### <研究内容>

#### (1)研究の流れ

卒業研究1～3を通じての全体の流れは以下のようである。

- ① 研究テーマの仮設定
- ② 文献調査によるテーマ遂行可能性の判断
- ③ 仮説の設定
- ④ 予備実験による仮説の事前検証
- ⑤ 本実験による仮説の検証
- ⑥ 論文の執筆、発表資料の作成

#### (2)卒業研究1：研究手法の獲得、研究着手

- ・研究テーマの仮設定：  
自分自身で「使いづらい」や「快適に使えない」などの実感があるテーマを見出す。
- ・文献調査：  
文献調査によって当該テーマについての過去の研究例を徹底的に調査し、当該研究テーマの遂行可能性を判断する。「既に解決済」や「研究の余地無し」の場合は研究テーマを再設定する。
- ・仮説の設定：  
文献調査の結果に立脚してオリジナルな仮説を設定する。
- ・予備実験による仮説の事前検証：  
少人数（5～10名程度）の被験者実験により仮説の事前検証を行う。仮説を否定する実験結果となった場合は、実験方法の見直しあるいは仮説の再設定を行う。

#### (3)卒業研究2：研究遂行

- ・論文の書き方の習得：  
学術論文や過去の卒業生の論文を参考に「論文の書き方」を習得する。
- ・本実験による仮説の検証：  
20～30名の被験者実験を行い、仮説検証の精度を向上させる。

#### (4)卒業研究3：研究成果のまとめ

- ・卒業論文の作成、発表

### <成績評価方法>

自主的に研究を推進できる能力、与えられた制約下で計画的に研究を実施できる能力、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力、および、卒業論文の内容、卒業発表の内容を総合して評価する。

- ・卒業研究1、2、3は、①日常の研究態度と研究への取り組み姿勢、②報告・発表の出来具合により評価する。
- ・卒業論文は、①問題設定の具体性、②論理の一貫性、③解決策の工夫・創造的なアイデア、④検証・評価の説得性、客観性、有用性などにより評価する。
- ・卒業発表は、①発表の起承転結の構成、②スライドの表現・解りやすさ、③質問への回答的確性などにより評価する。
- ・卒業論文については、卒業論文の提出、卒業論文発表会での発表、卒業論文のDB登録の全てを行わないと単位を認定しない。

### <研究室活動についての留意事項>

- ・当研究室を志望する場合、事前の研究室訪問を必須条件とする。また、人間情報工学2を履修済みであることが望ましい。
- ・研究室活動として、本来の研究遂行と並行して「社会人としてのマナーの育成」を重視する。
- ・授業は定時（9：00）に開始する。遅刻は「社会人としてのマナー」として失格であるので厳禁とする。

- ・病気等で授業に出席できない場合は、事前に欠席理由をメール連絡することを必須とする。余程の理由(例えば、メールもできないほどの重病など)がない限り、欠席の事後連絡は「社会人としてのマナー」として失格である。
- ・授業欠席の場合は、欠席分の補習を別の日に実施する。
- ・被験者実験は他の人の協力なしには行えない。各学年の研究室生(10名程度)同士だけで相互に被験者となるだけでは人数が不足であるので、他学年の学生にも被験者の役割を担ってもらおう。このため、他学年同士の交流を重視する。

#### <学習到達目標>

- ・課題発掘能力の獲得:自らテーマを設定し、「その研究を行う意義」と「研究の位置付け」を明確にすることができる。
- ・課題解決能力の獲得:自らの課題解決に当たり、「必要な情報入手」や「適切な手法(実験方法、調査方法など)の入手・実行」を通じて、問題解決が行える。
- ・コミュニケーション能力の獲得:わかりやすい資料で、適切なプレゼンテーションが行える。

(関連学習・教育到達目標:F)

## 【河原研究室】 D分野

### <授業目的>

「画像処理」「コンピュータビジョン」「コンピュータグラフィックス」「ウェブ」「マルチメディア」「ロボット」「音声処理」「プログラミング」等に関連した分野から、各自が興味のあるテーマを設定し、独自の発想や工夫を取り入れて研究・開発を行い、成果を卒業論文としてまとめ発表する。

### <各回毎の授業内容>

#### 卒業研究1

1. 卒業研究に必要な基礎知識を習得：プレゼン手法や論文の書き方及び研究の進め方等の学習、プログラミング・画像処理・画像作成・ウェブ技術・ロボット等についての基礎知識の学習、過去の研究テーマの紹介
2. 卒業研究テーマの決定  
興味をもった分野に関する調査と発表、テーマ決定と研究計画の作成（プレゼン及びレポート提出）
3. 就職に関する勉強：履歴書の作成、上級生との懇談会、演習問題

#### 卒業研究2

1. 卒業研究テーマに関する調査と発表：進捗状況の報告（プレゼン）と内容に関する意見交換、プログラム等の作成、研究テーマに関する参考文献や資料の調査
2. 中間発表会：プレゼン及びレポート提出

#### 卒業研究3

1. 卒業研究テーマに関する調査と発表：進捗状況の報告（プレゼン）と内容に関する意見交換、プログラム等の作成、研究テーマに関する参考文献や資料の調査
2. 大学祭における成果の展示・発表（成果報告の最終締切とする）、成果発表会（プレゼン及びレポート提出）
3. 研究成果のまとめ：卒業論文執筆、卒業論文発表会での発表、卒業論文のデータベース登録

### <成績評価方法>

- ・卒業研究1：参加姿勢、発表の内容、提出レポートなどにより総合的に評価する
- ・卒業研究2：参加姿勢、発表の内容、提出レポートなどにより総合的に評価する
- ・卒業研究3：参加姿勢、発表の内容、提出レポート、成果展示などにより総合的に評価する
- ・卒業論文（成果物）：新規性、独創性、妥当性、有用性、完成度などにより総合的に評価する
- ・卒業論文（発表）：分かりやすさ、正確さ、質疑応答の的確さなどにより総合的に評価する

### <教科書・参考文献>

- ・適宜用意する。卒業研究については各自で探すことになる。
- ・参考文献については随時紹介する。

### <受講に当たっての留意事項>

- ・具体的な研究テーマや追加情報についてはウェブページを参照のこと  
<http://www.nuis.ac.jp/~kawahara/>
- ・卒研選択時に希望者が定員を超えた場合は、志願書の内容と面談時の面接内容により判断するので、希望する学生には研究室訪問期間の訪問を希望する
- ・今後の参考になるので3年次生は卒業研究発表会に出席しレポートを提出すること。配属が決定した2年生の参加も希望する。

### <学習到達目標>

自ら問題を設定し、計画を立て情報を集めて考察または製作し、自らの見解を加えて記述し発表する能力を育成する。

（関連する学習・教育到達目標：F）



## 【岸野研究室】 A分野・C分野

### <授業目的>

複雑化・高度化した社会では、個人の経験や感覚だけで企業活動をコントロールすることは不可能となってきている。とくに、経済の国際化、消費者ニーズの多様化、生産技術の革新など急ピッチで変化する経営環境に対処するためには、経営を科学的に分析することにより、経営システムの課題を解決していく必要がある。

経営システムを学ぶことを通じて、時代とともに激しく変化する経営環境を多角的に分析し、問題をスムーズに解決できる基本的能力を培うことを授業目的とする。

具体的には以下の手順で進める。

①企業の経営システム（経営戦略、マーケティング戦略、生産・流通・物流など）について、さまざまな企業のケーススタディを行いながら、経営に関する分析手法を身につける。

②経営に関する分析手法を応用して、実際の業界・企業・製品・サービスについて分析し、課題や仮説を見つける。

③経営に関する分析手法により評価・検証を行い、解決策（新しい経営戦略、生産・流通・物流戦略、サービス、ビジネスモデル、コンピュータシステムなどの提案）を考える。

経営に関する分析手法としては、経営戦略分析・マーケティング分析、経営指標・生産性分析、定量的な分析（アンケートによる分析手法、スコアカードによる評価手法）、定性的な分析（問題構造化分析手法）などを用いる。

卒業研究1の配属時に研究室訪問を行う方法

方法1：研究室のドアに日程表を貼り付けておくので月日、曜日、時限、(1) or (2)の欄に名前（複数可能）を記入すること。グループでの訪問の場合も全員の氏名を記入すること。

方法2：予約をしなくても研究室訪問して良いが、予約の入っていない時間帯は不在の可能性がある。

### <授業内容>

卒業研究1：経営に関する分析手法の習得、ケーススタディの実施、研究テーマ選定

①経営戦略・マーケティング分析に関するテキストの輪講、演習

使用テキスト「図解 わかる MBA」

②経営戦略・マーケティング分析手法の適用演習

③製造・流通分野におけるケーススタディによる問題点、解決方法の提案演習

④定量的な分析、定性的な分析に関するテキストの輪講

使用テキスト「卒業論文の作り方～複合領域分野における経営学研究の進め方」

⑤卒研テーマと研究の進め方を検討し、研究計画の作成と発表を行う。

卒業研究2：経営に関する分析手法の適用による研究活動

①各自の研究テーマに関する進捗状況の報告と内容に関する討議

②各自の研究テーマに関する先行事例・参考文献・資料の紹介と調査

③経営に関する分析手法の適用により自分独自の課題を明確にする。

④解決策（仮説）を構想し、データ収集などにより検証する。

⑤各自の研究上の課題と解決策の検討、研究会での報告の準備について指導する。

卒業研究3：研究結果のまとめ

①研究の進捗状況の報告、途中結果の発表および内容に関して、個別に指導する。

②卒業論文・PPT作成において、構成、内容、文章表現などについて指導する。

卒業研究1、2、3の授業に就職活動などで欠席の場合は、事前にメールで連絡をすること。必ず別の日にメールでアポイントを取り指導を受けること。これを行わないために卒業論文が完成しなくても責任は持たない。

### <成績評価>

自主的、継続的に学習できる能力、与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力について卒業論文の作成過程、卒業論文（成果物）の内容、卒業論文（発表）の内容を総合して評価する。

(1)卒業研究1、2、3は、①日常の研究態度と研究への取り組み姿勢、②研究会における討論への参加態度、③報告・発表の出来具合により評価する。

(2)卒業論文（成果物）は、①問題設定の具体性、②論理の一貫性、③解決策の工夫・創造的なアイデア、④検証・評価の説得性、客観性、有用性などにより評価する。

(3)卒業論文（発表）は、①発表の起床転結の構成、②スライドの表現・解りやすさ、③発表の技術・態度、④質問への回答の的確性などにより評価する。

(4)卒業論文は、卒業論文の提出、卒業論文発表会での発表、卒業論文のDB登録の全てを行わないと単位を与えない。

<学習到達目標>

自ら問題を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、または製作し、自らの見解を加えて記述し発表する能力を育成する。

(関連する学習・教育到達目標：F)

## 【桑原研究室】 A分野

### <授業目的>

卒業研究の対象と範囲は次のとおりです。

研究対象：教育、産業、地域などに関連した情報システムなどの提案、調査・考察

実施範囲：アプリケーションシステムの設計、作成（プログラミング）及び評価

注）上流の構想及び概要設計など、C分野に近い内容は、研究室決定前の面談で学生から相談があり、教員が適当と判断した場合に限り、これを認めます。

その場合でも、学生は、A分野の専門演習を受講します。

学生は、各自の研究の成果を記述、発表します。また、そのことを通じ、論理的な思考と考察を行い、情報システムの存在意義と位置付けについて理解し、自ら創造する或いは、自ら分析、考察し、妥当な成果を挙げることを体験します。

### <授業内容と成績評価>

#### 卒業研究1

4年生からの本格的卒業研究、論文作成のための準備と位置付け、コミュニケーション技術、論理思考の演習、各人の研究テーマに共通な事項及び個別に必要な事項について演習を行います。

専門演習Aの内容は理解しているものとして指導、評価します。成績は、各演習の発表及び成果物の合計(満点100点)とします。欠席、遅刻あるいは、取り組む姿勢がうかがわれない場合は減点します。詳細は、初回授業時に伝えます。

#### 卒業研究2

卒業論文のための調査、設計、作成及び、それらに関する発表、中間報告の作成などを行います。

成績は、発表と中間報告及び研究テーマに関連する成果物の合計(満点100点)とします。欠席、遅刻あるいは、取り組む姿勢がうかがわれない場合は減点します。詳細は、初回授業時に伝えます。

PC設備と指導の都合上、5回程度の授業を中央キャンパスで行う予定です。また、卒論作成作業日誌の作成とその内容の妥当性及び提出が必須です。

#### 卒業研究3

卒業論文作成のための追調査、実証、システムの改善、最終調整、評価の作業を行います。また、成果発表コンテンツの作成も行います。

成績は、演習の成果物と中間発表を含む成果発表の合計(満点100点)とします。PC設備と指導の都合上、5回程度の授業を中央キャンパスで行う予定です。また、卒論作成作業日誌の作成とその内容の妥当性及び提出が必須です。欠席、遅刻あるいは、取り組む姿勢がうかがわれない場合は減点します。詳細は、初回授業時に伝えます。

#### 卒業論文

自分の研究を“論文”にします。

論文に必要な要素は次のとおりです。

- ・構成の妥当性、記述の論理性
- ・結論の妥当性、有用性、新規性／独創性(学士論文のレベルを満たすこと)
- ・正しい書式、表現、表記、用語使用及び、文章としての完成度

※) これらに加え、情報システム学科の定める基準を満たすことが必要です。

成績は、卒業論文を上各要素に関して評価し、その作成過程も考慮して採点(満点100点)します。

### <学習到達目標>

妥当な課題を設定し、解決のために構想し、具体的計画をたて、情報収集及び準備を行い、創造又は分析し、妥当な成果又は結論を得る能力及び、それを記述し発表する能力を身に付けることを目標とします。

### <その他>

基礎自由科目「数学基礎」を履修するよう指導された学生は、これを修得していることが望まれます。

当研究室の希望者が定員を超えた場合は、面談などで適性をみて選抜します。

(関連する学習・教育到達目標：F)

## 【小林研究室】 A分野・C分野

### <授業目的>

現在、企業は高齢化・少子化の進展による社員の確保・技術継承の問題、規制緩和等による競争の激化など多くの課題に直面しており、特に、地球温暖化と関連して環境問題や自然を含めた大きな視点から経営をとらえる必要に迫られています。そのため企業や国・自治体においては、これらの課題を克服する構想をあたため具体的な解決をもたらすソリューション能力が求められています。そこでは情報や情報システムの開発・利活用がひとつの鍵を握っていると考えられます。

卒業研究の進め方としては、自然科学や社会科学にとどまらず、人文科学も含めた学問を総動員しながら、社会とのかかわりを重視しつつ、経営・組織、情報システムの面から卒研生が選定した研究テーマについて主体的に進めていただきます。そのため、最初にA分野（情報とシステム）とC分野（経営と組織）全員による研究方法論や卒業論文の書き方などの基礎的な学習、演習を行なった後、夫々の卒研生から研究テーマに関連する先行研究、参考文献について報告してもらい、卒研生全員で共有します。これらの作業と併行して個別に論文作成指導を実施します。

経営・組織と情報、情報システムのかかわりについて、幅広い観点からの研究を希望する学生の参加をお待ちしています。

### <授業内容>

卒業研究1：研究の進め方の学習、ケーススタディの実施 [成果物：研究計画書]

- ・研究方法論<研究対象と研究方法、量的研究と定性的研究>（輪講）
- ・ケーススタディ（優良企業をとりあげ、情報システムの利活用等の観点から分析を行なう）
- ・研究計画書を作成する

（評価方法）輪講の貢献度、研究方法論に対する理解度及び研究計画書の内容で評価する

卒業研究2：研究テーマに関する先行研究の調査、卒業論文のイメージづくり [成果物：卒業論文骨子]

- ・各自の研究テーマに関する検討状況の報告と討議
- ・先行研究と参考文献の調査（要約を報告）、理論検討
- ・現地調査、データ収集、分析、解決策の検討
- ・卒業論文骨子を作成する（卒研合宿で中間報告会を行なう）

（評価方法）報告内容と討議での貢献、自ら問題を設定し、計画的に研究を進め、発表する能力を評価する

卒業研究3：卒業論文の作成 [成果物：卒業論文]

- ・研究の進捗状況の報告、途中発表会
- ・論文作成、プレゼンテーション資料作成（個別指導）

（評価方法）卒業論文の中間提出の状況と自ら問題を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、自らの見解を加えて論文にまとめていく取組み状況を評価する

### 卒業論文

自主的、継続的に学習できる能力、与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力について、卒業論文の内容（記述内容の理解度、論理性、独創性など）、作成過程、発表会での発表を総合して評価する。

### <教科書・参考文献>

輪講にテキストを使用します。必要の都度、資料を配布します。

### <学習到達目標>

自ら問題を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、または製作し、自らの見解を加えて論文としてとりまとめ、発表する能力を育成する。

（関連する学習・教育到達目標：F）

## 【小宮山研究室】 B分野

### <授業目的>

人々の行動や考え方を“人と人との関係（社会）”に着目して“研究”することを目的とします。

また社会でもっとも求められている「集団で目標を達成する能力」をお互いに協力して高めます。

「学校」が既存の情報・知識を覚えるところであるのに対し、「大学」とは、新しい情報・知識を創造する（＝研究する）能力を身につけることです。人々について新しい情報を創り出すには、他者の視点を取り入れる必要があります。社会で役立つ卒業研究を行うために、そして卒業後、社会で活躍するために卒研の仲間や、さまざまな人と協力することを学びます。研究例を一つ紹介します。

研究例：ある食品メーカーの製品では、アレルギー表示がパッケージの前面に「アイコン」で表示されています。このアイコンは、単にアレルギーを持っている方だけでなく、消費者一般に製品の安全・安心感を伝えることができ、購買を促進していることを明らかにしてくれました。紅羽祭で一般の方に2種類のパッケージを実際に見てもらい調査しました。（彼はこのメーカーで元気に働いています。）

\*他にも小宮山のホームページ (<http://www.nuis.ac.jp/~komiyama/>) に研究例が紹介されています。

### <各回毎の授業内容>

卒業研究1：卒研で協力して実際に地域に役立つ活動を行います。2010年度はみんなでアイデアを出し合い、内野町おこしのための「1日限定の喫茶店」を開店しました。地域の食材を使い内野町をアピールすること、そして内野町に若者を呼び込むことを目指しました。

チームでの活動をしながら、各自、研究計画と履歴書の自己紹介文を執筆します。いずれも就職活動が本格化する3年次の2月までに終わらせておく必要があります。研究計画・自己紹介文の執筆は論理的文章を書く大変良い練習です。また研究計画書が完成していると、研究のための総量が把握できているため、安心して就職活動ができます。2つの課題を作成するために図書館・データベースの利用法・研究方法の習得、面接の練習を行います。卒業研究1～3までグループワークを行い、お互いの意見を参考にしながら進めます。

卒業研究2：必要な文献を読み進め、執筆を進めます。また検証のための計画・準備を終わらせます。8月末日まで、草稿を完成させ、分析結果を書き足せばよい状態にします（8月は就職活動があまりできない月です。ここで卒論を進めておきます。公務員試験受験者は試験日に応じて締め切りを変更します）。

卒業研究3：調査・分析等を行います。またお互いの草稿をテーマに、グループワークを行い、卒業研究を完成させます。また発表会の練習をとおしてプレゼンテーション能力を高めます。

### <成績評価方法>

卒業研究1はグループ活動、研究計画書と自己紹介文、卒業研究2は草稿、卒業研究3は卒業論文と発表会によって評価します。

### <受講に当たっての留意事項>

\*詳細は小宮山のホームページ (<http://www.nuis.ac.jp/~komiyama/>) で公開します。志望理由の書き方が記してありますので、小宮山研究室を希望する方は、必ず参照してください。

\*2年生の春休みにサブ卒研（1日程度）を開きます。日程等は参加者の皆さんの都合に合わせてます。

\*2年次・3年次ともに先輩の卒業研究発表会には必ず出席してください。

\*卒研において無断欠席は認めません。全員に迷惑が及びます。可及的速やかに連絡してください。

### <学習到達目標>

1. 自分の研究が社会にどのような貢献・影響を及ぼすか考察してください。
2. 新しく、社会に役立つ、根拠のある情報を創りだしてください。
3. 情報システムを利用して研究する能力を身につけてください。

（関連する学習・教育到達目標：F）

## 【近藤研究室】 D分野

### <授業目的>

近藤研究室では、通信、光に関係した分野について研究する。テーマを自分で見だし、論文としてまとめる。内容については必ずしも最先端の技術や研究にこだわらない。独自の新しい発想・工夫を展開して自主的に問題を解決することを目的とする。

### <授業内容>

#### 卒業研究1

研究するテーマを探索するために、輪講形式で、通信・光に関する基礎的な勉強を行う。また、無線レーザー、スペクトルアナライザ、分光器等、機器の基本的な使用法を修得する。さらに、どのようにこれらの技術が実際に使われているかを知るため、工場見学等を行う。

#### 卒業研究2・卒業研究3

テーマを決め、それぞれの研究テーマを推進する。

研究テーマを推進する中から、問題点を見だし、どのように展開し解決するかについて学ぶ。

研究の進め方は、内容により輪講形式、小グループ、個別に指導する。

研究に付随する実験については、限られた資源（設備や測定器）をいかにして有効に使うか、研究生独自の発想や工夫を求める。

これらの実験や調査をふまえて、論文をまとめる。

4月にテーマ企画発表会を行う。

9月に中間発表会を行う。

### <成績評価方法>

- ・成績の評価は、論文の内容とともに、その過程を重視する。
- ・日常の研究への取り組み。
- ・テーマに関する議論。
- ・問題解決への自主的な工夫・創造的なアイデア。

### <教科書・参考文献>

- ・教科書 通信全体、移動通信、光ファイバー通信に関する文献を開始に合わせて指定する。
- ・上記の文献や過年度の卒業論文を取りかかりとして、研究生自ら探索する。

### <受講に当たっての留意事項>

- ・テーマによっては長時間を要するもの、特別の気候、時間帯を必要とするものもあり、休業中や休日でも研究を行う場合がある。また、計算機をはじめ、装置を組み立てることもある。

### <学習到達目標>

- ・独自のあたらしい発想工夫により問題解決ができる。自らの問題について、論文をまとめ、発表することができる。

(関連する学習・教育到達目標：F)

## 【佐々木研究室】 C分野

### <授業目的>

様々なシステムをモデル化したり分析したりする手法を習得し、現実のシステムへの応用を目指す。具体的には、SIMAN/Arena シミュレーション言語を用い、各自興味のあるシステム（生産システム、物流システム、道路交通システム、病院システム、銀行業務システム、など）を対象に、データ収集、モデル化、分析を行い、卒業論文をまとめる。

### 卒業研究 1

### <学習到達目標>

SIMAN/Arena シミュレーション言語の習得。

### <授業内容>

1. ガイダンス
2. シミュレーションの概念
3. Arena 演習 (ATMモデル①)
4. Arena 演習 (ATMモデル②)
5. Arena 演習 (レジモデル①)
6. Arena 演習 (レジモデル②)
7. 発表会
8. Arena 演習 (道路交通モデル①)
9. Arena 演習 (道路交通モデル②)
10. Arena 演習 (道路交通モデル③)
11. Arena 演習 (道路交通モデル④)
12. 発表会
13. 現実のシステムへの応用①
14. 現実のシステムへの応用②
15. 各自研究テーマの決定、発表

### <成績評価>

取組み姿勢、成果物（各モデル）、発表会等を総合的に評価する。

### <受講に当たっての留意事項>

春休み期間中も卒研は継続して行う。期間中、上記内容以外にも就職関連の指導あり。

### 卒業研究 2

### <学習到達目標>

研究対象分野に関する情報、および研究対象システムのモデル化に必要なデータの収集。

### <授業内容>

- ・研究対象分野に関する文献の収集。
- ・研究対象システムに関するデータ収集。
- ・研究対象システムに関する現地調査。
- ・論文の執筆。
- ・月例発表会を実施。

### <成績評価>

取組み姿勢、成果物（データ、論文等）、月例発表会等を総合的に評価する。

### <受講に当たっての留意事項>

夏休み期間中も卒研は継続して行う。期間中、中間発表、合宿も実施する。

### 卒業研究 3（2012年度は実施しません）

### <学習到達目標>

研究対象システムのモデル化、分析を行い、卒業研究論文をまとめ、卒業研究発表会にて報告をする。

<授業内容>

- ・ 研究対象システムに関する現地調査.
- ・ 研究対象システムのモデル化.
- ・ 研究対象システムのシミュレーション実験.
- ・ 月例発表会を実施.
- ・ 論文の完成.
- ・ 成果を卒業研究発表会にて報告.

<成績評価>

取組み姿勢、成果物（モデル、卒業論文）、月例発表会、および卒業研究発表会を総合的に評価する。

<受講に当たっての留意事項>

冬休み期間中も卒研は継続して行う。期間中、卒業研究発表会の練習を繰り返し実施する。

(関連する学習・教育到達目標：F)



## 【白井研究室】 B分野

### <授業目的>

事業経営上問題となる諸問題について、モデリング数学、オペレーションズ・リサーチ（OR1）およびシミュレーションで取り上げた問題に対して、OR1では、テーマ毎に最適な解を求める手法を修得した。卒業研究では、経営工学に関することと金融工学について卒研のテーマとして取り上げることにする。また、これらの研究の検証ツールとしてオープンソース・ソフトウェア（Scilab/scicos、Gnuplot、Maxima、Rなど）を活用することとする。

### <授業内容>

#### (1)卒業研究主要テーマ

卒業研究1：経営工学に関するテーマ

卒業研究2：金融工学に関するテーマ

#### (2)以下のことを重視して授業を進める。

##### a. 問題解決能力特に問題発見能力

漠然とした問題を解決可能な問題に定式化すること。

##### b. 定量化の考え方

・リスクを考慮したバランスの取れたポリシーのもとに定量化する。

・不確実性の定式化、特に金融工学では重要である。

#### (3)その他

卒論の研究テーマは、経営工学・金融工学に関することであれば何を選んでもよい。

### <成績評価方法>

授業における発表に対して次の項目を評価する。

(1)経営工学・金融工学の考え方およびこれらの手法の修得すること。

(2)卒業研究が次の条件を評価対象とする。

a. 研究対象または研究方法が新しいこと。

b. 経営工学・金融工学上の問題に対する定量的モデルを扱うことにより事業経営上有益な提案であること。また、この提案はオープンソース・ソフトウェアによる評価結果を提示すること。

### <教科書・参考文献>

- ・モデリング数学、オペレーションズ・リサーチ1およびシミュレーションで使用した教科書および配布資料
- ・輪読にテキストを使用する。
- ・必要の都度資料を配布する。

### <受講に当たっての留意事項>

- ・モデリング数学、オペレーションズ・リサーチ1およびシミュレーションしていることが望ましい

### <学習到達目標>

自ら問題を発見し、問題を定式化し、データに基づいた計量分析ができること。さらにその問題を解決する能力を育成すること

(関連する学習・教育到達目標：F)。

## 【高木研究室】 A分野・C分野

### <授業目的>

卒業研究では、情報の人・物・金と同様に、重要な資源ととらえ、情報資源の有効活用について体系的に学びます。大量の情報に振り回されず自らの判断で情報に向き合える態度と日本語力を身につけることをめざします。

### <授業内容>

各自興味あるテーマを設定できるよう指導します。

A分野：SQLとAccessに興味を持った人、プログラミングやシステム環境に興味のある人が対象になります。

世の中で使用されているシステムの多くがデータベースです。また情報は使われなければ意味がありません。そこで多くの人が利用できるWeb上で閲覧可能なデータベースの作成を試みます。先輩が作成した50以上のデータベースは高木のHPから閲覧可能になっている。

C分野：情報検索に興味を持った人、組織と経営に情報を活用することに興味のある人が対象となります。

情報社会とは情報が新しい価値を生む社会です。そこで情報を基に、新商品開発やブランド戦略、新ビジネス提案、あるいは、企業倫理や著作権に関する問題解決を試みます。情報収集/分析方法はテーマにより異なるので設定した課題毎に指導する。目標規定文をもとに情報に基づいて自ら考えることができるようになるような指導を心掛けます。

### 卒業研究1

A/C分野共通：情報リテラシーに関する論文を輪読し情報活用の基礎知識を身につけます。また卒業論文の課題を設定するために必要な現状調査/情報収集を行い、自らの意志で価値が認識できる課題を設定する。

A分野：主にWebに特化されたプログラミング言語PHPとデータベース言語SQLや、CGIの基本を学ぶ。サンプルを自分で稼働させ動的なWebページのしくみを学ぶ。

C分野：予備調査を行い収集した情報に基づいて自分の意志で仮テーマを設定します。同時にテーマに関する独自の仮説あるいは主張点を目標規定文として整理する。

### 卒業研究2

A分野：データベースの使用仮説を作成しプロトタイプの作成に着手する。同時に著作権に触れないようコンテンツ構造を考えてデータ収集を行う。

C分野：個人の意見ではなく収集した既存の論文やデータを使用して、主張点を論理的に説明できるよう論文構成を考える。

### 卒業研究3

正確な日本語と論拠に基づいた論理的説明で論文をまとめる知識と能力を習得する。論拠としてのWeb情報は限定的に扱う。情報検索は情報収集の有力な一手段として扱う。

### <成績評価>

以下の項目で評価する。

卒業研究1：情報リテラシーの理解・卒業論文の仮課題設定・授業に参画する態度

卒業研究2：目標規定文の作成・中間報告と中間発表会・授業に参画する態度

卒業研究3：日本語表現・情報収集への取組・授業に参画する態度

### <教科書・参考文献>

必要に応じ資料を配布する。

### <学習到達目標>

必要な情報の範囲を認識し、情報に基づいて判断を行うことの重要性を認識できる (50%)

基本的な情報技術を理解し大量の情報に向き合える (50%)

(関連する学習・教育到達目標：F)

## 【近山研究室】 B分野・D分野

### <授業目的>

コンピュータを用いて生命が行う情報処理の謎にアプローチする研究、又は人間・社会・文化活動に関わるコンピュータプログラムの開発・制作を行うことを目的とする。より具体的には、生命・進化に関わる数値シミュレーション、人工生命、ニューラルネットワーク、進化計算、複雑ネットワーク、医療情報処理、化学情報処理、音楽・音声情報処理、コンピュータに関わる広告科学等である。

### <授業内容>

卒業研究1：卒業研究テーマの決定、卒業研究の背景調査、文献調査、準備研究

卒業研究2、3：研究開発・制作

卒業論文：卒業論文の執筆、卒業論文日誌の作成、発表会、卒論データベース登録

卒業研究例

「スーパーコンピュータ上で動作する細胞シミュレータの改良」

「非線形力学系の数値解析」

「実験室情報管理システムの改良」

「楽器音の非線形変換法の開発」

「プロジェクトンマッピングを用いた広告作品の制作」

### <成績評価>

- \* 出席
- \* 卒業論文と卒業論文研究発表会のプレゼンテーション
- \* 仕事力
- \* 学会発表、著述、表彰等の業績があった場合は特に評価する

### <留意事項>

- \* 原則として定員はB分野5人、D分野5人とし、D分野はプログラミングを必須とする。
- \* コンピュータ言語を用いる場合は、Java、C/C++ かそれに関係する言語とし、卒業研究に必要な部分を卒業研究1から3の過程で習得することを必須とする。しかし配属前におけるコンピュータ言語のスキルは必須ではない。

### <学習到達目標>

- \* 卒業論文の完成
- \* 発表会のプレゼンテーション完成

(関連する学習・教育到達目標：F)

## 【槻木研究室】 A分野・D分野

### 1. 卒研の方針

A分野もD分野も、問題を解決する手段として自ら適切なプログラムを設計し作成する。プログラムの作成過程と実行結果から、提案した解決策を考察評価する。

具体的には

#### (1)新しい情報システムの提案とプロトタイプを作成

興味ある分野のビジネスにおいて新しい情報システムを提案し、そのプロトタイプ（プログラム）を作成する。その実行結果を考察して提案システムを評価する。

#### (2)問題解決のためのプログラムの作成

ビジネスとは直接関係しなくても、自ら興味ある分野において発見した問題を、コンピュータを利用して解決する方法を考える。その解決策を実現するプログラムを作成し、実行結果から解決策を考察評価する。

(1)、(2)とも原則としてJava言語を使用してプログラムを作成するが、特に使用言語に希望があればできるだけ考慮する。過去のテーマに関しては、本学のホームページから「卒業論文データベース」に入り、“槻木”で検索して調べること。

### 2. 留意事項

プログラムは必ず動くものを作成することを要求する。プログラムが動かなければ、卒論を書くことができない。卒業研究3の中間発表会では、各自が作成したプログラムのデモンストレーションを行う。

### 3. 卒研の選考方法

当研究室を希望する可能性のある人は、事前に必ず研究室を訪問すること。「プログラムを創る」ということの大変さと楽しさを説明するので、自分として可能かどうかを十分に納得してから希望すること。

### 4. 卒業研究1

#### <授業内容>

- ・オブジェクト指向技法とJava言語の学習として、Java関係の図書あるいは資料を輪講する。
- ・提示されたサンプルプログラムを模倣し、Javaプログラミングの基本を習得する。
- ・冬休みのHomeWorkとして、各自が個別にサンプルプログラムを作成して説明する。
- ・新しい情報システムや技術動向などに関わる参考文献を各自調査し発表説明する。
- ・改善点や疑問点などを討論し、新しい適用分野とか代替方式などを検討する。
- ・各自が卒業研究テーマを考えて全員で討論し、卒業研究1の終了時にはテーマ名を確定する。

#### <評価方法>

卒研において討論等への参加態度、サンプルプログラム・HomeWorkの作成状況、輪講および参考文献の発表内容、卒研への意欲などを総合的に判断する。

#### <受講に当たっての留意点>

プログラミングを忘れないようにするため、春休み中も継続して卒研を開く。

### 5. 卒業研究2

#### <授業内容>

- ・設定したテーマに沿ったプログラムを作成する。必要に応じて提供されたサンプルプログラムを参考にして進める。
- ・プログラム作成は各自個別に進め、卒研では進捗状況、未解決のバグの有無、改善点などを全員で解決策を討論する。
- ・設定したテーマに関連した参考文献を調査発表し、自分のテーマに関しての足元を固める。

#### <評価方法>

テーマ取組みの積極性、プログラムの進捗状況、参考文献の発表内容、討論への参加態度、卒研への意欲などを総合的に判断する。

#### <受講に当たっての留意点>

個別のプログラム開発環境を設定するため、原則として中央キャンパスで開講する。夏休みには予定として集中卒研を2～3回ほど開き、プログラム作成の個別指導を行う。プログラム作成の進捗の遅い人は必ず参加することを求める。夏休み終了時にプログラムがほぼ完成していないと、中間発表および卒論作成が間に合わない。

## 6. 卒業研究3

### <授業内容>

- ・各自、プログラムを完成させる。
- ・9月末か10月初に中間発表の場として当研究室の3年次、4年次の合同卒研を開催する。ここで、各自が作成したプログラムのデモンストレーションを行い、他の卒研生から評価を受ける。
- ・評価の結果、必要なプログラムの追加、修正を行う。
- ・卒業論文を作成する。

### <評価方法>

卒研テーマ取組みの積極性、プログラムの完成度、中間発表会の評価、卒論作成への意欲などを総合的に評価する。

### <受講に当たっての留意点>

作成したプログラムを卒研生全員の前でデモンストレーションすることにより、「動くプログラム」として認定する。

### <学習到達目標>

自ら発見した問題の解決策や新しい情報システムの提案を、「実際に動くプログラム」を作成して検証、評価できる能力と、その結果を考察し自らの見解を加えて論文として記述し発表する力を育成する。

(関連する学習・教育到達目標：F)

## 【中田研究室】 D分野

### <授業目的>

人の様々な活動を支援するためのコンピュータシステム（またはプログラム）について研究する。まず自ら課題を見つけ、その課題を克服するためのシステムを設計し、構築する。そして構築したシステムが本当に課題を克服できているかを自ら評価する。また、自ら行ったことを他者に分かりやすく説明するために、論文を記述して発表することを学ぶ。

### <授業内容>

卒業研究1: 研究テーマの決定、基礎技術の習得

- ・研究テーマの発表会
- ・既存研究の調査
- ・プログラミング実習

卒業研究2: それぞれのテーマに従って研究の実施

- ・既存研究の調査
- ・それぞれの研究テーマにおける研究の実施
- ・輪読

卒業研究3: 研究成果のまとめと発表

- ・研究に関する卒研発表
- ・卒業論文の執筆、提出

卒業論文執筆のために120時間以上の自己学習時間を確保することと、自己学習の実績時間を記入した卒業論文執筆日誌を提出する必要がある。

### <成績評価方法>

プログラミング実習の進捗度合い、輪読の文献に対する理解度、それぞれの研究の進捗度合い、卒業論文、その発表を基に成績を評価する。

### <受講に当たっての留意事項>

情報処理演習 C2程度のプログラミング技術を持っていると望ましい。

### <学習到達目標>

社会や人に対する課題を発見し、その課題を克服するための方策を考案し、実際にコンピュータを用いて解決する力を身につける。そして行った研究から得られる知見を整理し、広く公知できるように論文を執筆し、発表できることを学習する。

(関連する学習・教育到達目標：F)

## 【西山研究室】 A分野

### <授業目的>

- ①卒業研究の意義は研究のプロセス（テーマの設定から成果の発表まで）を体得することにある。このプロセスは、研究だけでなくビジネスの世界でも重要である。
- ②本研究室の卒業研究の大枠は、“人間活動とソフトウェアシステムの係わりに関する研究”である。この枠組みの中で、各自研究テーマを設定し、問題を分析し、その解決案を提案し、その有効性を検証するという一連のプロセスを実行する。
- ③卒業研究の最初に各自の研究の共通基盤となる“人間活動とソフトウェアシステムの係わり”をテーマに、人間活動にとってソフトウェアシステムとは何か、課題は何かを学ぶ。併せて、問題分析法、検討結果のまとめ方についても学ぶ。
- ④卒業研究のテーマは卒業研究の大枠の中で自分のアイデアや問題意識に基づいて選定する。卒業研究は、適切な課題設定、仮説設定・検証、各種手法（技法）を用いた問題分析・評価、整理によって実施する。
- ⑤研究成果は通常は「研究論文」にまとめる。新規事業的発想であれば「新規事業開発の事業計画書」にまとめる。

### <授業内容>

卒業研究1：当研究室卒業研究の大枠「人間活動とソフトウェアシステムの係わり」に関連する調査・検討

- ①各自が各種情報ソースから当研究室の全体主題に関連する資料を収集し、課題・問題点を洗い出し、整理して報告する。整理・分析手法として統計的手法等についても学習する。
- ②自己の興味を持つ分野の調査から得られた課題を仮に研究テーマとして設定する。他方、自己のキャリアを具体的に考える。
- ③研究テーマに関する課題分析と課題解決のアイデアを具体的に調査・検討し、仮説の設定を行う。

卒業研究2：研究テーマに対する課題分析・評価及び解決法の検討

- ①各自の研究テーマに関する研究の進捗状況の報告と内容に関する討論（研究計画～中間発表）を行う。
- ②研究テーマに関連する先行事例・研究に関する文献資料を調査・評価してその結果を発表し、各自の独自の問題を明確に設定する。
- ③問題の根本原因とそれを取り除く方法（解決案）を整理（仮説立案）し、発表する。

卒業研究3：各自の研究結果のとりまとめ

- ①研究の進捗状況についての発表し、検討状況および検討内容に関して討論を行う。
- ②アンケート調査、インタビュー、シミュレーション実験、あるいは試作によって収集したデータを分析して問題点の所在を明らかにし、その解決案提示し（仮説）、さらにその有効性を実証的に検証する。
- ③各自の研究上の問題点とその解決策を研究室内の卒論中間報告会等で報告し、相互にコメント・議論する。卒業論文の構成内容、文章表現など、研究のまとめ方と成果の発表については個別に指導する。また、優秀な研究は、情報システム学会等の研究発表会等への報告も視野に入れる。

### <成績評価>

1) 卒業研究1～3（演習）の評価要素：

- ・研究会（授業）への出席状況
- ・研究会（授業）における討論への参加態度
- ・日常の研究態度と研究への取り組み姿勢、および研究会（授業）での報告・発表の内容

2) 卒業論文或いは新規事業計画（成果物）の評価要素

- ・問題設定の具体性：解決すべき問題が何であるかが明確に定義されていること。
- ・論理の一貫性：文章／表現が明快かつ構造的であること。
- ・新規性／独創性：自分の考え方／アイデア／事業コンセプトなどが提示できていること。
- ・有効性：調査アンケートや実験データの分析などにより、説得力をもって客観的に有効性や事業性が示されていること。

3) 卒業論文発表の評価要素：

- ・プレゼンテーションの構成スライドの表現法、口頭発表の明瞭性、質問への応答の的確性など。

### <学習到達目標>

①自ら情報を収集・整理し、問題を設定する。②スケジュールを立て、仮説を立てて問題解決にあたる。③解決法を論理的に考察するか、あるいは製作・実験等を行った結果に自らの見解を加えて解決法を案出する。④これらの解決法を整理された文章に記述する（論文、新規事業企画）。⑤論文、新規事業計画を発表する。⑥自己及び他者の発表に対して有効にコミュニケーションができる。

<授業の進め方>

- 1) 卒業研究1～3の期間は、卒業後のキャリア形成の第一歩を決める大事な時期でもある。そこで卒業研究では「研究会（授業）」で演習を行いながら、各自の「卒業研究遂行・卒業論文完成」と「進路決定・就職達成」を並行して指導する。これらの何れも、各人が自主的に自分の責任において行い、目標達成まで努力する。
- 2) 卒業研究3の履修生と卒業研究1の履修生が交流する機会を設け、テーマ設定や研究の進め方に関して意見交換を行い、相互に刺激を受けることができるようにする。

(関連する学習・教育到達目標：F)



## 【藤瀬研究室】 B分野

本研究室では、主に健康・スポーツ科学関連の分野について研究指導を行います。その内容は幅広く、人間にとって最も身近な身体の構造（形態・組成）や機能（基礎体力・競技力）の研究から、少子高齢社会における介護や医療システムの問題等についての研究にまで及びます。そういう中から選択されたテーマについての文献を精読して、関連するデータを実験・測定・アンケートなどによって収集し、統計的手法を用いて分析していきます。以下に主なキーワードを示しましたので参考にしてください。

- （身体関連）肥満、隠れ肥満、体脂肪率、BMI、ウエスト・ヒップ比、ボディイメージ、痩せ願望
- （体力関連）IRM、VO<sub>2</sub>max、エネルギー消費量、トレーニング、競技力、スポーツシステム
- （健康関連）生活習慣病、運動不足、食事、栄養、睡眠、喫煙、性感染症（STD）、エイズ、HIV
- （その他）少子化、高齢者、介護、障害者、ノーマライゼーション、医療費、医療過誤

### <授業目的>

- 卒業研究1・・・健康・スポーツ科学関連の文献を読み、基礎知識を身に付ける。
- 卒業研究2・・・卒業論文のテーマを決め、その研究目的及び研究方法を完成させる。
- 卒業研究3・・・卒業論文の結果、考察、結語、及び要旨を完成させる。

### <授業内容>

- 卒業研究1・・・1) ガイダンス  
2～5) 抄読会（文献をまとめて報告：3人/回）  
6) ビデオ鑑賞（感想・意見等をレポートにまとめる）  
7～10) 抄読会（文献をまとめて報告：3人/回）  
11) ビデオ鑑賞（感想・意見等をレポートにまとめる）  
12) まとめ（主なキーワードについて解説する）  
13) 筆記試験（30点満点）  
14～15) 卒業研究計画書の作成（現時点での考えをまとめる）
- 卒業研究2・・・1～3) 卒業論文のテーマ及び緒言の作成  
4～7) 抄読会（論文テーマに関する文献をまとめて報告：3人/回）  
8) ビデオ鑑賞（感想・意見等をレポートにまとめる）  
9～12) 抄読会（論文テーマに関する文献をまとめて報告：3人/回）  
13～15) 卒業論文の研究手法の作成及びデータ収集の準備
- 卒業研究3・・・1～4) 第1回卒業論文経過報告会のための準備と経過報告  
5～9) 第2回卒業論文経過報告会のための準備と経過報告  
10～13) 卒業論文の作成（卒研合宿も予定している）  
14～15) 卒業論文発表会の準備と発表

### <成績評価方法>

- 卒業研究1・・・演習点40点、課題点30点、筆記試験30点（遅刻等による減点あり）
- 卒業研究2・3・・・演習点60点、課題点40点（遅刻等による減点あり）

### <受講に当たっての留意事項>

課題やその他の卒研活動に対して積極的・協力的に取り組み、無断欠席や遅刻をしない学生を望む。また、出席回数が2/3に満たない者や無断欠席を3回行った者には原則として単位を与えない。

（関連する学習・教育到達目標：F）

## 【藤田研究室】 A分野・B分野

### <授業目的>

ICTのCはコミュニケーションです。情報を学び、仕事や社会で使いこなすには、技術だけに頼るのではなく、人と人とのコミュニケーションを情報技術以上に大切にする必要があります。当研究室では情報社会では忘れられがちな、社会人として最も重要な“対人コミュニケーションに長ける人材の育成”を目標とし、卒業研究や地域活動でのチーム連携を通して、コミュニケーション能力の育成をはかっていきます。「興味をもって」卒業研究活動に取り組む自発の姿勢があれば、社会人の基礎となる経験を積むことができます。

### <教員の専門分野>

行政・医療サービス、観光、防災、マーケティング、環境評価等多くの分野で活用されているGIS（地理情報システム）です。特にインターネット上の空間コンテンツとして住民・自治体が運用するタウン空間ポータルサイトや、歴史データベース（例えば日本全国中世のお墓地図データベース）を研究しています。また、多変量解析によるビジネス・マーケティング分析、製品やサービスのカーボンフットプリント可視化（環境ラベリング）等です。

### <授業内容>

- 卒業研究1：3年前期のサブ卒研にて作成した研究計画にもとづき、序章の執筆を続け完成させます。毎週提出する論文執筆分をもとに教員との面談指導を行います。引用論文等体裁の指導も行います。また、先行研究、論文あるいは現地調査で得られたデータの収集、データ整理を終えます。休業期間中も卒研および関連の活動を行うことがあります。
- 卒業研究2：集計表・グラフ等作成、統計処理を終え、7月中に「結果」の執筆を終えます。8月から、「考察」の執筆を開始します。また、9月中に中間発表会を開催します（全員参加）。夏季休暇中は、nuisメールにて卒論執筆分提出、添削等指導を繰り返します。
- 卒業研究3：論文の全体を再度チェックし、必要な修正を行います。「考察」をさらに発展させる指導を行い、論文全体の「まとめ」および「要旨」を作成します。本文以外の論文表紙、目次、図表リスト、参考文献、謝辞等を加え、卒業研究論文を完成させます。また、卒業研究発表会を行います。

### <サブ卒研の実施>

藤田研究室に卒業研究配属が決定した卒研生は以下のサブ卒研に必ず参加してください。

- ①2年後期および休業期間中に、研究室ガイダンス、ビジネスメール、自己紹介文作成、卒研のテーマ等サブ卒研を数回に分けて行います。日時はガイダンス時に決定します。
- ②3年前期に、教員の個別指導にもとづき、各自卒業研究計画を作成します。先行研究および関連する本や論文を収集し、序章の執筆に取りかかります。グループワークとして大学近辺に足を運び、土地を観察、住民に接触し、生活、風土、産業、伝統を調査します。また、住民との合議にもとづき地域活動を行い、メディアにて情報発信を行います。さらに、グループに分かれ、企業リサーチを行い、それぞれの企業の特徴、経営戦略等を分析してプレゼンテーション、逆インタビューの訓練を行い、調査能力およびコンセプトチャルスキル向上を目指します。これらの多様な活動を消化するため、サブ卒研は週1回全日行います。また、サブ卒研は夏期休業期間中に行うこともあります。
- ③卒業研究に地域開発等の現地調査が必要な題目を選ぶ場合、3年前期のサブ卒研で調査計画を立て、夏季休暇期間までに現地調査を行う指導を行います（定員3名）。

（関連する学習・教育到達目標：F）

## 【山下研究室】 C分野

### <授業目的>

山下研究室では、管理会計と原価計算を中心とした会計学について研究します。

管理会計は、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。管理会計は、企業内部の「計画と統制のための会計」と、「意思決定のための会計」に分けることができます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。

原価計算は、管理会計に関連が深い学問領域であり、物やサービスの原価を計算することが中心となっていますが、計算そのものだけではなく、原価管理も含まれることがあります。その他にも、簿記学、経営学、生産管理などが主な周辺領域として挙げられます。

管理会計で最も大切なことは、「会計情報を利用する」ことです。そして、企業の目標とは究極的には利益を獲得することです。授業では、会計情報を利用してより多くの利益を獲得する方法について議論します。

### <授業内容>

#### 卒業研究1

- ・管理会計のテキストを輪読して、基本的な知識を身につけます。
- ・卒業論文のテーマを検討します。

#### 卒業研究2

- ・卒業研究1よりも発展的な内容のテキストを輪読します。
- ・卒業論文の構成について検討し、中間発表を行います。

#### 卒業研究3

- ・各自の卒業論文のテーマに関連した内容のテキストを輪読します。
- ・卒業論文の構成及び内容について、個別に指導を行います。
- ・卒業論文発表会を行います。

### <成績評価>

授業への出席、討論への参加状況、卒業論文の内容、卒業論文発表会等、授業における活動全般について総合的に判断して評価します。やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、事前に連絡をしてください。無断欠席は好ましくありません。授業に毎回出席することが、管理会計に限らず、専門的な知識を身につけることの早道です。

### <留意事項>

山下研究室では、以下のような学生、またはこれからそのようになりたい学生を求めています。

- ・世の中の様々な現象に深く関心を持っている人。毎日の通学で見る町並みの移り変わりなどの、身近なことでもいいのです。
- ・世の中の流行に惑わされない人。自分自身の考えを持つことが大切です。
- ・自動車・電機・機械などの製造業（物づくり）が日本の産業の中心であると考えている人。情報、金融、その他のサービス業、農業などももちろん重要なのですが、それらの産業は、製造業が築いた確固たる土台の上で成り立っています。そして、管理会計や原価計算の基本は製造業です。
- ・管理会計を真剣に学ぼうという意欲のある人。今現在の簿記や会計に関する知識や資格の有無は、選考には影響しません。但し、研究室配属後は勉強してもらいます。

山下研究室に配属が決定した後の留意事項は、以下のとおりです。

- ・研究室配属後に山下担当の情報システム演習がある場合は、必ず出席してください。
- ・卒業研究1が始まる前までの間は、日商簿記検定のテキストを使用して自習し、会計学の基本的な知識を修得してください。分からないところがあれば、個別に指導を行います。
- ・山下担当の講義科目である、財務会計（2年次前期）と管理会計（2年次後期）を履修してください。

### <学習到達目標>

管理会計について理解し、深く関心を持ち、大学の中だけではなく日常生活全般においても知的好奇心を絶えずはたらかせて、その中から自分自身が疑問に思っている問題点を明らかにし、それを管理会計の論文として表現できるようになることを目標とします。

（関連する学習・教育到達目標：F）

## 【吉田研究室】 C分野

### <授業目的>

さまざまな企業・組織のマーケティング活動（モノ・サービスの企画開発、販売に当っての流通・広告、企業・商品・サービスを伝える情報発信）及びマーケティングの対象となる消費者・生活者、マーケティングに影響を及ぼす社会・経済、技術等の外部環境に関する調査・研究を行なう。

具体的な事例の調査研究や文献・資料購読による学習を通じてマーケティングに関しての知識を修得するとともに、情報の収集分析、独自調査の実施・分析、企業・組織・地域等に係わる具体的な事例を対象にしたマーケティング計画・活動を考える演習を行い、実践に役立つマーケティング能力を身につけていくことを目的とする。

### <授業内容>

#### ①卒業研究1（3年後期） マーケティングの知識修得、自主的な調査研究・グループワーク

マーケティングの基本知識・体系、調査方法を学習するとともに、具体的な企業・組織の事例を通じて、多様なマーケティング活動の実態と、そのとらえ方を理解する。

個人ないしグループ単位で企業・業界・市場・地域に関連したテーマを取り上げ、情報の収集・分析、論理的な思考展開、新たな企画・事業の立案、プレゼンテーション等を行い、マーケティングに対する知識と能力を身につける。

4年生の卒業論文の発表に参加し、卒業研究について学習する。

#### ②卒業研究2（4年前期） マーケティングの理解、卒業研究のテーマ設定と情報収集

マーケティングの知識・事例研究を通じ、マーケティングに関する理解力と実践力を身につける。

卒業研究のテーマを決めるための情報収集を行い、テーマの決定、独自調査の実施を検討し、実施する場合は、アンケートや現地調査を行う。テーマに関連した文献、論文、資料、データを収集し、分析を行う。調査の実施、資料の収集・分析、研究のポイント・進め方等について個別に指導する。

#### ③卒業研究3（4年後期） 研究のまとめと卒業論文の作成

卒業論文のまとめ、執筆に取り組み、個別に指導する。卒研内で発表して、相互に議論し合い、内容を充実させていく。

情報の収集、研究の方向性、論文の作成、文章表現、プレゼンテーション等について、必要に応じて個別に指導する。

### <成績評価>

日常の自発的な学習態度、卒研内でのレポート・発言、グループワークでの活動、卒業研究の進め方、卒業論文の内容、プレゼンテーションにより評価する。

卒業論文については、「テーマ」のとらえ方、情報の収集、独自調査の実施、視点・分析の独自性、論理の一貫性、文章力、提案の内容などで評価する。

### <学習到達目標>

企業や組織におけるマーケティング活動を理解する能力や感度を身につけるとともに、具体的な事例研究、自身でのプラン・提案づくり、卒業論文の作成を通じて情報収集・分析能力、論理的思考力、企画力、プレゼンテーション能力を育成する。

（関連する学習・教育到達目標：F）



MEMO

---

# Niigata University of International and Information Studies

